

水戸市
介護予防・日常生活圏域二一ズ調査
【結果報告書】

令和8年3月
水 戸 市

目 次

第Ⅰ部 調査の概要	1
1. 調査概要	3
第Ⅱ部 介護予防・日常生活圏域二一ズ調査結果	7
★ 調査票を記入されたのはどなたですか	9
1. あなたのご家族や生活状況について	10
2. からだを動かすことについて	22
3. 食べることについて	44
4. 毎日の生活について	54
5. 地域での活動について	72
6. 就労について	82
7. たすけあいについて	84
8. 健康について	92
9. 認知症にかかる相談窓口の把握について	120
10. 在宅医療について	126
11. 成年後見制度について	129
第Ⅲ部 生活機能判定結果	131
1. 介護予防のための生活機能判定結果	133
2. その他の生活機能判定	144
第Ⅳ部 資料編（使用した調査票）	151

第 I 部 調査の概要

1. 調査概要

(1) 調査の目的

本調査は、「からだを動かすこと」や「食べること」「地域での活動」などの高齢者の生活実態や健康・社会活動に関する状況を、日常生活圏域ごとに把握することにより、地域の課題を抽出し、本市の介護予防に関する取り組みを評価することを目的とします。

あわせて、「(仮称) 水戸市第 10 期高齢者福祉計画・介護保険事業計画」の基礎資料として活用することも目的としています。

(2) 調査対象者

調査種別	対象	人数
介護予防・日常生活圏域ニーズ調査	・ 65 歳以上の要介護認定等を受けていない高齢者	4,056 人
	・ 介護予防・日常生活支援総合事業対象者	444 人
	・ 要支援認定者	1,000 人

(3) 調査方法と調査期間

調査方法：郵送配布、郵送回収

調査期間：令和 7 年 11 月 14 日～令和 7 年 12 月 10 日

(4) 回収結果

調査区分	配布件数	回収件数	回収率
介護予防・日常生活圏域ニーズ調査	5,500 件	4,286 件	77.9%

※回収した調査票にて、要介護認定情報との突合ができない回答が 53 件有り。

(5) 日常生活圏域別 回収結果

圏域	配布件数	回収件数	回収率
中央	702 件	539 件	76.8%
東部	722 件	567 件	78.5%
南部第一	691 件	536 件	77.6%
南部第二	814 件	598 件	73.5%
北部	705 件	556 件	78.9%
西部	729 件	577 件	79.1%
常澄	564 件	425 件	75.4%
内原	573 件	435 件	75.9%
不明		53 件	
合計	5,500 件	4,286 件	77.9%

(6) 中学校区域別 回収結果

圏域 中学校区域	配布件数	回収件数	回収率
中央高齢者支援センター			
一中	390 件	297 件	76.2%
二中	312 件	242 件	77.6%
東部高齢者支援センター			
三中	453 件	350 件	77.3%
千波	269 件	217 件	80.7%
南部第一高齢者支援センター			
四中	691 件	536 件	77.6%
南部第二高齢者支援センター			
緑岡	209 件	161 件	77.0%
見川	330 件	238 件	72.1%
笠原	275 件	199 件	72.4%
北部高齢者支援センター			
飯富	81 件	66 件	81.5%
国田	73 件	56 件	76.7%
五中	352 件	270 件	76.7%
石川	199 件	164 件	82.4%
西部高齢者支援センター			
赤塚	450 件	343 件	76.2%
双葉台	279 件	234 件	83.9%
常澄高齢者支援センター			
常澄	564 件	425 件	75.4%
内原高齢者支援センター			
内原	573 件	435 件	75.9%
不明		53 件	
合計	5,500 件	4,286 件	77.9%

(7) 報告書をみる際の注意点

- 調査結果の比率は、その設問の回答者数を基数として、小数点第 2 位を四捨五入して小数点第 1 位までを示しているため、その合計値が 100%にならない場合があります。
- 図表中の「n」とは、その設問の回答者数を表しています。
- 複数回答の設問の場合、回答比率の合計は 100%を超える場合があります。
- 設問の選択肢は、表記を省略している場合があります。
- グラフは、見やすさを確保するため、数値の掲載を割愛している場合があります。

(8) 標本誤差について

本調査は、標本調査であり調査対象となる母集団への標本誤差が生じます。本調査は、回収件数が 4,286 件であり、全体の回答比率が 50.0%の場合、標本誤差は±%となります。したがって、調査結果で得た 50.0%という集計結果を、実際の母集団にあてはめるには標本誤差±%の誤差が生じることになり、母集団の傾向として評価する際には、50.0%ではなく 50.0±%（=%～%）という一定の幅を持った値として取り扱う必要があります。

【本調査における標本誤差】

回答比率	90% (または 10%)	80% (または 20%)	70% (または 30%)	60% (または 40%)	50%
標本誤差	±0.9%	±1.2%	±1.3%	±1.4%	±1.4%

※調査対象となる母集団：62,648 人

※回収件数：4,286 件

第Ⅱ部 介護予防・日常生活圏域二一ズ調査結果

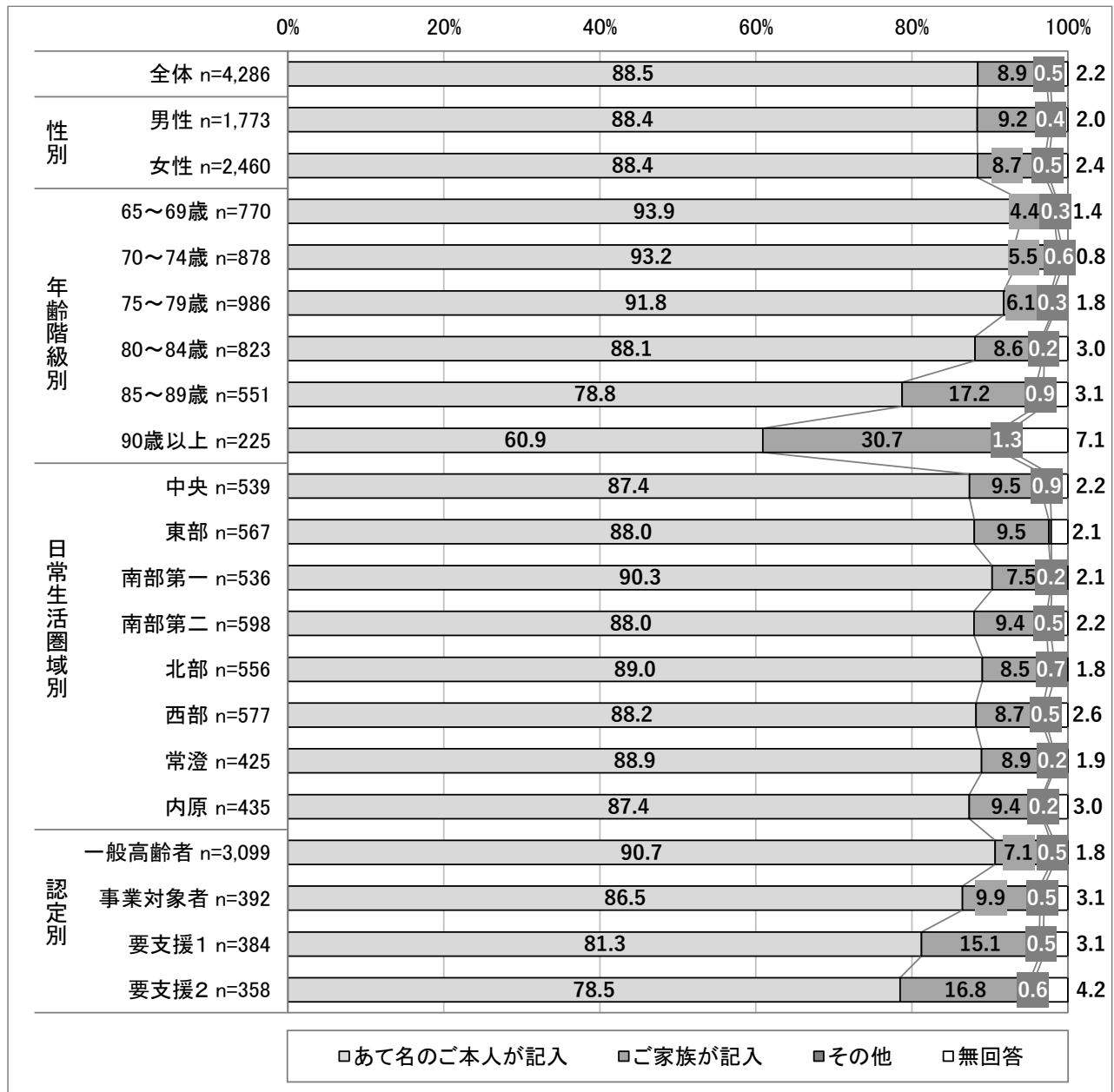
★ 調査票を記入されたのはどなたですか

調査票に回答した方については、全体では「あて名のご本人が記入」が 88.5%で最も高く、次いで「ご家族が記入」が 8.9%、「その他」が 0.5%となっています。

性別でみると、「あて名のご本人が記入」は、差異はみられません。

年齢階級別でみると、「あて名のご本人が記入」は、65～69歳が 93.9%で最も高く、次いで 70～74歳が 93.2%、75～79歳が 91.8%となっています。

日常生活圏域別でみると、「あて名のご本人が記入」は、南部第一が 90.3%で最も高く、次いで北部が 89.0%、常澄が 88.9%となっています。



1. あなたのご家族や生活状況について

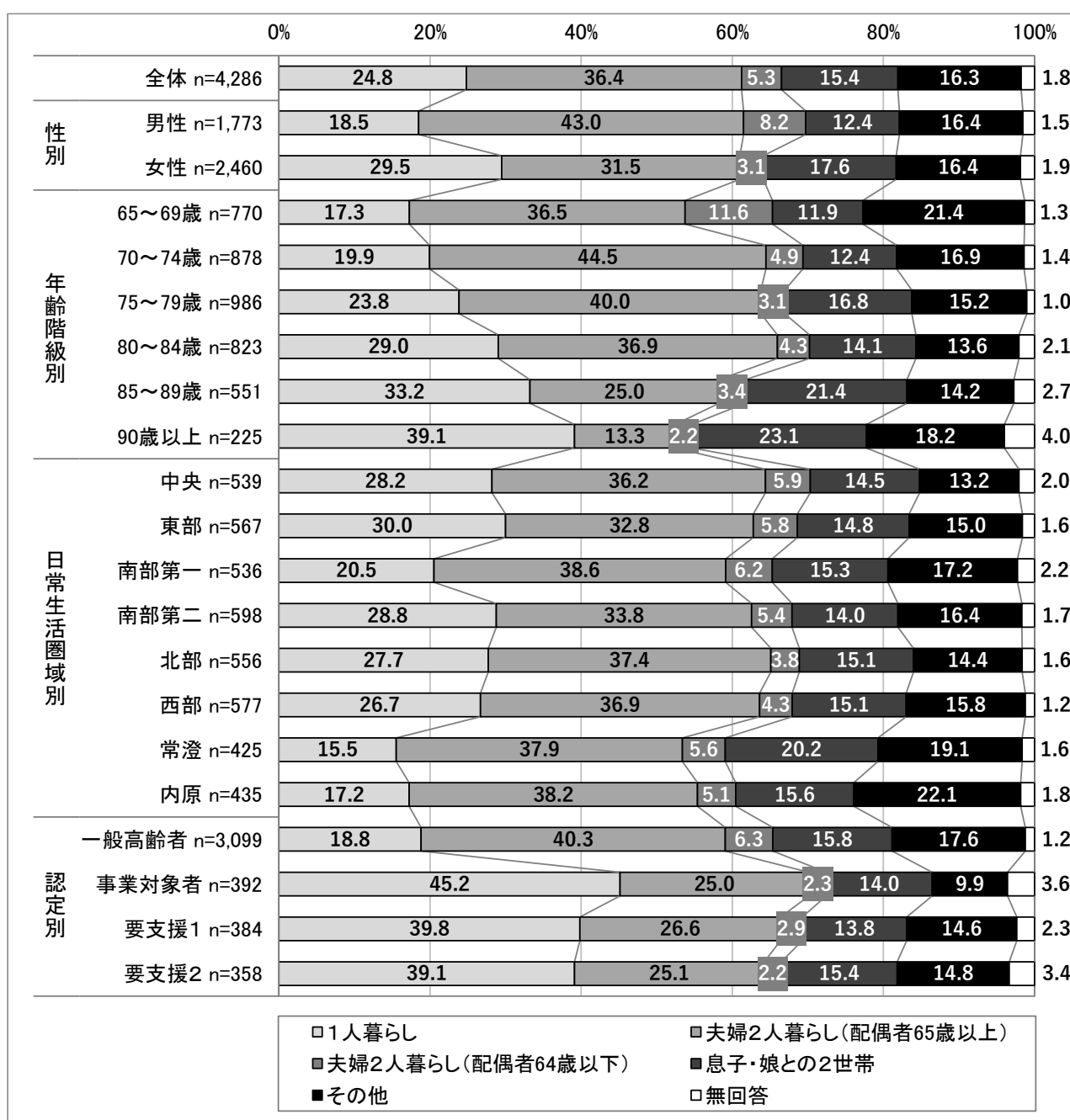
Q1. 家族構成を教えてください（1つのみ）

家族構成については、全体では「夫婦2人暮らし（配偶者65歳以上）」が36.4%で最も高く、次いで「1人暮らし」が24.8%、「その他」が16.3%となっています。

性別でみると、「1人暮らし」は、男性が18.5%、女性が29.5%で、女性が男性を11.0ポイント上回っています。

年齢階級別でみると、「1人暮らし」は、90歳以上が39.1%で最も高く、次いで85～89歳が33.2%、80～84歳が29.0%となっています。

日常生活圏域別でみると、「1人暮らし」は、東部が30.0%で最も高く、次いで南部第二が28.8%、中央が28.2%となっています。



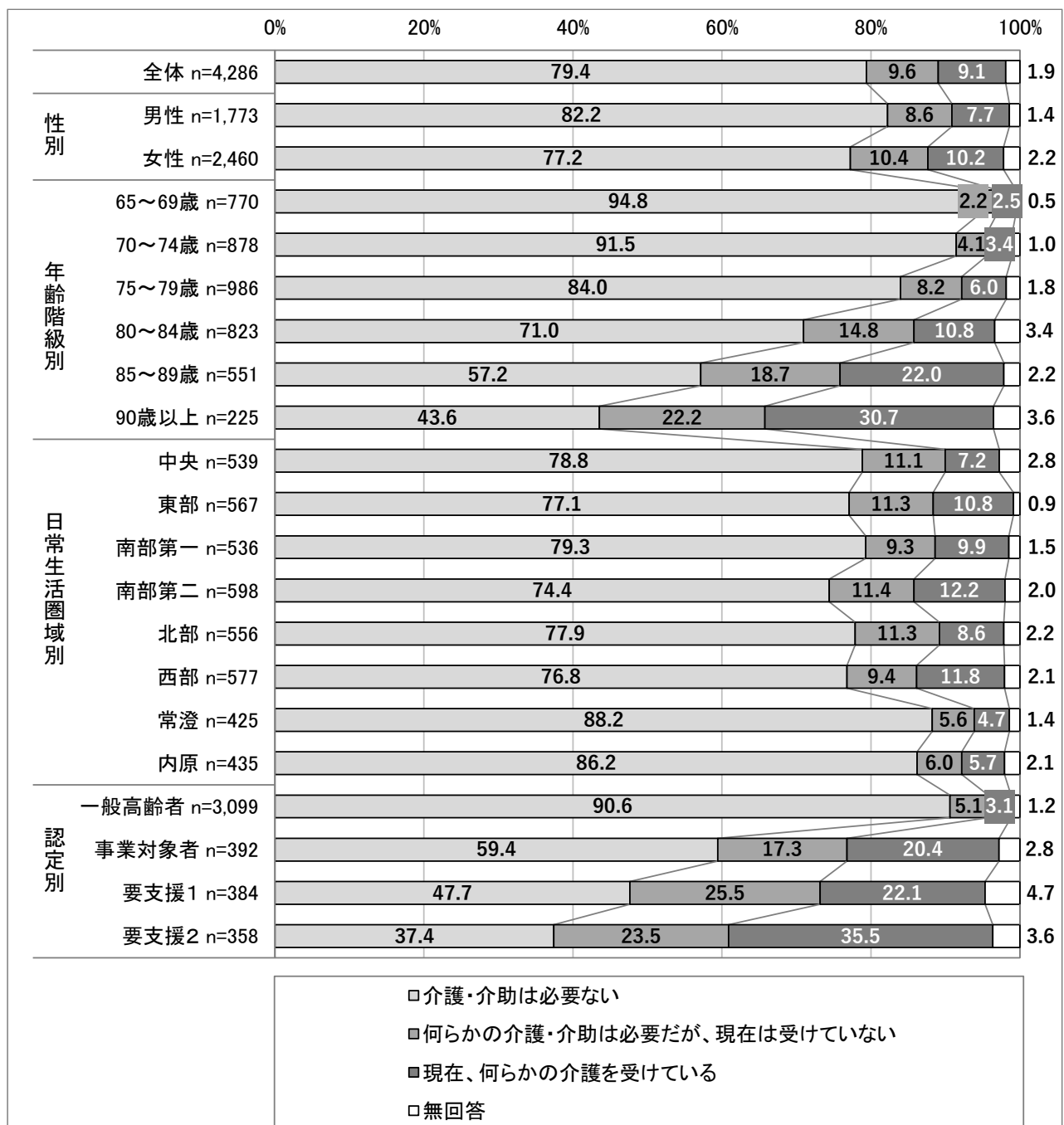
Q 2. あなたは、普段の生活でどなたかの介護・介助が必要ですか（1つのみ）

普段の生活での介護・介助の必要性については、全体では「介護・介助は必要ない」が 79.4%で最も高く、次いで「何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」が 9.6%、「現在、何らかの介護を受けている」が 9.1%となっています。

性別でみると、「何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」は、男性が 8.6%、女性が 10.4%で、女性が男性を 1.8 ポイント上回っています。

年齢階級別でみると、「何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」は、90 歳以上が 22.2%で最も高く、次いで 85～89 歳が 18.7%、80～84 歳が 14.8%となっています。

日常生活圏域別でみると、「何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」は、南部第二が 11.4%で最も高く、次いで東部、北部がともに 11.3%、中央が 11.1%となっています。

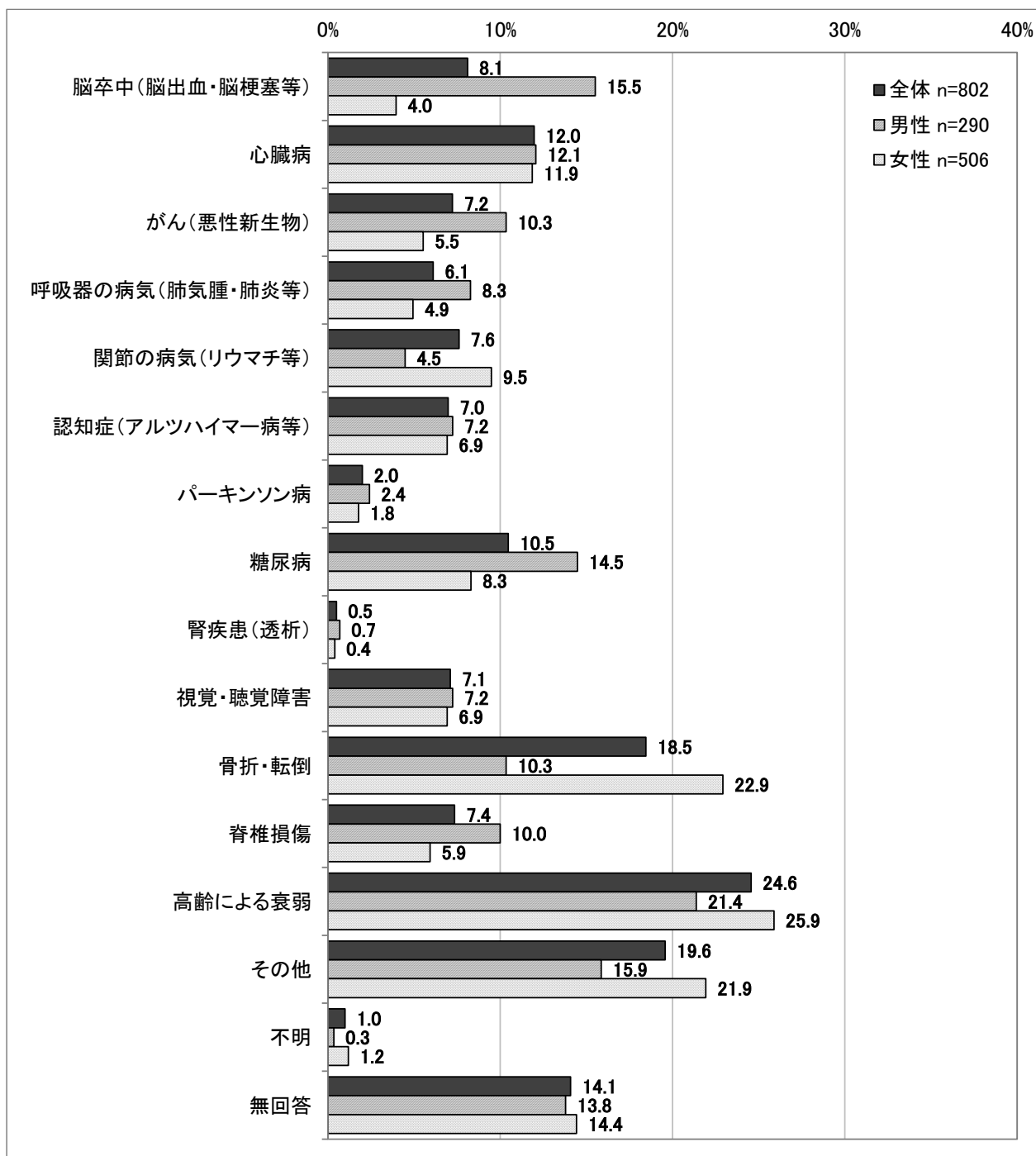


【Q2において「何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」「現在、何らかの介護を受けている」の方のみ】

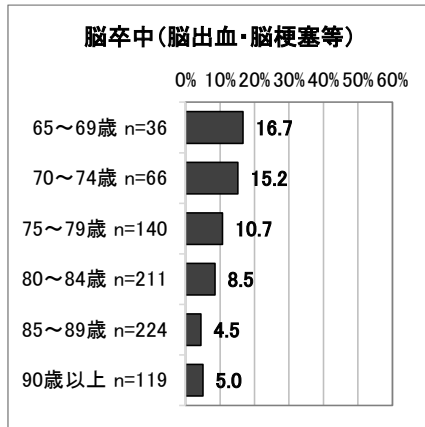
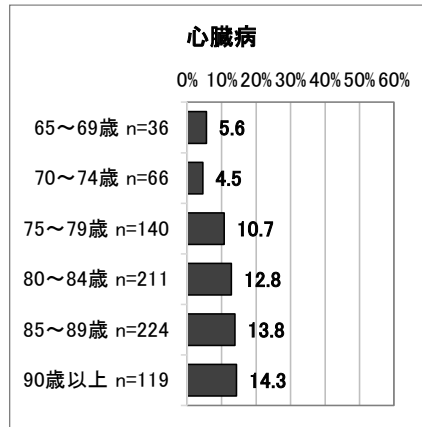
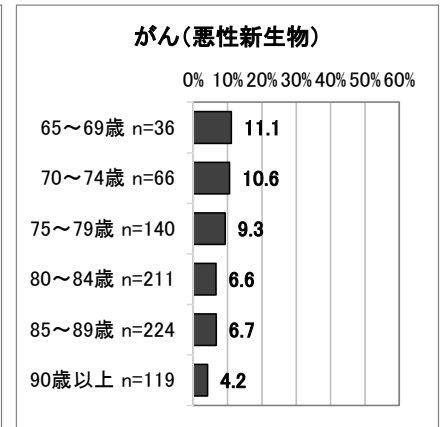
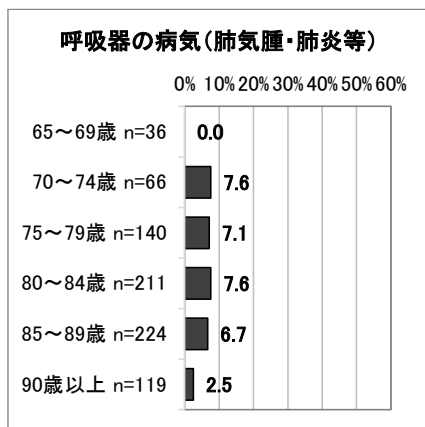
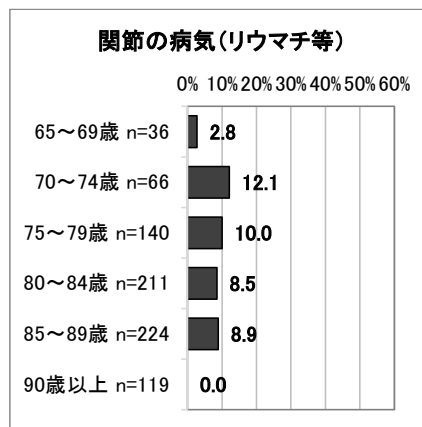
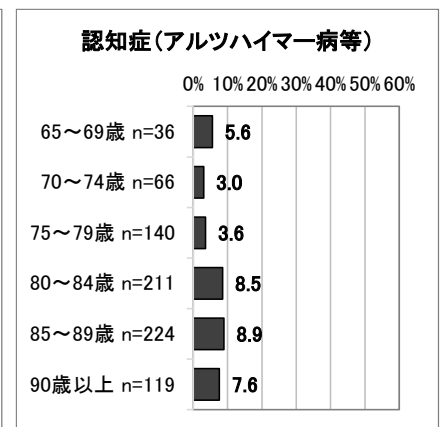
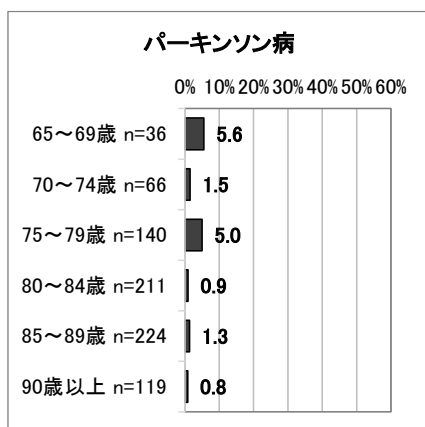
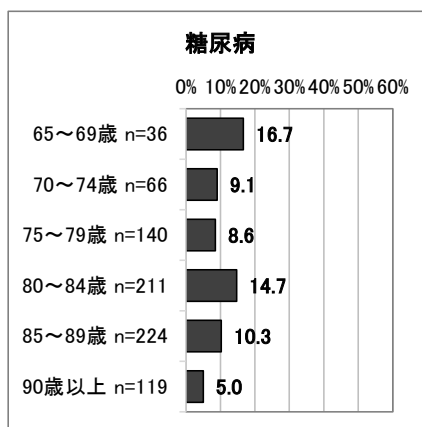
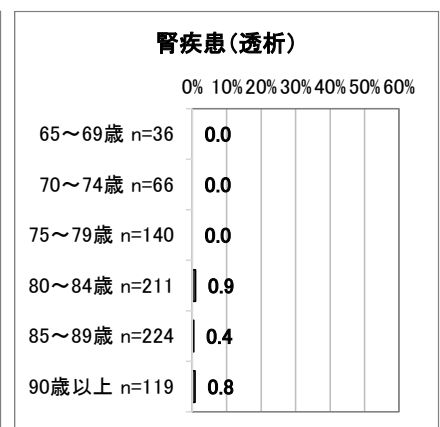
Q2-①. 介護・介助が必要になった主な原因はなんですか（いくつでも）

介護・介助が必要になった主な原因については、全体では「高齢による衰弱」が24.6%で最も高く、次いで「その他」が19.6%、「骨折・転倒」が18.5%となっています。

性別でみると、男性では、「高齢による衰弱」が21.4%で最も高く、次いで「その他」が15.9%、「脳卒中（脳出血・脳梗塞等）」が15.5%となっています。女性では、「高齢による衰弱」が25.9%で最も高く、次いで「骨折・転倒」が22.9%、「その他」が21.9%となっています。

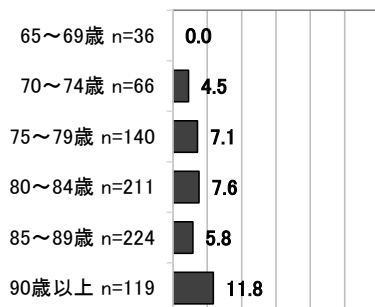


介護・介助が必要になった主な原因の上位3項目を「その他」を除き、年齢階級別でみると、「高齢による衰弱」は、90歳以上が56.3%で最も高く、次いで85～89歳が28.6%、80～84歳が17.5%となっています。「骨折・転倒」では、75～79歳が22.1%で最も高く、次いで90歳以上が21.8%、85～89歳が19.2%となっています。「心臓病」では、90歳以上が14.3%で最も高く、次いで85～89歳が13.8%、80～84歳が12.8%となっています。



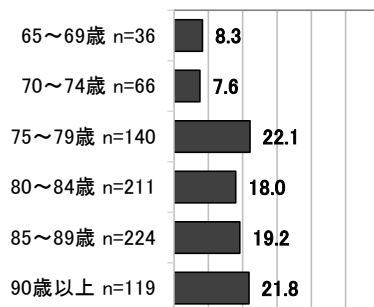
視覚・聴覚障害

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60%



骨折・転倒

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60%



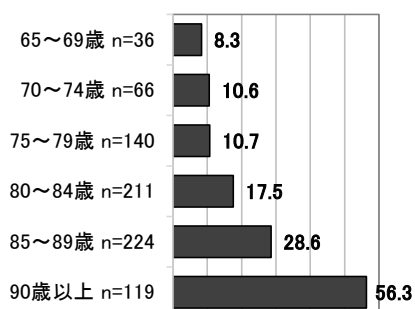
脊椎損傷

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60%



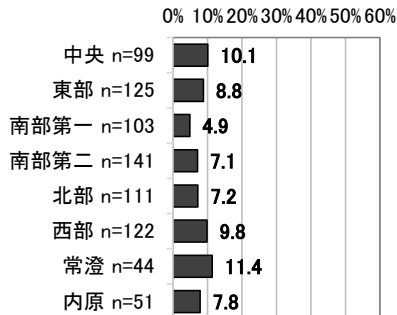
高齢による衰弱

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60%

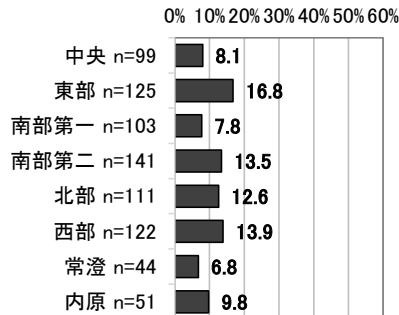


介護・介助が必要になった主な原因の上位3項目を「その他」を除き、日常生活圏域別でみると、「高齢による衰弱」は、内原が29.4%で最も高く、次いで南部第一が27.2%、北部が26.1%となっています。「骨折・転倒」では、東部が23.2%で最も高く、次いで西部が22.1%、内原が21.6%となっています。「心臓病」では、東部が16.8%で最も高く、次いで西部が13.9%、南部第二が13.5%となっています。

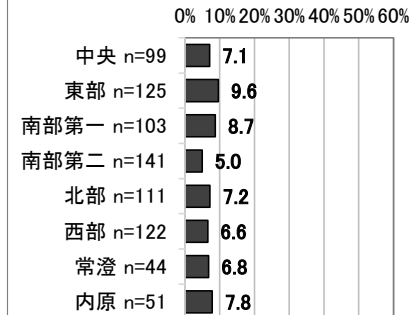
脳卒中(脳出血・脳梗塞等)



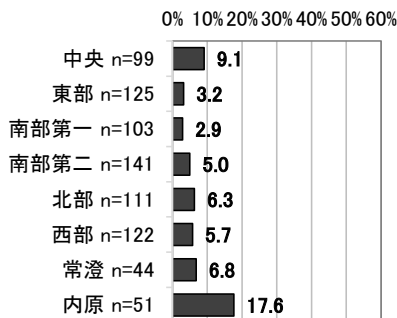
心臓病



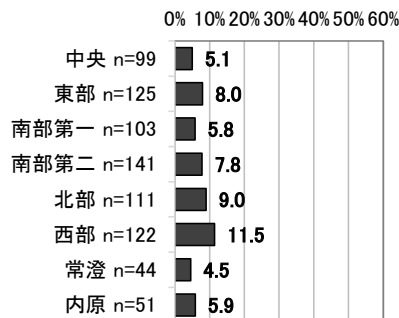
がん(悪性新生物)



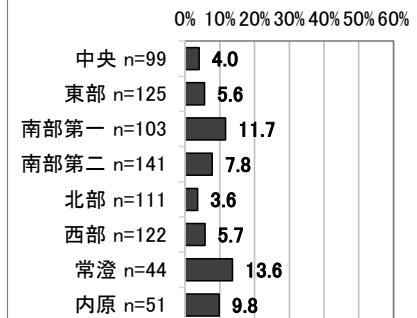
呼吸器の病気(肺気腫・肺炎等)



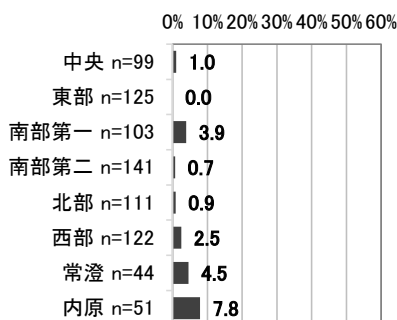
関節の病気(リウマチ等)



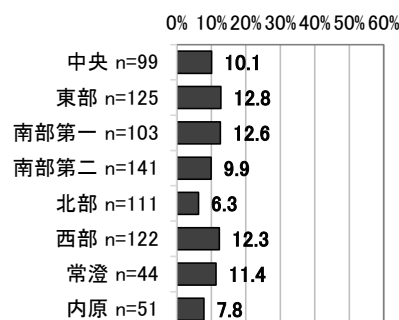
認知症(アルツハイマー病等)



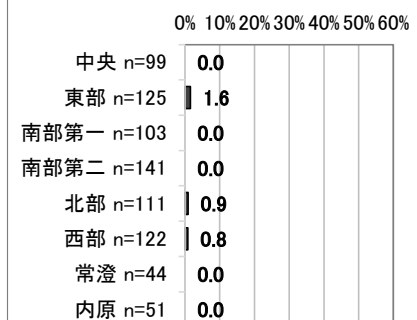
パーキンソン病



糖尿病



腎疾患(透析)



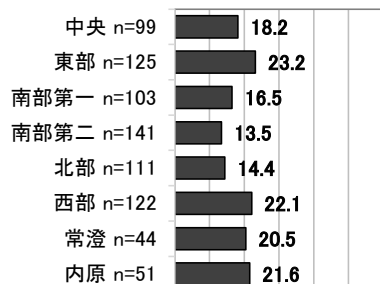
視覚・聴覚障害

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60%



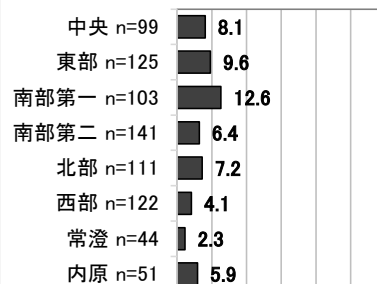
骨折・転倒

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60%



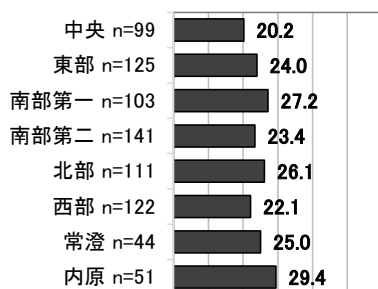
脊椎損傷

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60%



高齢による衰弱

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60%

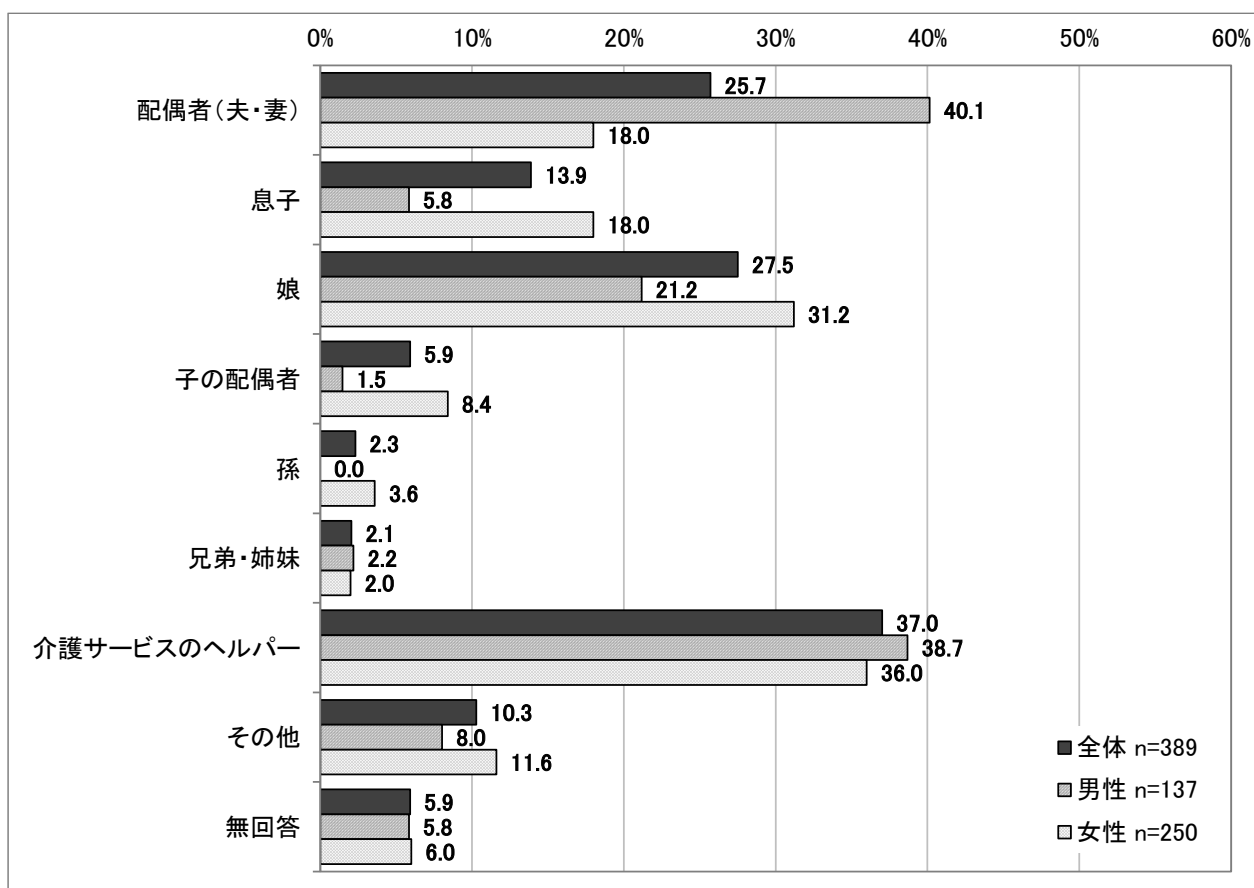


【Q2において「現在、何らかの介護を受けている」の方のみ】

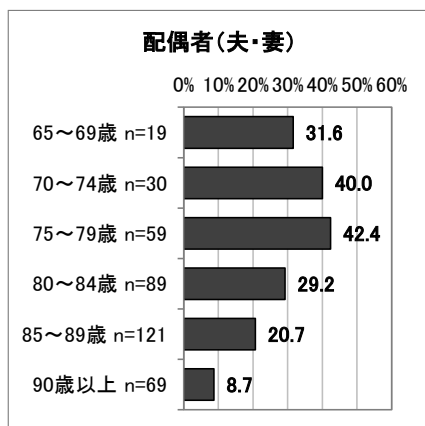
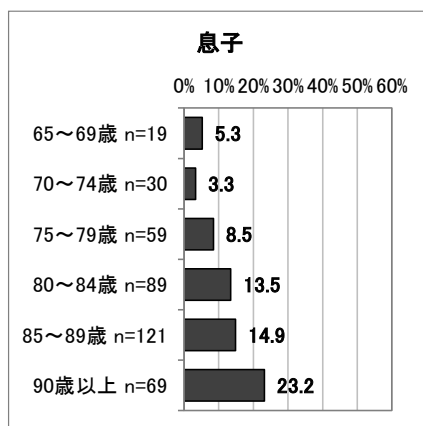
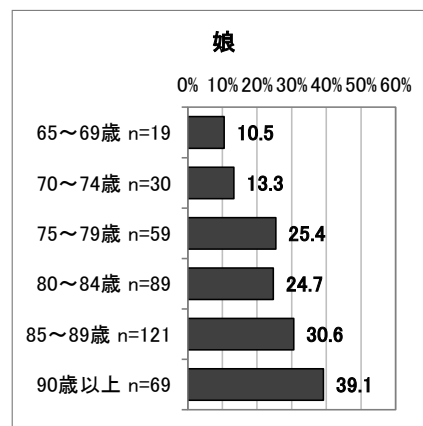
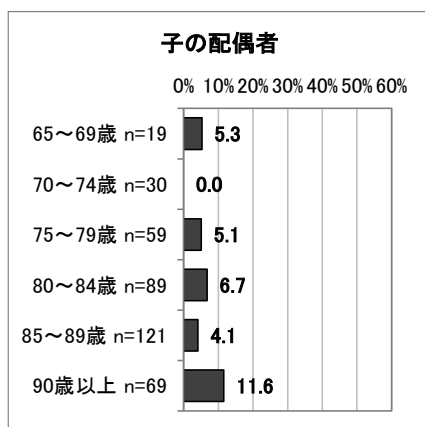
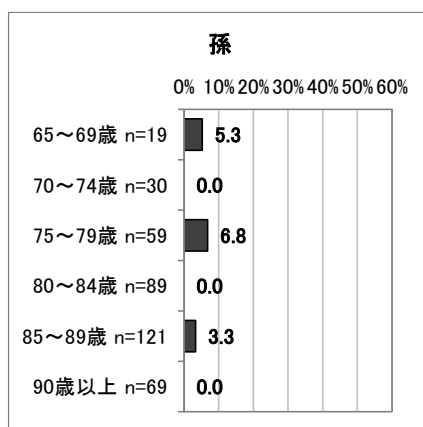
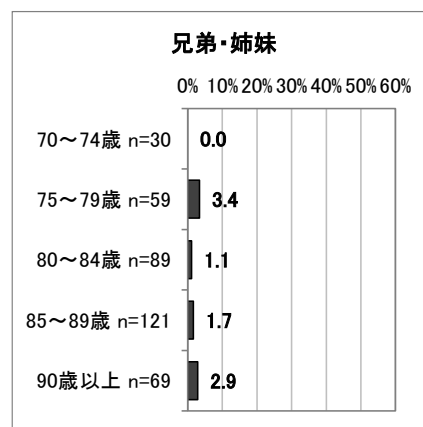
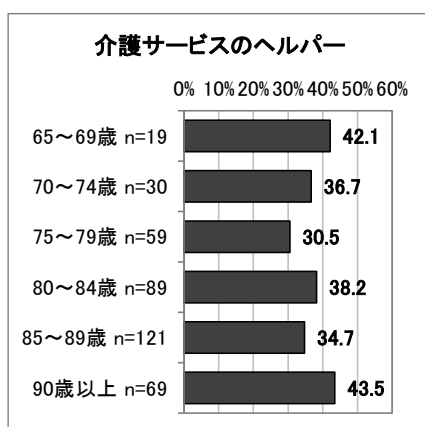
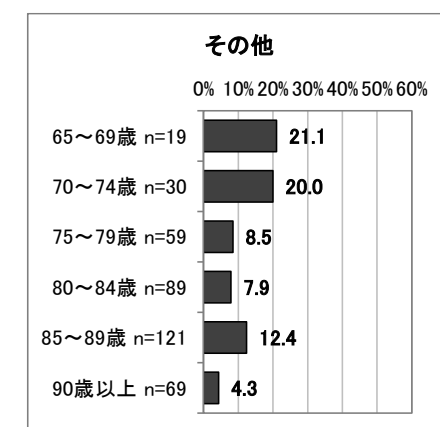
Q2-②. 主にどなたの介護・介助を受けていますか（いくつでも）

主に誰からの介護・介助を受けているかについては、全体では「介護サービスのヘルパー」が37.0%で最も高く、次いで「娘」が27.5%、「配偶者（夫・妻）」が25.7%となっています。

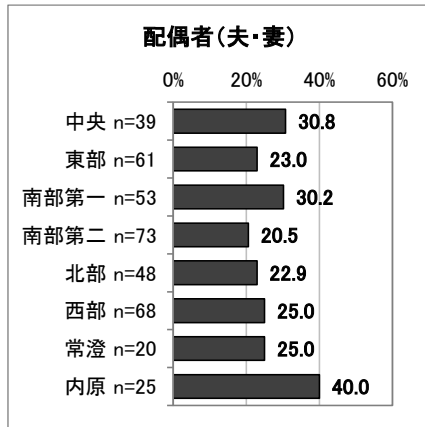
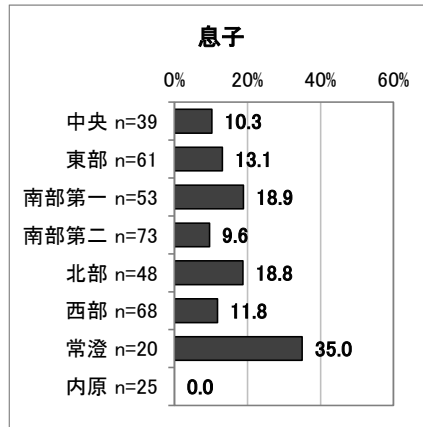
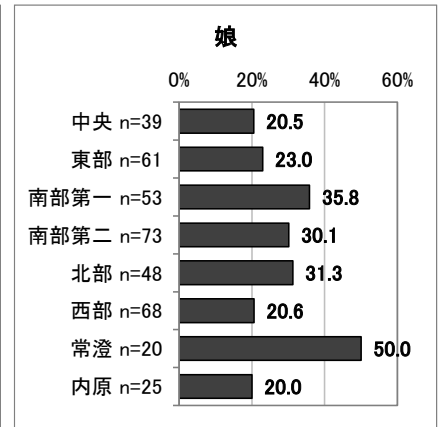
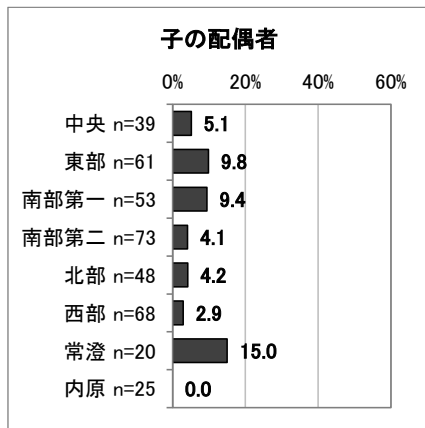
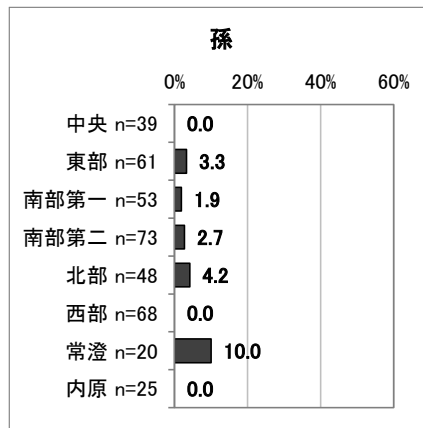
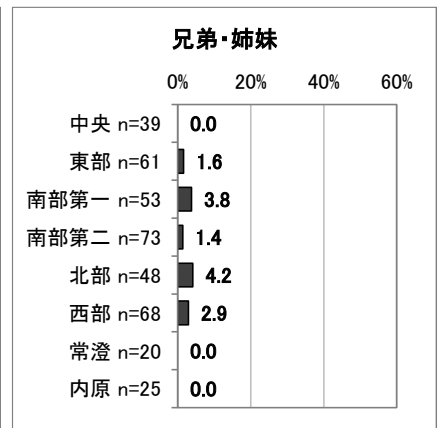
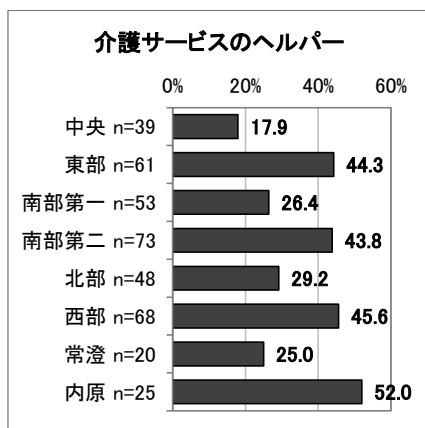
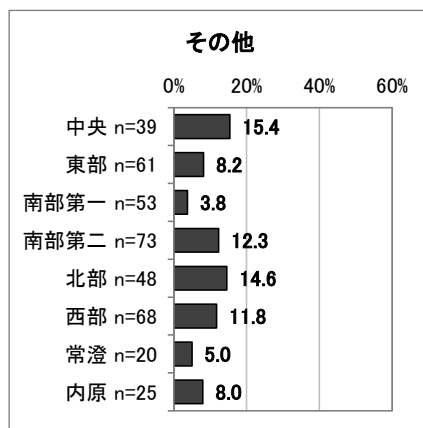
性別でみると、男性では、「配偶者（夫・妻）」が40.1%で最も高く、次いで「介護サービスのヘルパー」が38.7%、「娘」が21.2%となっています。女性では、「介護サービスのヘルパー」が36.0%で最も高く、次いで「娘」が31.2%、「配偶者（夫・妻）」「息子」がともに18.0%となっています。



主に誰からの介護・介助を受けているかの上位3項目を年齢階級別でみると、「介護サービスのヘルパー」は、90歳以上が43.5%で最も高く、次いで65～69歳が42.1%、70～74歳が36.7%となっています。「娘」では、90歳以上が39.1%で最も高く、次いで85～89歳が30.6%、75～79歳が25.4%となっています。「配偶者（夫・妻）」では、75～79歳が42.4%で最も高く、次いで70～74歳が40.0%、65～69歳が31.6%となっています。



主に誰からの介護・介助を受けているかの上位3項目を日常生活圏域別でみると、「介護サービスのヘルパー」は、内原が52.0%で最も高く、次いで西部が45.6%、東部が44.3%となっています。「娘」では、常澄が50.0%で最も高く、次いで南部第一が35.8%、北部が31.3%となっています。「配偶者（夫・妻）」では、内原が40.0%で最も高く、次いで中央が30.8%、南部第一が30.2%となっています。



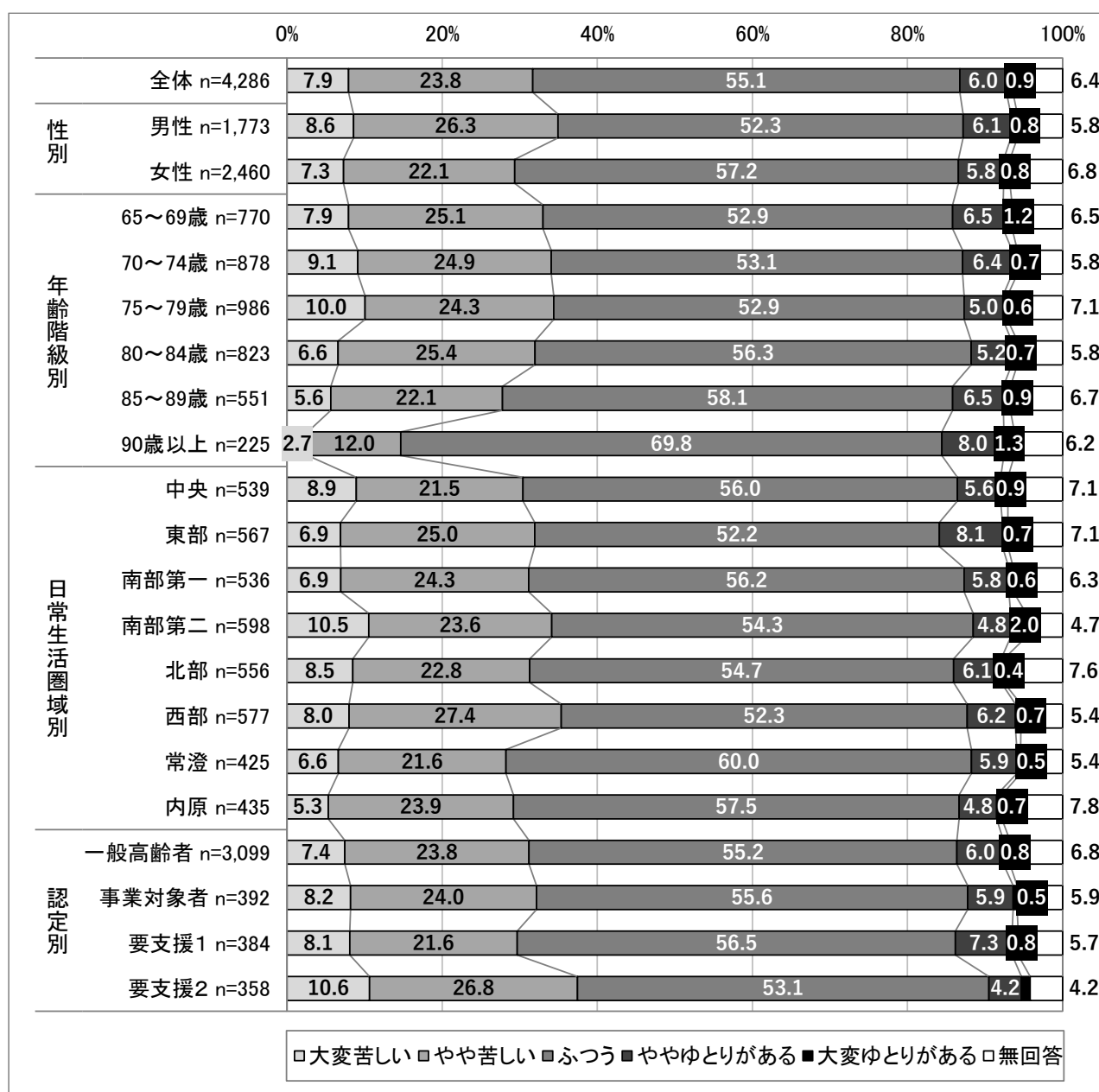
Q3. 現在の暮らしの状況を経済的にみてどう感じていますか（1つのみ）

現在の暮らしの経済状況については、全体では「ふつう」が 55.1%で最も高く、次いで「やや苦しい」が 23.8%、「大変苦しい」が 7.9%となっています。

性別でみると、「大変苦しい」と「やや苦しい」を合わせた『苦しい』は、男性が 34.9%、女性が 29.4%で、男性が女性を 5.5 ポイント上回っています。

年齢階級別でみると、『苦しい』は、75～79 歳が 34.3%で最も高く、次いで 70～74 歳が 34.0%、65～69 歳が 33.0%となっています。

日常生活圏域別でみると、『苦しい』は、西部が 35.4%で最も高く、次いで南部第二が 34.1%、東部が 31.9%となっています。



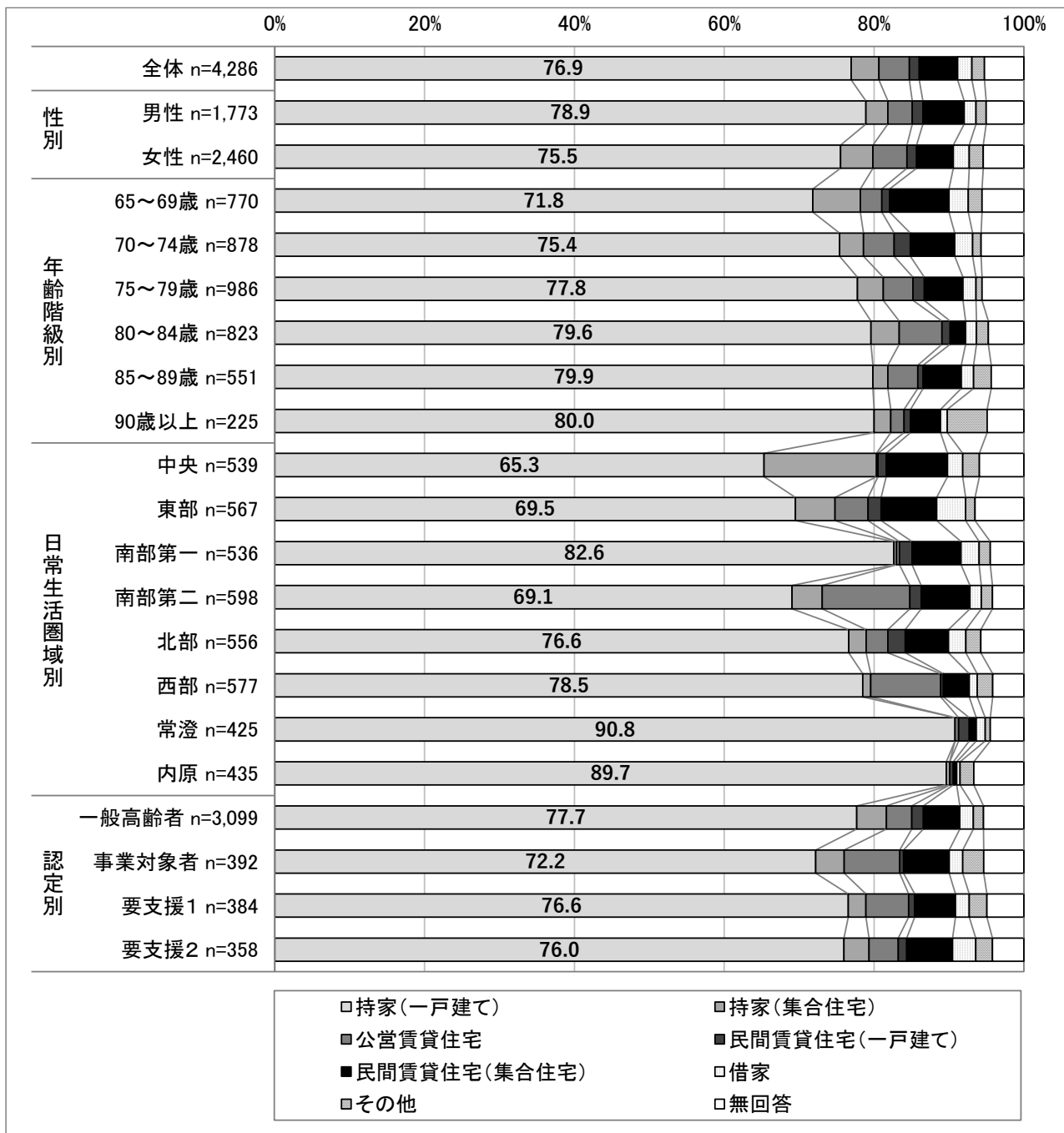
Q 4. お住まいは一戸建て、または集合住宅のどちらですか（1つのみ）

住まいの種類については、全体では「持家（一戸建て）」が 76.9%で最も高くなっています。属性別でも、すべての属性で「持家（一戸建て）」が最も高い割合となっています。

性別でみると、「持家（一戸建て）」は、男性が 78.9%、女性が 75.5%で、男性が女性を 3.4 ポイント上回っています。

年齢階級別でみると、「持家（一戸建て）」は、90 歳以上が 80.0%で最も高く、次いで 85～89 歳が 79.9%、80～84 歳が 79.6%となっています。

日常生活圏域別でみると、「持家（一戸建て）」は、常澄が 90.8%で最も高く、次いで内原が 89.7%、南部第一が 82.6%となっています。



2. からだを動かすことについて

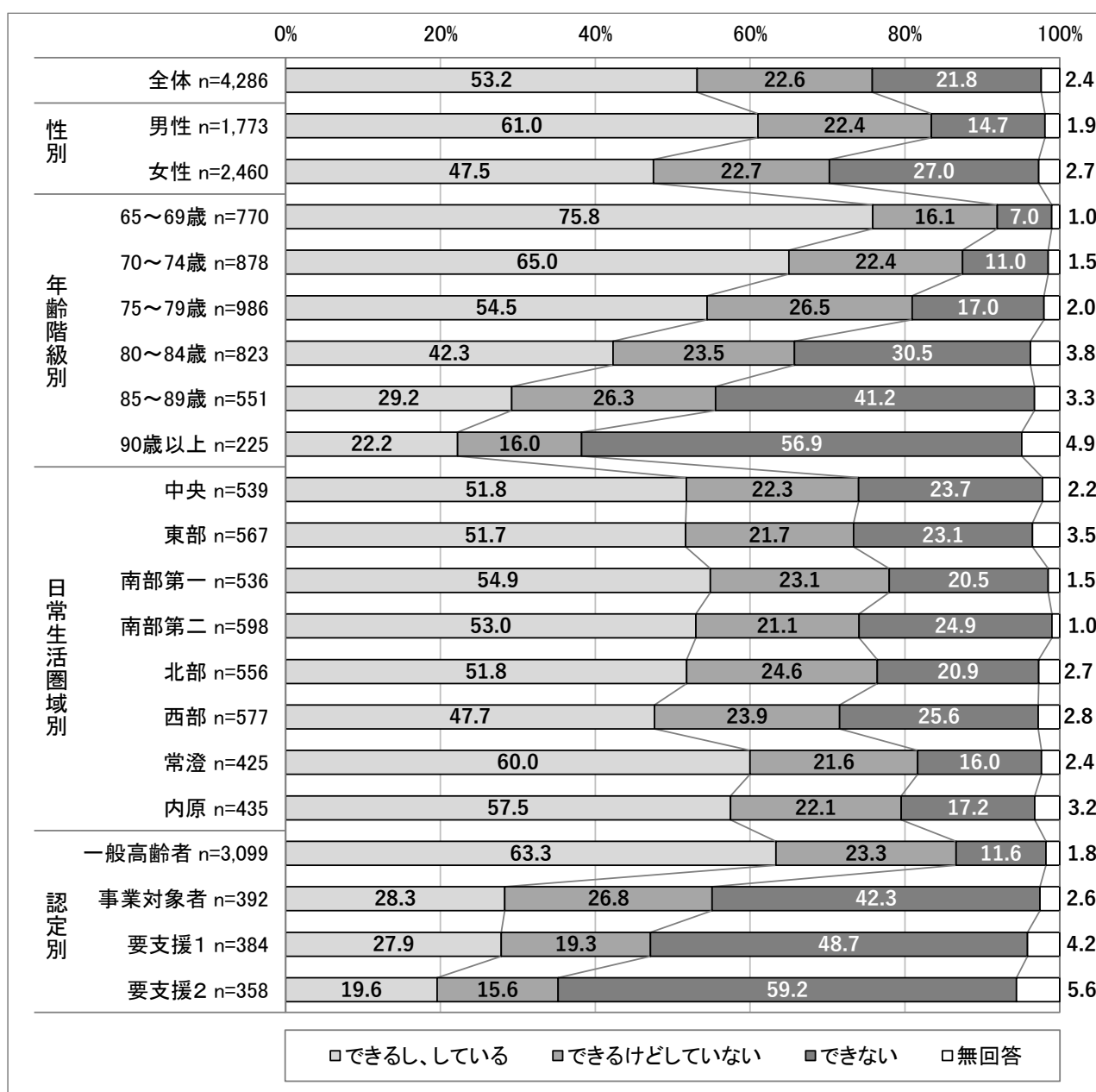
Q 1. 階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか（1つのみ）

階段を手すりや壁をつたわずに昇っているかについては、全体では「できるし、している」が53.2%で最も高く、次いで「できるけどしていない」が22.6%、「できない」が21.8%となっています。

性別でみると、「できない」は、男性が14.7%、女性が27.0%で、女性が男性を12.3ポイント上回っています。

年齢階級別でみると、「できない」は、90歳以上が56.9%で最も高く、次いで85～89歳が41.2%、80～84歳が30.5%となっています。

日常生活圏域別でみると、「できない」は、西部が25.6%で最も高く、次いで南部第二が24.9%、中央が23.7%となっています。



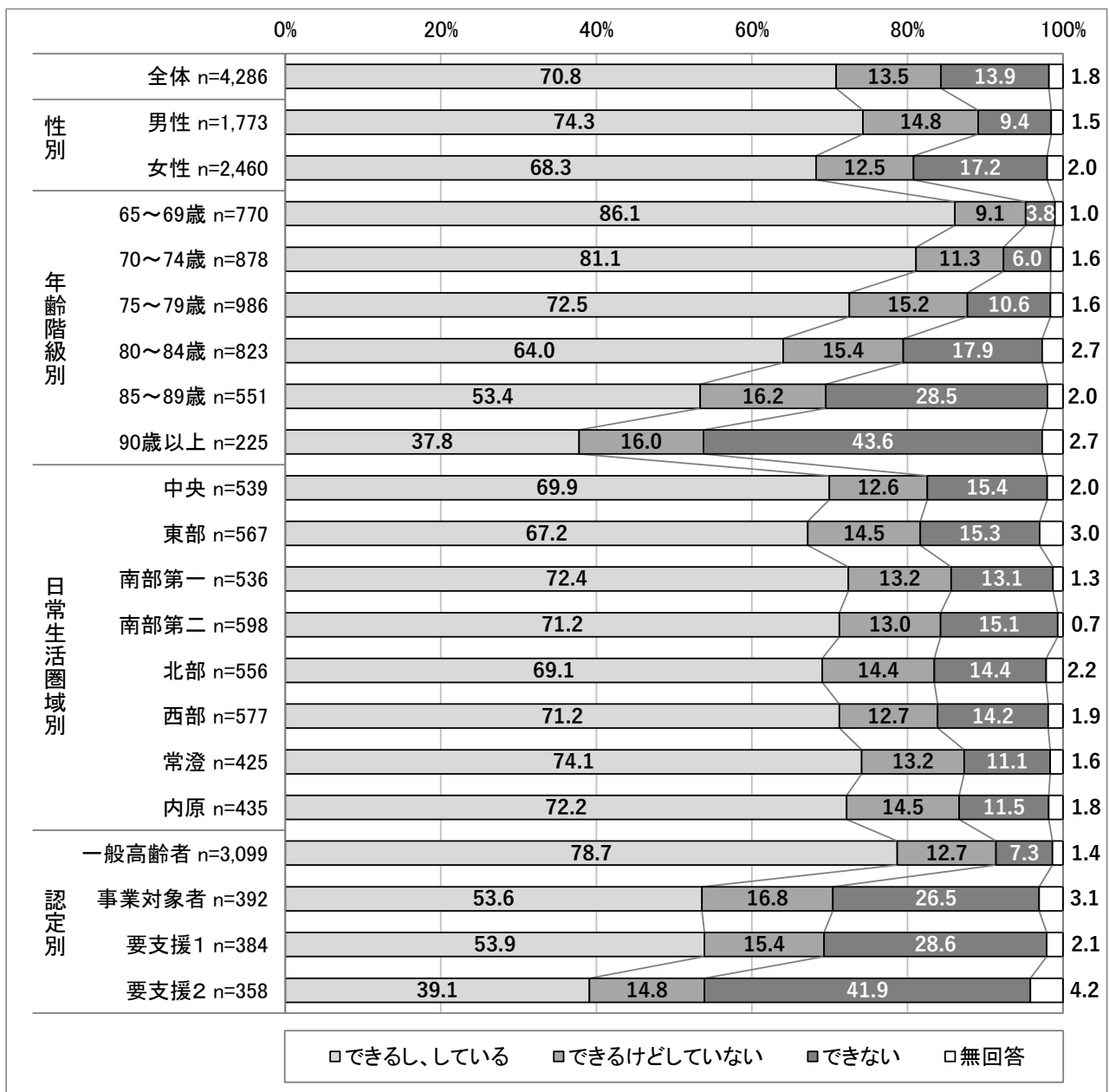
Q 2. 椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか（1つのみ）

椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっているかについては、全体では「できるし、している」が70.8%で最も高く、次いで「できない」が13.9%、「できるけどしていない」が13.5%となっています。

性別でみると、「できない」は、男性が9.4%、女性が17.2%で、女性が男性を7.8ポイント上回っています。

年齢階級別でみると、「できない」は、90歳以上が43.6%で最も高く、次いで85～89歳が28.5%、80～84歳が17.9%となっています。

日常生活圏域別でみると、「できない」は、中央が15.4%で最も高く、次いで東部が15.3%、南部第二が15.1%となっています。



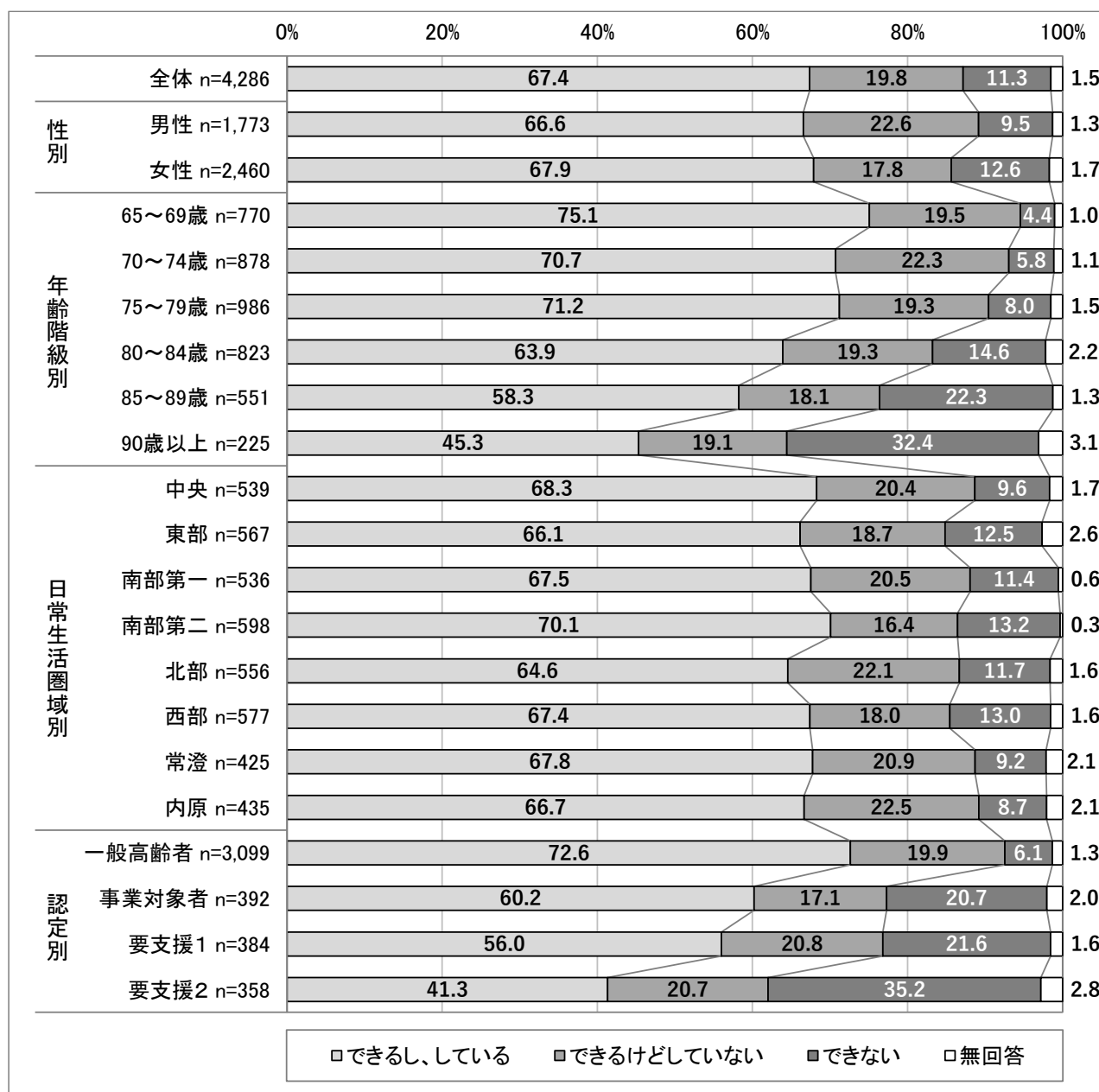
Q3. 15分位続けて歩いていますか（1つのみ）

15分位続けて歩いているかについては、全体では「できるし、している」が67.4%で最も高く、次いで「できるけどしていない」が19.8%、「できない」が11.3%となっています。

性別でみると、「できない」は、男性が9.5%、女性が12.6%で、女性が男性を3.1ポイント上回っています。

年齢階級別でみると、「できない」は、90歳以上が32.4%で最も高く、次いで85～89歳が22.3%、80～84歳が14.6%となっています。

日常生活圏域別でみると、「できない」は、南部第二が13.2%で最も高く、次いで西部が13.0%、東部が12.5%となっています。



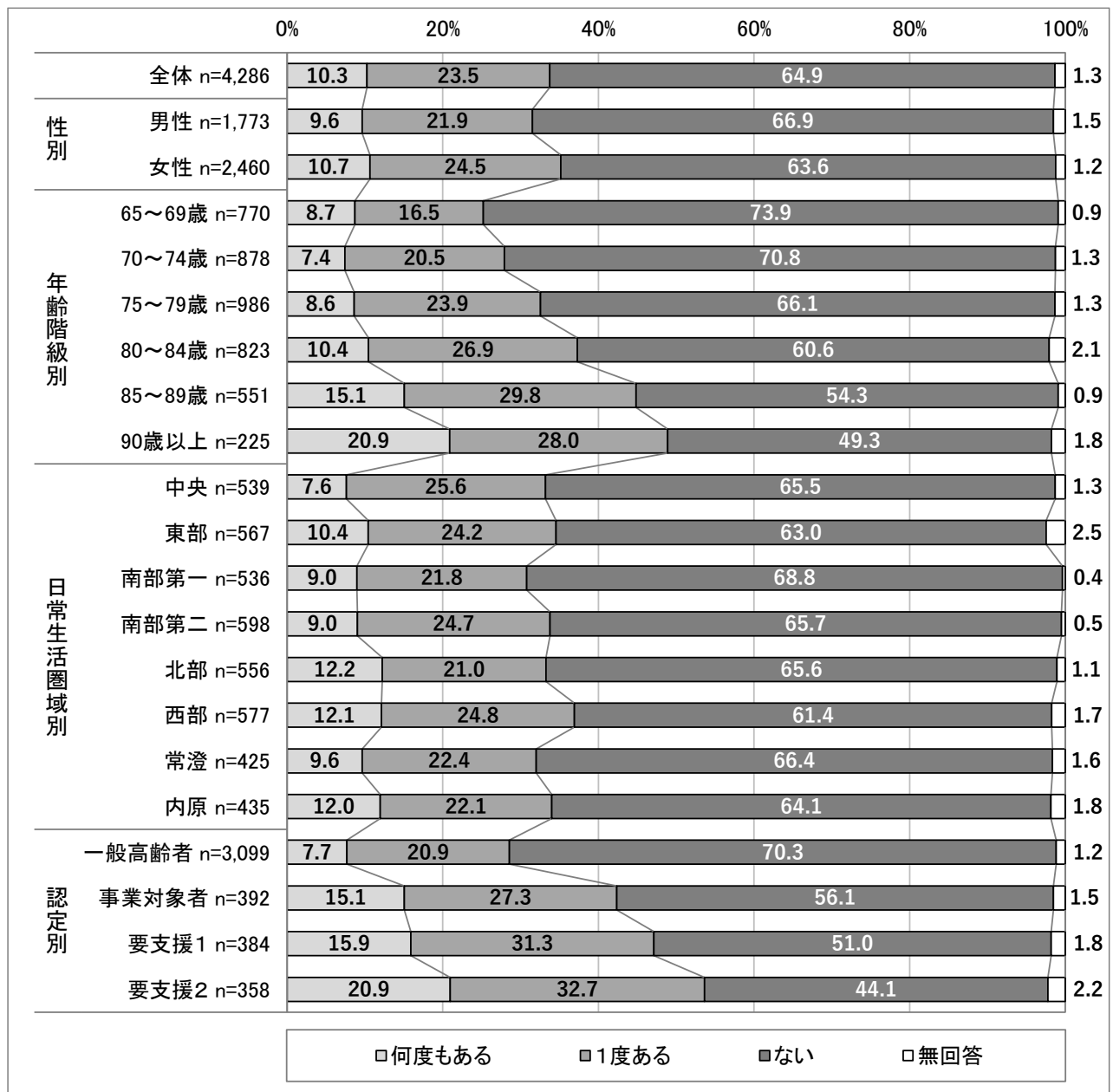
Q 4. 過去 1 年間に転んだ経験がありますか（1つのみ）

過去 1 年間に転んだ経験があるかについては、全体では「ない」が 64.9%で最も高く、次いで「1 度ある」が 23.5%、「何度もある」が 10.3%となっています。

性別でみると、「何度もある」と「1 度ある」を合わせた『ある』は、男性が 31.5%、女性が 35.2%で、女性が男性を 3.7 ポイント上回っています。

年齢階級別でみると、『ある』は、90 歳以上が 48.9%で最も高く、次いで 85～89 歳が 44.9%、80～84 歳が 37.3%となっています。

日常生活圏域別でみると、『ある』は、西部が 36.9%で最も高く、次いで東部が 34.6%、内原が 34.1%となっています。



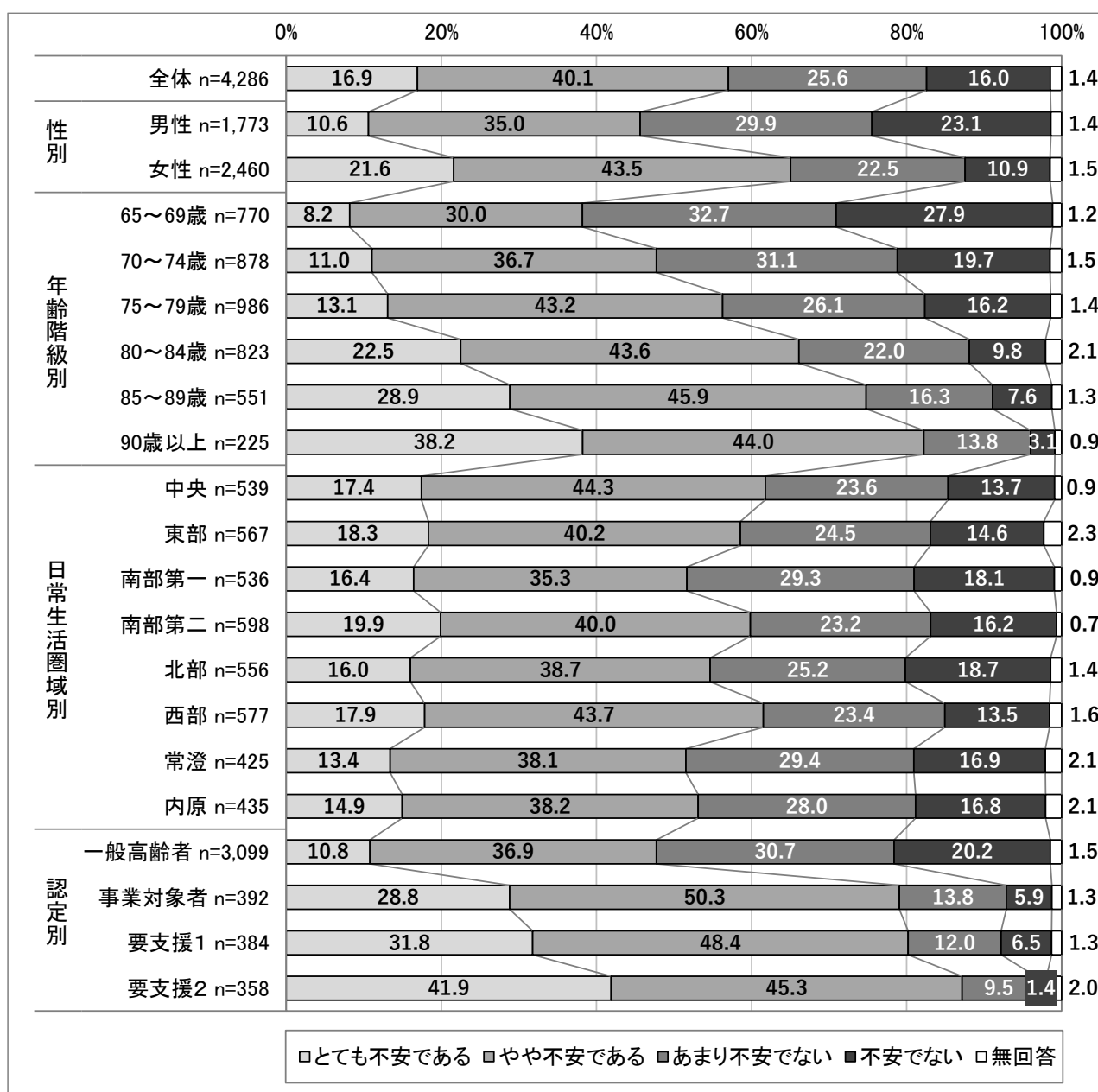
Q5. 転倒に対する不安は大きいですか（1つのみ）

転倒に対する不安は大きいかについては、全体では「やや不安である」が40.1%で最も高く、次いで「あまり不安でない」が25.6%、「とても不安である」が16.9%となっています。

性別でみると、「とても不安である」と「やや不安である」を合わせた『不安である』は、男性が45.6%、女性が65.1%で、女性が男性を19.5ポイント上回っています。

年齢階級別でみると、『不安である』は、90歳以上が82.2%で最も高く、次いで85～89歳が74.8%、80～84歳が66.1%となっています。

日常生活圏域別でみると、『不安である』は、中央が61.7%で最も高く、次いで西部が61.6%、南部第二が59.9%となっています。



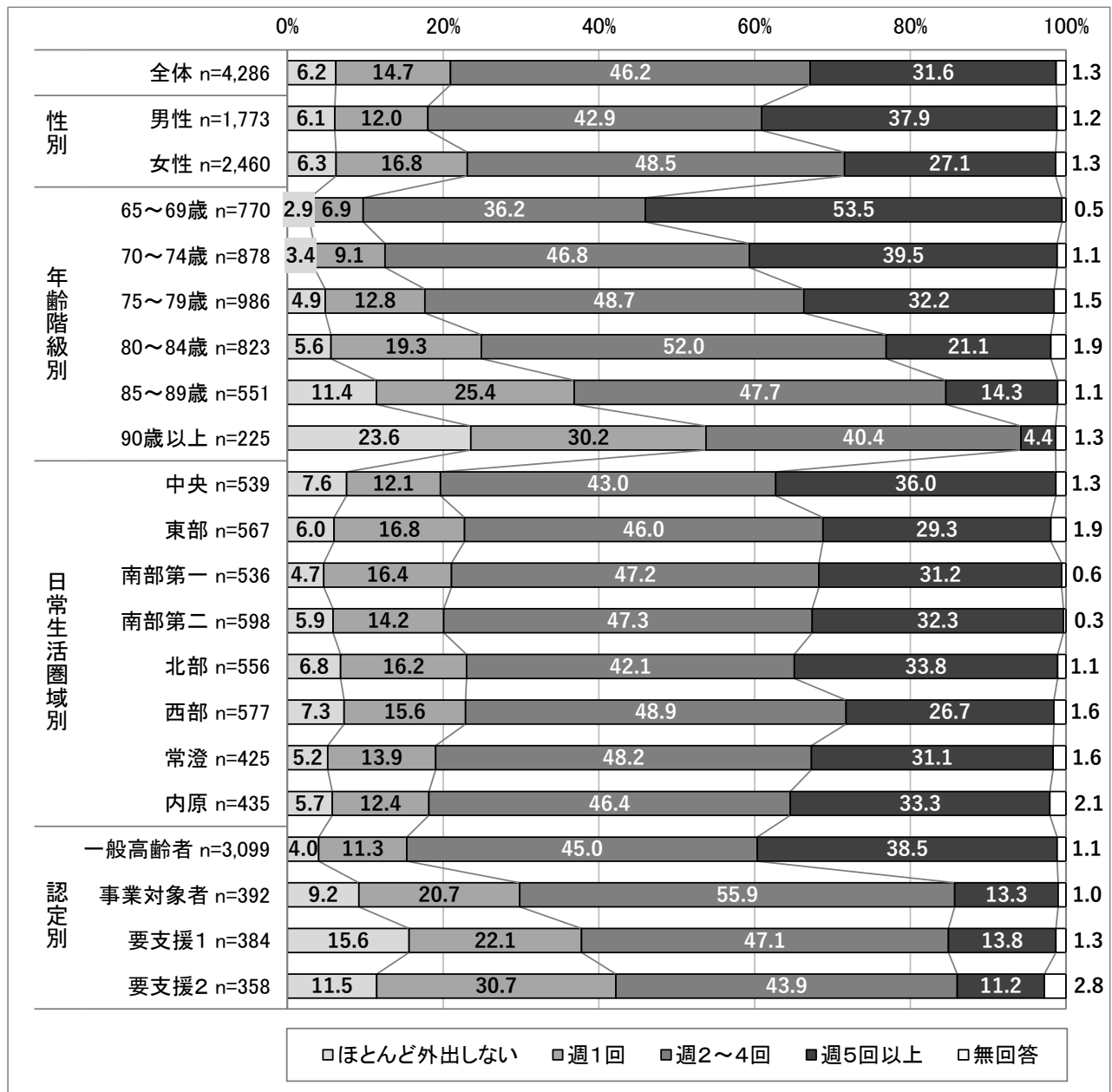
Q 6. 週に1回以上は外出していますか（1つのみ）

1週間の外出頻度については、全体では「週2～4回」が46.2%で最も高く、次いで「週5回以上」が31.6%、「週1回」が14.7%となっています。

性別でみると、「ほとんど外出しない」と「週1回」を合わせた『外出しない』は、男性が18.1%、女性が23.1%で、女性が男性を5.0ポイント上回っています。

年齢階級別でみると、『外出しない』は、90歳以上が53.8%で最も高く、次いで85～89歳が36.8%、80～84歳が24.9%となっています。

日常生活圏域別でみると、『外出しない』は、北部が23.0%で最も高く、次いで西部が22.9%、東部が22.8%となっています。



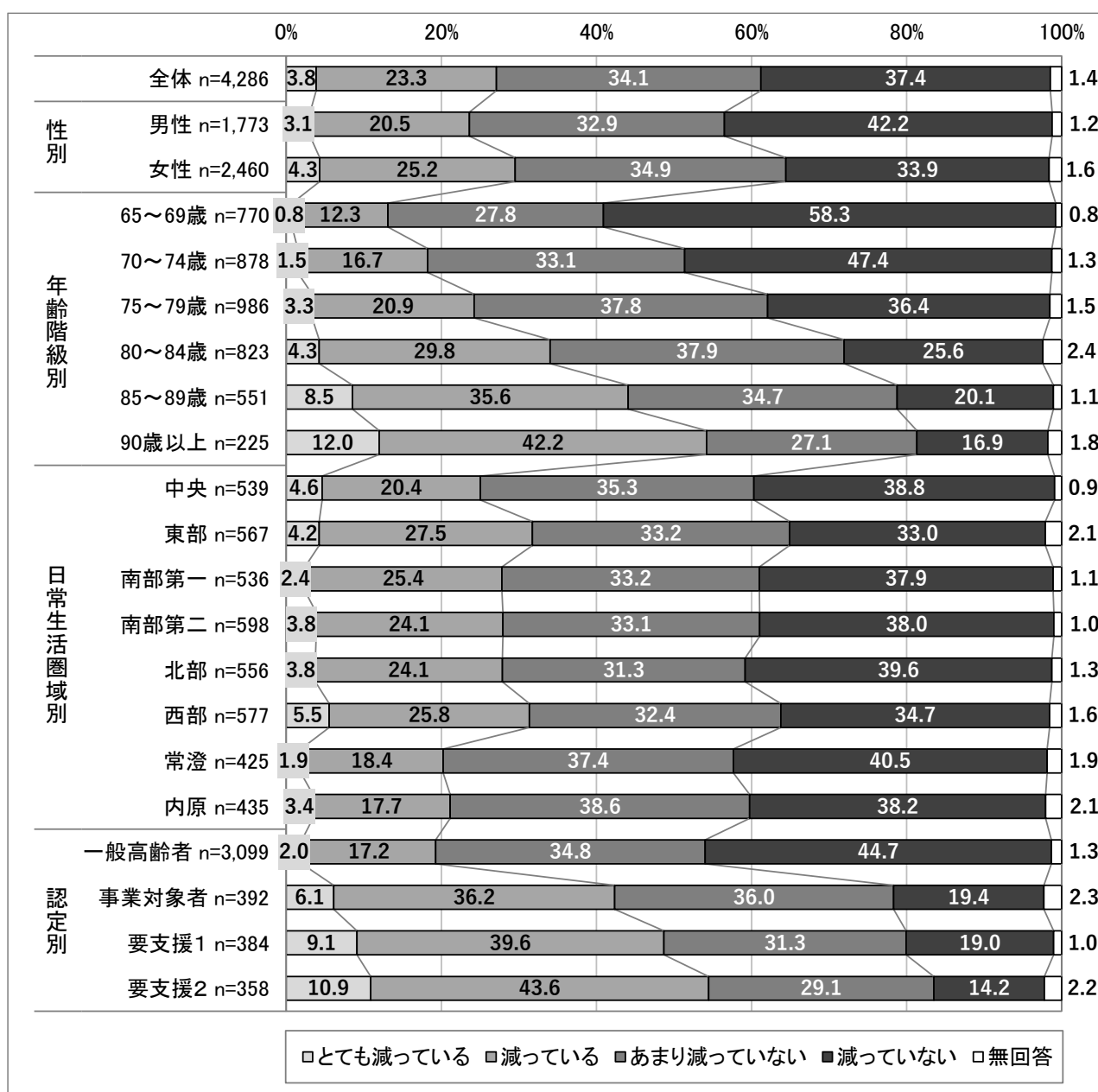
Q7. 昨年と比べて外出の回数が減っていますか（1つのみ）

昨年と比べて外出の回数が減っているかについては、全体では「減っていない」が37.4%で最も高く、次いで「あまり減っていない」が34.1%、「減っている」が23.3%となっています。

性別でみると、「とても減っている」と「減っている」を合わせた『減っている』は、男性が23.6%、女性が29.5%で、女性が男性を5.9ポイント上回っています。

年齢階級別でみると、『減っている』は、90歳以上が54.2%で最も高く、次いで85～89歳が44.1%、80～84歳が34.1%となっています。

日常生活圏域別でみると、『減っている』は、東部が31.7%で最も高く、次いで西部が31.3%、南部第二、北部がともに27.9%となっています。



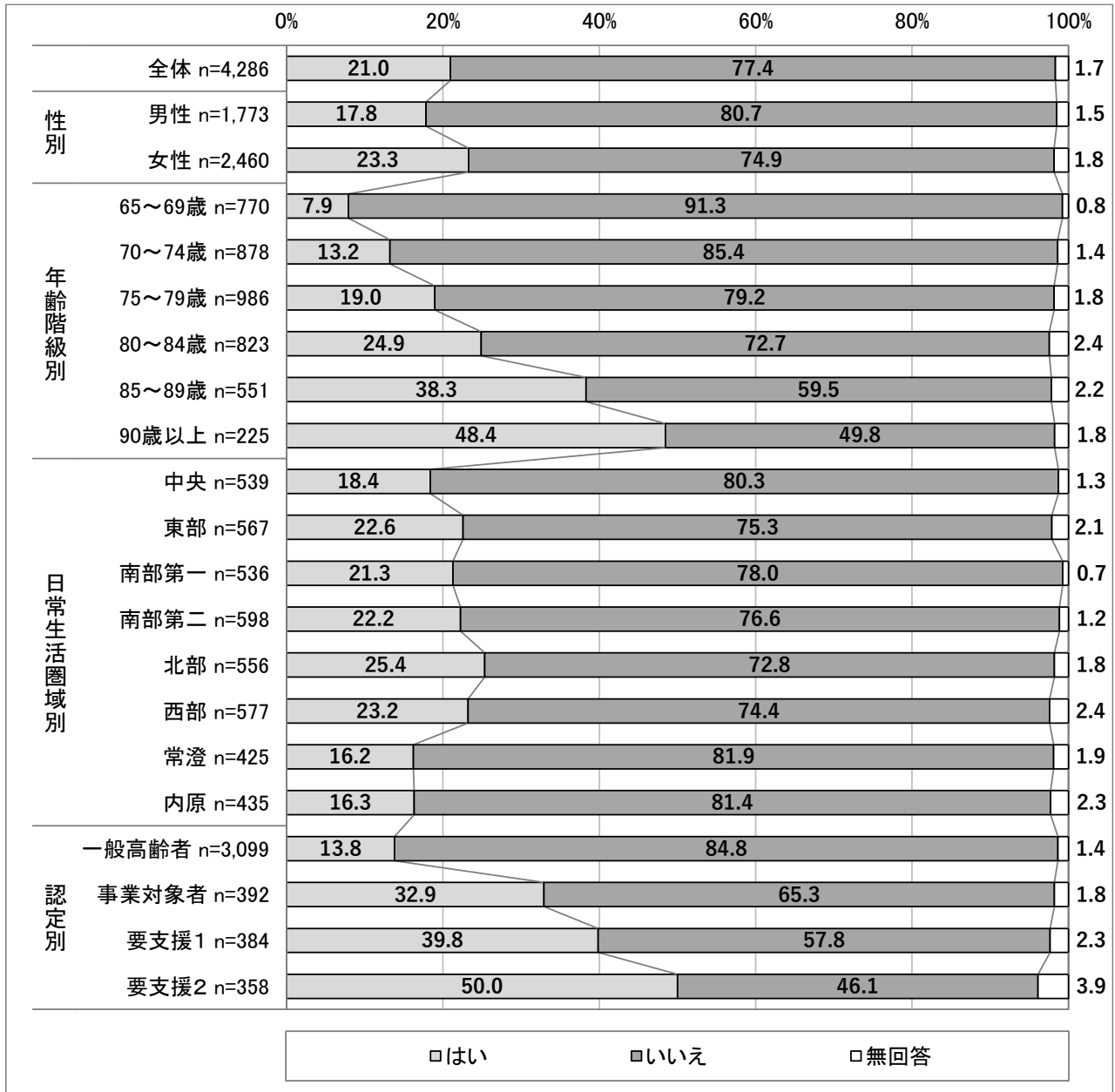
Q 8. 外出を控えていますか（1つのみ）

外出を控えているかについては、全体では「はい」が21.0%、「いいえ」が77.4%となっています。

性別でみると、「はい」は、男性が17.8%、女性が23.3%で、女性が男性を5.5ポイント上回っています。

年齢階級別でみると、「はい」は、90歳以上が48.4%で最も高く、次いで85～89歳が38.3%、80～84歳が24.9%となっています。

日常生活圏域別でみると、「はい」は、北部が25.4%で最も高く、次いで西部が23.2%、東部が22.6%となっています。

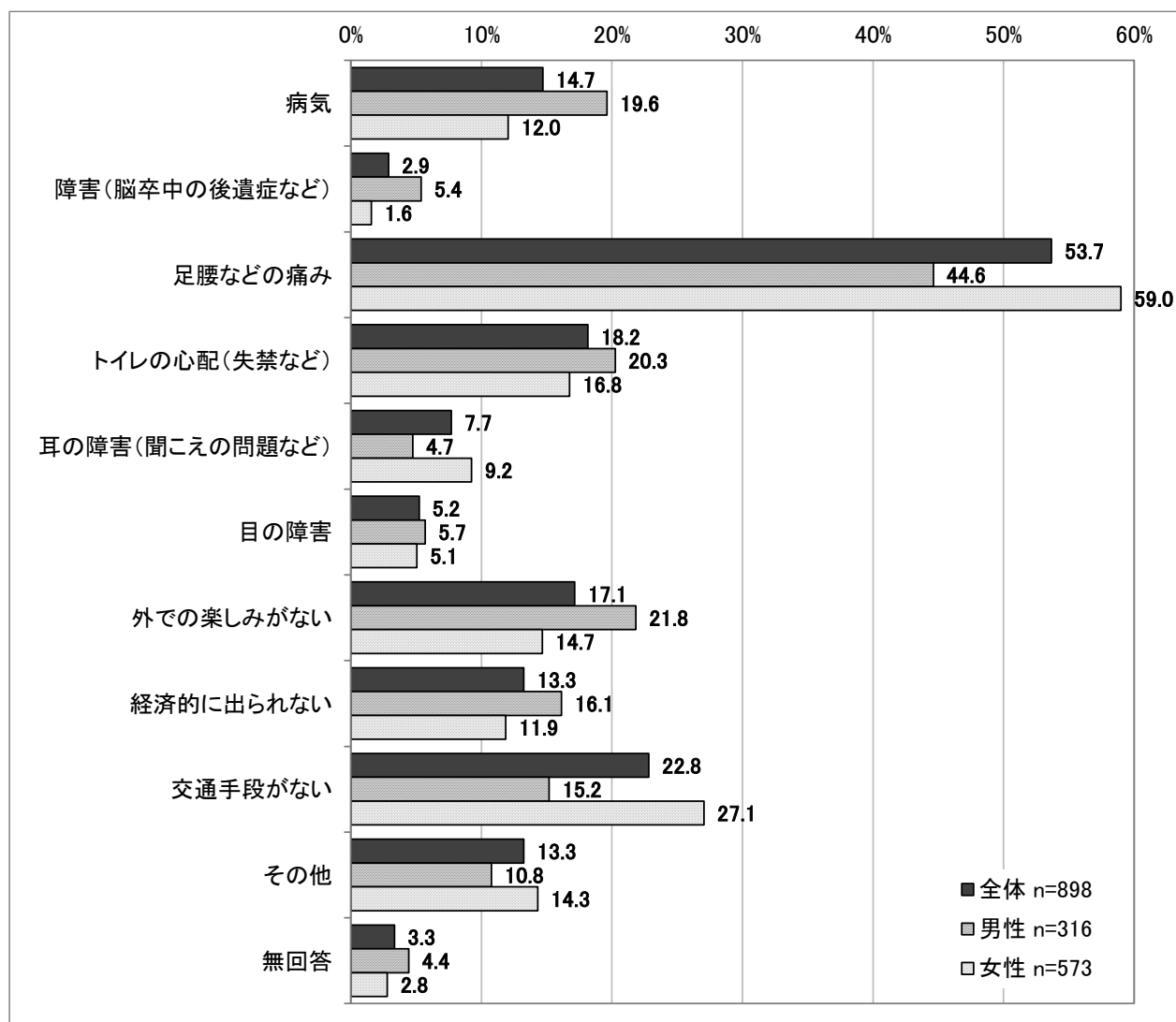


【Q8で「はい」(外出を控えている)の方のみ】

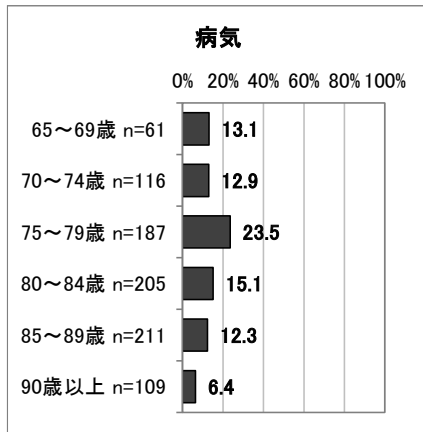
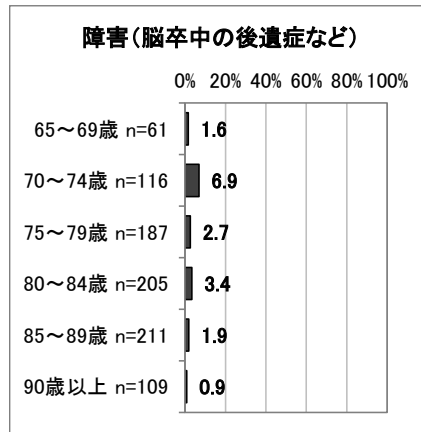
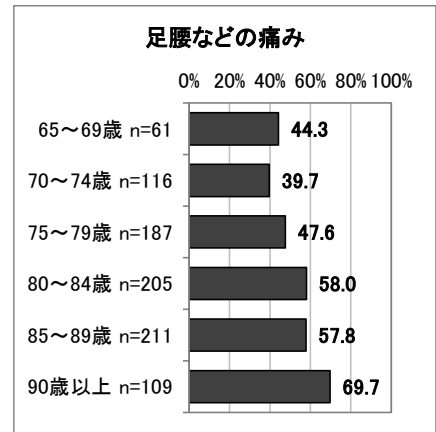
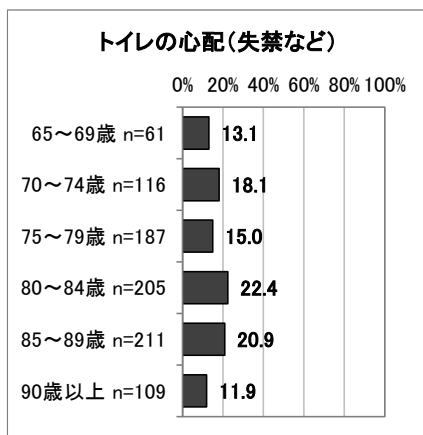
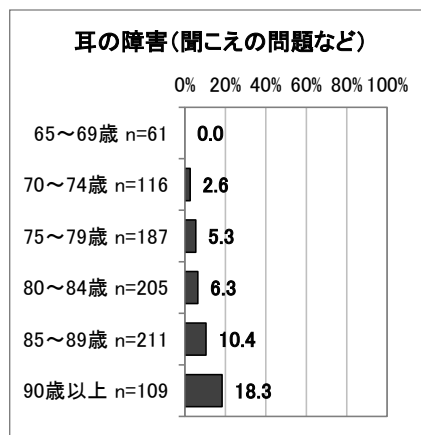
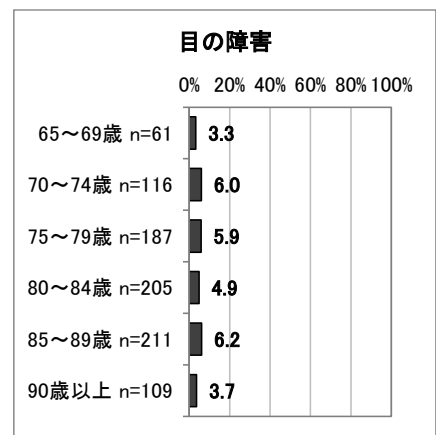
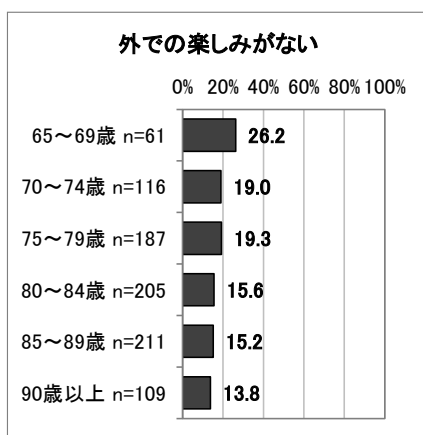
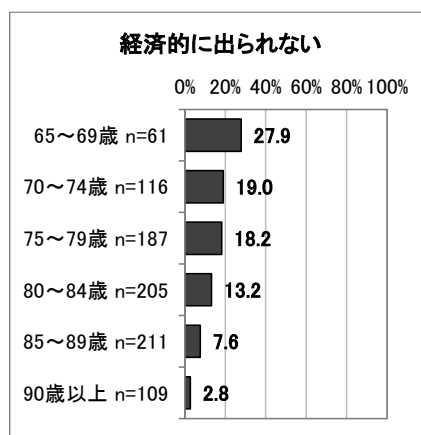
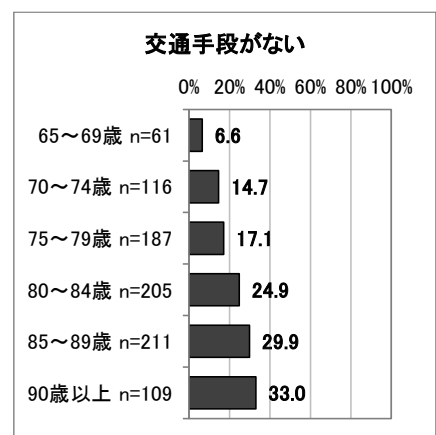
Q8-①. 外出を控えている理由は、次のどれですか(いくつでも)

外出を控えている理由については、全体では「足腰などの痛み」が53.7%で最も高く、次いで「交通手段がない」が22.8%、「トイレの心配(失禁など)」が18.2%となっています。

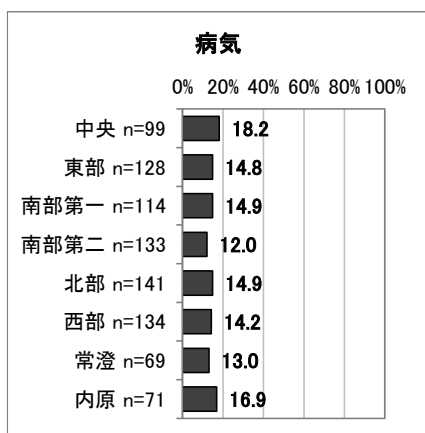
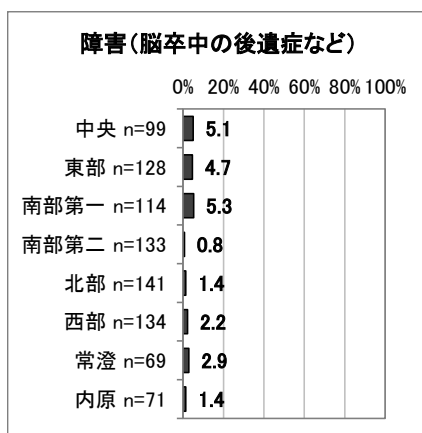
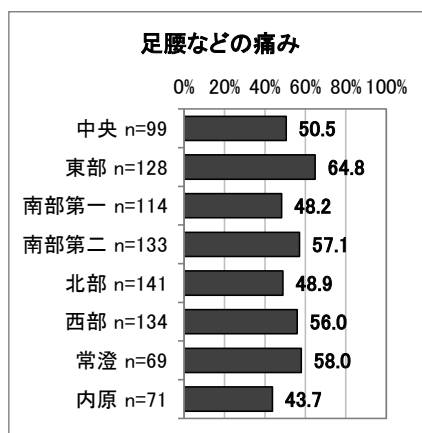
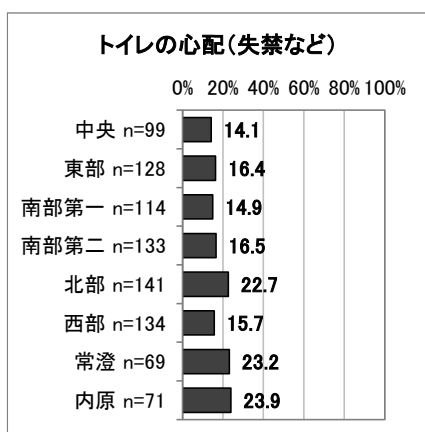
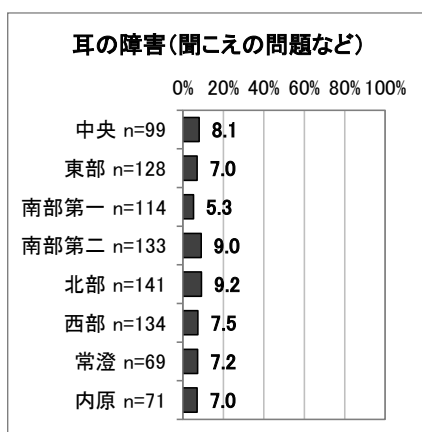
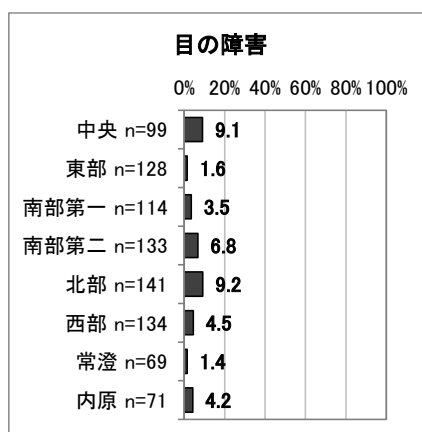
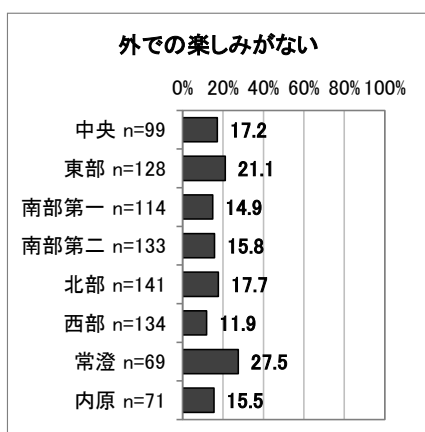
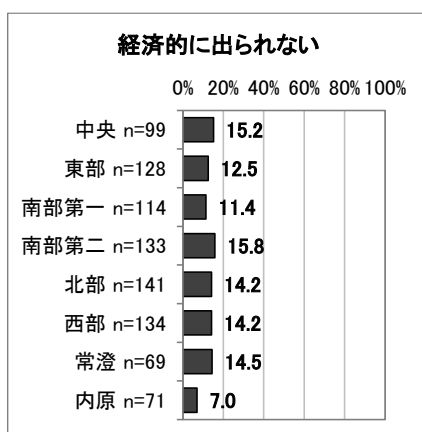
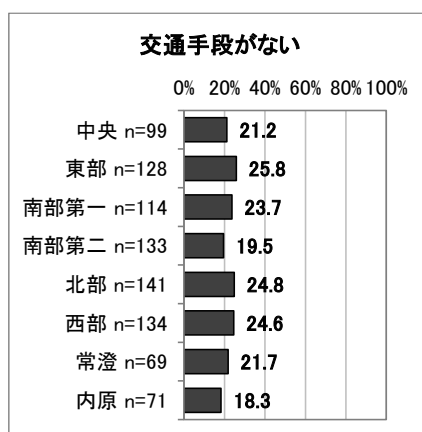
性別でみると、男性では、「足腰などの痛み」が44.6%で最も高く、次いで「外での楽しみがない」が21.8%、「トイレの心配(失禁など)」が20.3%となっています。女性では、「足腰などの痛み」が59.0%で最も高く、次いで「交通手段がない」が27.1%、「トイレの心配(失禁など)」が16.8%となっています。



外出を控えている理由の上位3項目を年齢階級別でみると、「足腰などの痛み」は、90歳以上が69.7%で最も高く、次いで80～84歳が58.0%、85～89歳が57.8%となっています。「交通手段がない」では、90歳以上が33.0%で最も高く、次いで85～89歳が29.9%、80～84歳が24.9%となっています。「トイレの心配（失禁など）」では、80～84歳が22.4%で最も高く、次いで85～89歳が20.9%、70～74歳が18.1%となっています。



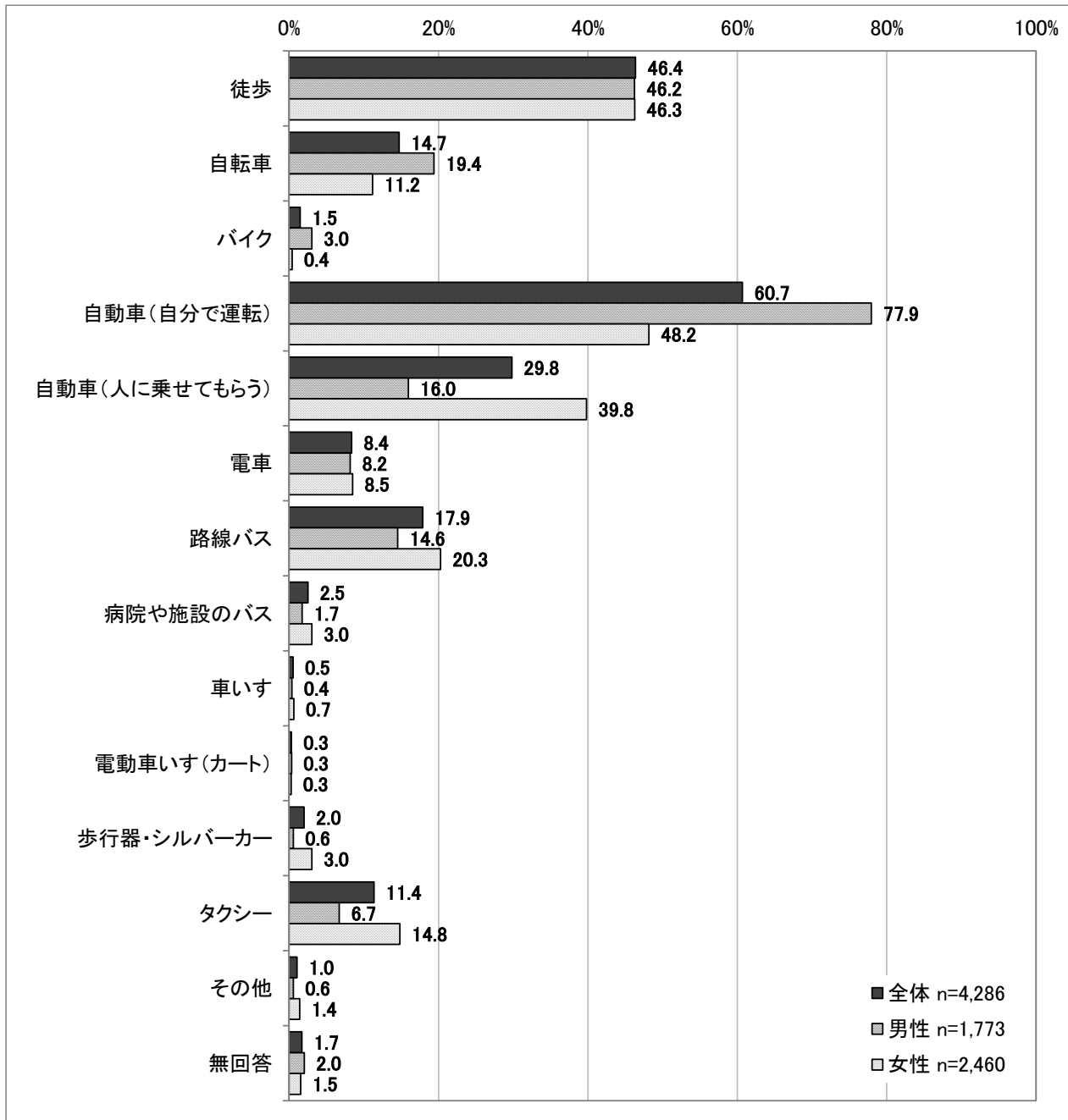
外出を控えている理由の上位3項目を日常生活圏域別でみると、「足腰などの痛み」は、東部が64.8%で最も高く、次いで常澄が58.0%、南部第二が57.1%となっています。「交通手段がない」では、東部が25.8%で最も高く、次いで北部が24.8%、西部が24.6%となっています。「トイレの心配（失禁など）」では、内原が23.9%で最も高く、次いで常澄が23.2%、北部が22.7%となっています。



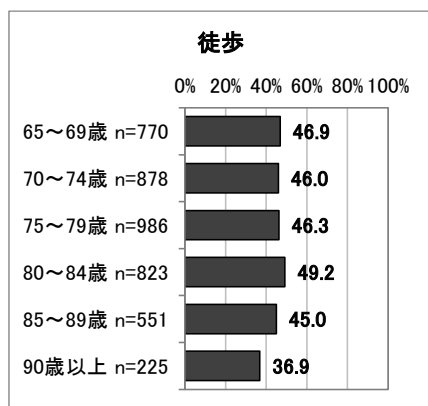
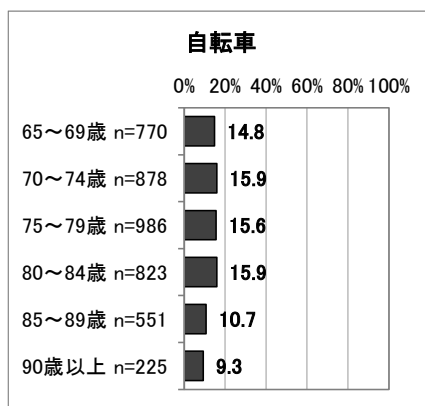
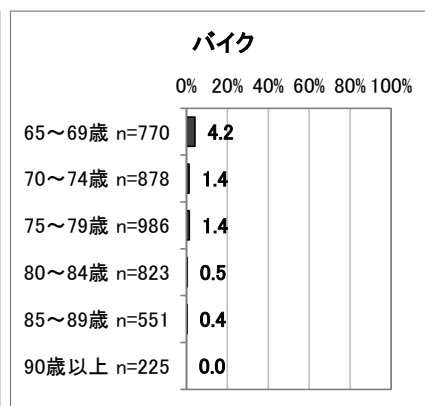
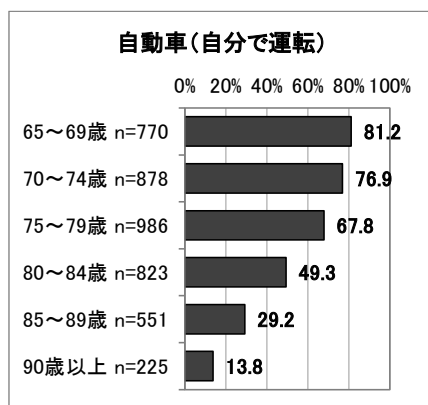
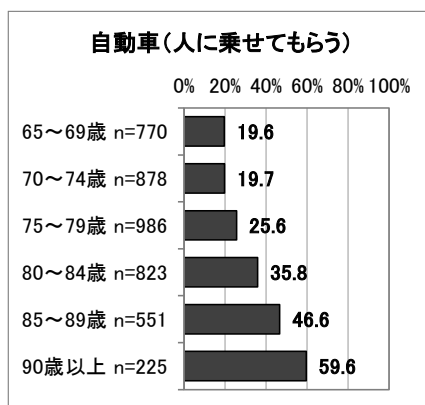
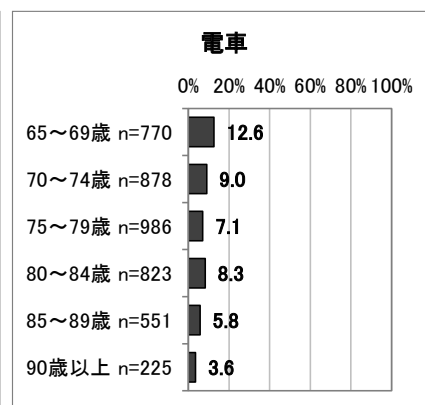
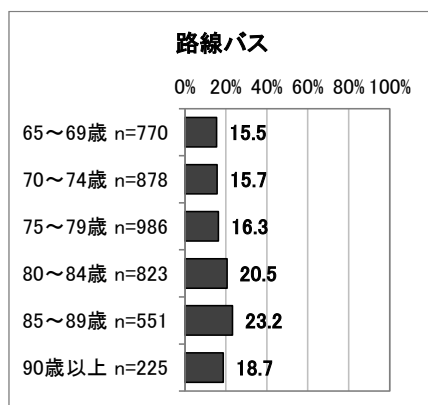
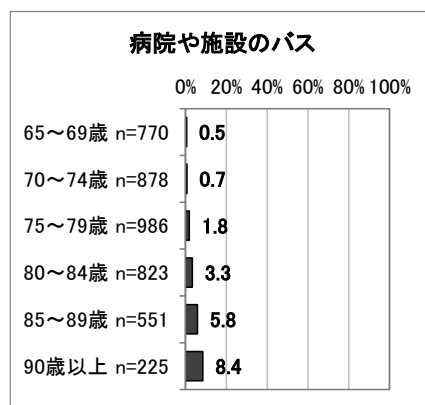
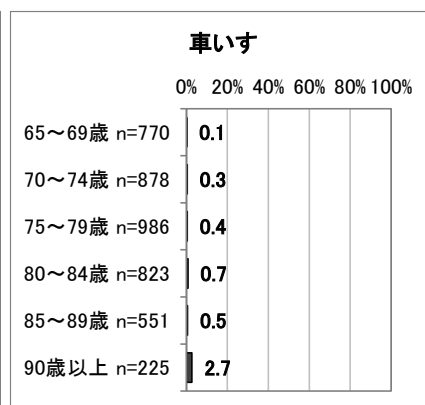
Q9. 外出する際の移動手段は何ですか（いくつでも）

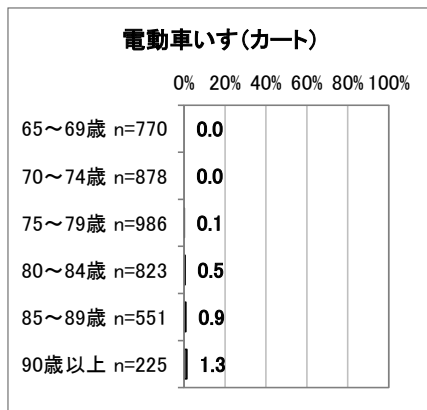
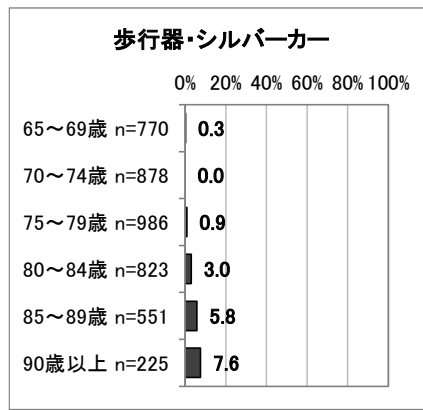
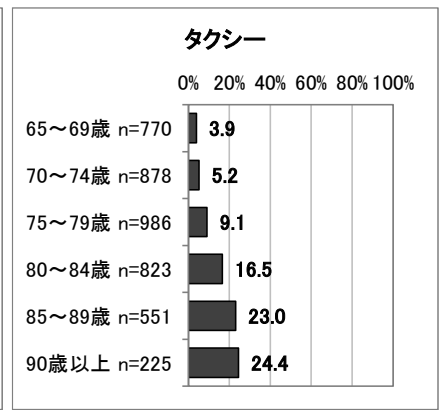
外出する際の移動手段については、全体では「自動車（自分で運転）」が60.7%で最も高く、次いで「徒歩」が46.4%、「自動車（人に乗せてもらう）」が29.8%となっています。

性別でみると、男性では、「自動車（自分で運転）」が77.9%で最も高く、次いで「徒歩」が46.2%、「自転車」が19.4%となっています。女性では、「自動車（自分で運転）」が48.2%で最も高く、次いで「徒歩」が46.3%、「自動車（人に乗せてもらう）」が39.8%となっています。

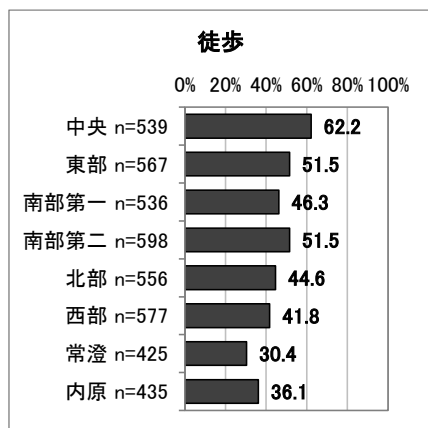
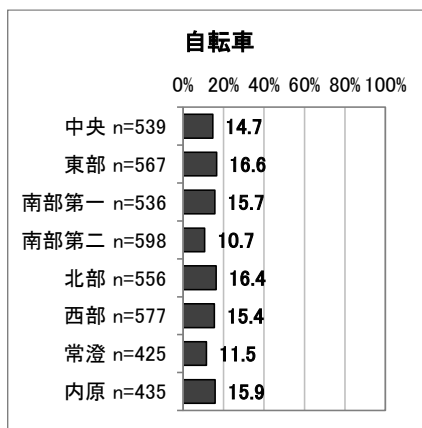
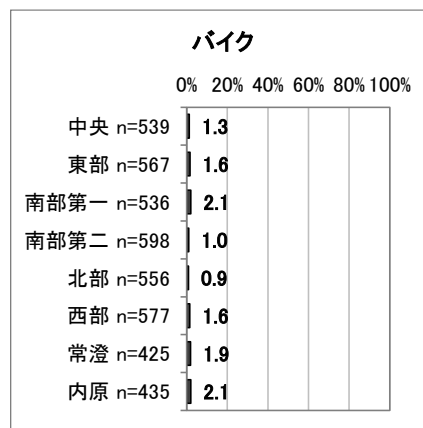
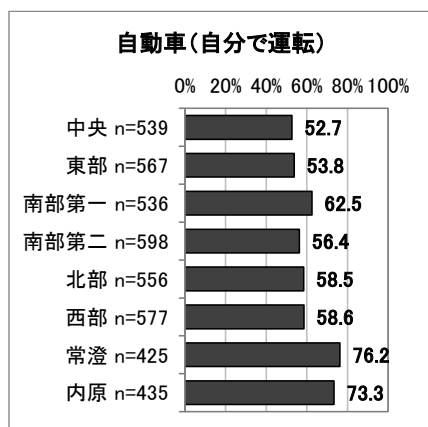
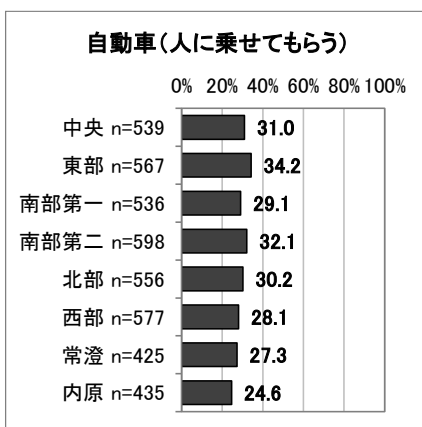
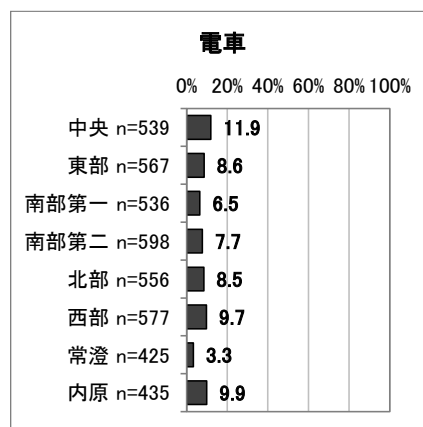
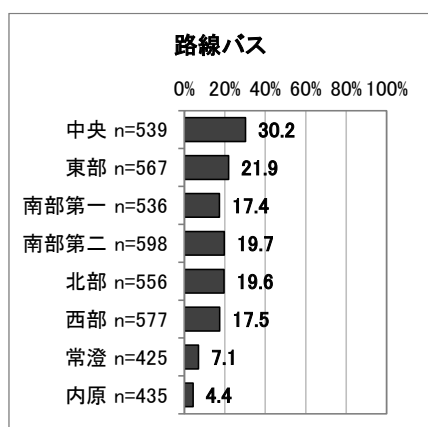
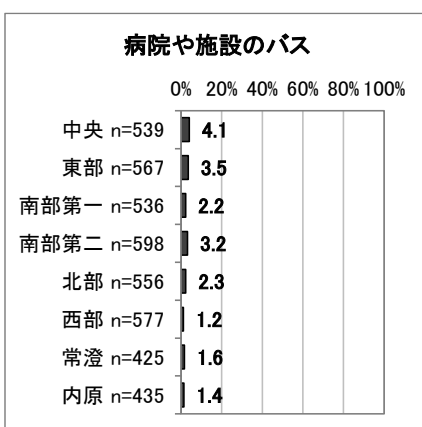
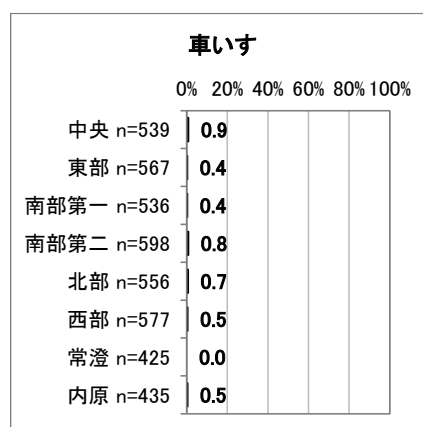


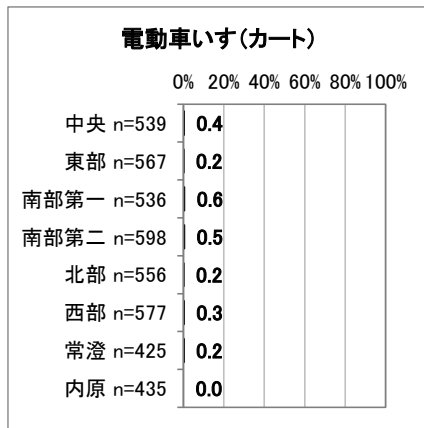
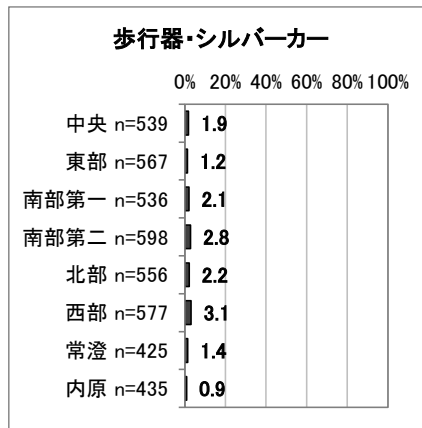
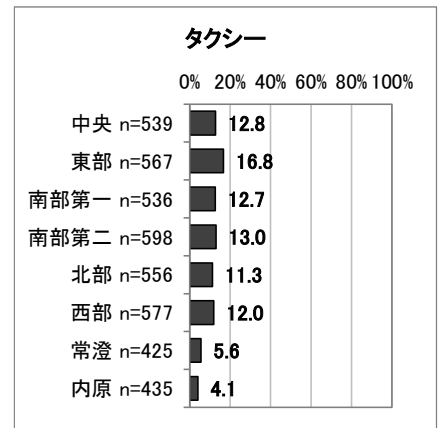
外出する際の移動手段の上位3項目を年齢階級別でみると、「自動車（自分で運転）」は、65～69歳が81.2%で最も高く、次いで70～74歳が76.9%、75～79歳が67.8%となっています。「徒歩」では、80～84歳が49.2%で最も高く、次いで65～69歳が46.9%、75～79歳が46.3%となっています。「自動車（人に乗せてもらう）」では、90歳以上が59.6%で最も高く、次いで85～89歳が46.6%、80～84歳が35.8%となっています。





外出する際の移動手段の上位3項目を日常生活圏域別でみると、「自動車（自分で運転）」は、常澄が76.2%で最も高く、次いで内原が73.3%、南部第一が62.5%となっています。「徒歩」では、中央が62.2%で最も高く、次いで東部、南部第二がともに51.5%、南部第一が46.3%となっています。「自動車（人に乗せてもらう）」では、東部が34.2%で最も高く、次いで南部第二が32.1%、中央が31.0%となっています。



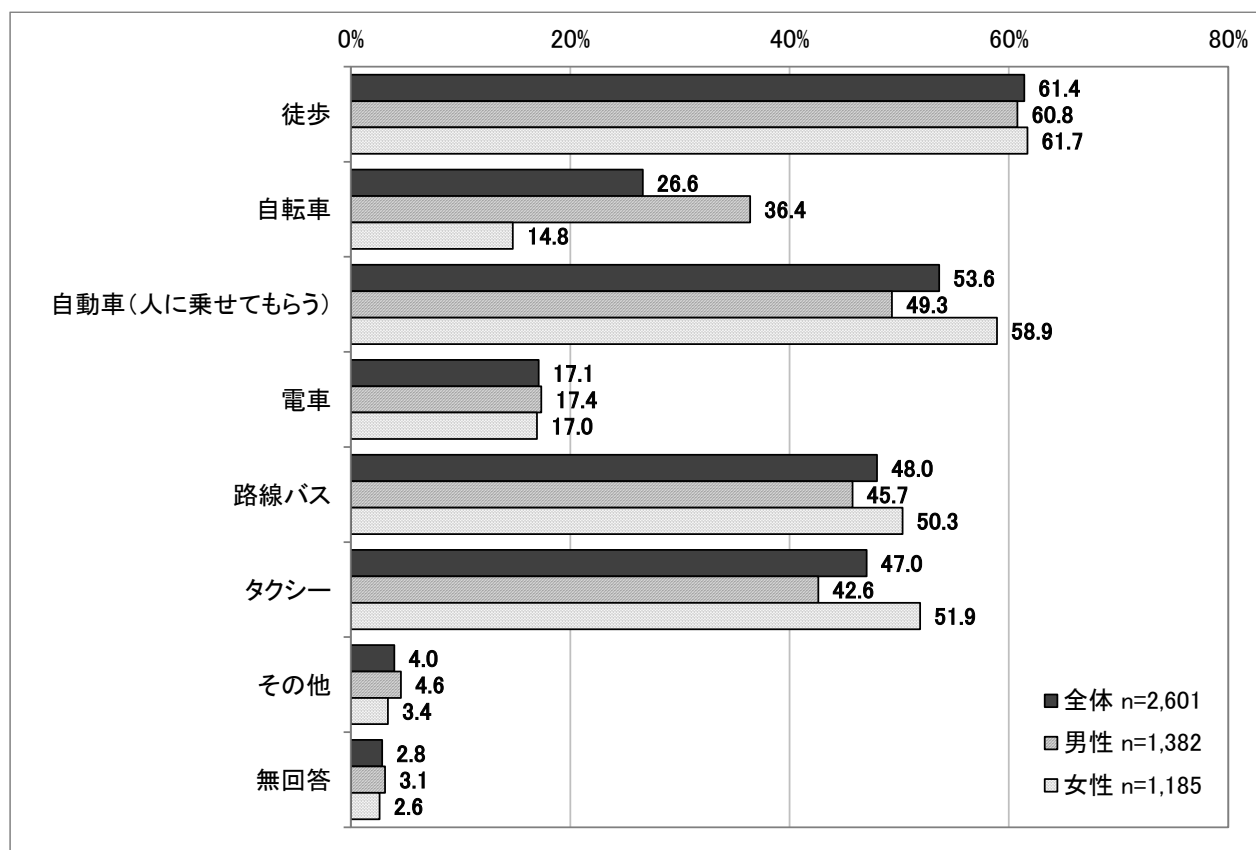


【Q9で「自動車（自分で運転）」の方のみ】

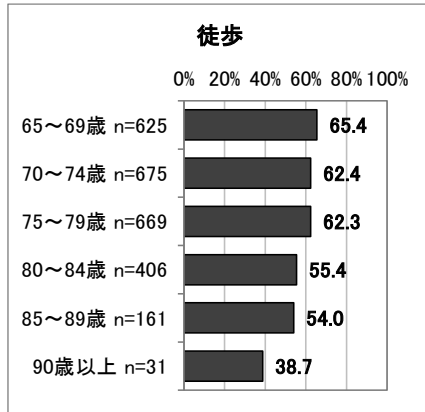
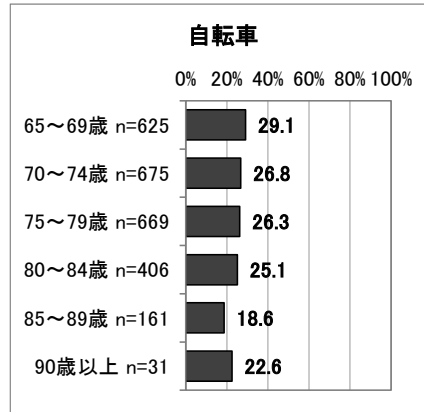
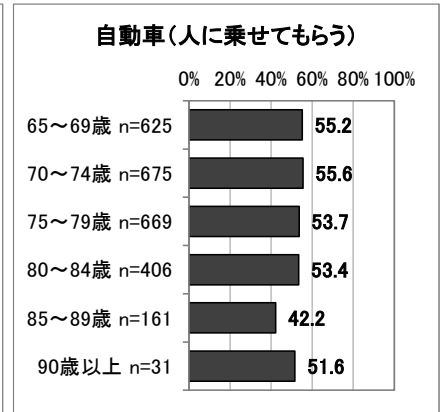
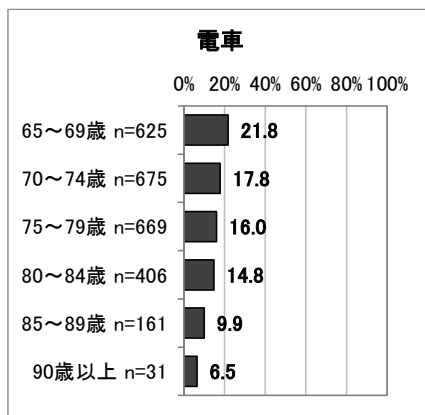
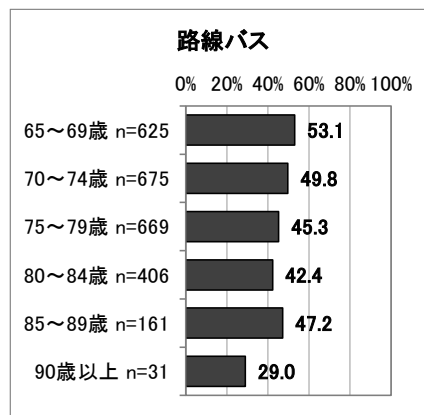
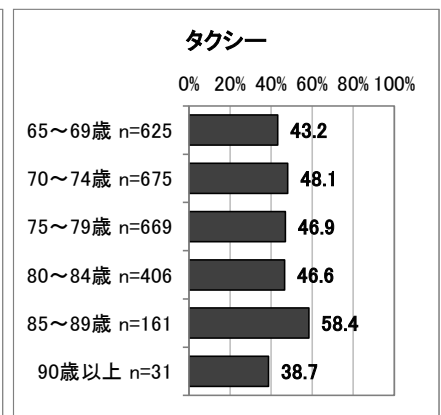
Q9-①. 自動車を自分で運転できなくなった場合、どのような移動手段を利用しますか（いくつでも）

自動車を自分で運転できなくなった場合の移動手段については、全体では「徒歩」が61.4%で最も高く、次いで「自動車（人に乗せてもらう）」が53.6%、「路線バス」が48.0%となっています。

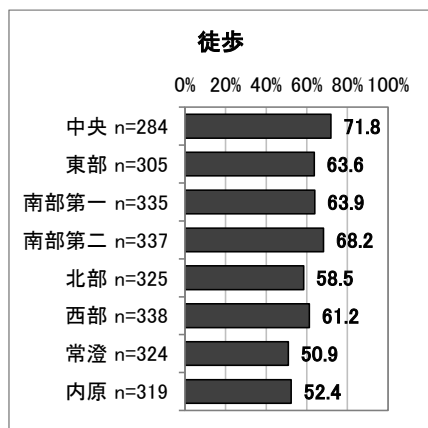
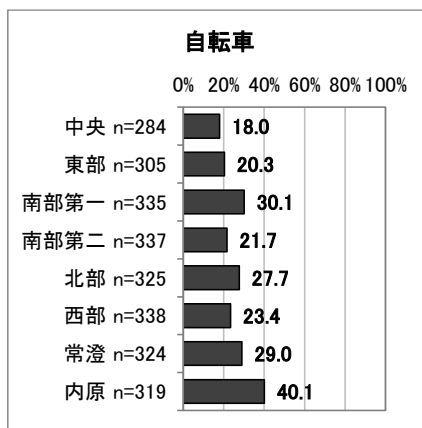
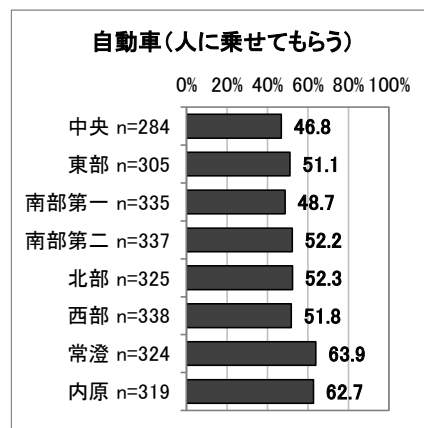
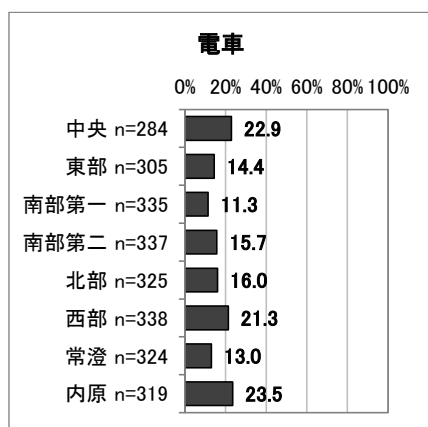
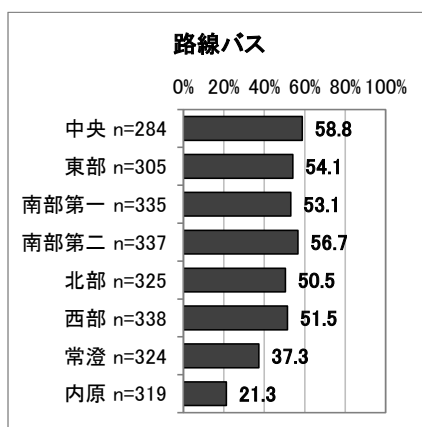
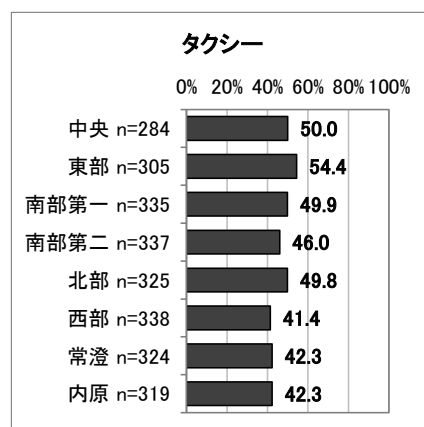
性別でみると、男性では、「徒歩」が60.8%で最も高く、次いで「自動車（人に乗せてもらう）」が49.3%、「路線バス」が45.7%となっています。女性では、「徒歩」が61.7%で最も高く、次いで「自動車（人に乗せてもらう）」が58.9%、「タクシー」が51.9%となっています。



自動車を自分で運転できなくなった場合の移動手段の上位3項目を年齢階級別でみると、「徒歩」は、65～69歳が65.4%で最も高く、次いで70～74歳が62.4%、75～79歳が62.3%となっています。「自動車（人に乗せてもらう）」では、70～74歳が55.6%で最も高く、次いで65～69歳が55.2%、75～79歳が53.7%となっています。「路線バス」では、65～69歳が53.1%で最も高く、次いで70～74歳が49.8%、85～89歳が47.2%となっています。



自動車を自分で運転できなくなった場合の移動手段の上位3項目を日常生活圏域別でみると、「徒歩」は、中央が71.8%で最も高く、次いで南部第二が68.2%、南部第一が63.9%となっています。「自動車（人に乗せてもらう）」では、常澄が63.9%で最も高く、次いで内原が62.7%、北部が52.3%となっています。「路線バス」では、中央が58.8%で最も高く、次いで南部第二が56.7%、東部が54.1%となっています。



Q10. 以下の目的で外出する頻度を教えてください（それぞれに1つのみ）

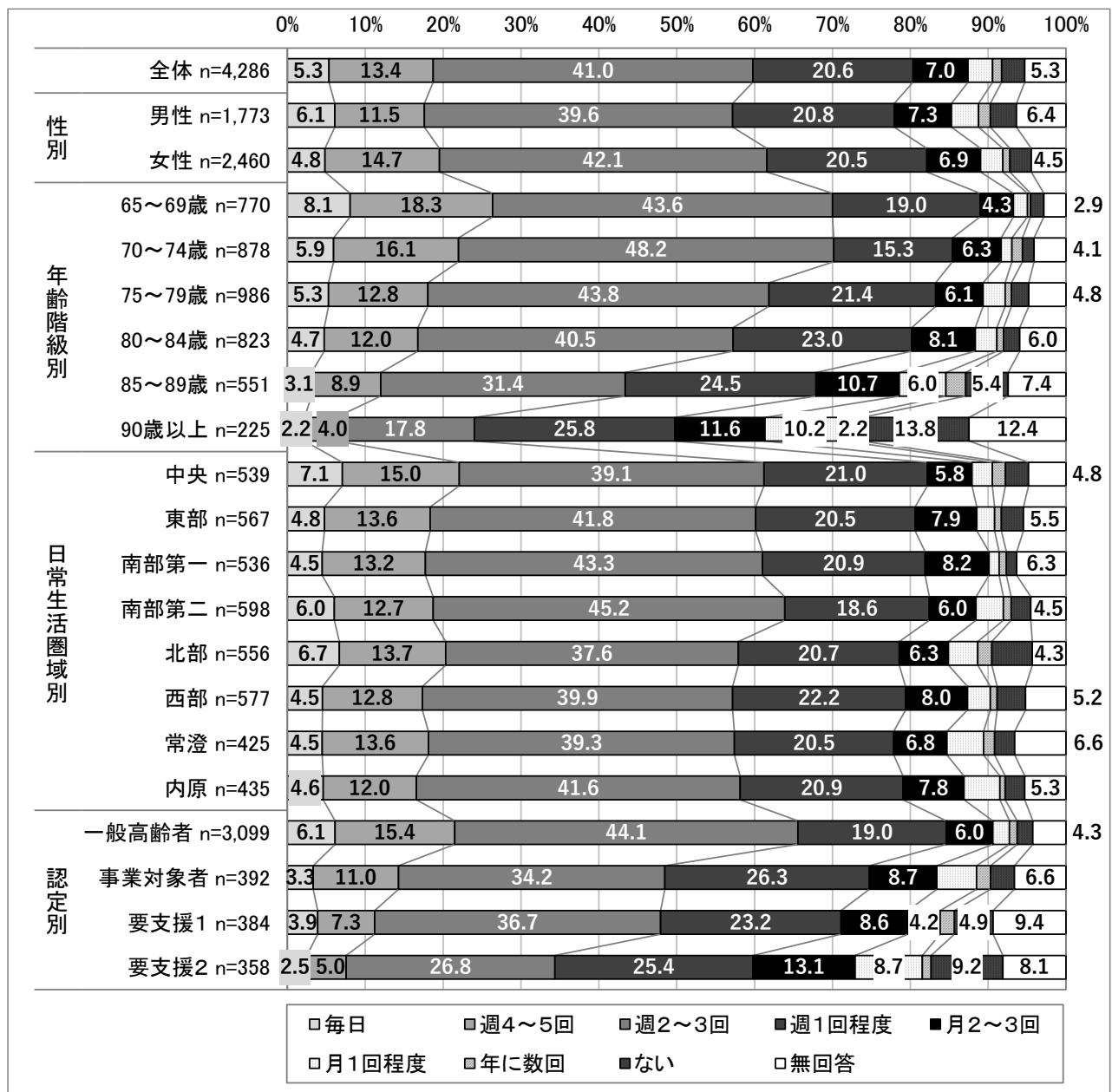
① 買い物

買い物の頻度については、全体では「週2～3回」が41.0%で最も高く、次いで「週1回程度」が20.6%、「週4～5回」が13.4%となっています。

性別でみると、「毎日」と「週4～5回」を合わせた『頻度が高い』は、男性が17.6%、女性が19.5%で、女性が男性を1.9ポイント上回っています。

年齢階級別でみると、『頻度が高い』は、65～69歳が26.4%で最も高く、次いで70～74歳が22.0%、75～79歳が18.1%となっています。

日常生活圏域別でみると、『頻度が高い』は、中央が22.1%で最も高く、次いで北部が20.4%、南部第二が18.7%となっています。



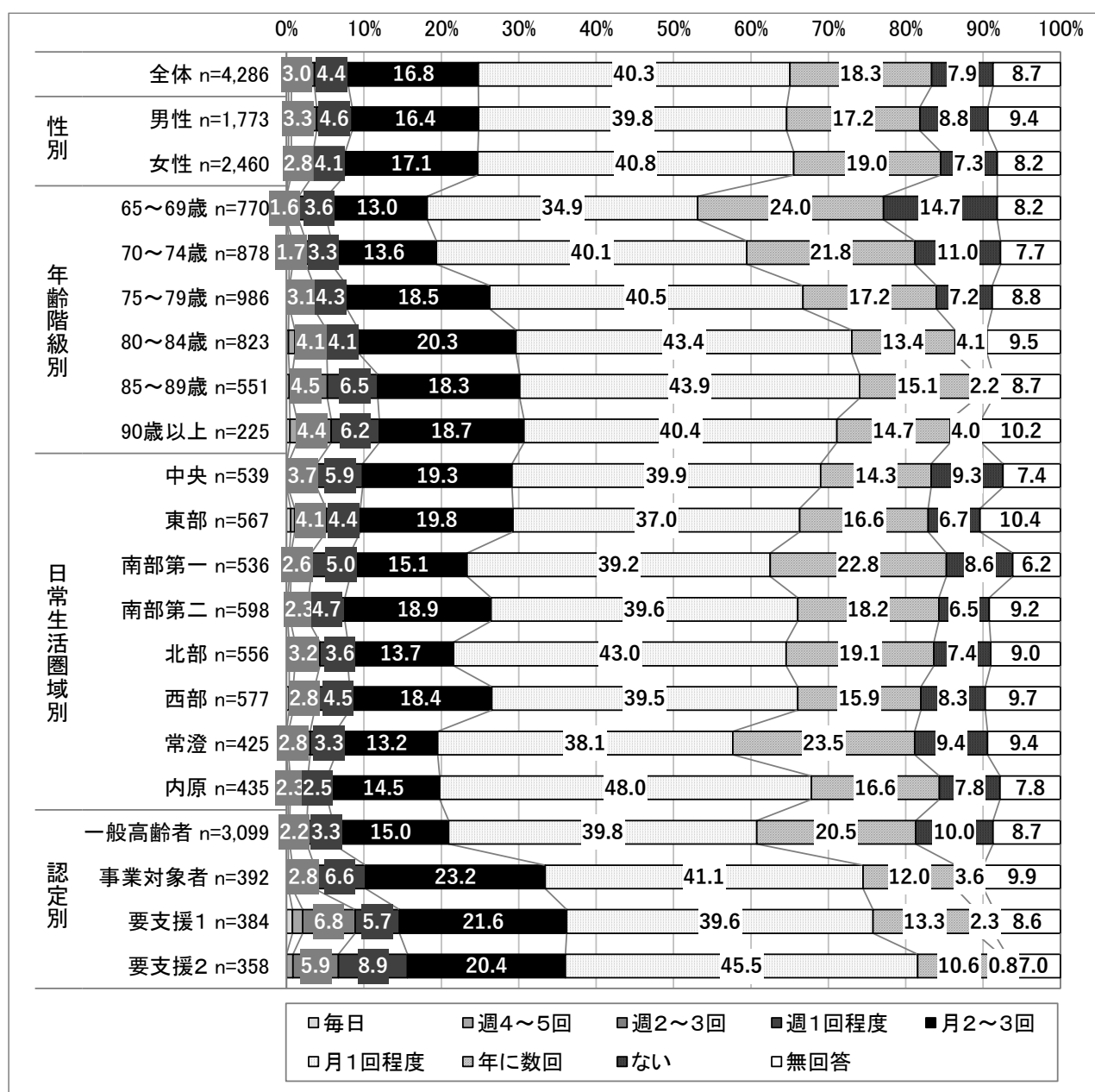
② 通院

通院の頻度については、全体では「月1回程度」が40.3%で最も高く、次いで「年に数回」が18.3%、「月2～3回」が16.8%となっています。

性別でみると、「ない」は、男性が8.8%、女性が7.3%で、男性が女性を1.5ポイント上回っています。

年齢階級別でみると、「ない」は、65～69歳が14.7%で最も高く、次いで70～74歳が11.0%、75～79歳が7.2%となっています。

日常生活圏域別でみると、「ない」は、常澄が9.4%で最も高く、次いで中央が9.3%、南部第一が8.6%となっています。



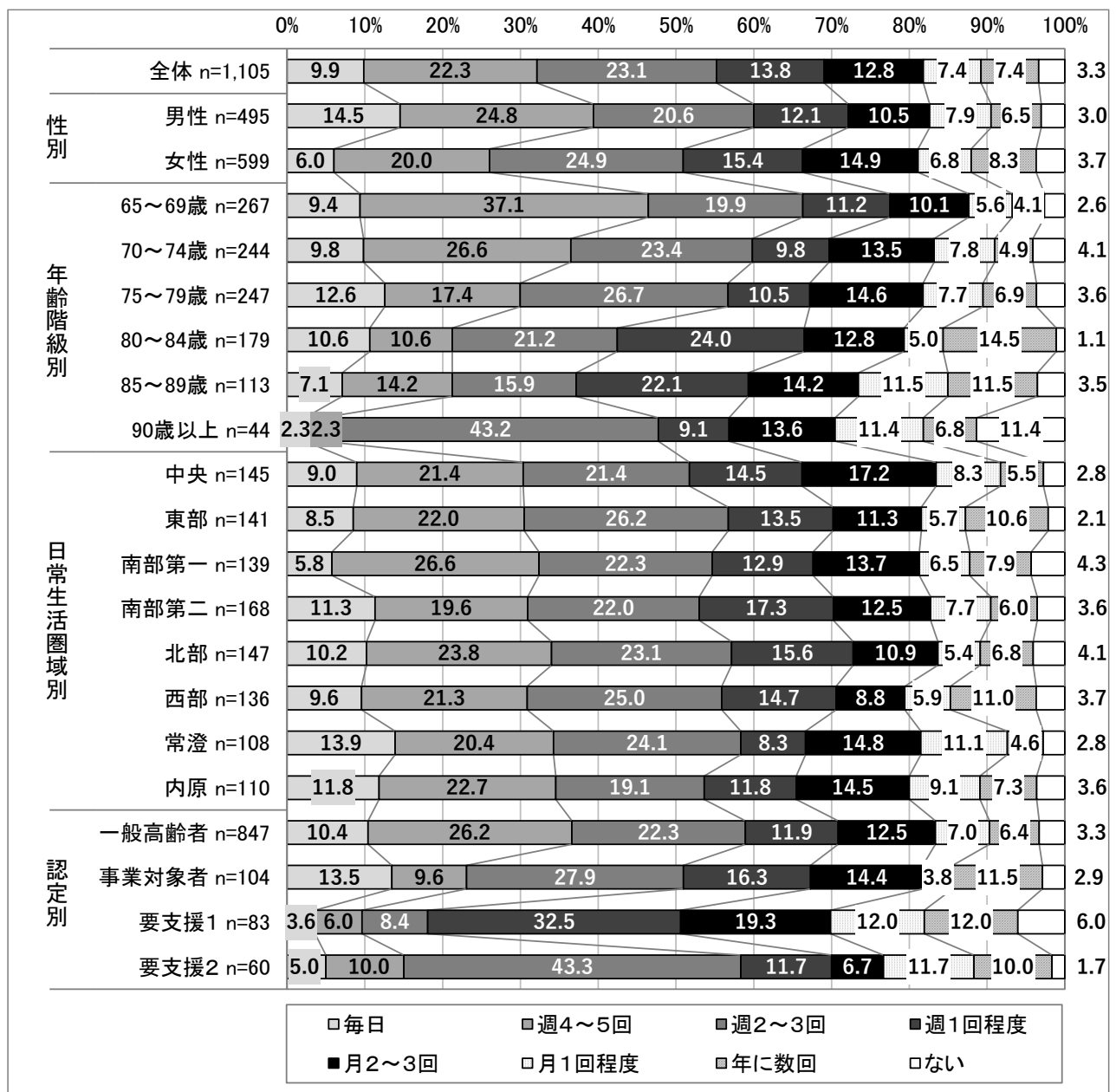
③ その他

その他については、全体では「週2～3回」が23.1%で最も高く、次いで「週4～5回」が22.3%、「週1回程度」が13.8%となっています。

性別でみると、「毎日」と「週4～5回」を合わせた『頻度が高い』は、男性が39.3%、女性が26.0%で、男性が女性を13.3ポイント上回っています。

年齢階級別でみると、『頻度が高い』は、65～69歳が46.5%で最も高く、次いで70～74歳が36.4%、75～79歳が30.0%となっています。

日常生活圏域別でみると、『頻度が高い』は、内原が34.5%で最も高く、次いで常澄が34.3%、北部が34.0%となっています。



3. 食べることについて

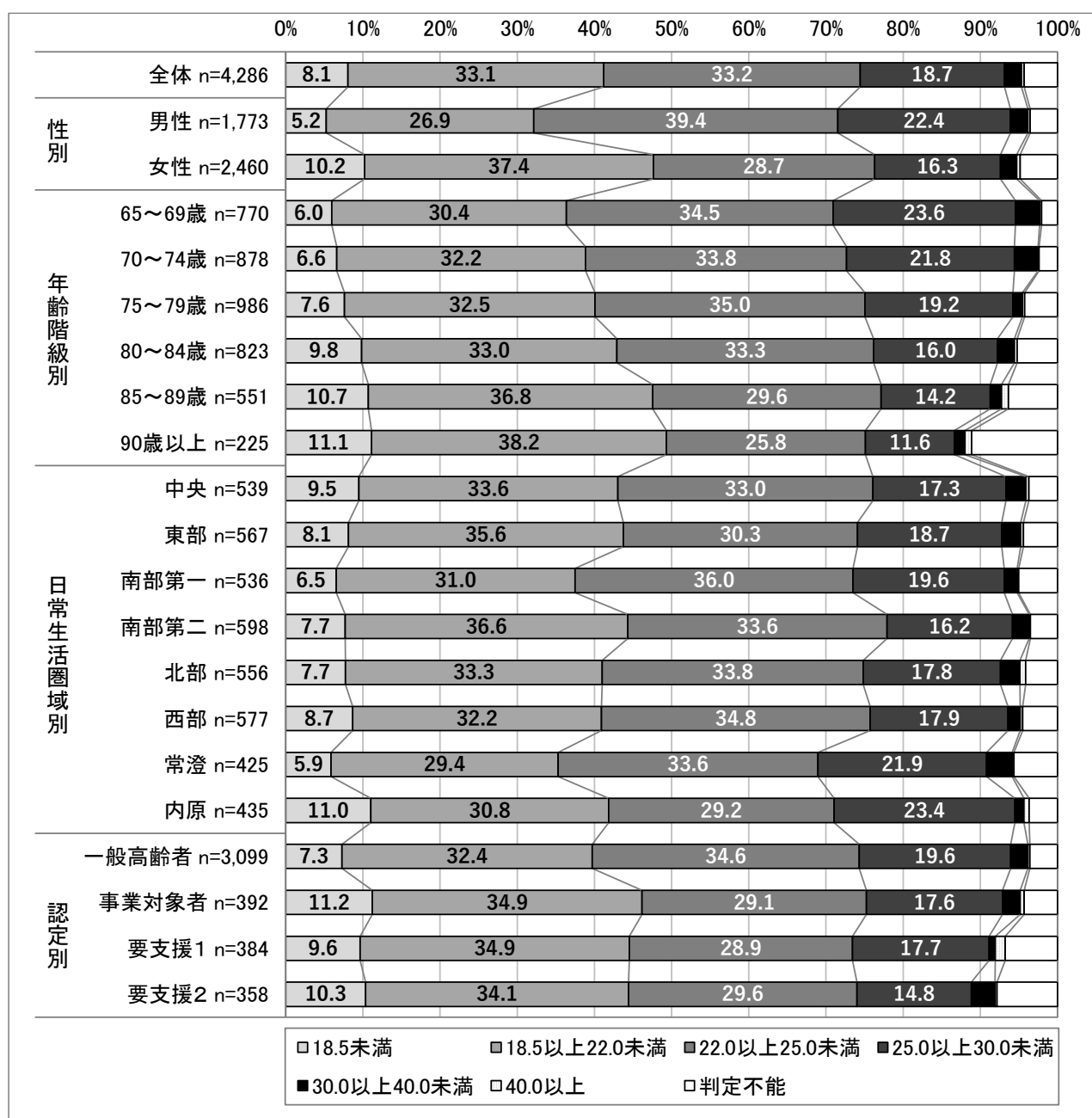
Q1. 身長・体重

身長・体重から算出されるBMIについてみると、全体では「22.0以上25.0未満」が33.2%で最も高く、次いで「18.5以上22.0未満」が33.1%、「25.0以上30.0未満」が18.7%となっています。

性別でみると、「18.5未満」は、男性が5.2%、女性が10.2%で、女性が男性を5.0ポイント上回っています。

年齢階級別でみると、「18.5未満」は、90歳以上が11.1%で最も高く、次いで85～89歳が10.7%、80～84歳が9.8%となっています。

日常生活圏域別でみると、「18.5未満」は、内原が11.0%で最も高く、次いで中央が9.5%、西部が8.7%となっています。



※BMI＝体重（kg）÷（身長（m）×身長（m））

18.5未満	18.5以上25.0未満	25.0以上30.0未満	30.0以上35.0未満	35.0以上40.0未満	40.0以上
低体重	普通体重	肥満1度	肥満2度	肥満3度	肥満4度

判定：日本肥満学会より

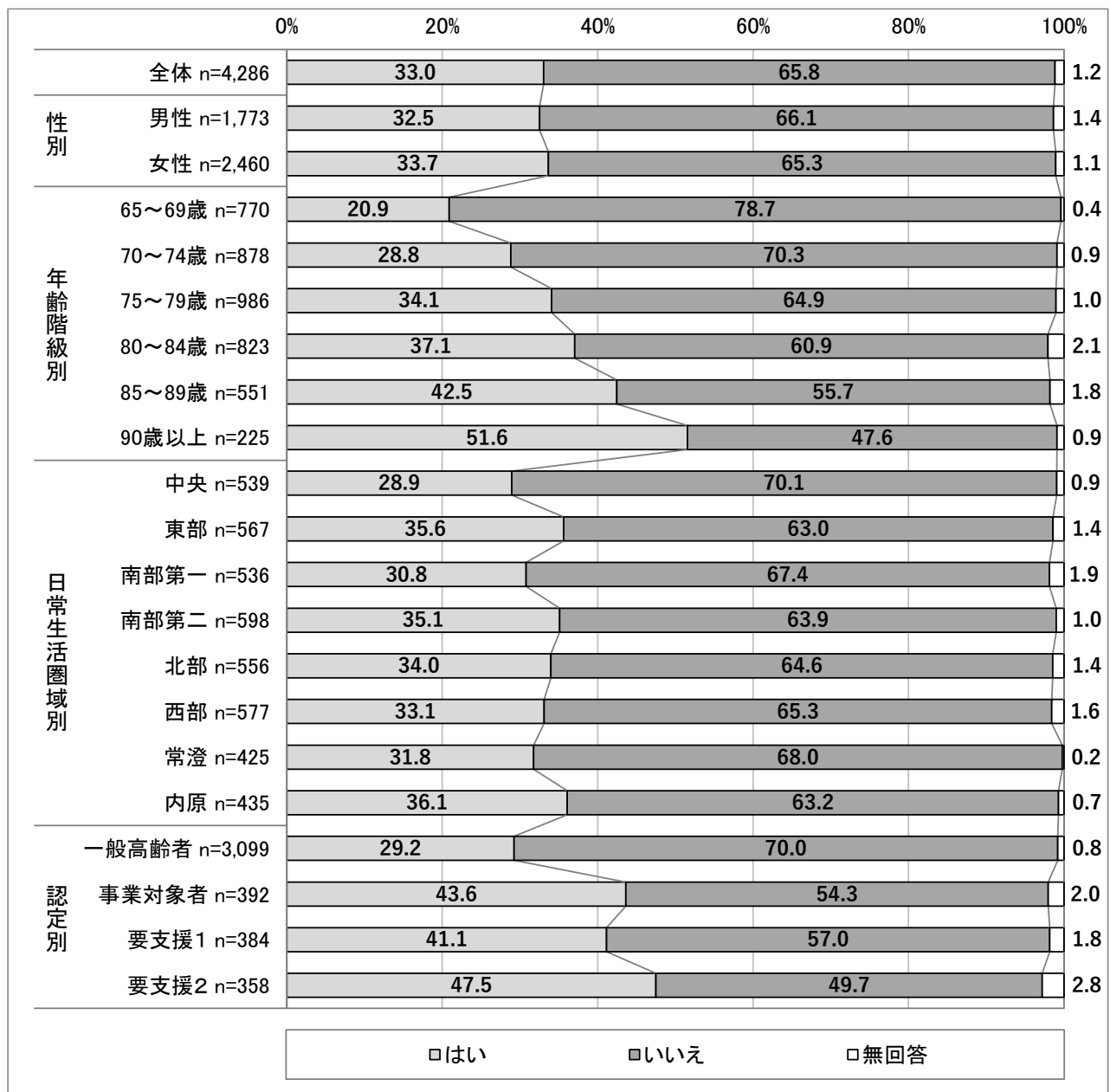
Q2. 半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか（1つのみ）

半年前に比べて固いものが食べにくくなったかについては、全体では「はい」が 33.0%、「いいえ」が 65.8%となっています。

性別でみると、「はい」は、男性が 32.5%、女性が 33.7%で、女性が男性を 1.2 ポイント上回っています。

年齢階級別でみると、「はい」は、90 歳以上が 51.6%で最も高く、次いで 85～89 歳が 42.5%、80～84 歳が 37.1%となっています。

日常生活圏域別でみると、「はい」は、内原が 36.1%で最も高く、次いで東部が 35.6%、南部第二が 35.1%となっています。



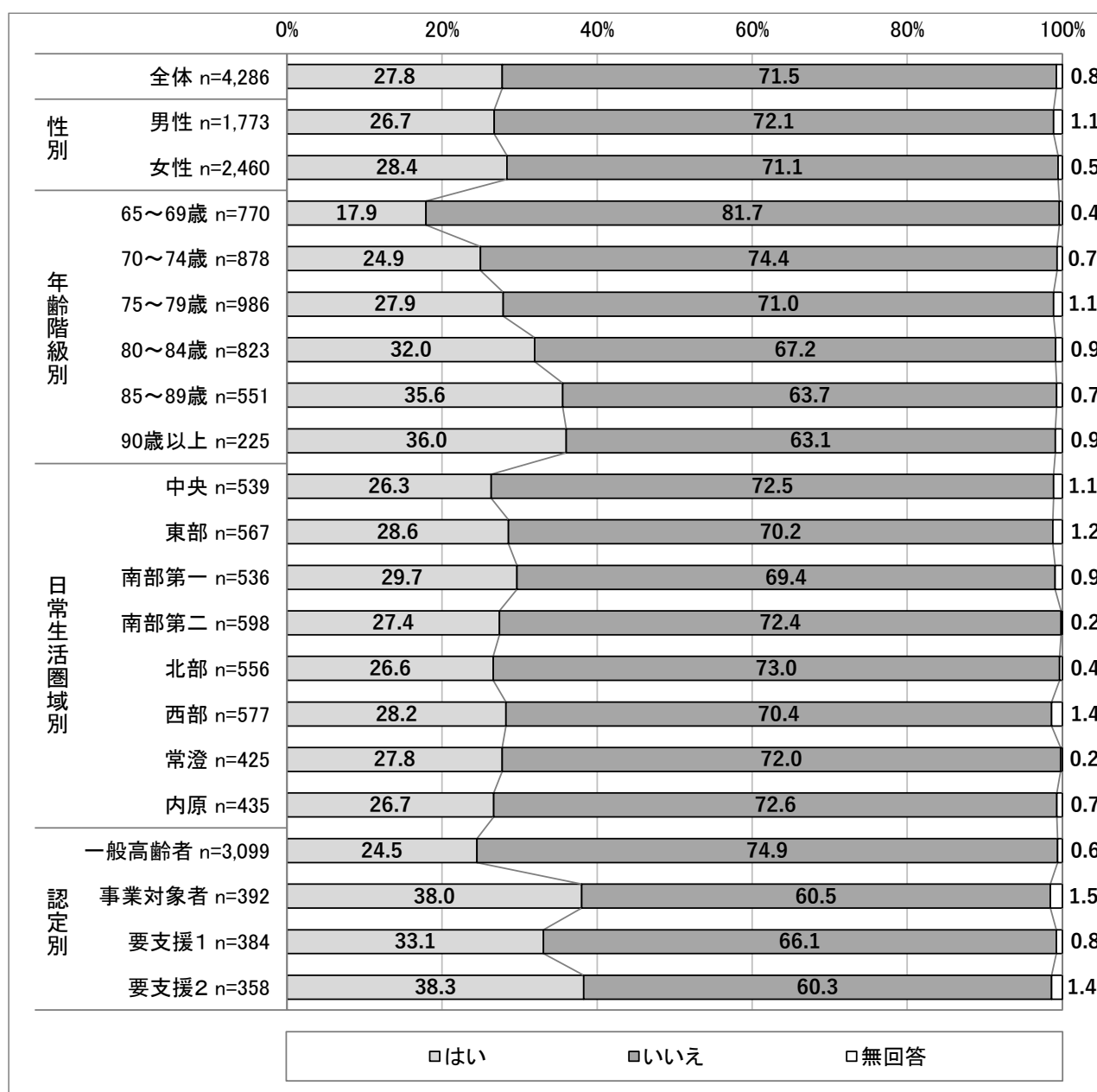
Q3. お茶や汁物等でむせることがありますか（1つのみ）

お茶や汁物等でむせることがあるかについては、全体では「はい」が27.8%、「いいえ」が71.5%となっています。

性別でみると、「はい」は、男性が26.7%、女性が28.4%で、女性が男性を1.7ポイント上回っています。

年齢階級別でみると、「はい」は、90歳以上が36.0%で最も高く、次いで85～89歳が35.6%、80～84歳が32.0%となっています。

日常生活圏域別でみると、「はい」は、南部第一が29.7%で最も高く、次いで東部が28.6%、西部が28.2%となっています。



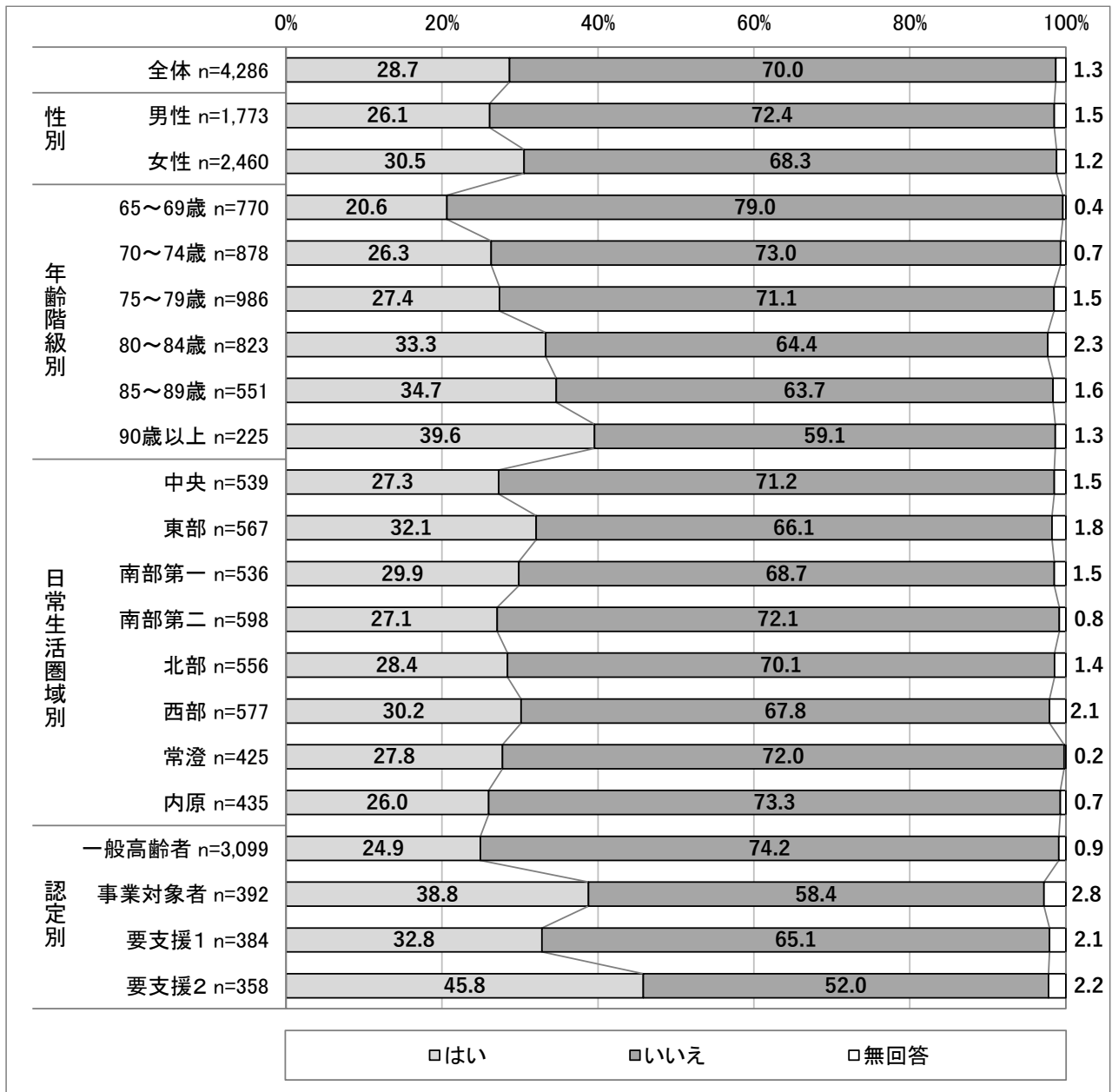
Q 4. 口の渇きが気になりますか（1つのみ）

口の渇きが気になるかについては、全体では「はい」が28.7%、「いいえ」が70.0%となっています。

性別でみると、「はい」は、男性が26.1%、女性が30.5%で、女性が男性を4.4ポイント上回っています。

年齢階級別でみると、「はい」は、90歳以上が39.6%で最も高く、次いで85～89歳が34.7%、80～84歳が33.3%となっています。

日常生活圏域別でみると、「はい」は、東部が32.1%で最も高く、次いで西部が30.2%、南部第一が29.9%となっています。



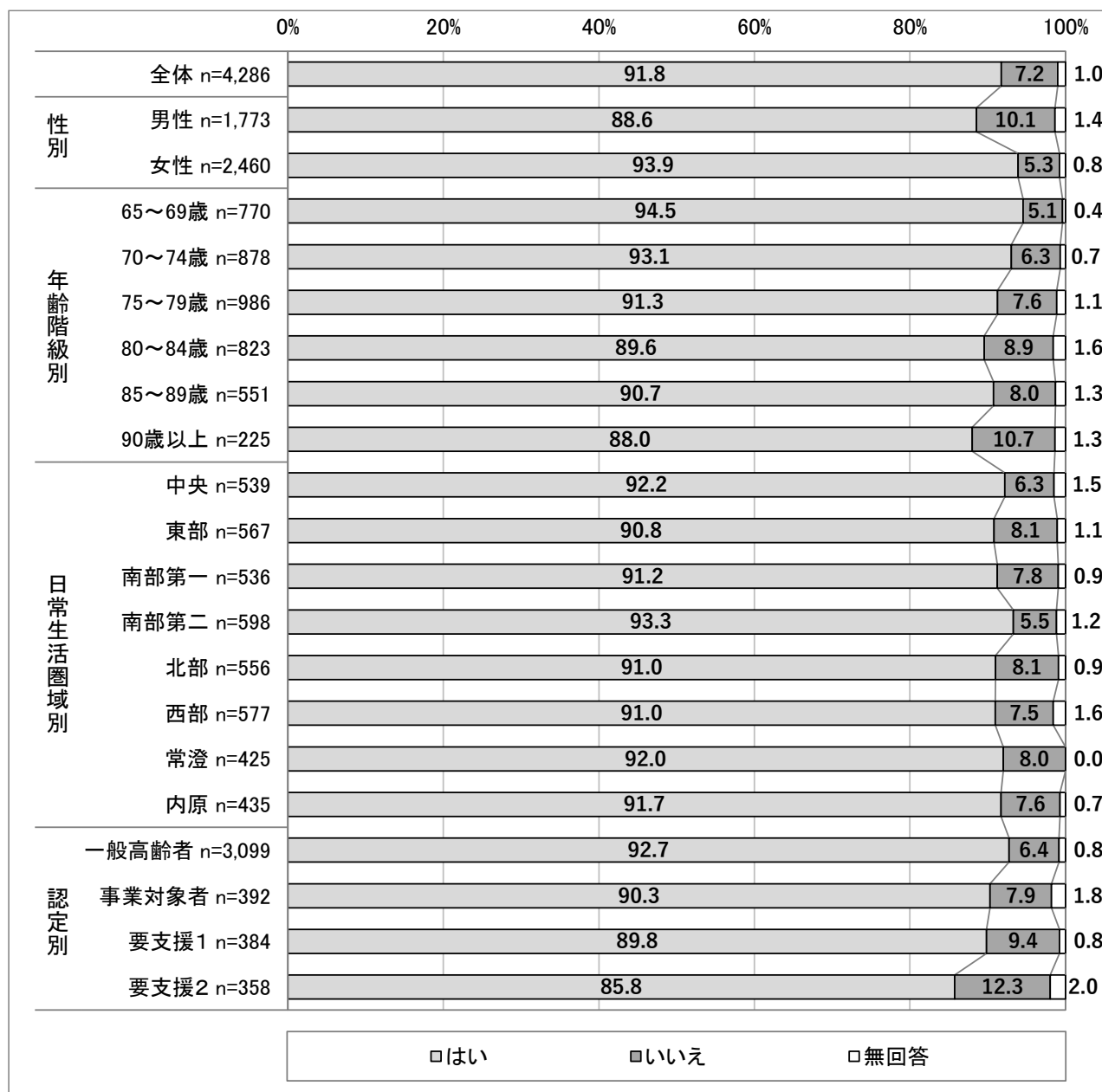
Q 5. 歯磨き（人にやってもらう場合も含む）を毎日していますか（1つのみ）

歯磨きを毎日しているかについては、全体では「はい」が91.8%、「いいえ」が7.2%となっています。

性別でみると、「いいえ」は、男性が10.1%、女性が5.3%で、男性が女性を4.8ポイント上回っています。

年齢階級別でみると、「いいえ」は、90歳以上が10.7%で最も高く、次いで80～84歳が8.9%、85～89歳が8.0%となっています。

日常生活圏域別でみると、「いいえ」は、東部、北部がともに8.1%で最も高く、次いで常澄が8.0%、南部第一が7.8%となっています。



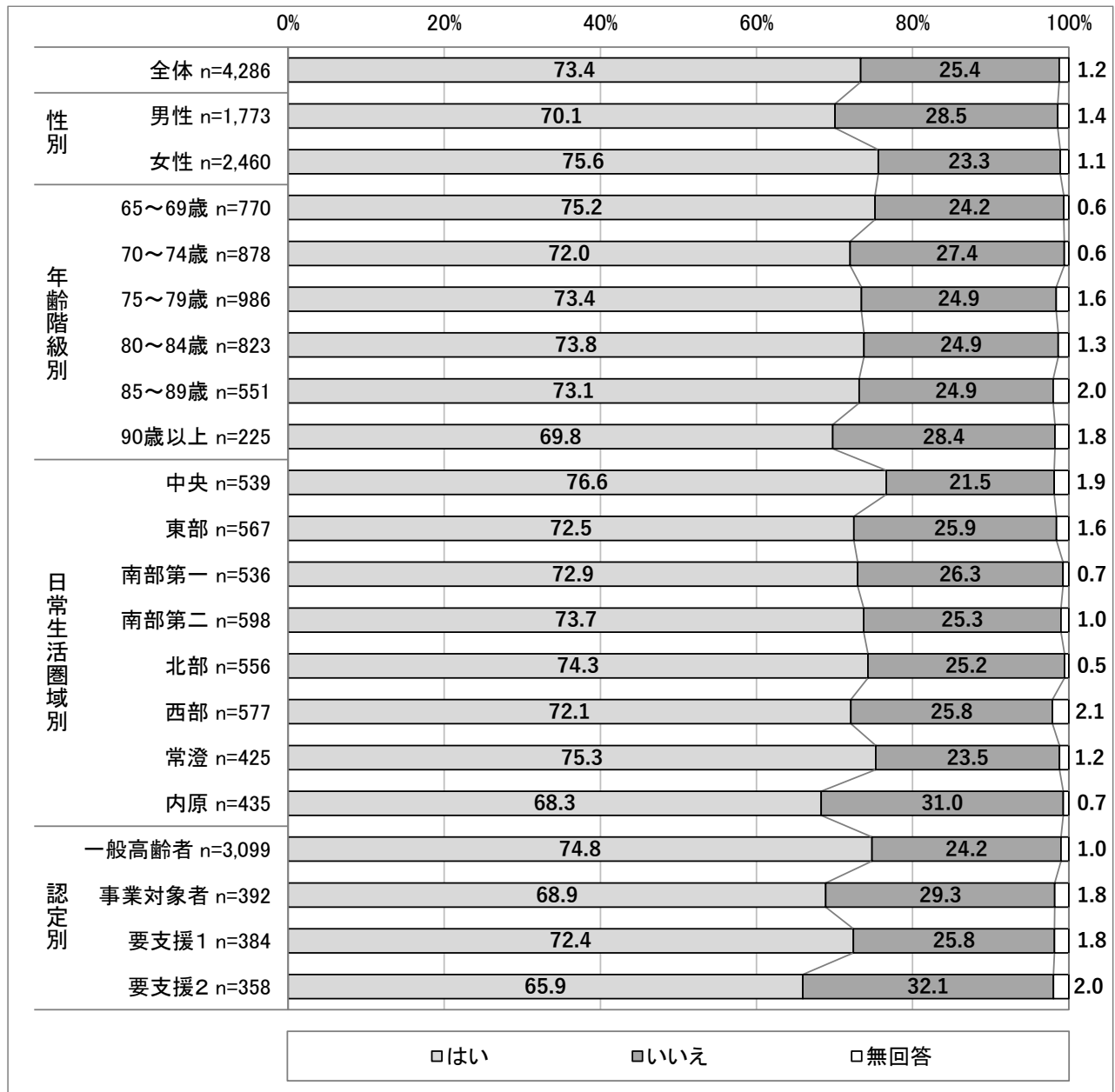
Q 6. 噛み合わせは良いですか（1つのみ）

噛み合わせは良いかについては、全体では「はい」が73.4%、「いいえ」が25.4%となっています。

性別でみると、「いいえ」は、男性が28.5%、女性が23.3%で、男性が女性を5.2ポイント上回っています。

年齢階級別でみると、「いいえ」は、90歳以上が28.4%で最も高く、次いで70～74歳が27.4%、75～79歳、80～84歳、85～89歳がともに24.9%となっています。

日常生活圏域別でみると、「いいえ」は、内原が31.0%で最も高く、次いで南部第一が26.3%、東部が25.9%となっています。



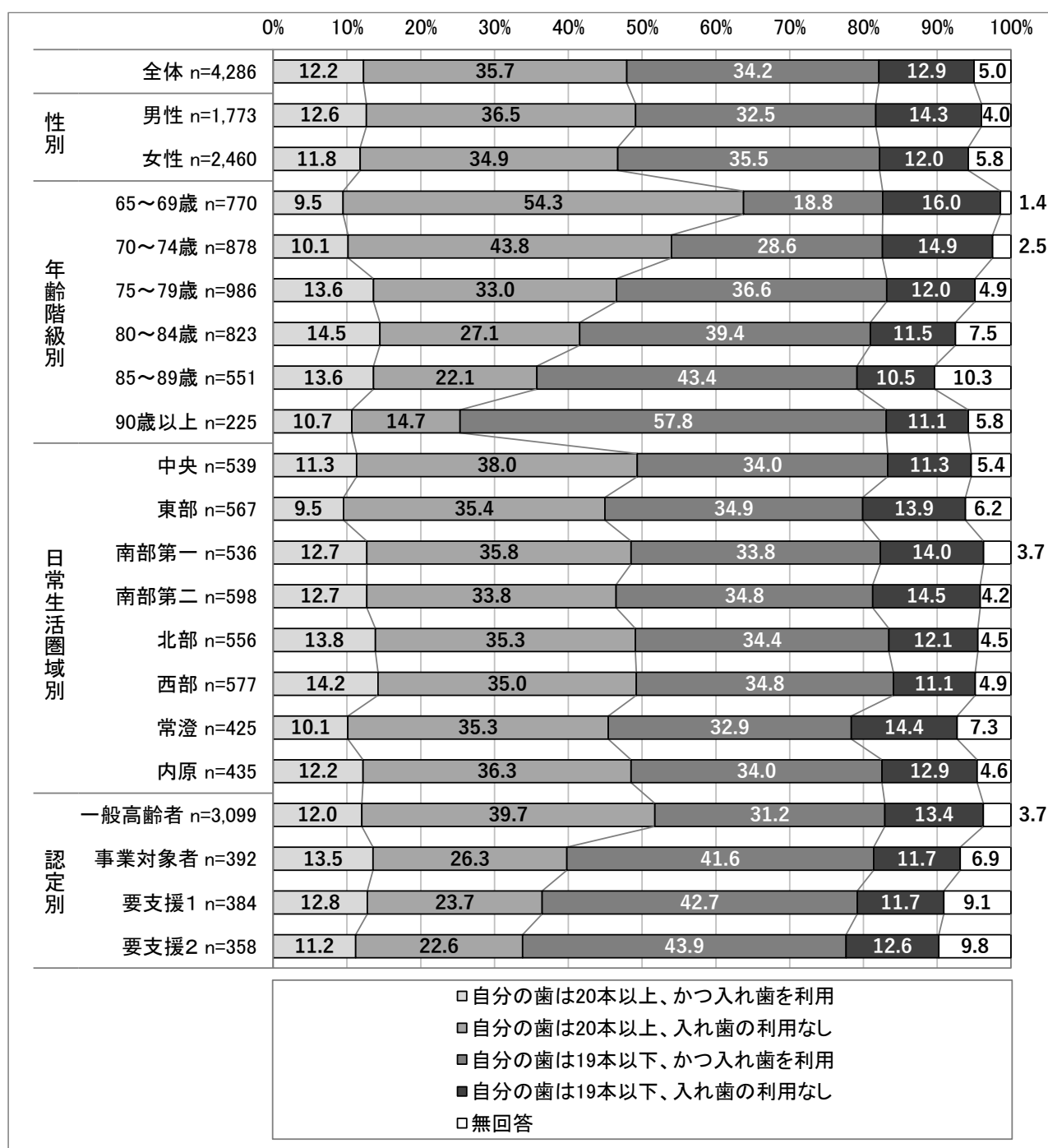
Q 7. 歯の数と入れ歯の利用状況をお教えてください。(1つのみ)

歯の数と入れ歯の利用状況については、全体では「自分の歯は 20 本以上、入れ歯の利用なし」が 35.7%で最も高く、次いで「自分の歯は 19 本以下、かつ入れ歯を利用」が 34.2%、「自分の歯は 19 本以下、入れ歯の利用なし」が 12.9%、「自分の歯は 20 本以上、かつ入れ歯を利用」が 12.2%となっています。

性別でみると、「自分の歯は 19 本以下、かつ入れ歯を利用」と「自分の歯は 19 本以下、入れ歯の利用なし」を合わせた『19 本以下』は、男性が 46.8%、女性が 47.5%で、女性が男性を 0.7 ポイント上回っています。

年齢階級別でみると、『19 本以下』は、90 歳以上が 68.9%で最も高く、次いで 85～89 歳が 53.9%、80～84 歳が 50.9%となっています。

日常生活圏域別でみると、『19 本以下』は、南部第二が 49.3%で最も高く、次いで東部が 48.8%、南部第一が 47.8%となっています。



【Q7で「自分の歯は20本以上、かつ入れ歯を利用」「自分の歯は19本以下、かつ入れ歯を利用」の方のみ】

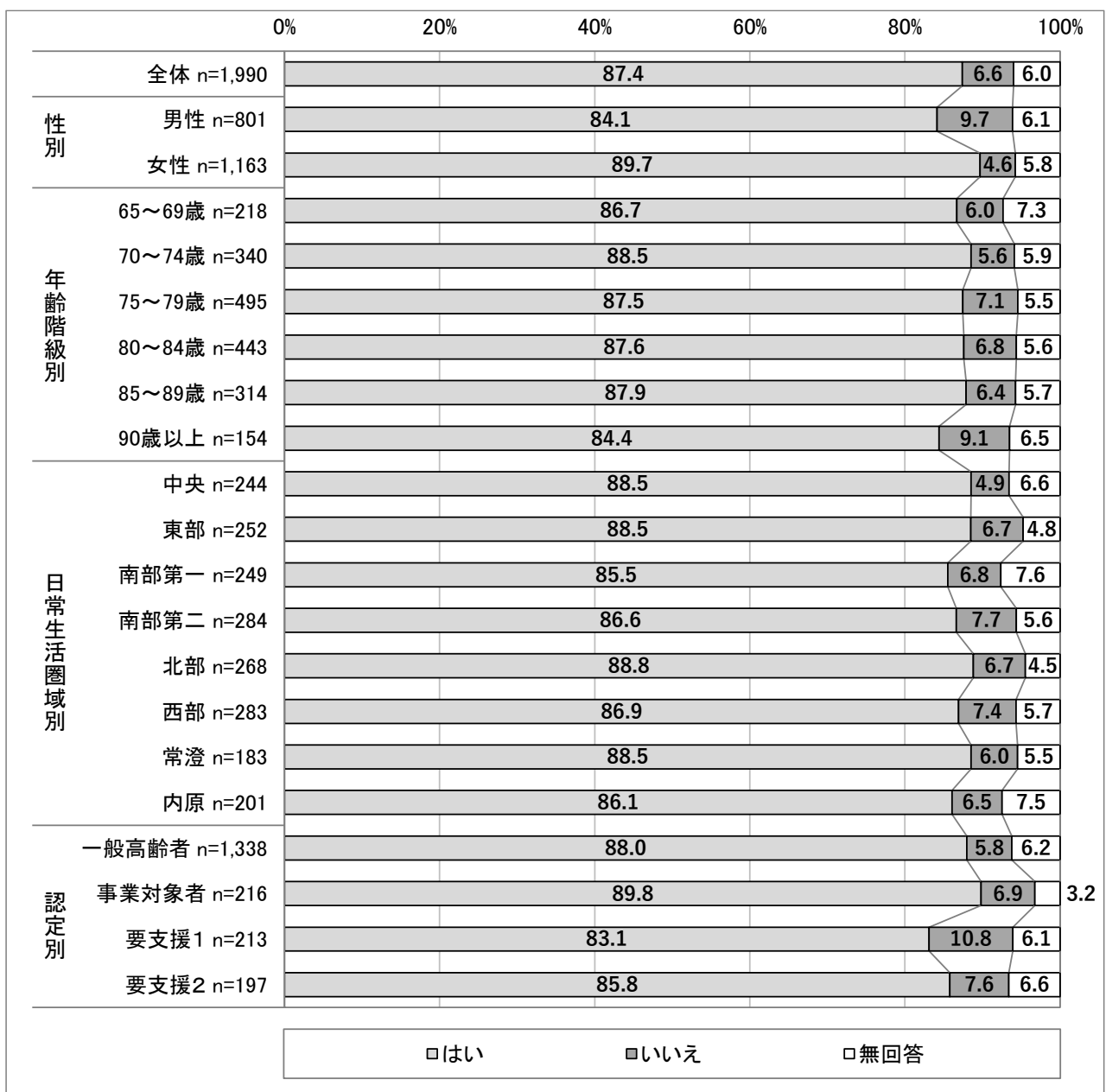
Q7-①. 毎日入れ歯の手入れをしていますか（1つのみ）

毎日入れ歯の手入れをしているかについては、全体では「はい」が87.4%、「いいえ」が6.6%となっています。

性別でみると、「いいえ」は、男性が9.7%、女性が4.6%で、男性が女性を5.1ポイント上回っています。

年齢階級別でみると、「いいえ」は、90歳以上が9.1%で最も高く、次いで75～79歳が7.1%、80～84歳が6.8%となっています。

日常生活圏域別でみると、「いいえ」は、南部第二が7.7%で最も高く、次いで西部が7.4%、南部第一が6.8%となっています。



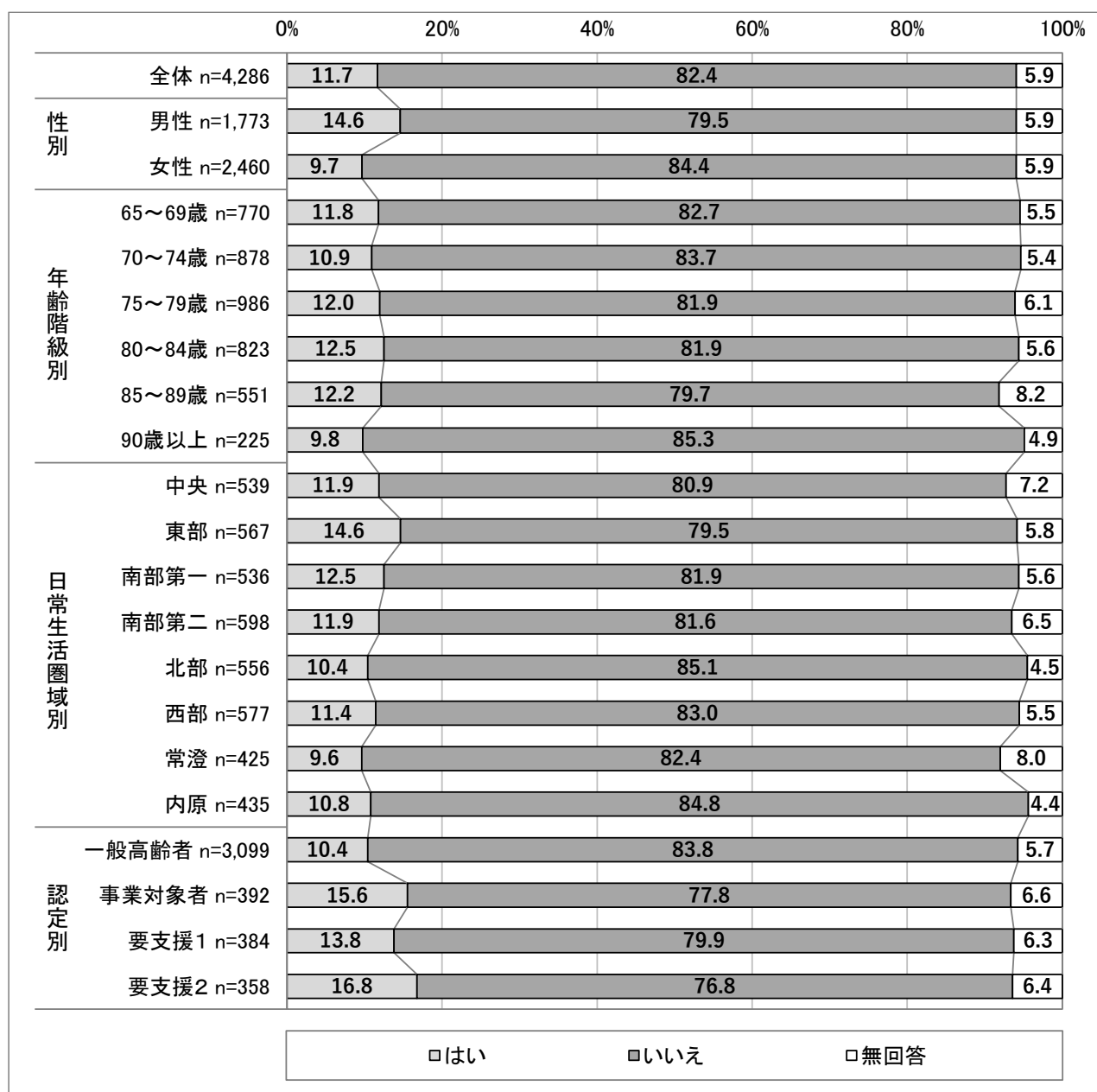
Q 8. 6 か月間で 2 ～ 3 kg 以上の体重減少がありましたか（1 つのみ）

6 か月間で 2 ～ 3 kg 以上の体重減少があったかについては、全体では「はい」が 11.7%、「いいえ」が 82.4%となっています。

性別でみると、「はい」は、男性が 14.6%、女性が 9.7%で、男性が女性を 4.9 ポイント上回っています。

年齢階級別でみると、「はい」は、80～84 歳が 12.5%で最も高く、次いで 85～89 歳が 12.2%、75～79 歳が 12.0%となっています。

日常生活圏域別でみると、「はい」は、東部が 14.6%で最も高く、次いで南部第一が 12.5%、中央、南部第二がともに 11.9%となっています。



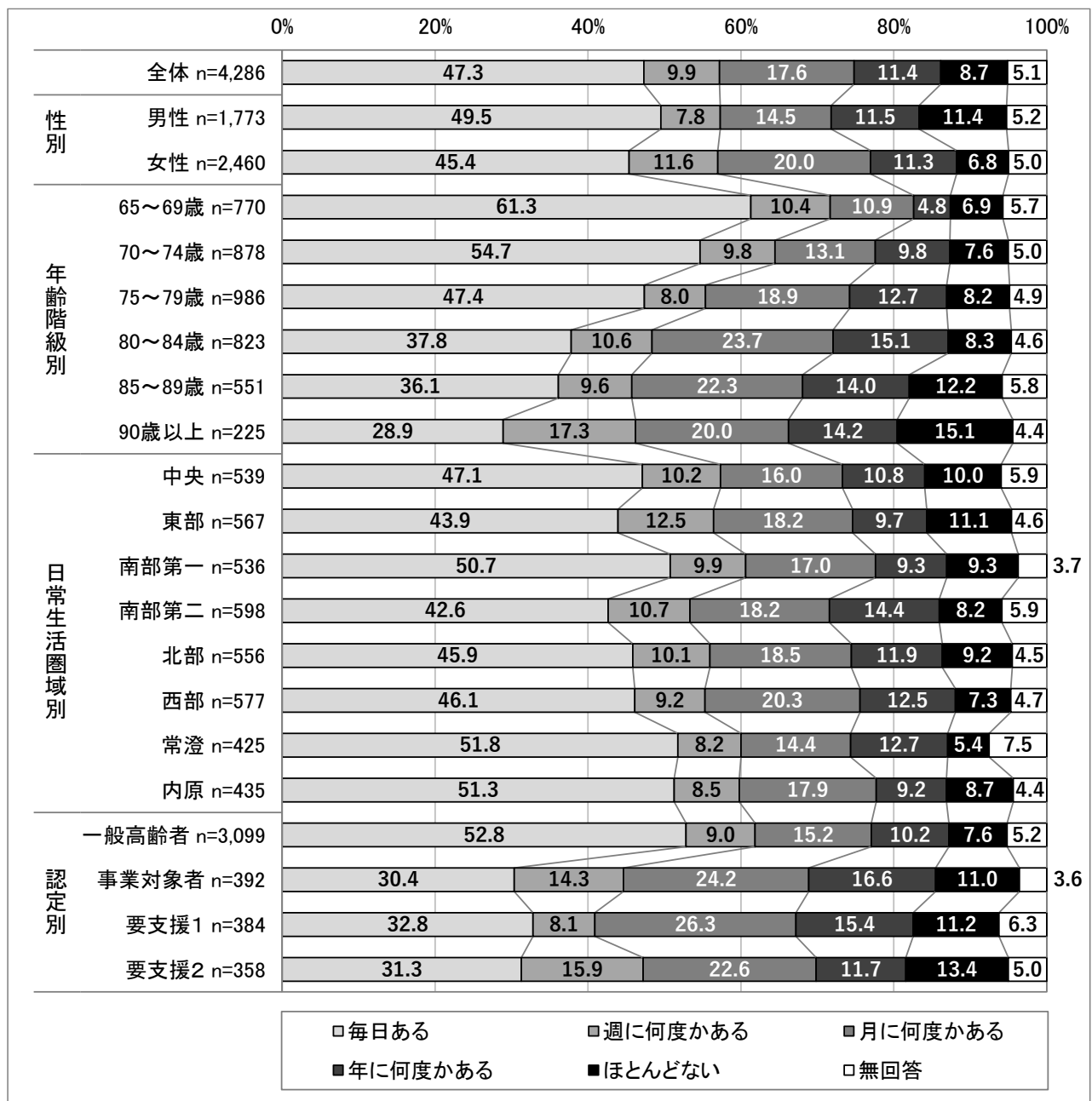
Q9. どなたかと食事をとにもする機会がありますか（1つのみ）

誰かと食事をとにもする機会については、全体では「毎日ある」が47.3%で最も高く、次いで「月に何度かある」が17.6%、「年に何度かある」が11.4%となっています。

性別でみると、「年に何度かある」と「ほとんどない」を合わせた『あまりない』は、男性が22.9%、女性が18.1%で、男性が女性を4.8ポイント上回っています。

年齢階級別でみると、『あまりない』は、90歳以上が29.3%で最も高く、次いで85～89歳が26.2%、80～84歳が23.4%となっています。

日常生活圏域別でみると、『あまりない』は、南部第二が22.6%で最も高く、次いで北部が21.1%、中央、東部がともに20.8%となっています。



4. 毎日の生活について

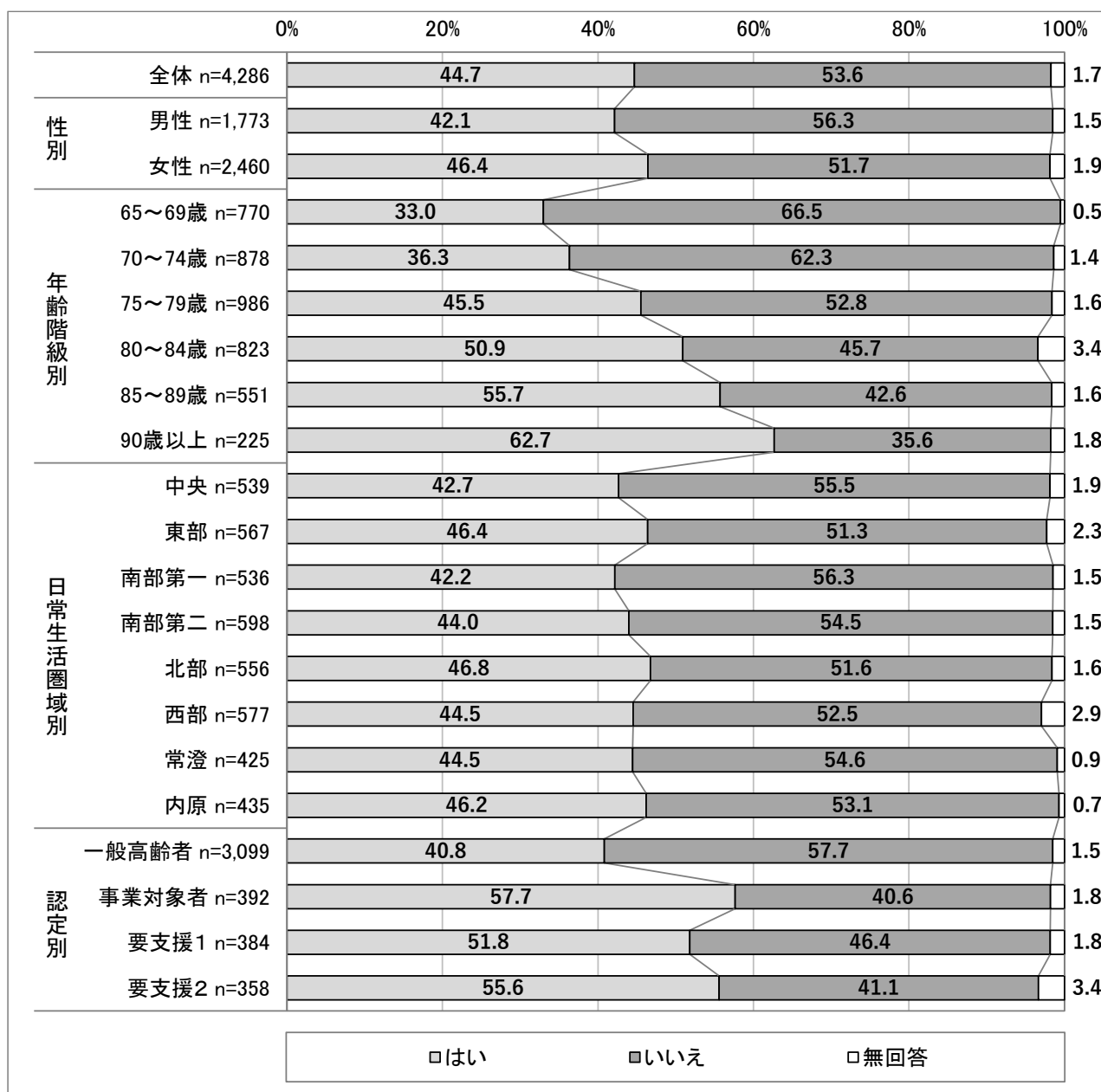
Q 1. 物忘れが多いと感じますか（1つのみ）

物忘れが多いと感じるかについては、全体では「はい」が44.7%、「いいえ」が53.6%となっています。

性別でみると、「はい」は、男性が42.1%、女性が46.4%で、女性が男性を4.3ポイント上回っています。

年齢階級別でみると、「はい」は、90歳以上が62.7%で最も高く、次いで85～89歳が55.7%、80～84歳が50.9%となっています。

日常生活圏域別でみると、「はい」は、北部が46.8%で最も高く、次いで東部が46.4%、内原が46.2%となっています。



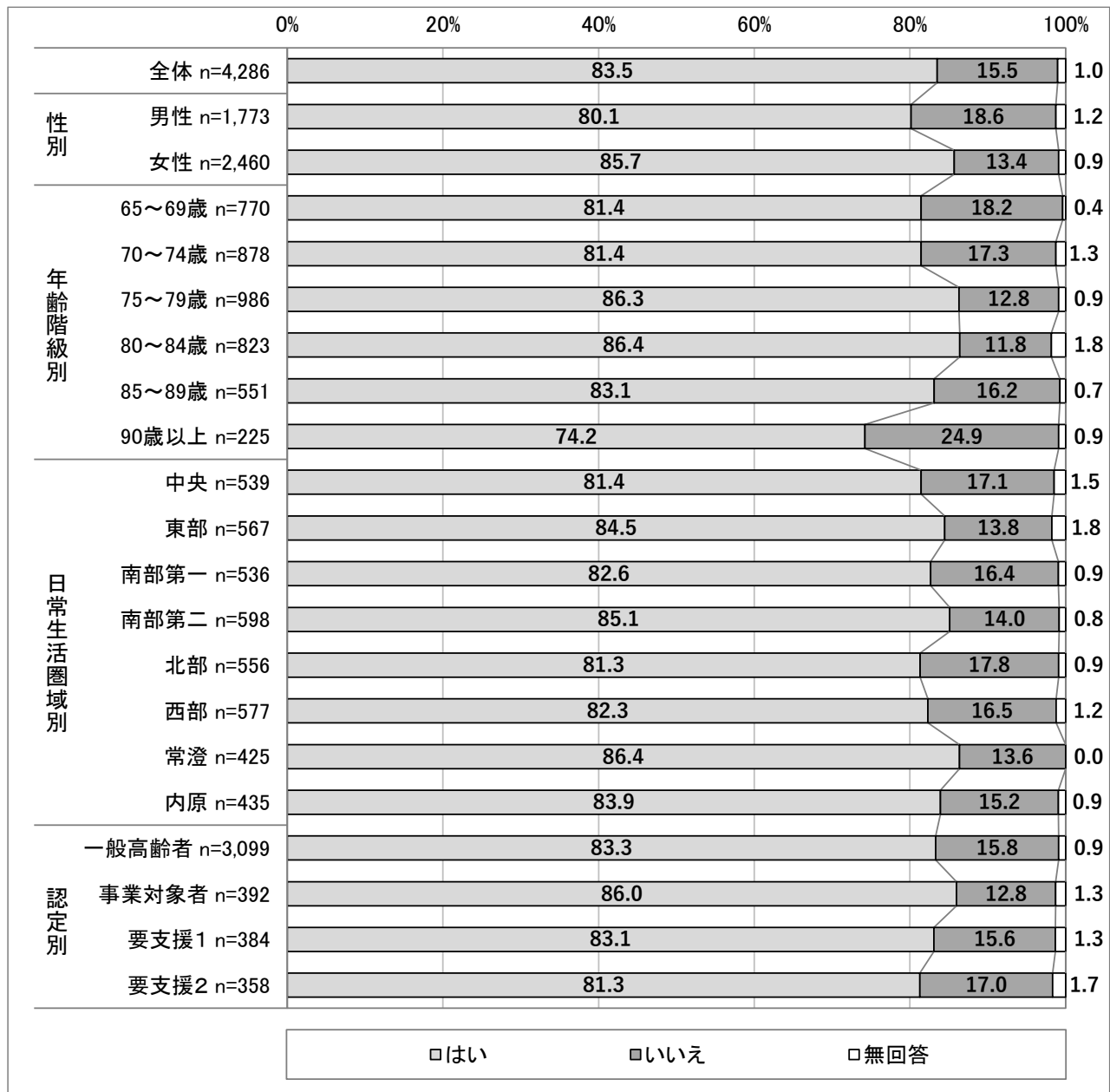
Q2. 自分で電話番号を調べて、電話をかけることをしていますか（1つのみ）

自分で電話番号を調べて、電話をかけることをしているかについては、全体では「はい」が83.5%、「いいえ」が15.5%となっています。

性別でみると、「いいえ」は、男性が18.6%、女性が13.4%で、男性が女性を5.2ポイント上回っています。

年齢階級別でみると、「いいえ」は、90歳以上が24.9%で最も高く、次いで65～69歳が18.2%、70～74歳が17.3%となっています。

日常生活圏域別でみると、「いいえ」は、北部が17.8%で最も高く、次いで中央が17.1%、西部が16.5%となっています。



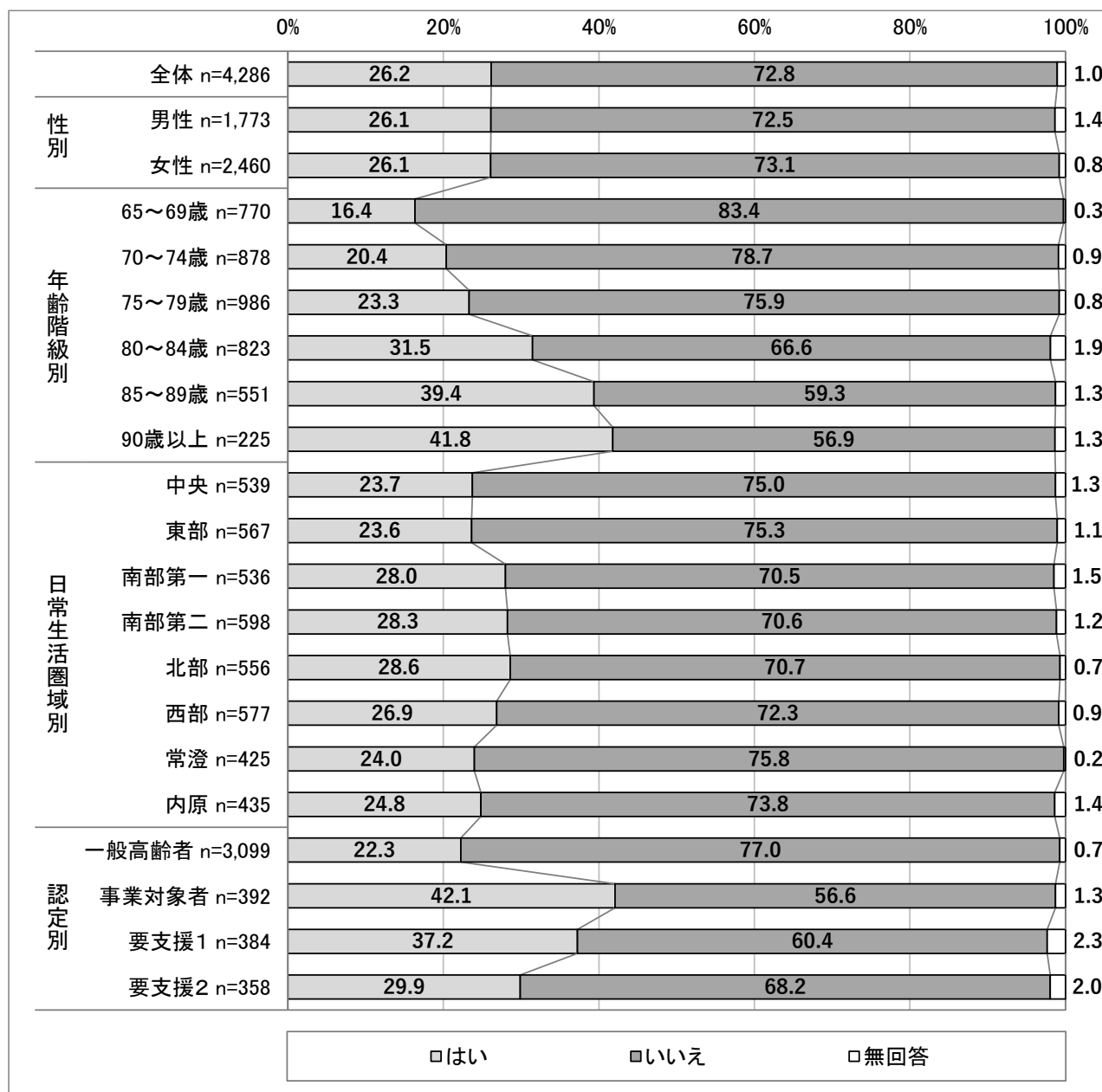
Q3. 今日が何月何日かわからないときがありますか（1つのみ）

今日が何月何日かわからないときがあるかについては、全体では「はい」が 26.2%、「いいえ」が 72.8%となっています。

性別でみると、「はい」に、差異はみられません。

年齢階級別でみると、「はい」は、90歳以上が 41.8%で最も高く、次いで 85～89歳が 39.4%、80～84歳が 31.5%となっています。

日常生活圏域別でみると、「はい」は、北部が 28.6%で最も高く、次いで南部第二が 28.3%、南部第一が 28.0%となっています。



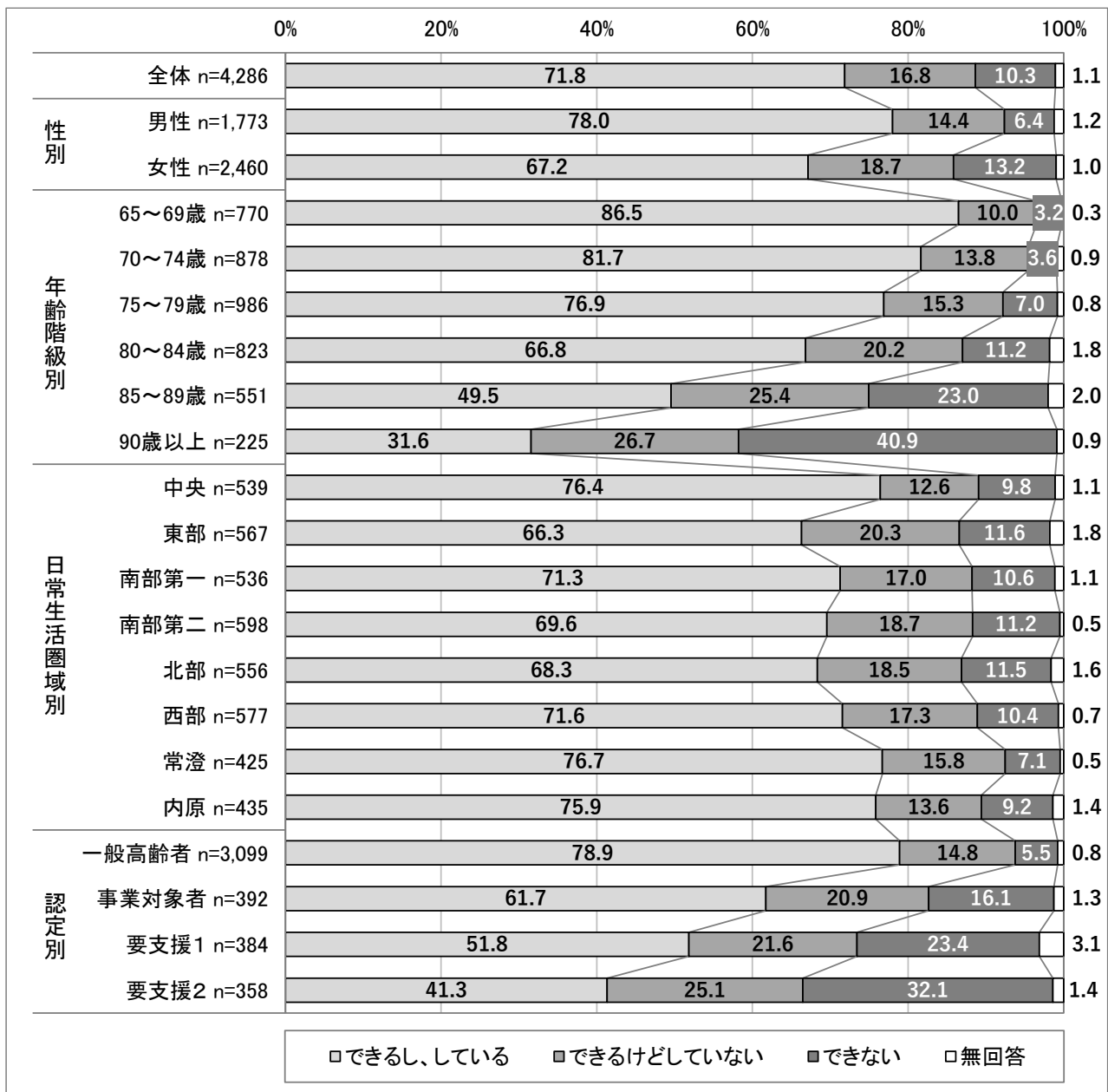
Q 4. バスや電車を使って1人で外出していますか（自家用車でも可）（1つのみ）

バスや電車を使って1人で外出しているかについては、全体では「できるし、している」が71.8%で最も高く、次いで「できるけどしていない」が16.8%、「できない」が10.3%となっています。

性別でみると、「できるけどしていない」と「できない」を合わせた『していない』は、男性が20.8%、女性が31.9%で、女性が男性を11.1ポイント上回っています。

年齢階級別でみると、『していない』は、90歳以上が67.6%で最も高く、次いで85～89歳が48.4%、80～84歳が31.4%となっています。

日常生活圏域別でみると、『していない』は、東部が31.9%で最も高く、次いで北部が30.0%、南部第二が29.9%となっています。



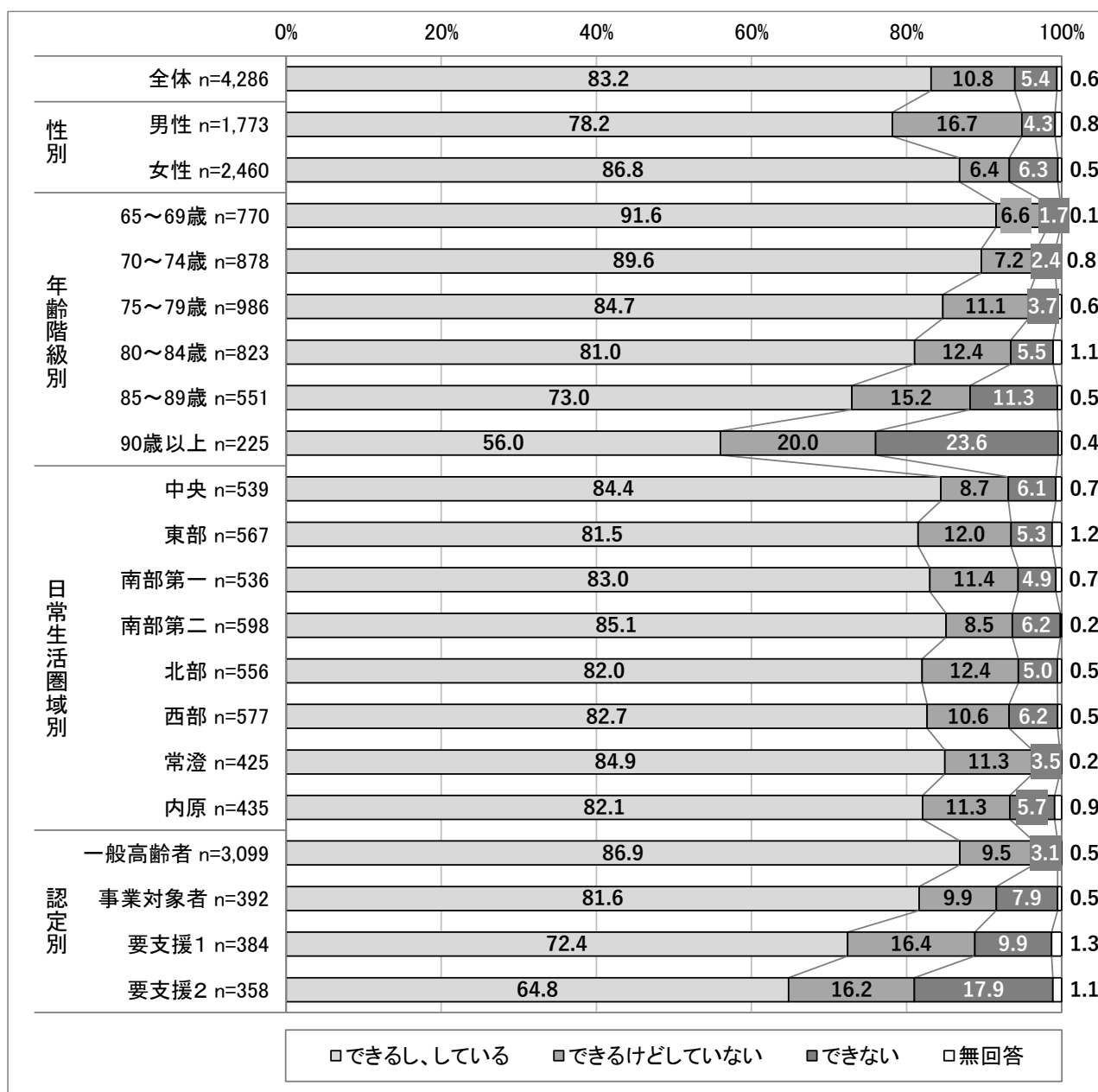
Q5. 自分で食品・日用品の買い物をしていますか（1つのみ）

自分で食品・日用品の買い物をしているかについては、全体では「できるし、している」が83.2%で最も高く、次いで「できるけどしていない」が10.8%、「できない」が5.4%となっています。

性別でみると、「できるけどしていない」と「できない」を合わせた『していない』は、男性が21.0%、女性が12.7%で、男性が女性を8.3ポイント上回っています。

年齢階級別でみると、『していない』は、90歳以上が43.6%で最も高く、次いで85～89歳が26.5%、80～84歳が17.9%となっています。

日常生活圏域別でみると、『していない』は、北部が17.4%で最も高く、次いで東部が17.3%、内原が17.0%となっています。



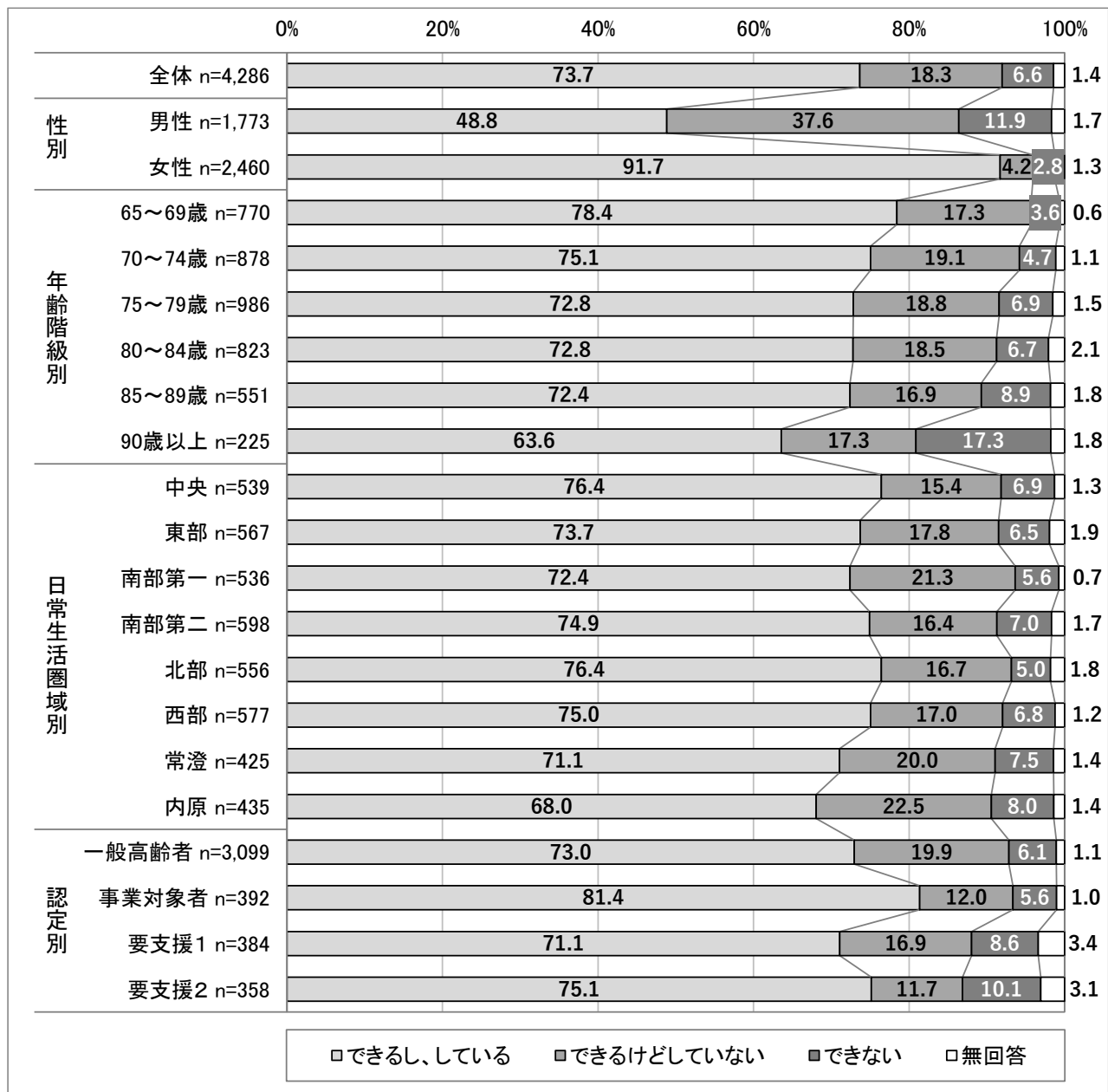
Q 6. 自分で食事の用意をしていますか（1つのみ）

自分で食事の用意をしているかについては、全体では「できるし、している」が73.7%で最も高く、次いで「できるけどしていない」が18.3%、「できない」が6.6%となっています。

性別でみると、「できるけどしていない」と「できない」を合わせた『していない』は、男性が49.5%、女性が7.0%で、男性が女性を42.5ポイント上回っています。

年齢階級別でみると、『していない』は、90歳以上が34.6%で最も高く、次いで85～89歳が25.8%、75～79歳が25.7%となっています。

日常生活圏域別でみると、『していない』は、内原が30.5%で最も高く、次いで常澄が27.5%、南部第一が26.9%となっています。



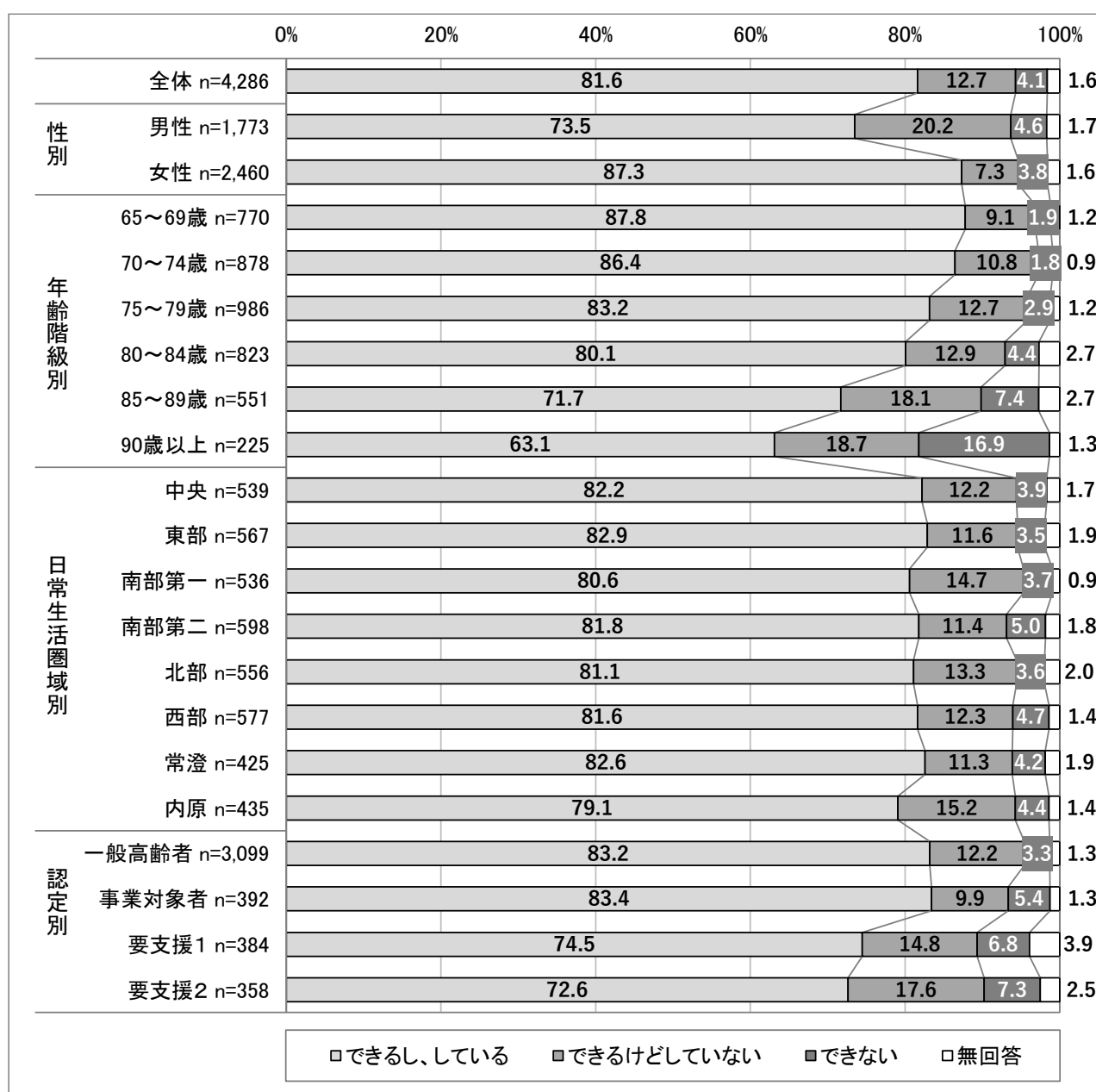
Q 7. 自分で請求書の支払いをしていますか（1つのみ）

自分で請求書の支払いをしているかについては、全体では「できるし、している」が 81.6%で最も高く、次いで「できるけどしていない」が 12.7%、「できない」が 4.1%となっています。

性別でみると、「できるけどしていない」と「できない」を合わせた『していない』は、男性が 24.8%、女性が 11.1%で、男性が女性を 13.7 ポイント上回っています。

年齢階級別でみると、『していない』は、90 歳以上が 35.6%で最も高く、次いで 85～89 歳が 25.5%、80～84 歳が 17.3%となっています。

日常生活圏域別でみると、『していない』は、内原が 19.6%で最も高く、次いで南部第一が 18.4%、西部が 17.0%となっています。



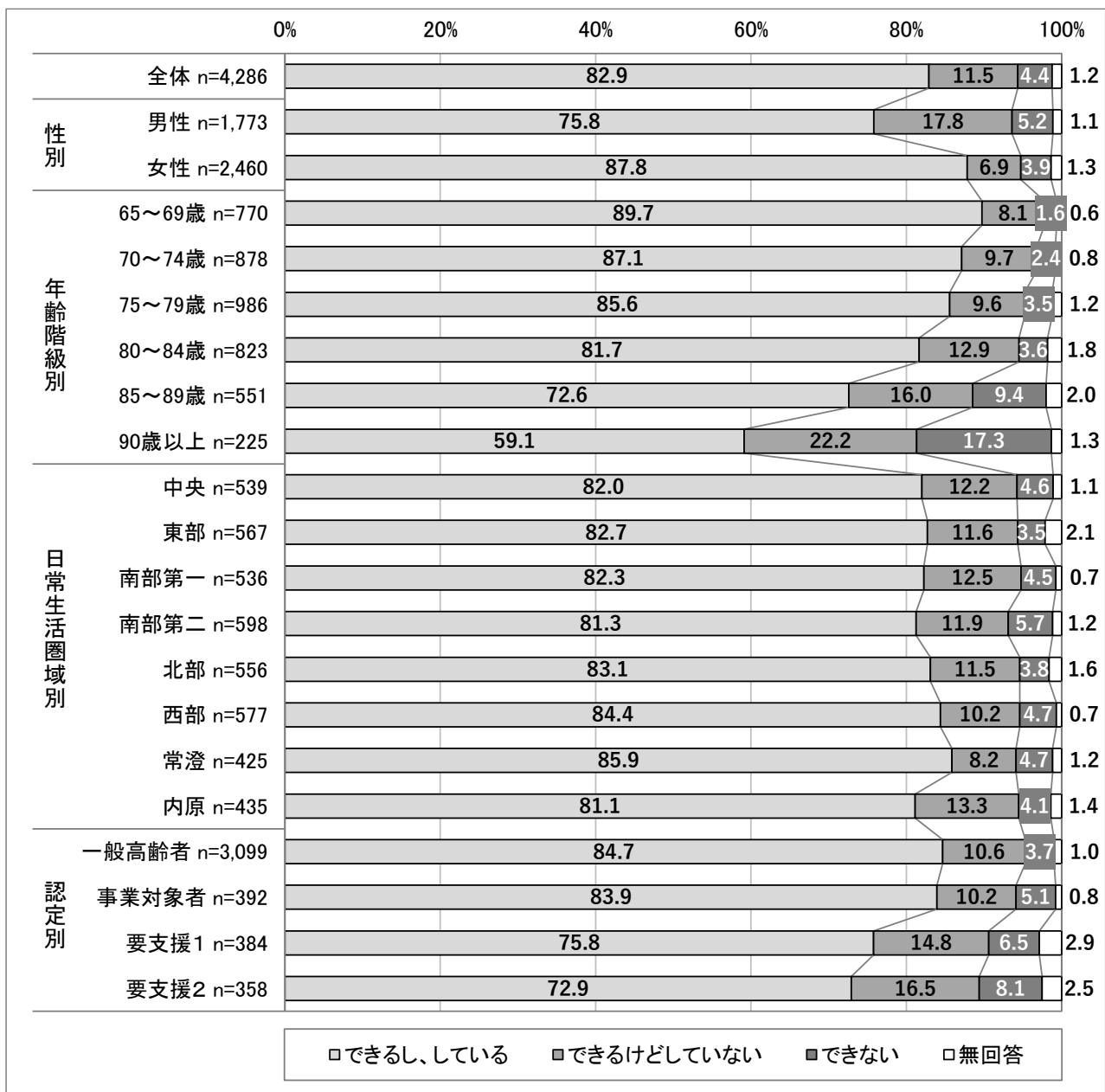
Q 8. 自分で預貯金の出し入れをしていますか（1つのみ）

自分で預貯金の出し入れをしているかについては、全体では「できるし、している」が 82.9%で最も高く、次いで「できるけどしていない」が 11.5%、「できない」が 4.4%となっています。

性別でみると、「できるけどしていない」と「できない」を合わせた『していない』は、男性が 23.0%、女性が 10.8%で、男性が女性を 12.2 ポイント上回っています。

年齢階級別でみると、『していない』は、90 歳以上が 39.5%で最も高く、次いで 85～89 歳が 25.4%、80～84 歳が 16.5%となっています。

日常生活圏域別でみると、『していない』は、南部第二が 17.6%で最も高く、次いで内原が 17.4%、南部第一が 17.0%となっています。



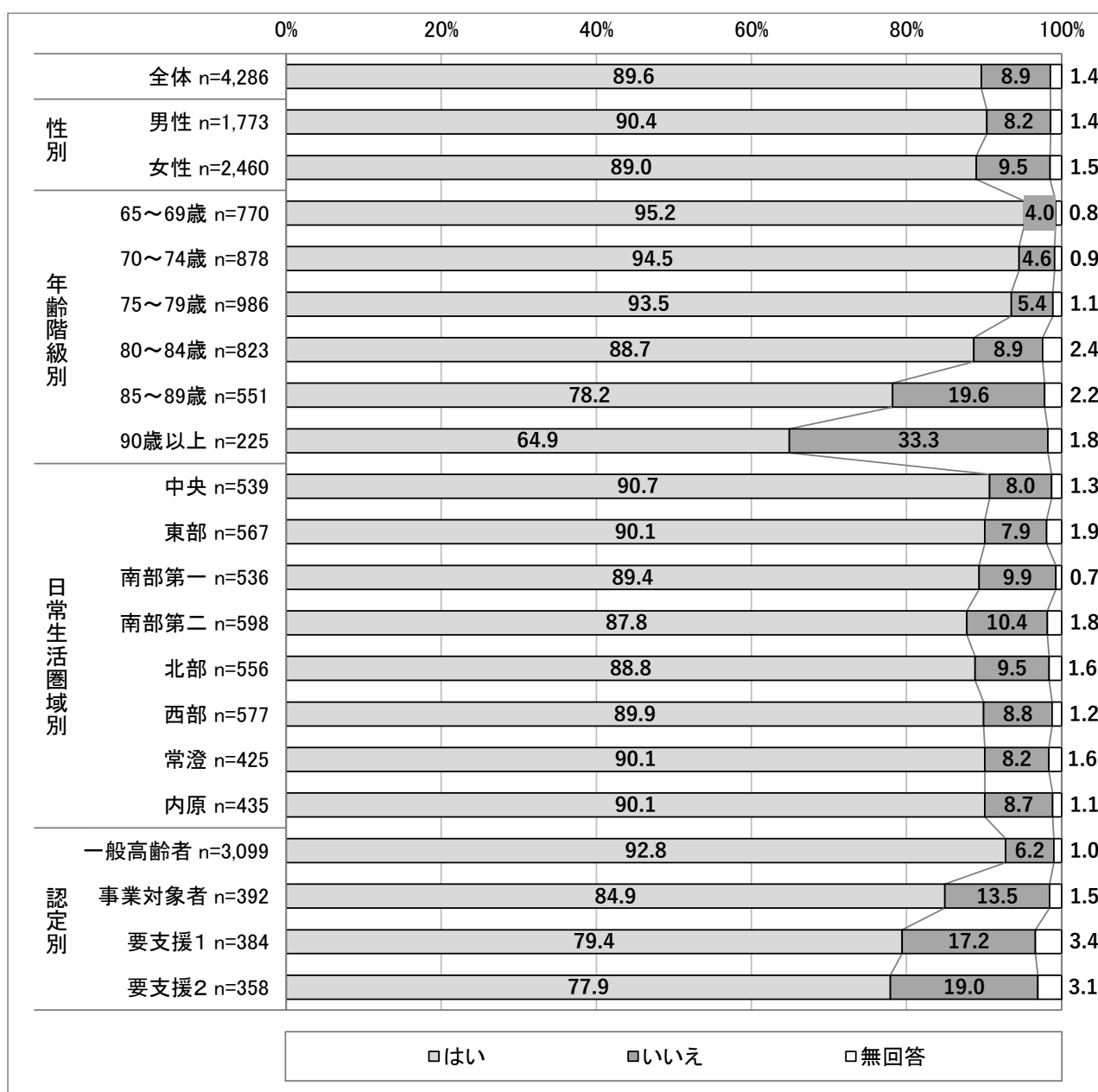
Q9. 年金などの書類（役所や病院などに出す書類）が書けますか（1つのみ）

年金などの書類が書けるかについては、全体では「はい」が89.6%、「いいえ」が8.9%となっています。

性別でみると、「いいえ」は、男性が8.2%、女性が9.5%で、女性が男性を1.3ポイント上回っています。

年齢階級別でみると、「いいえ」は、90歳以上が33.3%で最も高く、次いで85～89歳が19.6%、80～84歳が8.9%となっています。

日常生活圏域別でみると、「いいえ」は、南部第二が10.4%で最も高く、次いで南部第一が9.9%、北部が9.5%となっています。



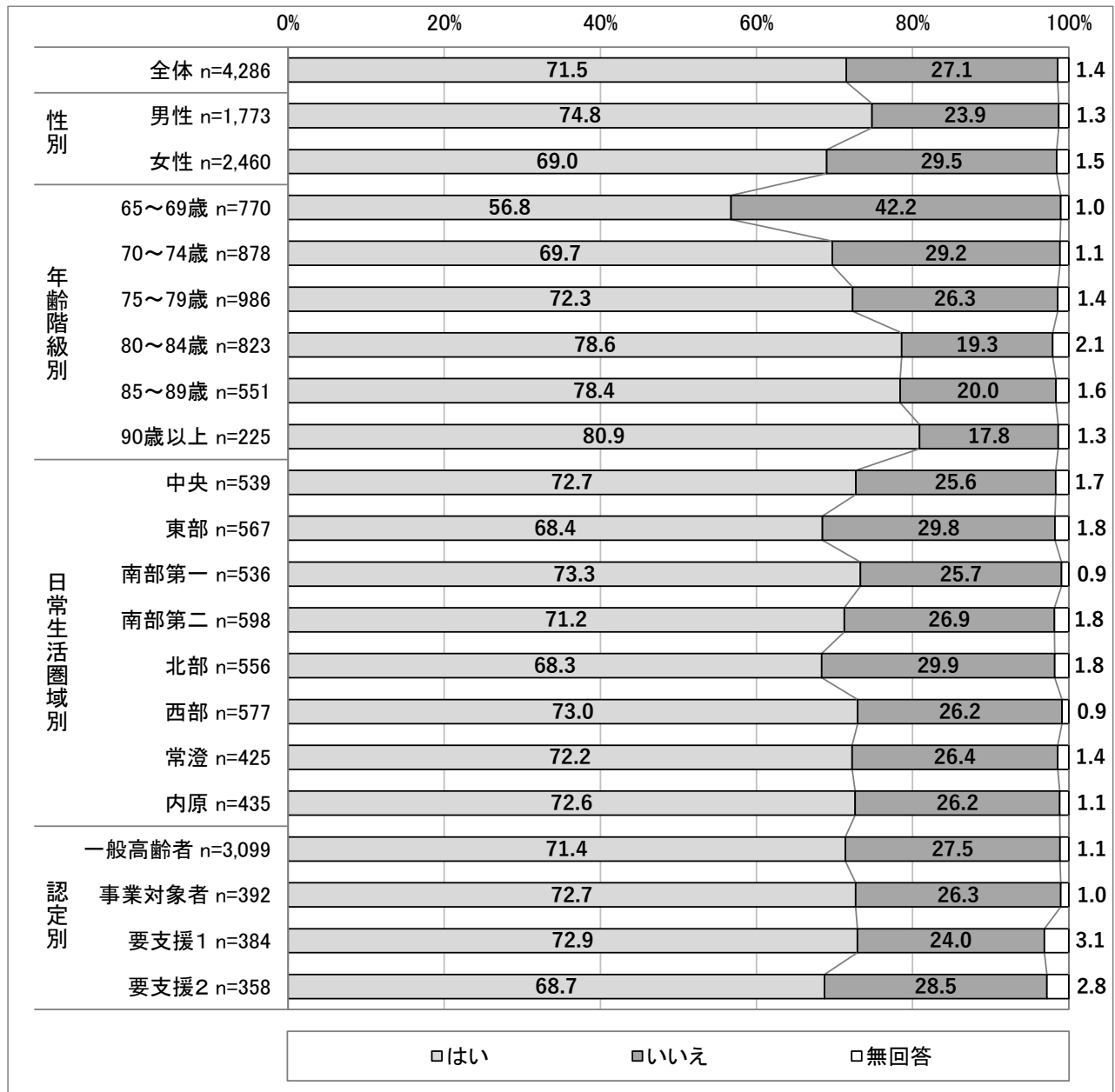
Q10. 新聞を読んでいますか（1つのみ）

新聞を読んでいるかについては、全体では「はい」が71.5%、「いいえ」が27.1%となっています。

性別でみると、「いいえ」は、男性が23.9%、女性が29.5%で、女性が男性を5.6ポイント上回っています。

年齢階級別でみると、「いいえ」は、65～69歳が42.2%で最も高く、次いで70～74歳が29.2%、75～79歳が26.3%となっています。

日常生活圏域別でみると、「いいえ」は、北部が29.9%で最も高く、次いで東部が29.8%、南部第二が26.9%となっています。



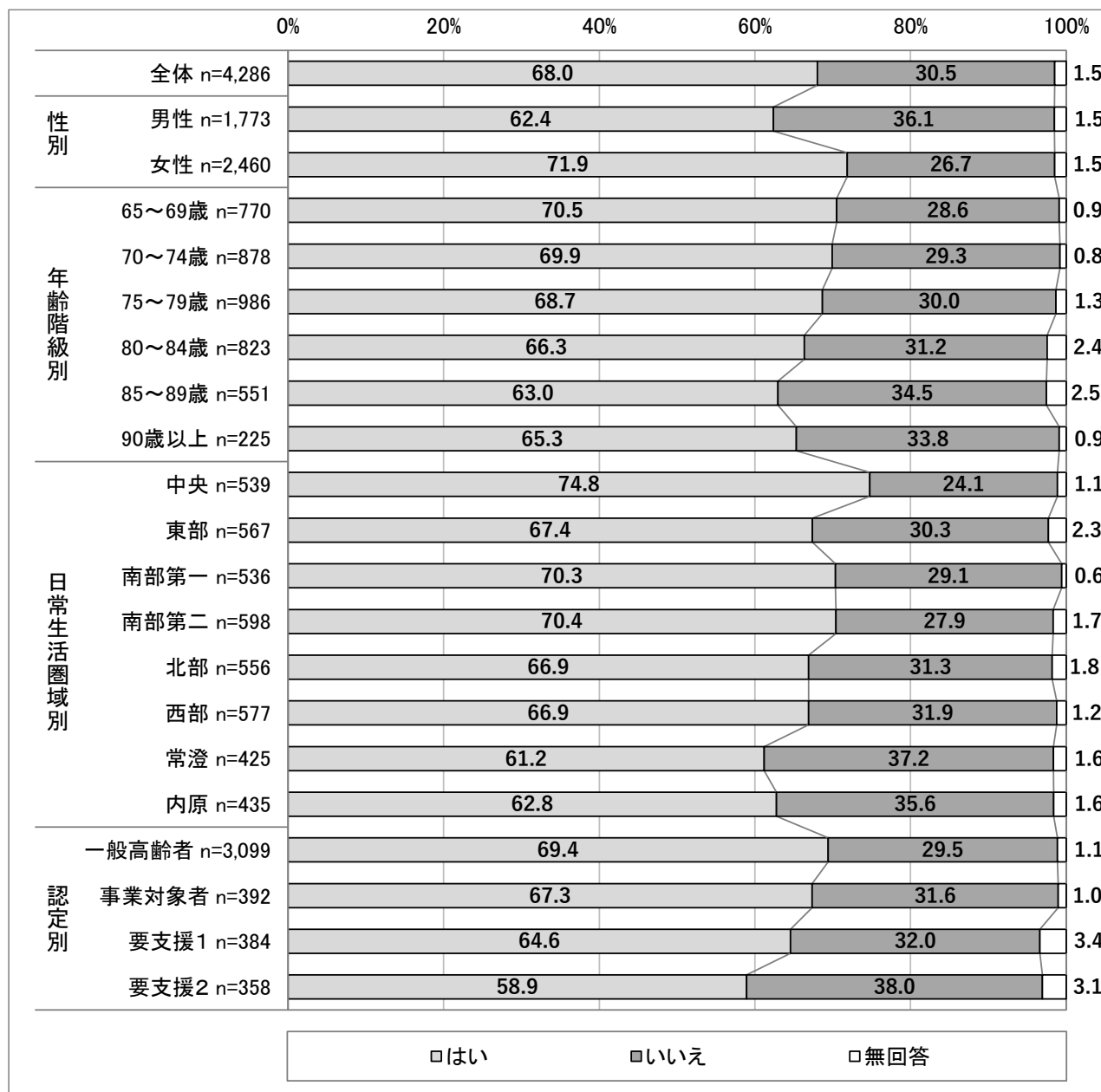
Q11. 本や雑誌を読んでいますか（1つのみ）

本や雑誌を読んでいるかについては、全体では「はい」が68.0%、「いいえ」が30.5%となっています。

性別でみると、「いいえ」は、男性が36.1%、女性が26.7%で、男性が女性を9.4ポイント上回っています。

年齢階級別でみると、「いいえ」は、85～89歳が34.5%で最も高く、次いで90歳以上が33.8%、80～84歳が31.2%となっています。

日常生活圏域別でみると、「いいえ」は、常澄が37.2%で最も高く、次いで内原が35.6%、西部が31.9%となっています。



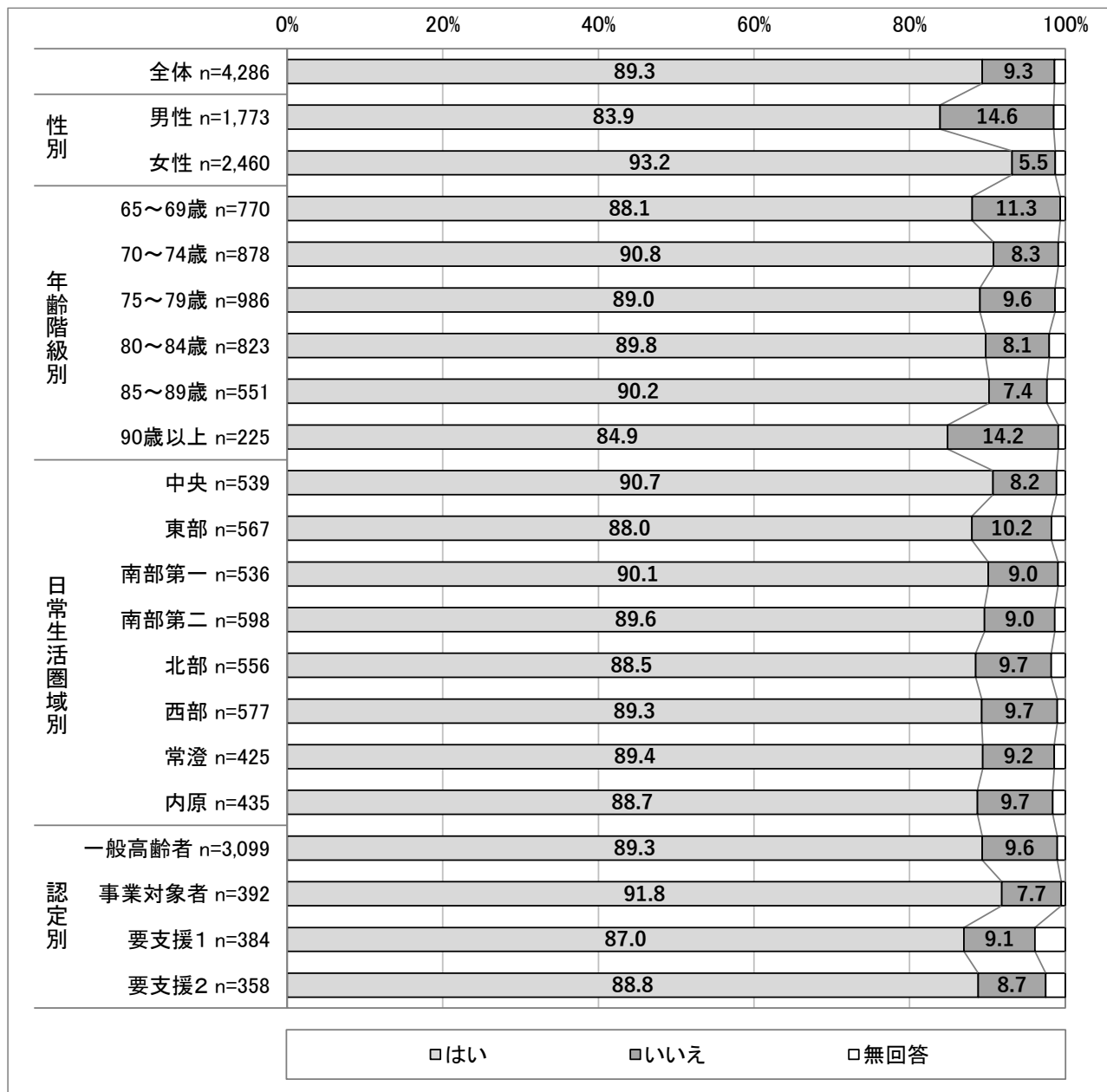
Q12. 健康についての記事や番組に関心がありますか（1つのみ）

健康についての記事や番組に関心があるかについては、全体では「はい」が 89.3%、「いいえ」が 9.3% となっています。

性別でみると、「いいえ」は、男性が 14.6%、女性が 5.5%で、男性が女性を 9.1 ポイント上回っています。

年齢階級別でみると、「いいえ」は、90 歳以上が 14.2%で最も高く、次いで 65～69 歳が 11.3%、75～79 歳が 9.6%となっています。

日常生活圏域別でみると、「いいえ」は、東部が 10.2%で最も高く、次いで北部、西部、内原がともに 9.7%となっています。



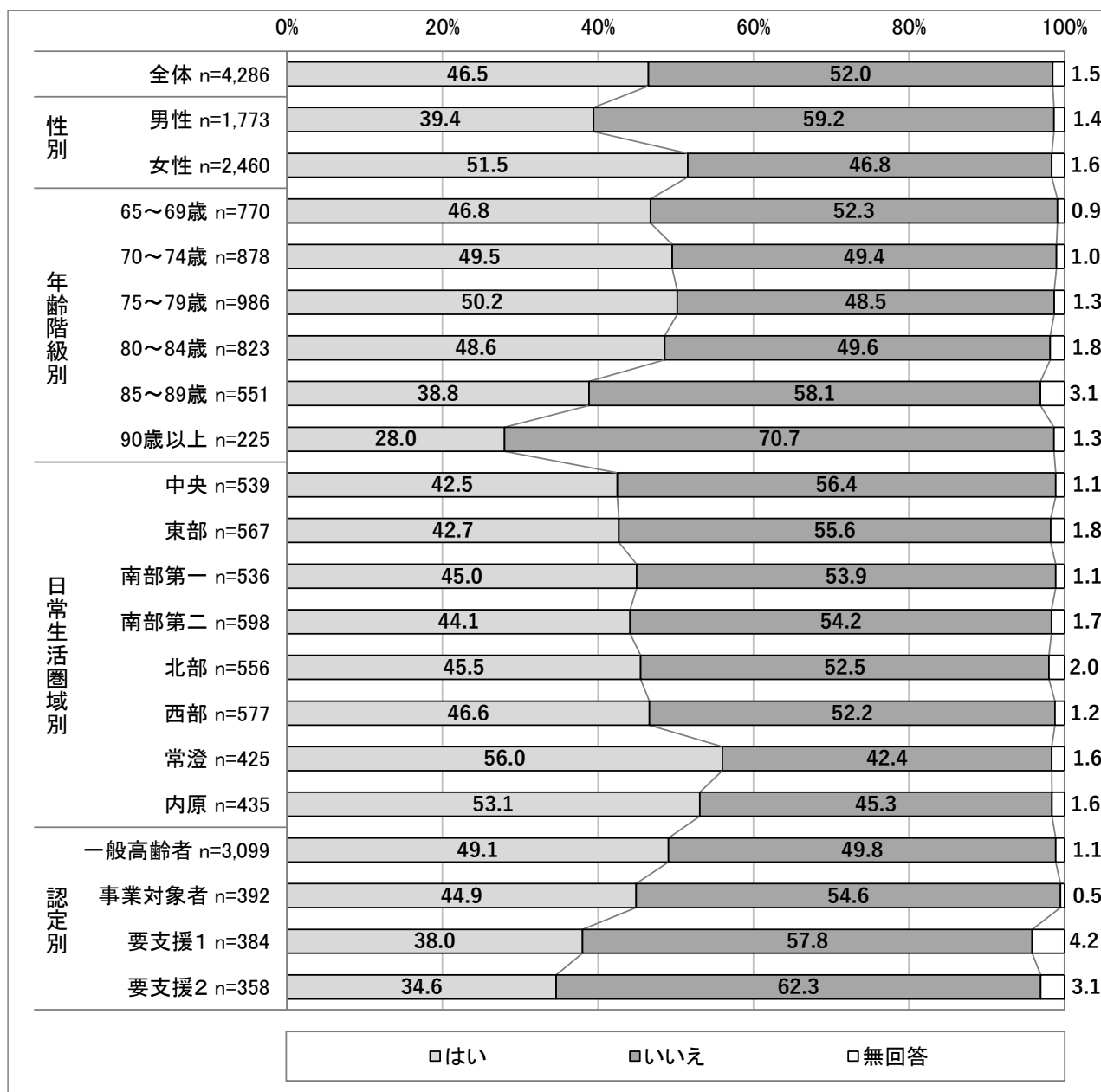
Q13. 友人の家を訪ねていますか（1つのみ）

友人の家を訪ねているかについては、全体では「はい」が46.5%、「いいえ」が52.0%となっています。

性別でみると、「いいえ」は、男性が59.2%、女性が46.8%で、男性が女性を12.4ポイント上回っています。

年齢階級別でみると、「いいえ」は、90歳以上が70.7%で最も高く、次いで85～89歳が58.1%、65～69歳が52.3%となっています。

日常生活圏域別でみると、「いいえ」は、中央が56.4%で最も高く、次いで東部が55.6%、南部第二が54.2%となっています。



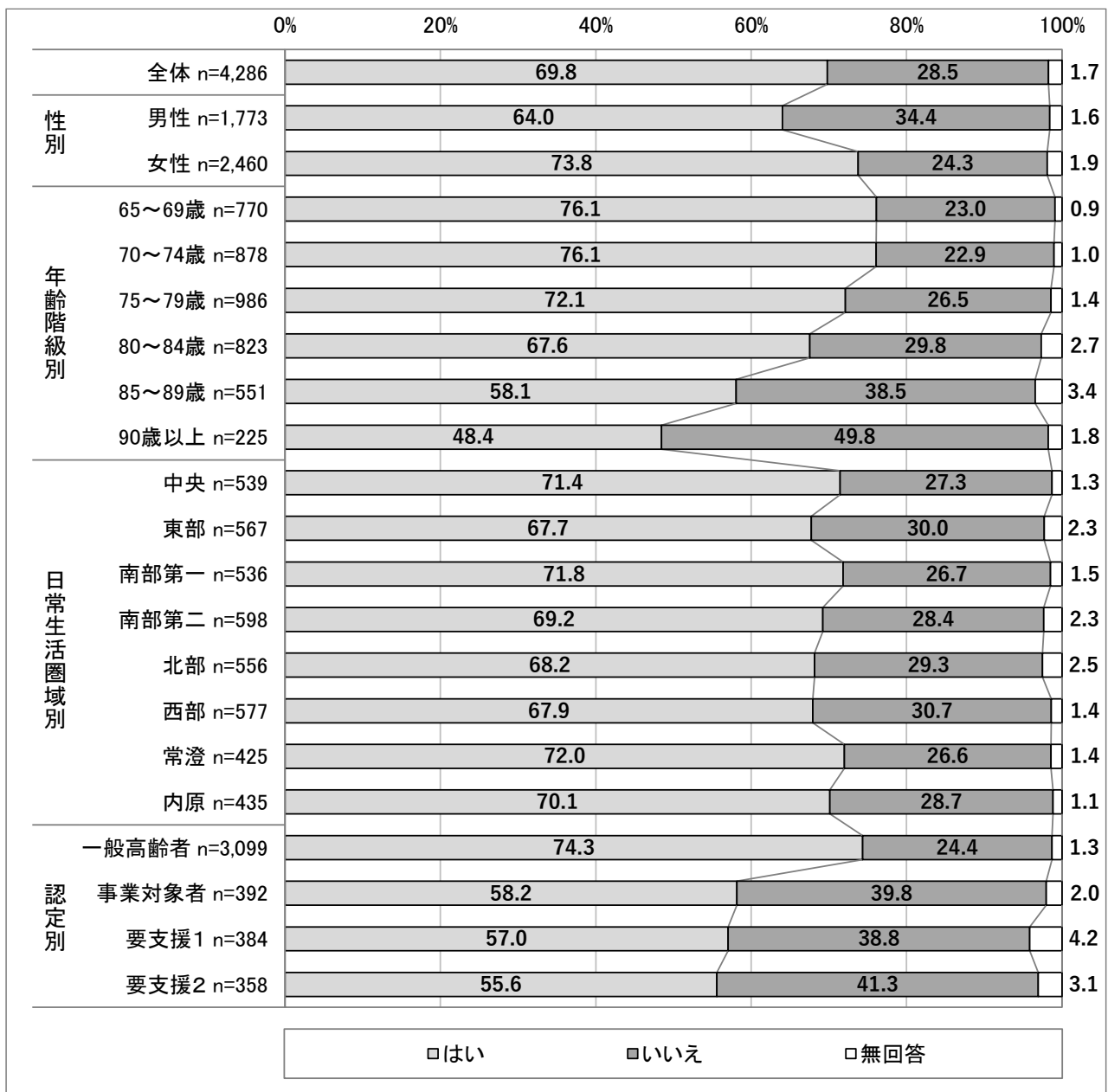
Q14. 家族や友人の相談にのっていますか（1つのみ）

家族や友人の相談にのっているかについては、全体では「はい」が69.8%、「いいえ」が28.5%となっています。

性別でみると、「いいえ」は、男性が34.4%、女性が24.3%で、男性が女性を10.1ポイント上回っています。

年齢階級別でみると、「いいえ」は、90歳以上が49.8%で最も高く、次いで85～89歳が38.5%、80～84歳が29.8%となっています。

日常生活圏域別でみると、「いいえ」は、西部が30.7%で最も高く、次いで東部が30.0%、北部が29.3%となっています。



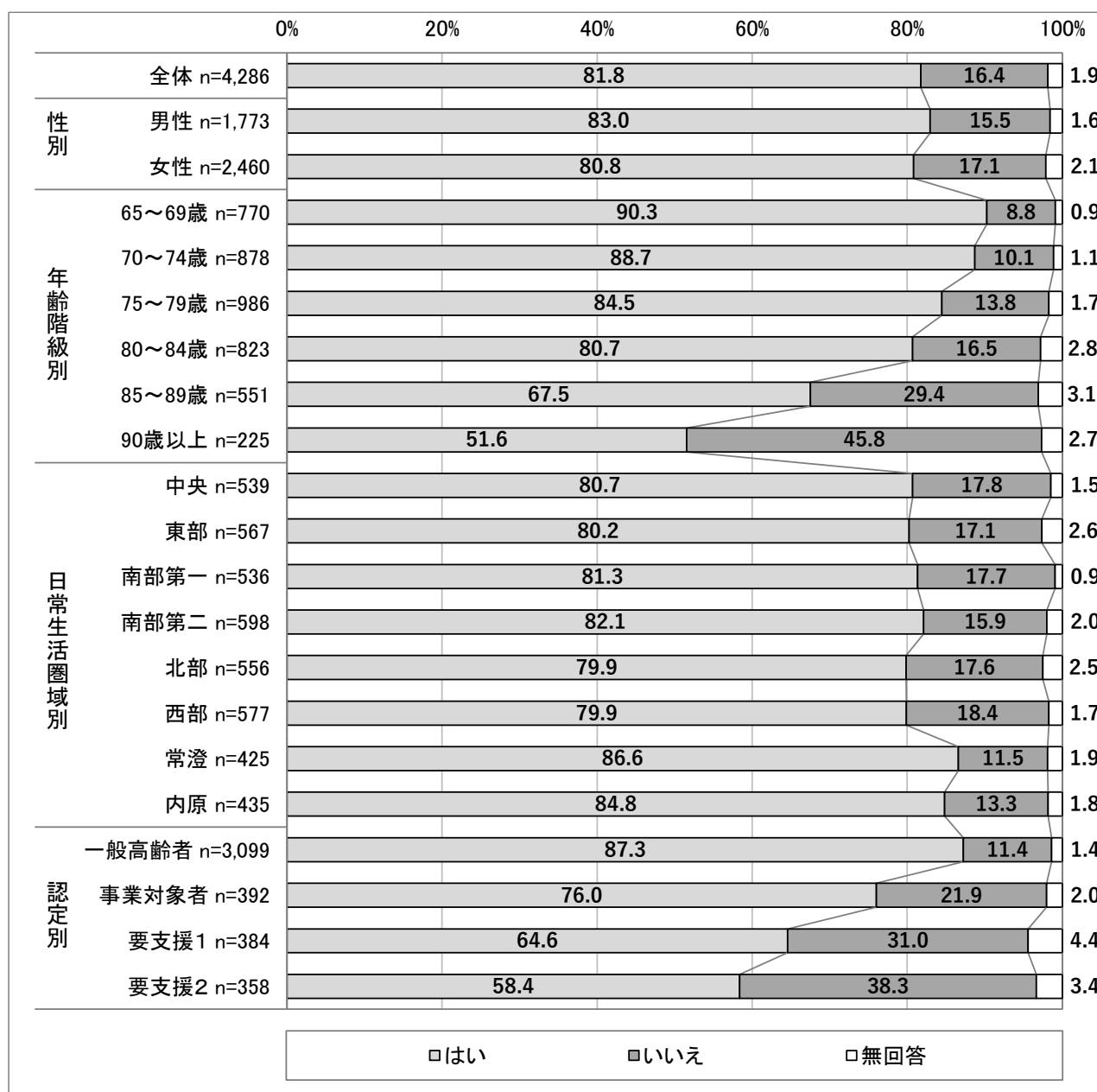
Q15. 病人を見舞うことができますか（1つのみ）

病人を見舞うことができるかについては、全体では「はい」が81.8%、「いいえ」が16.4%となっています。

性別でみると、「いいえ」は、男性が15.5%、女性が17.1%で、女性が男性を1.6ポイント上回っています。

年齢階級別でみると、「いいえ」は、90歳以上が45.8%で最も高く、次いで85～89歳が29.4%、80～84歳が16.5%となっています。

日常生活圏域別でみると、「いいえ」は、西部が18.4%で最も高く、次いで中央が17.8%、南部第一が17.7%となっています。



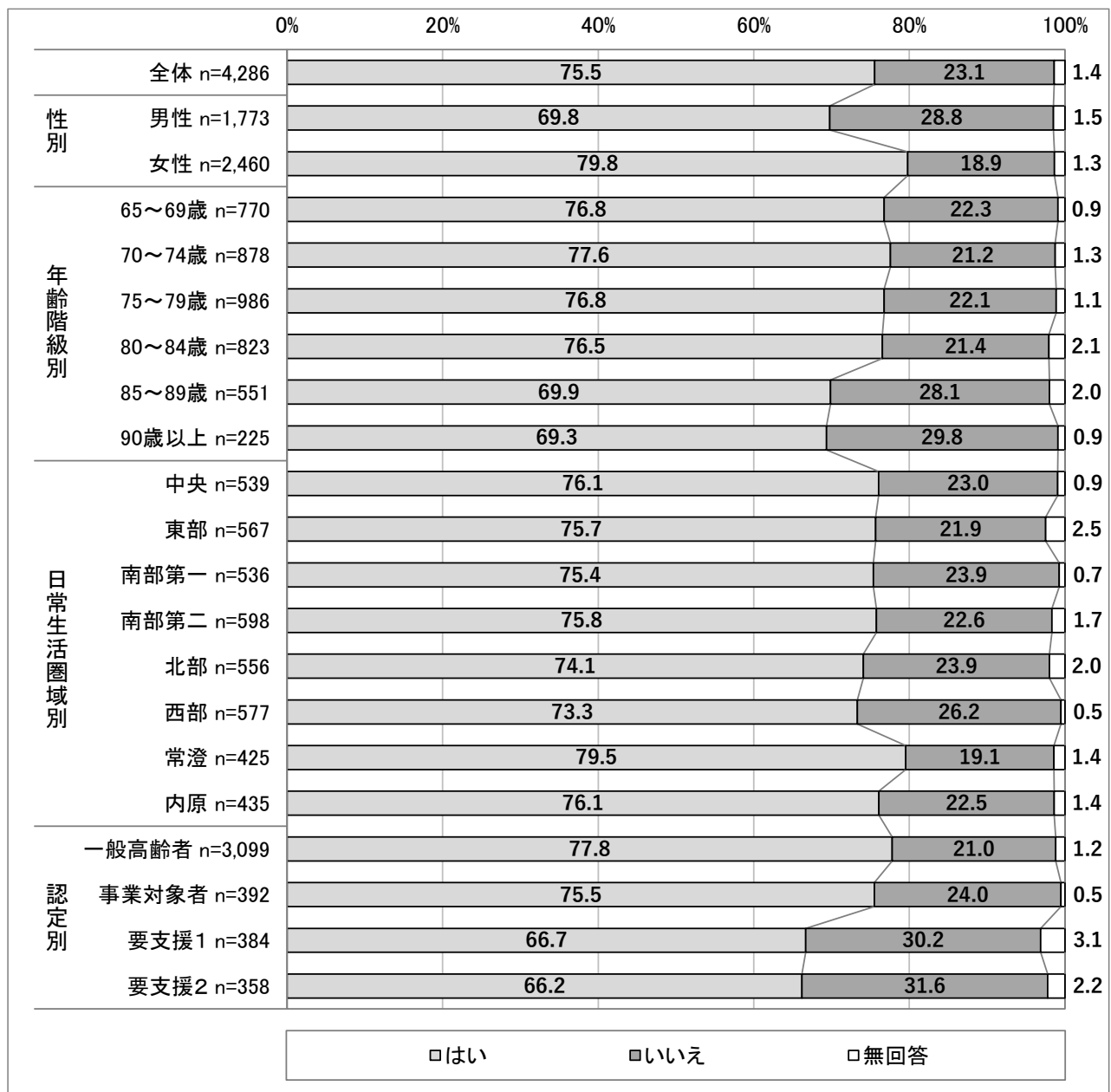
Q16. 若い人に自分から話しかけることがありますか（1つのみ）

若い人に自分から話しかけることがあるかについては、全体では「はい」が 75.5%、「いいえ」が 23.1%となっています。

性別でみると、「いいえ」は、男性が 28.8%、女性が 18.9%で、男性が女性を 9.9 ポイント上回っています。

年齢階級別でみると、「いいえ」は、90 歳以上が 29.8%で最も高く、次いで 85～89 歳が 28.1%、65～69 歳が 22.3%となっています。

日常生活圏域別でみると、「いいえ」は、西部が 26.2%で最も高く、次いで南部第一、北部がともに 23.9%、中央が 23.0%となっています。



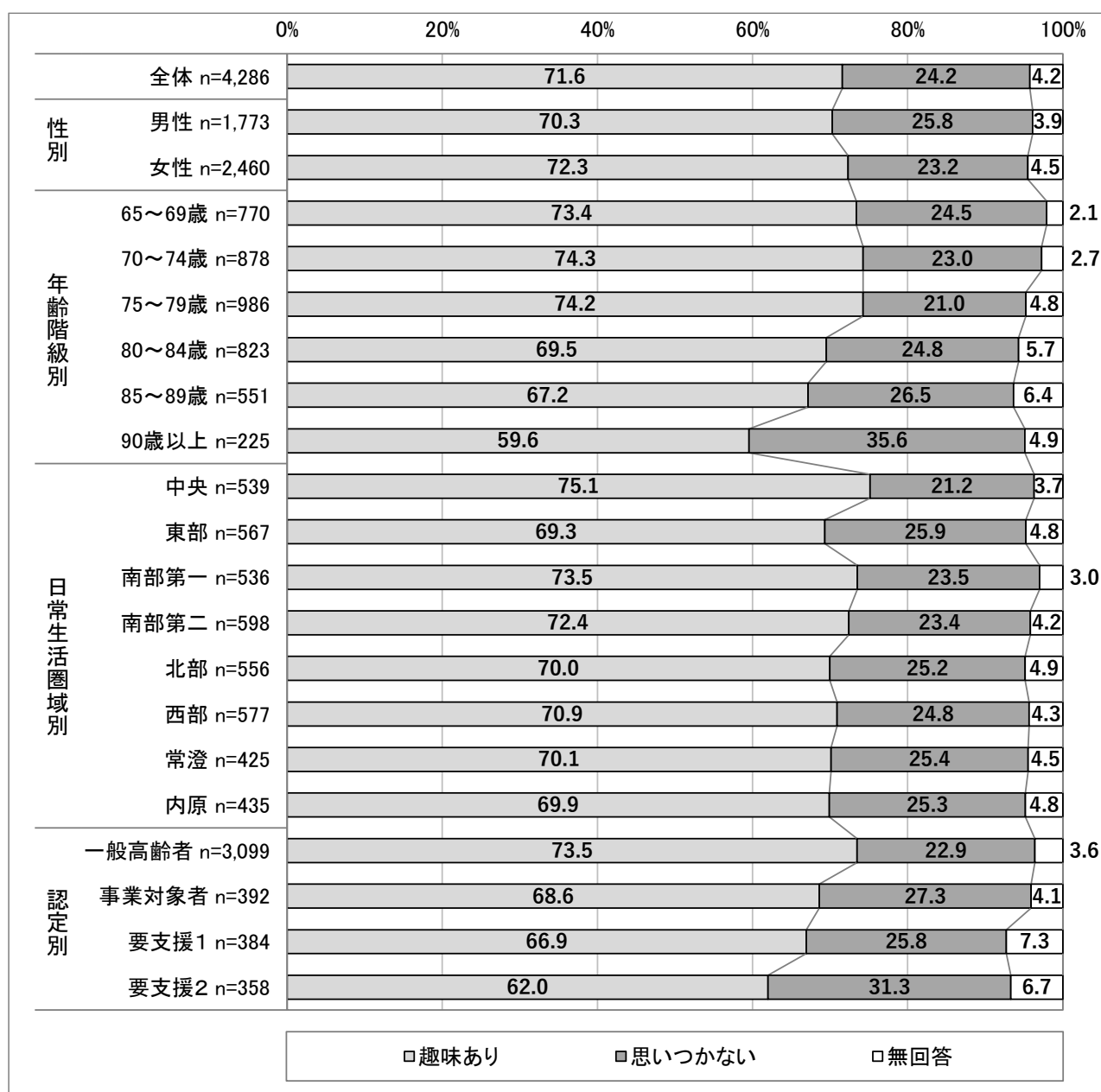
Q17. 趣味はありますか（1つのみ）

趣味はあるかについては、全体では「趣味あり」が71.6%、「思いつかない」が24.2%となっています。

性別でみると、「思いつかない」は、男性が25.8%、女性が23.2%で、男性が女性を2.6ポイント上回っています。

年齢階級別でみると、「思いつかない」は、90歳以上が35.6%で最も高く、次いで85～89歳が26.5%、80～84歳が24.8%となっています。

日常生活圏域別でみると、「思いつかない」は、東部が25.9%で最も高く、次いで常澄が25.4%、内原が25.3%となっています。



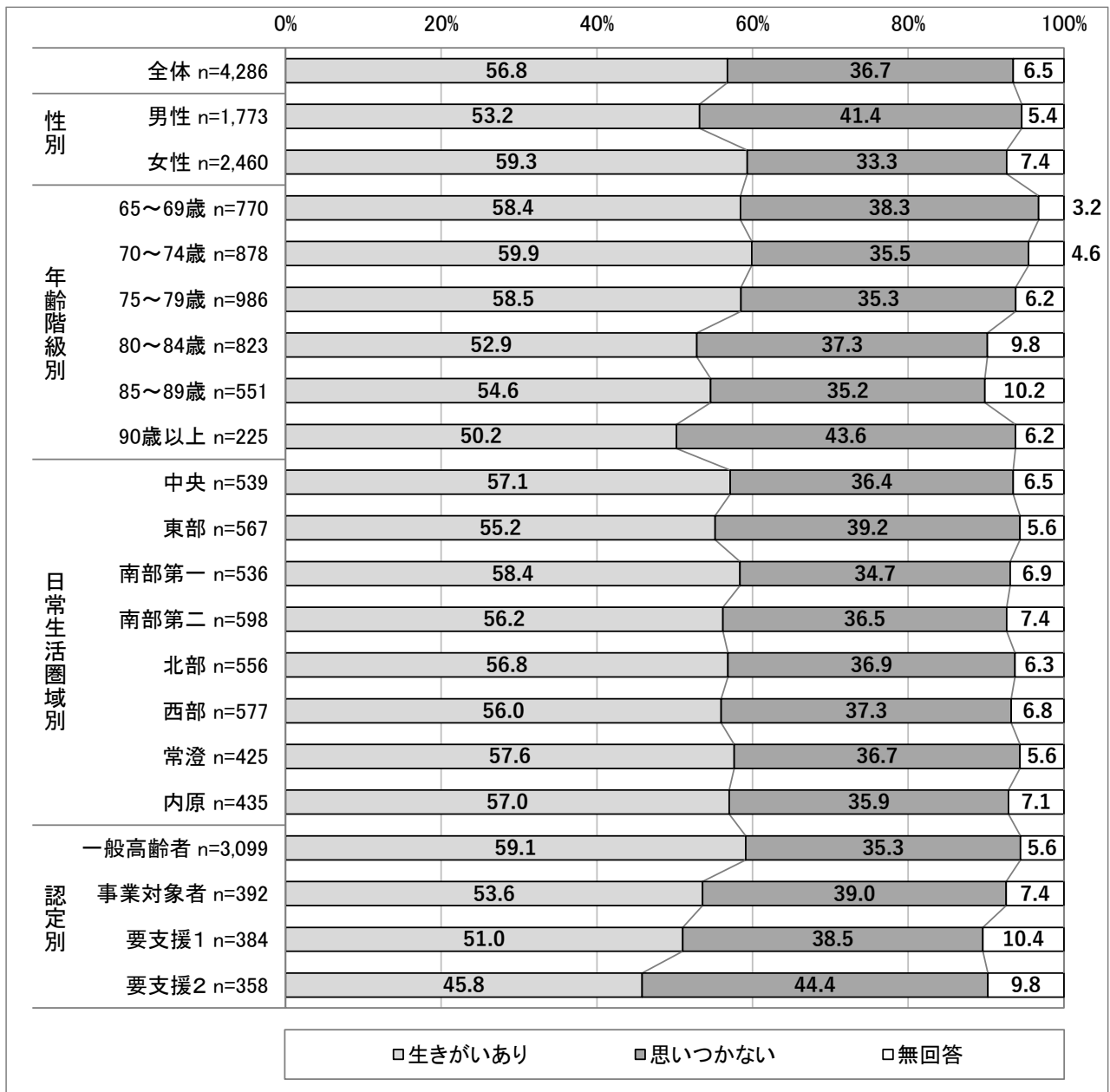
Q18. 生きがいがありますか（1つのみ）

生きがいはあるかについては、全体では「生きがいあり」が56.8%、「思いつかない」が36.7%となっています。

性別でみると、「思いつかない」は、男性が41.4%、女性が33.3%で、男性が女性を8.1ポイント上回っています。

年齢階級別でみると、「思いつかない」は、90歳以上が43.6%で最も高く、次いで65～69歳が38.3%、80～84歳が37.3%となっています。

日常生活圏域別でみると、「思いつかない」は、東部が39.2%で最も高く、次いで西部が37.3%、北部が36.9%となっています。



5. 地域での活動について

Q 1. 以下のような会・グループ等にどのくらいの頻度で参加していますか（それぞれに1つのみ）

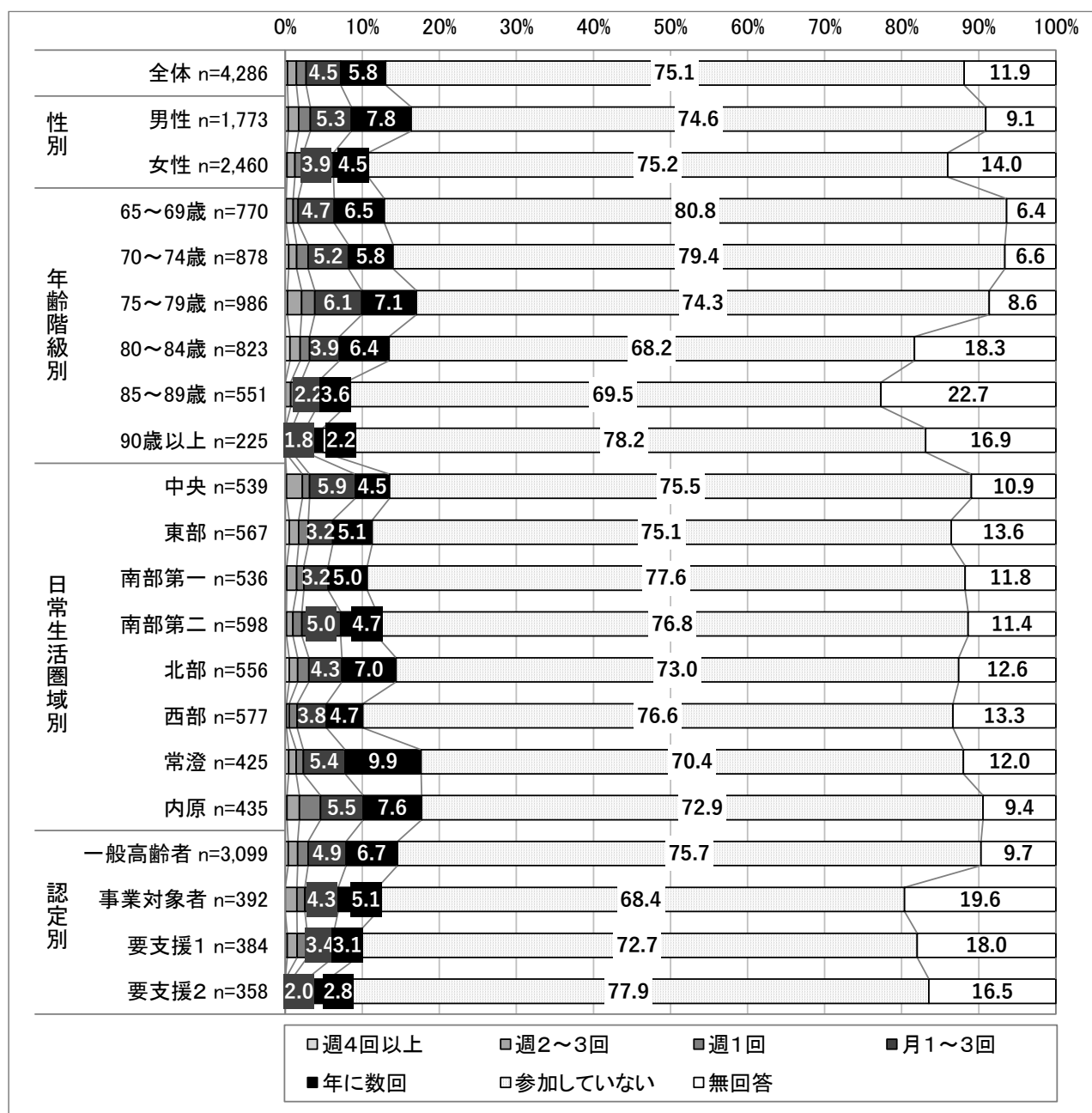
① ボランティアのグループ

ボランティアのグループへの参加状況については、全体では「参加していない」が75.1%で最も高く、次いで「年に数回」が5.8%、「月1～3回」が4.5%となっています。

性別でみると、「週4回以上」「週2～3回」「週1回」「月1～3回」「年に数回」を合わせた『参加している』は、男性が16.4%、女性が10.7%で、男性が女性を5.7ポイント上回っています。

年齢階級別でみると、『参加している』は、75～79歳が17.0%で最も高く、次いで70～74歳が14.0%、80～84歳が13.4%となっています。

日常生活圏域別でみると、『参加している』は、内原が17.7%で最も高く、次いで常澄が17.6%、北部が14.3%となっています。



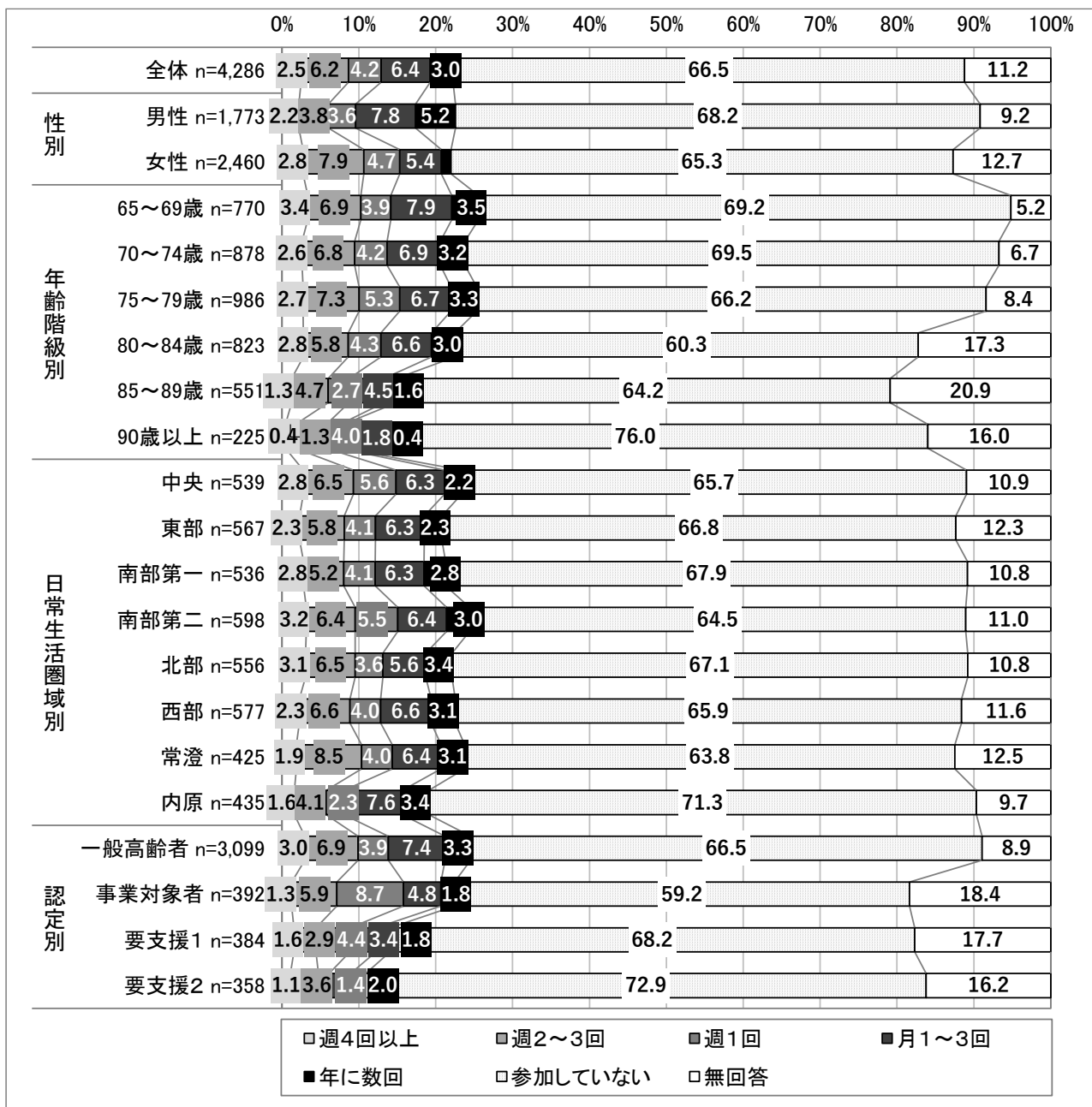
② スポーツ関係のグループやクラブ

スポーツ関係のグループやクラブへの参加状況については、全体では「参加していない」が 66.5% で最も高く、次いで「月 1 ～ 3 回」が 6.4%、「週 2 ～ 3 回」が 6.2%となっています。

性別でみると、「週 4 回以上」「週 2 ～ 3 回」「週 1 回」「月 1 ～ 3 回」「年に数回」を合わせた『参加している』は、男性が 22.6%、女性が 22.1%で、男性が女性を 0.5 ポイント上回っています。

年齢階級別でみると、『参加している』は、65～69 歳が 25.6%で最も高く、次いで 75～79 歳が 25.3%、70～74 歳が 23.7%となっています。

日常生活圏域別でみると、『参加している』は、南部第二が 24.5%で最も高く、次いで常澄が 23.9%、中央が 23.4%となっています。



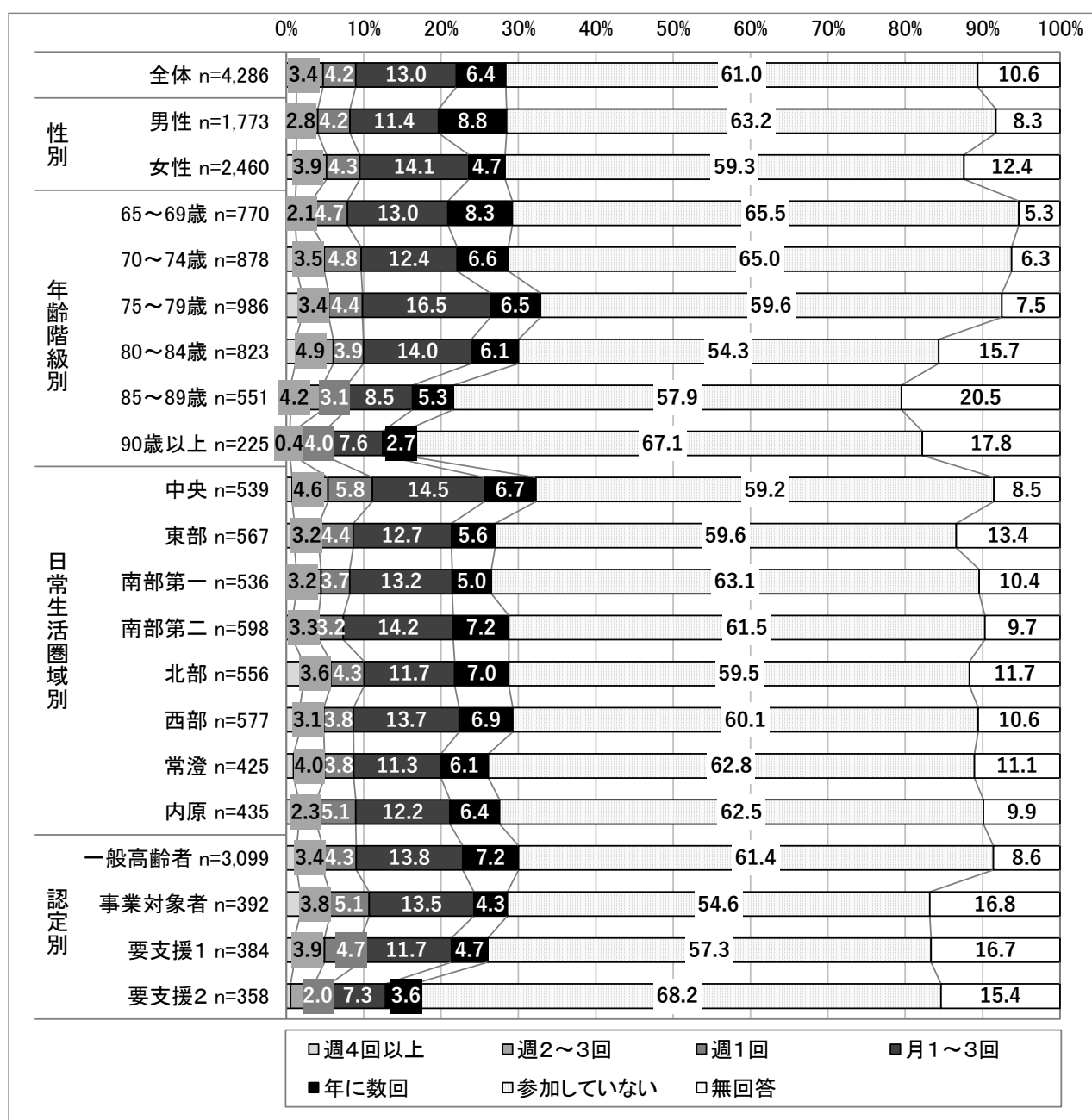
③ 趣味関係のグループ

趣味関係のグループへの参加状況については、全体では「参加していない」が 61.0%で最も高く、次いで「月1～3回」が 13.0%、「年に数回」が 6.4%となっています。

性別でみると、「週4回以上」「週2～3回」「週1回」「月1～3回」「年に数回」を合わせた『参加している』は、男性が 28.5%、女性が 28.3%で、男性が女性を 0.2 ポイント上回っています。

年齢階級別でみると、『参加している』は、75～79歳が 32.8%で最も高く、次いで80～84歳が 30.1%、65～69歳が 29.3%となっています。

日常生活圏域別でみると、『参加している』は、中央が 32.3%で最も高く、次いで西部が 29.2%、北部が 28.8%となっています。



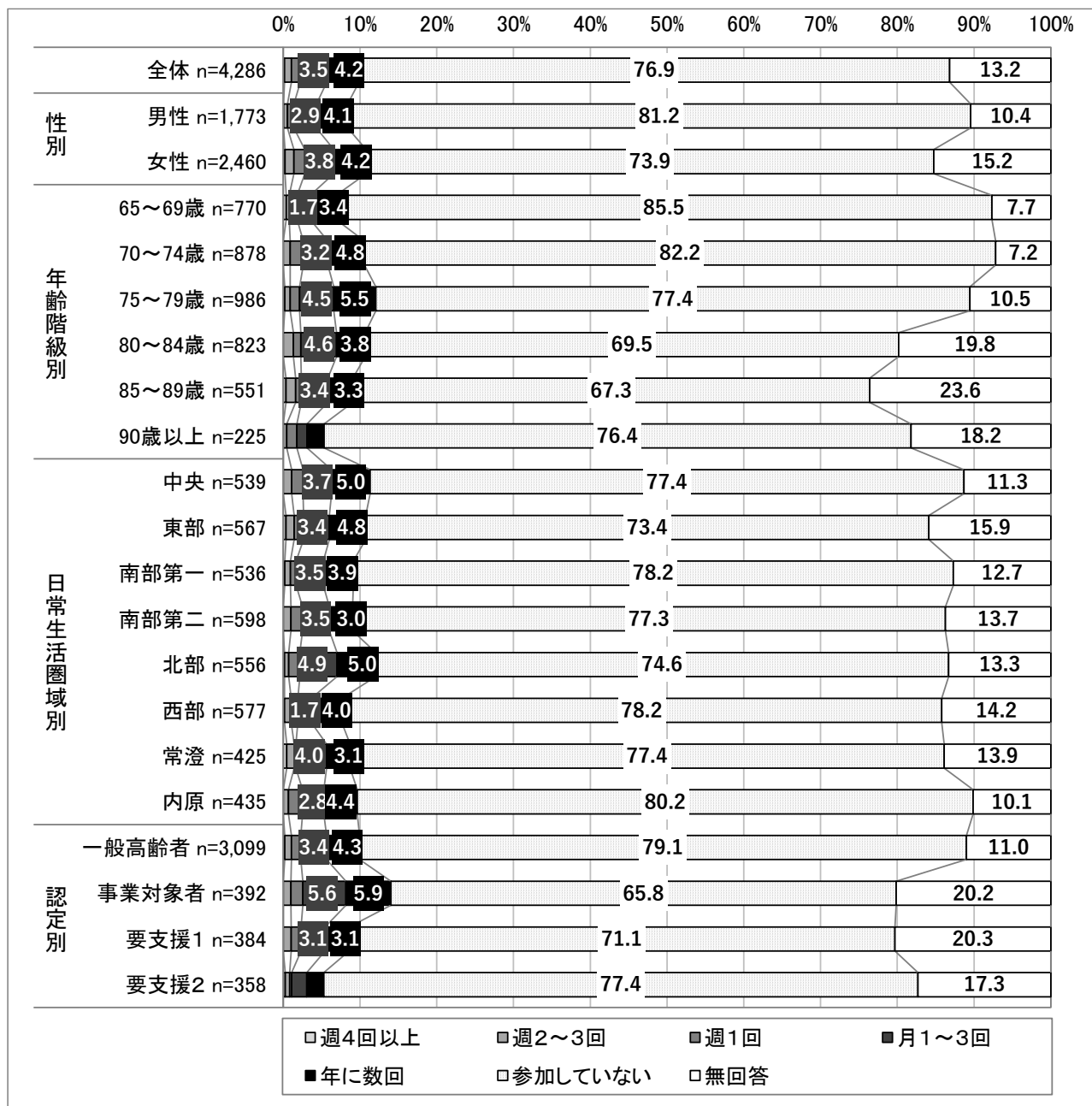
④ 学習・教養サークル

学習・教養サークルへの参加状況については、全体では「参加していない」が76.9%で最も高く、次いで「年に数回」が4.2%、「月1～3回」が3.5%となっています。

性別でみると、「週4回以上」「週2～3回」「週1回」「月1～3回」「年に数回」を合わせた『参加している』は、男性が8.4%、女性が10.7%で、女性が男性を2.3ポイント上回っています。

年齢階級別でみると、『参加している』は、75～79歳が12.1%で最も高く、次いで80～84歳が10.7%、70～74歳が10.6%となっています。

日常生活圏域別でみると、『参加している』は、北部が12.0%で最も高く、次いで中央が11.3%、東部が10.9%となっています。



⑤ 介護予防のための通いの場

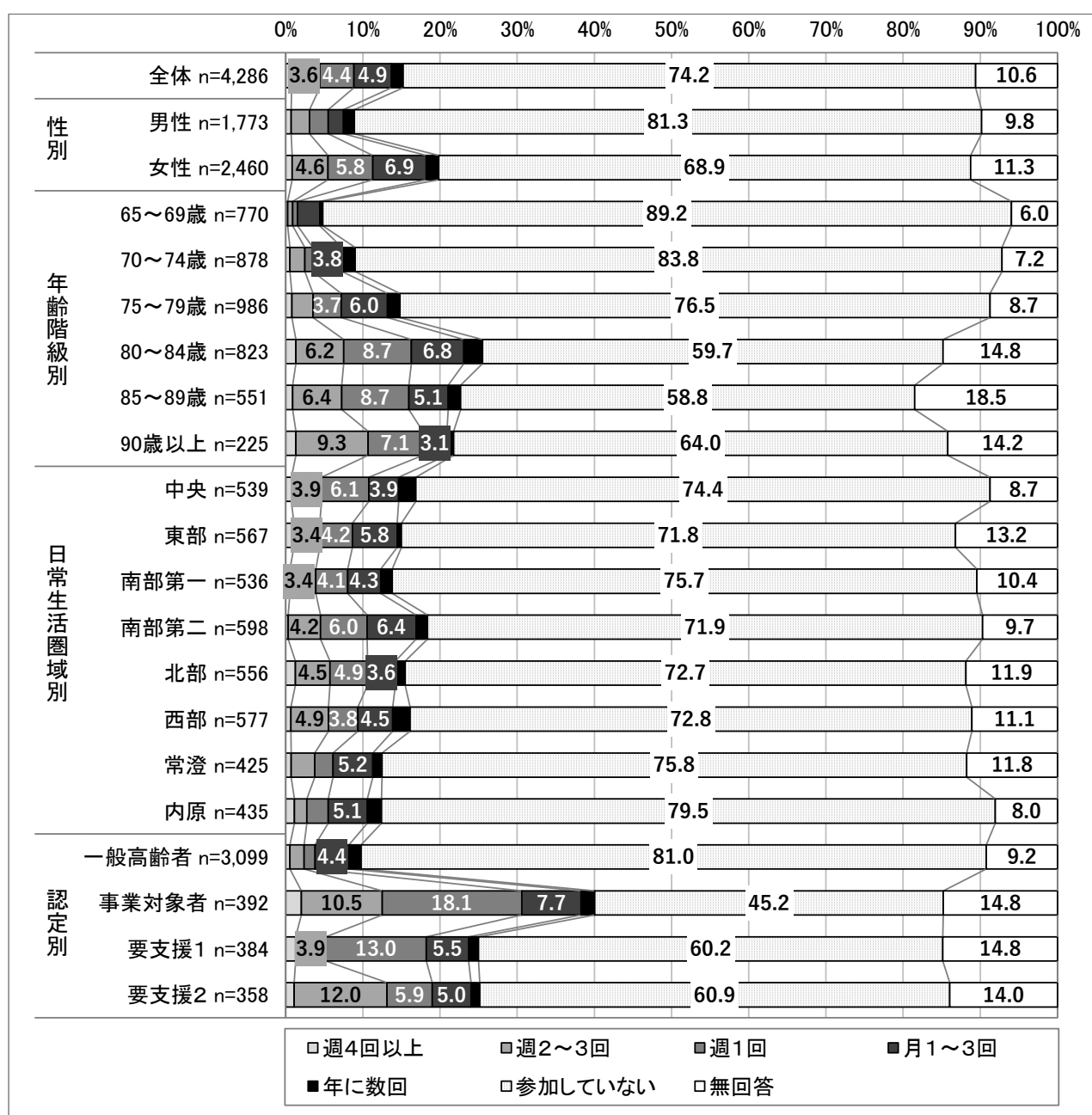
(元気アップ・ステップ運動、いきいき健康クラブ、シニアライフ講座、シルバーリハビリ体操など)

介護予防のための通いの場への参加状況については、全体では「参加していない」が74.2%で最も高く、次いで「月1～3回」が4.9%、「週1回」が4.4%となっています。

性別でみると、「週4回以上」「週2～3回」「週1回」「月1～3回」「年に数回」を合わせた『参加している』は、男性が8.9%、女性が19.8%で、女性が男性を10.9ポイント上回っています。

年齢階級別でみると、『参加している』は、80～84歳が25.4%で最も高く、次いで85～89歳が22.7%、90歳以上が21.7%となっています。

日常生活圏域別でみると、『参加している』は、南部第二が18.4%で最も高く、次いで中央が16.8%、西部が16.2%となっています。



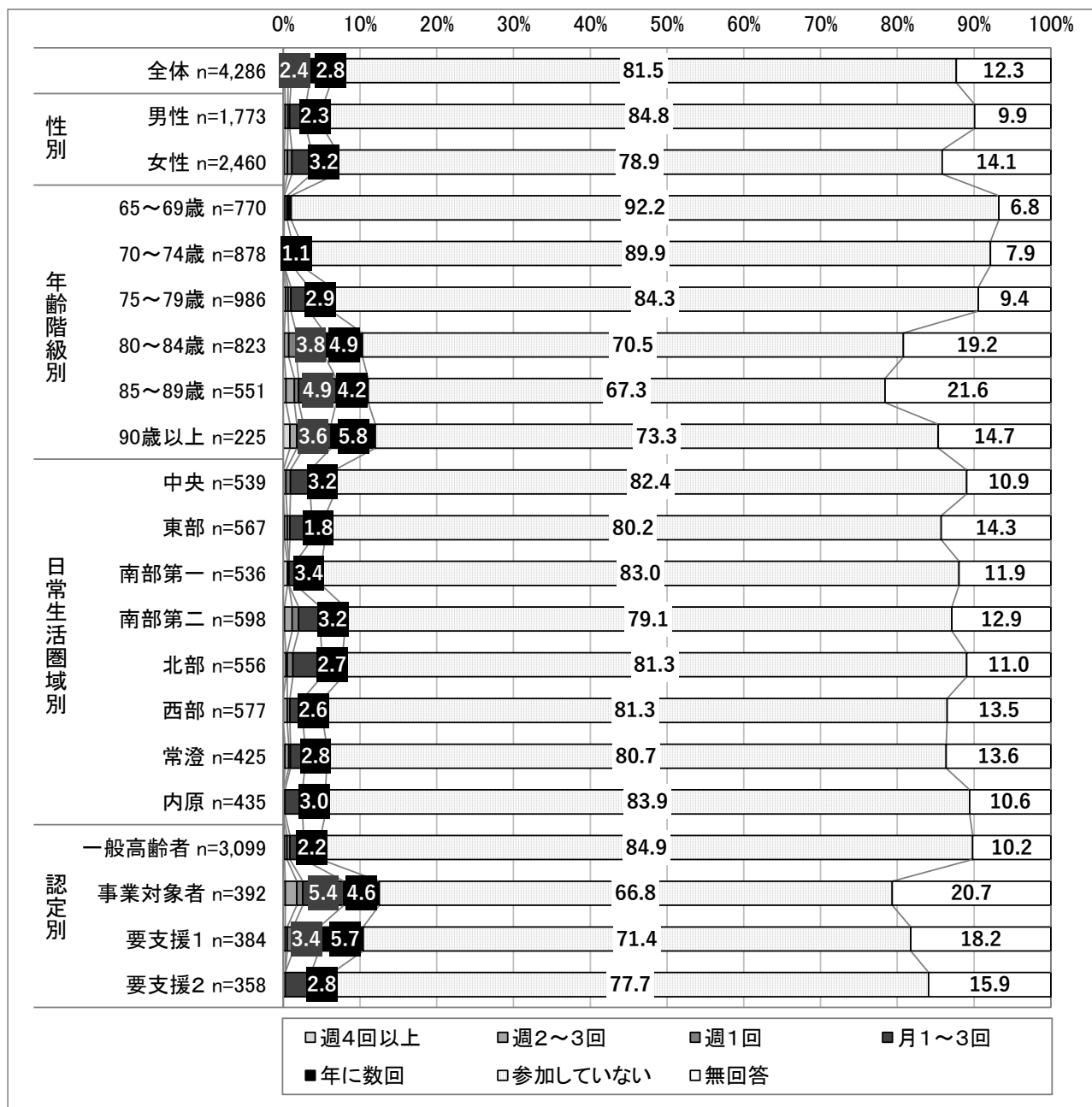
⑥ 高齢者クラブ

高齢者クラブへの参加状況については、全体では「参加していない」が 81.5%で最も高く、次いで「年に数回」が 2.8%、「月 1～3 回」が 2.4%となっています。

性別でみると、「週 4 回以上」「週 2～3 回」「週 1 回」「月 1～3 回」「年に数回」を合わせた『参加している』は、男性が 5.2%、女性が 6.9%で、女性が男性を 1.7 ポイント上回っています。

年齢階級別でみると、『参加している』は、90 歳以上が 12.1%で最も高く、次いで 85～89 歳が 11.1%、80～84 歳が 10.4%となっています。

日常生活圏域別でみると、『参加している』は、南部第二が 8.0%で最も高く、次いで北部が 7.8%、中央が 6.8%となっています。



日常生活圏域別でみると、『参加している』は、内原が 42.7%で最も高く、次いで常澄が 37.0%、東部が 32.5%となっています。

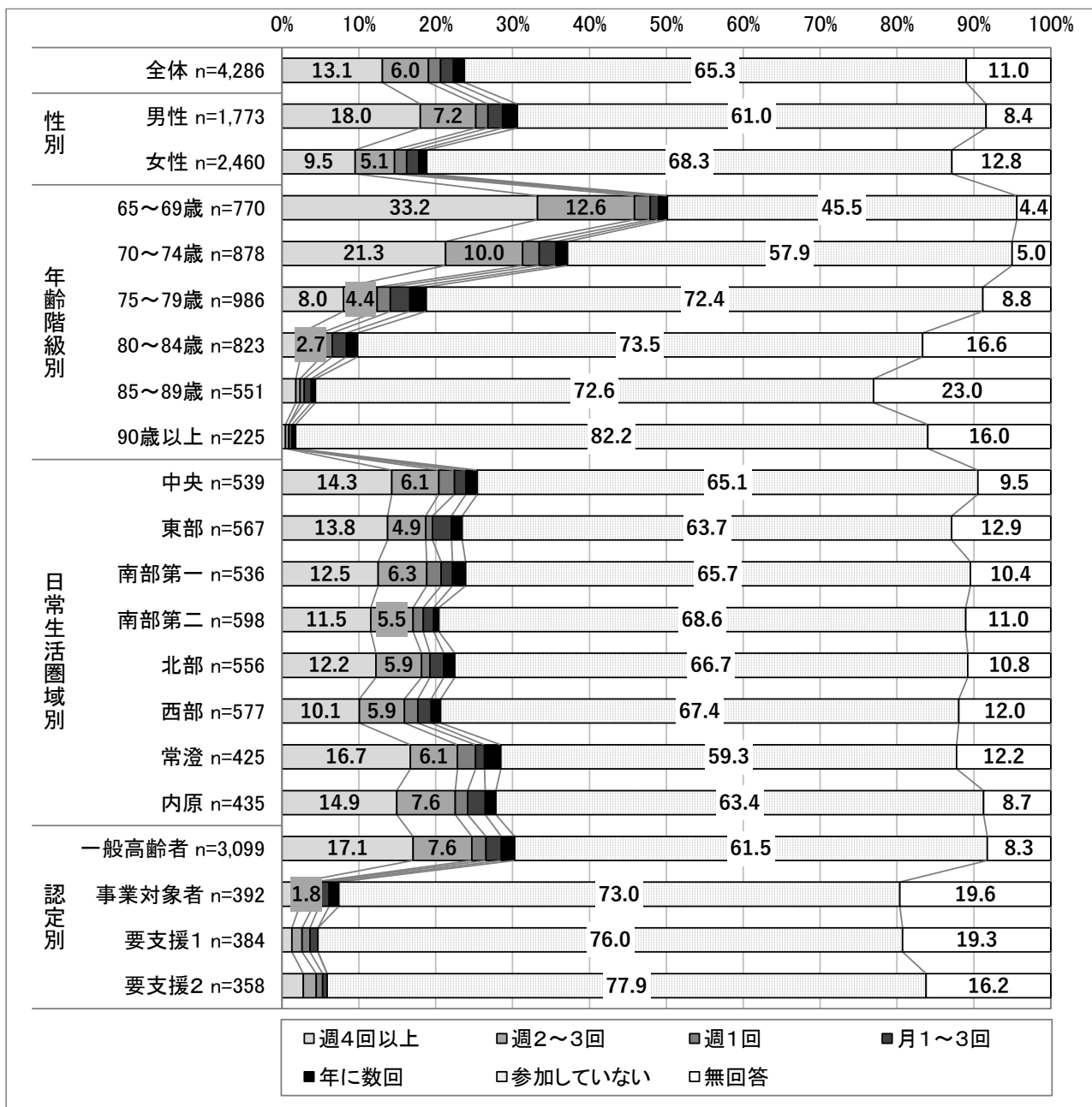
⑧ 収入のある仕事

収入のある仕事への参加状況については、全体では「参加していない」が 65.3%で最も高く、次いで「週4回以上」が 13.1%、「週2～3回」が 6.0%となっています。

性別でみると、「週4回以上」「週2～3回」「週1回」「月1～3回」「年に数回」を合わせた『参加している』は、男性が 30.6%、女性が 18.8%で、男性が女性を 11.8 ポイント上回っています。

年齢階級別でみると、『参加している』は、65～69歳が 50.1%で最も高く、次いで70～74歳が 37.2%、75～79歳が 18.7%となっています。

日常生活圏域別でみると、『参加している』は、常澄が 28.5%で最も高く、次いで内原が 27.8%、中央が 25.4%となっています。



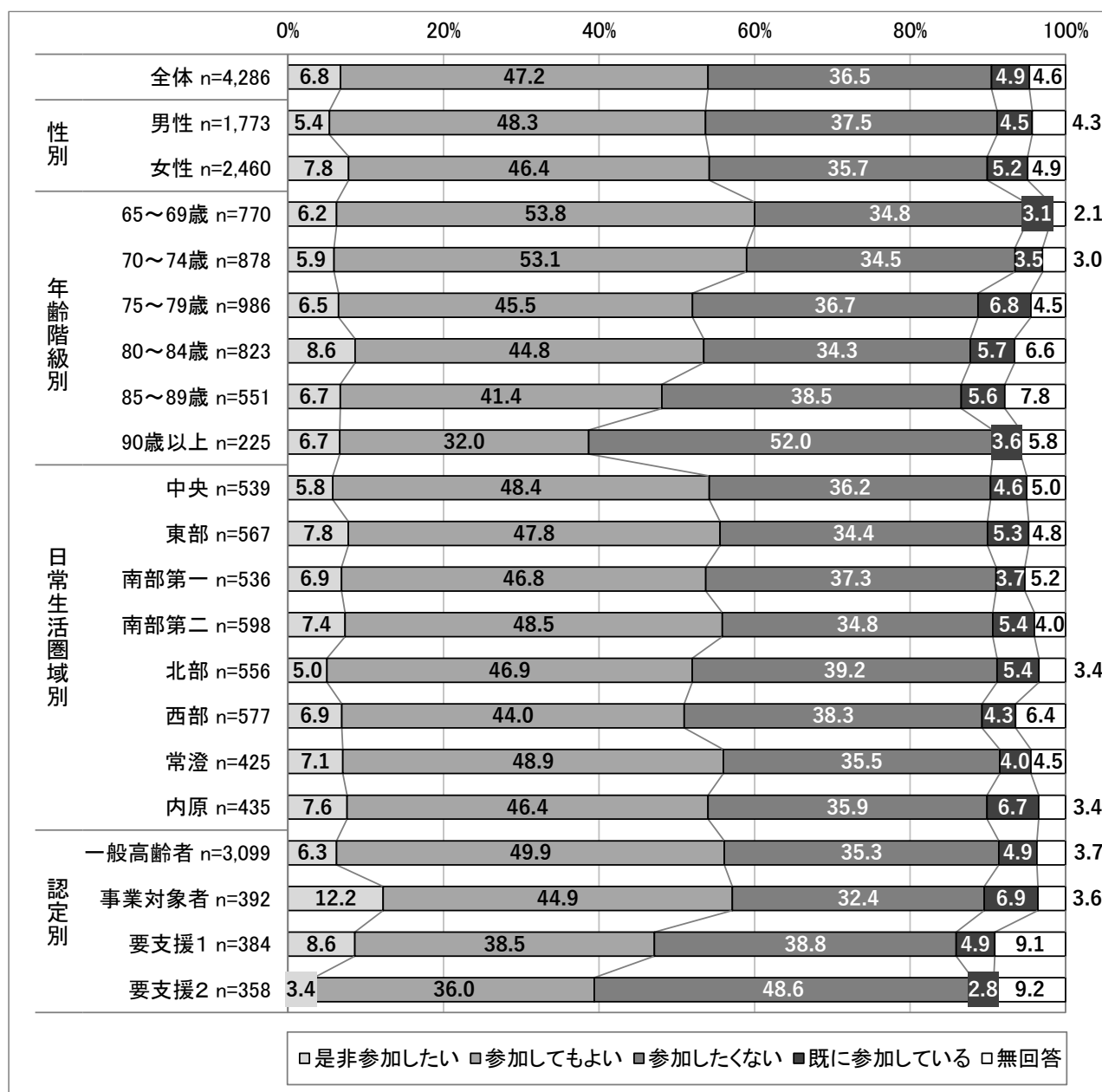
Q2. 地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に参加者として参加してみたいと思いますか（1つのみ）

健康づくり活動や趣味等のグループ活動に参加者として参加してみたいと思うかについては、全体では「参加してもよい」が47.2%で最も高く、次いで「参加したくない」が36.5%、「是非参加したい」が6.8%となっています。

性別でみると、「是非参加したい」「参加してもよい」「既に参加している」を合わせた『参加したい（している）』は、男性が58.2%、女性が59.4%で、女性が男性を1.2ポイント上回っています。

年齢階級別でみると、『参加したい（している）』は、65～69歳が63.1%で最も高く、次いで70～74歳が62.5%、80～84歳が59.1%となっています。

日常生活圏域別でみると、『参加したい（している）』は、南部第二が61.3%で最も高く、次いで東部が60.9%、内原が60.7%となっています。



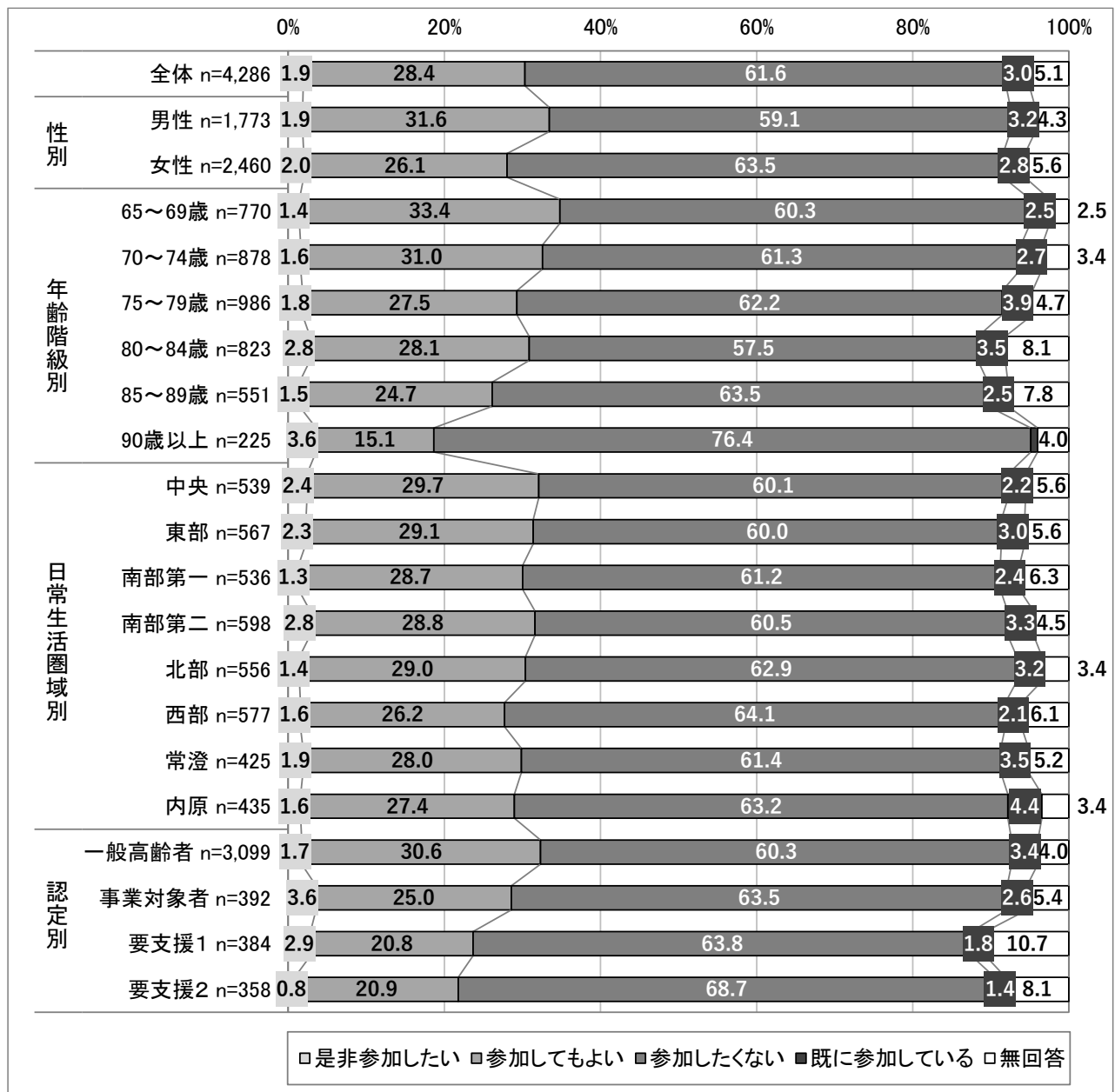
Q3. 地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に企画・運営（お世話役）として参加してみたいと思いますか（1つのみ）

健康づくり活動や趣味等のグループ活動に企画・運営として参加してみたいと思うかについては、全体では「参加したくない」が61.6%で最も高く、次いで「参加してもよい」が28.4%、「既に参加している」が3.0%となっています。

性別でみると、「是非参加したい」「参加してもよい」「既に参加している」を合わせた『参加したい（している）』は、男性が36.7%、女性が30.9%で、男性が女性を5.8ポイント上回っています

年齢階級別でみると、『参加したい（している）』は、65～69歳が37.3%で最も高く、次いで70～74歳が35.3%、80～84歳が34.4%となっています。

日常生活圏域別でみると、『参加したい（している）』は、南部第二が34.9%で最も高く、次いで東部が34.4%、中央が34.3%となっています。



6. 就労について

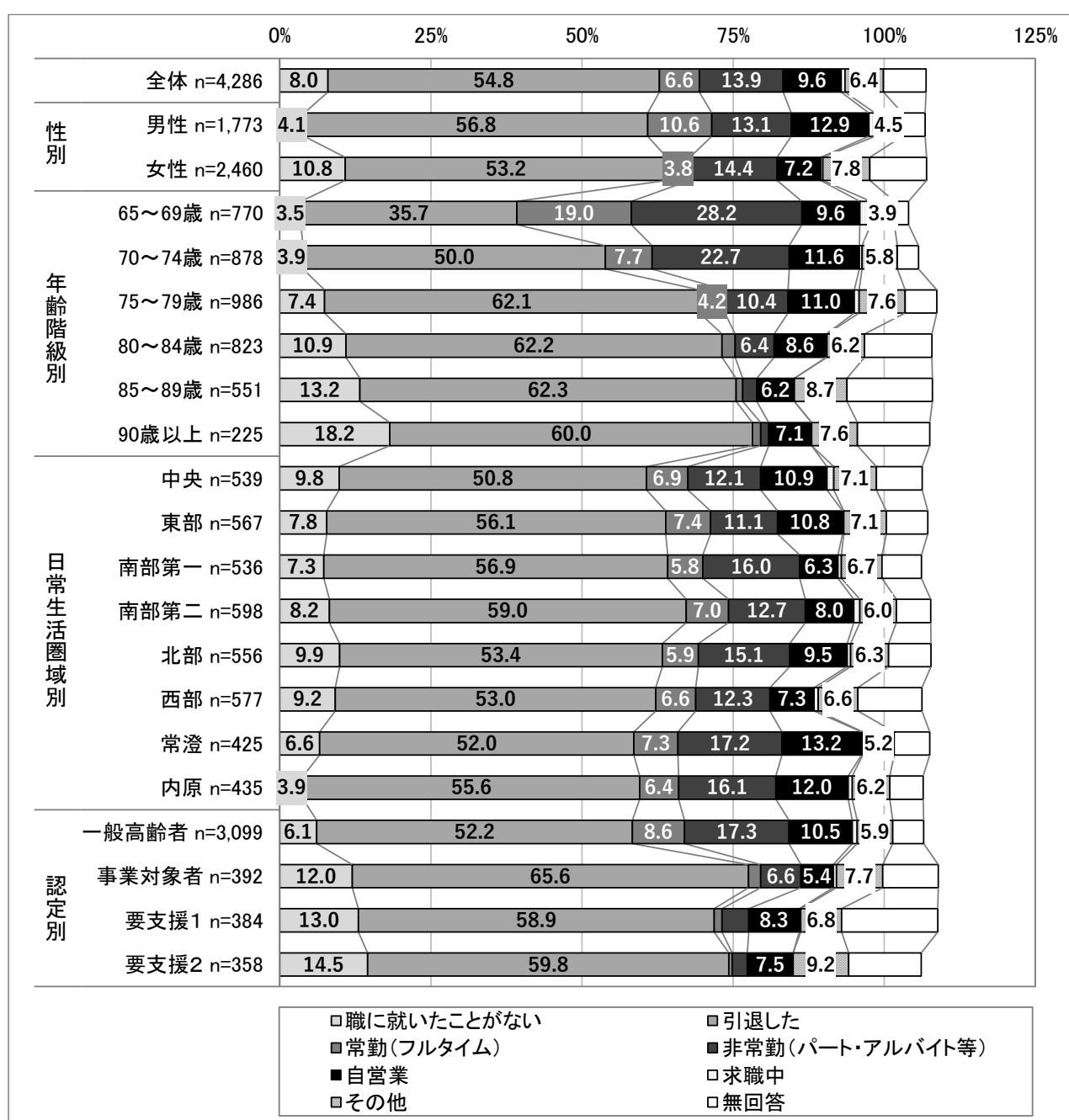
Q 1. 現在のあなたの就労状態はどれですか（いくつでも）

現在のあなたの就労状態については、全体では「引退した」が 54.8%で最も高く、次いで「非常勤（パート・アルバイト等）」が 13.9%、「自営業」が 9.6%となっています。

性別でみると、「常勤（フルタイム）」「非常勤（パート・アルバイト等）」「自営業」を合わせた『働いている』は、男性が 36.6%、女性が 25.4%で、男性が女性を 11.2 ポイント上回っています

年齢階級別でみると、『働いている』は、65～69 歳が 56.8%で最も高く、次いで 70～74 歳が 42.0%、75～79 歳が 25.6%となっています。

日常生活圏域別でみると、『働いている』は、常澄が 37.7%で最も高く、次いで内原が 34.5%、北部が 30.5%となっています。



【Q1において「引退した」の方のみ】

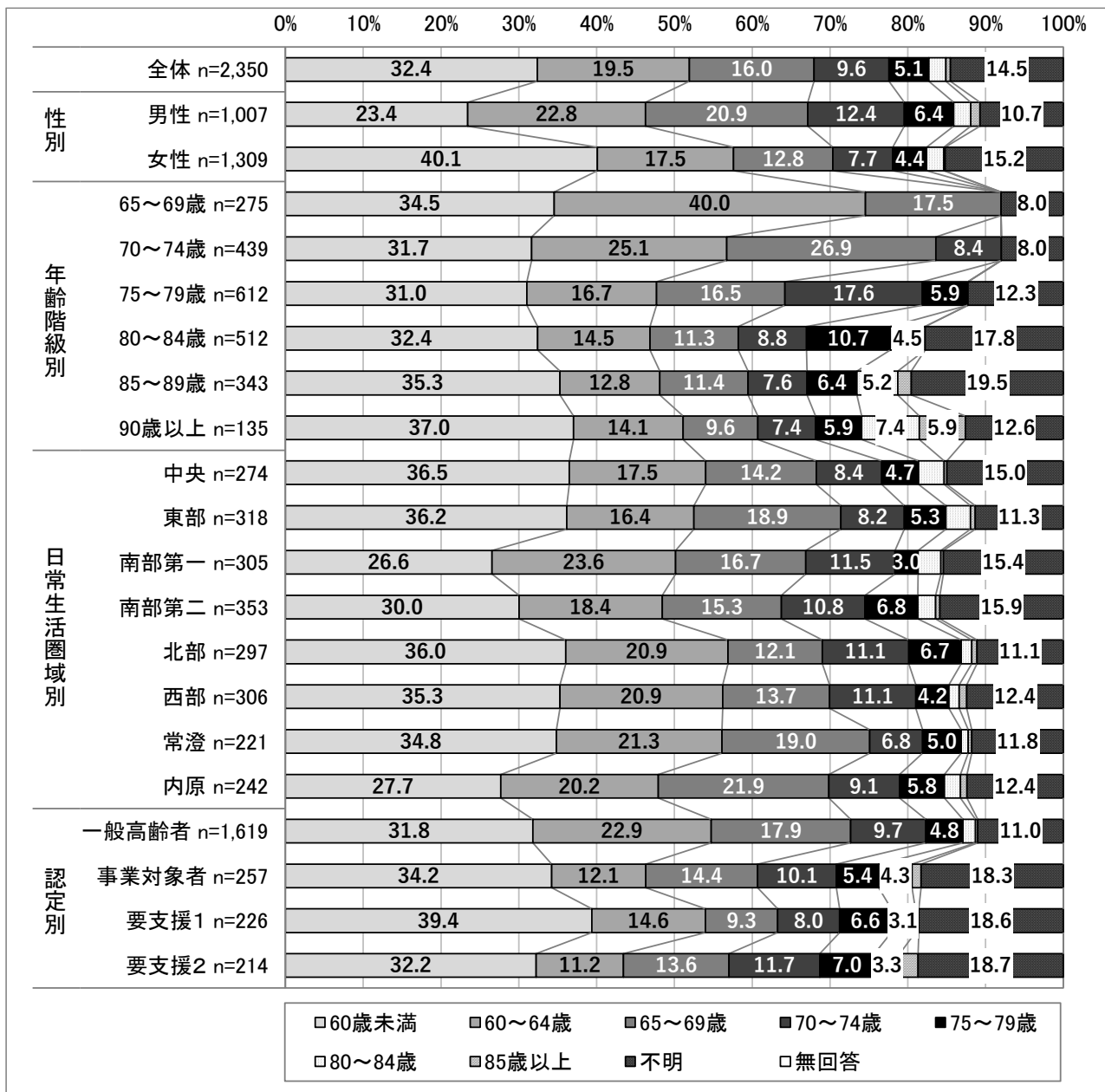
Q1-①. あなたはいつ引退しましたか

引退した年齢については、全体では「60歳未満」が32.4%で最も高く、次いで「60～64歳」が19.5%、「65～69歳」が16.0%となっています。

性別でみると、「60歳未満」は、男性が23.4%、女性が40.1%で、女性が男性を16.7ポイント上回っています。

年齢階級別でみると、「60歳未満」は、90歳以上が37.0%で最も高く、次いで85～89歳が35.3%、65～69歳が34.5%となっています。

日常生活圏域別でみると、「60歳未満」は、中央が36.5%で最も高く、次いで東部が36.2%、北部が36.0%となっています。



7. たすけあいについて

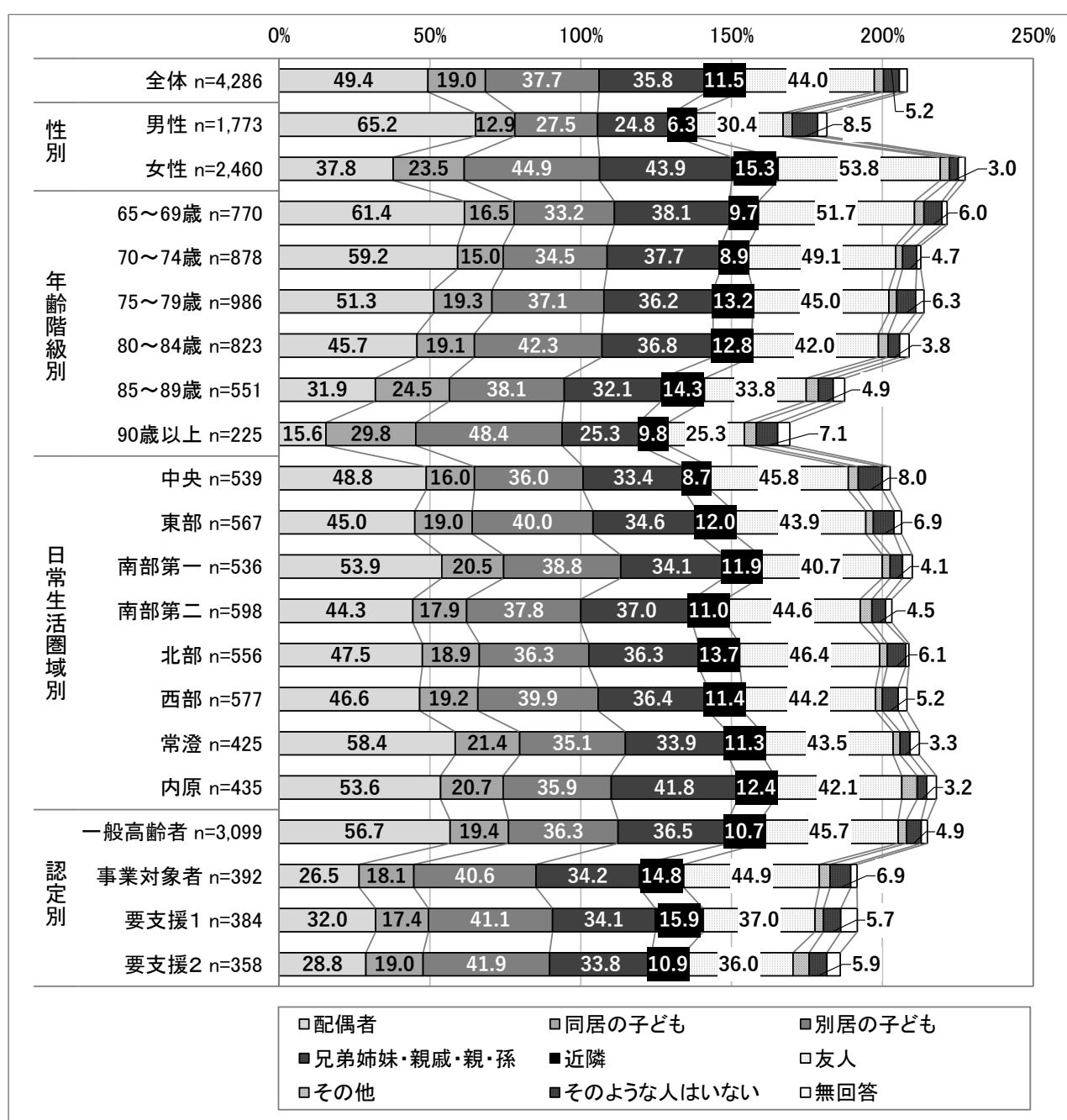
Q1. あなたの心配事や愚痴（ぐち）を聞いてくれる人（いくつでも）

あなたの心配事や愚痴を聞いてくれる人については、全体では「配偶者」が49.4%で最も高く、次いで「友人」が44.0%、「別居の子ども」が37.7%となっています。

性別でみると、「そのような人はいない」は、男性が8.5%、女性が3.0%で、男性が女性を5.5ポイント上回っています。

年齢階級別でみると、「そのような人はいない」は、90歳以上が7.1%で最も高く、次いで75～79歳が6.3%、65～69歳が6.0%となっています。

日常生活圏域別でみると、「そのような人はいない」は、中央が8.0%で最も高く、次いで東部が6.9%、北部が6.1%となっています。



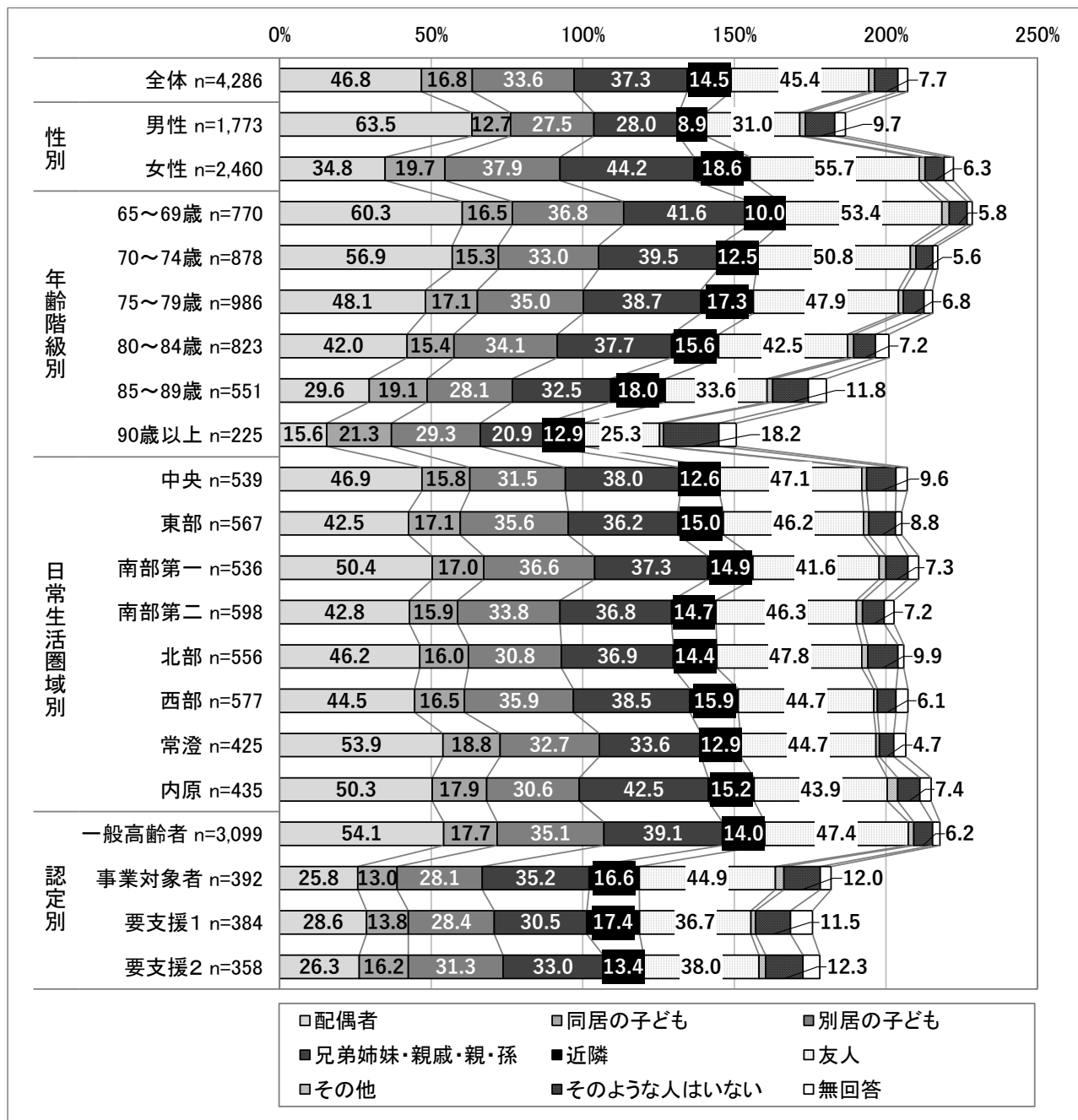
Q 2. 反対に、あなたが心配事や愚痴（ぐち）を聞いてあげる人（いくつでも）

あなたが心配事や愚痴を聞いてあげる人については、全体では「配偶者」が 46.8%で最も高く、次いで「友人」が 45.4%、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」が 37.3%となっています。

性別でみると、「そのような人はいない」は、男性が 9.7%、女性が 6.3%で、男性が女性を 3.4 ポイント上回っています。

年齢階級別でみると、「そのような人はいない」は、90 歳以上が 18.2%で最も高く、次いで 85～89 歳が 11.8%、80～84 歳が 7.2%となっています。

日常生活圏域別でみると、「そのような人はいない」は、北部が 9.9%で最も高く、次いで中央が 9.6%、東部が 8.8%となっています。



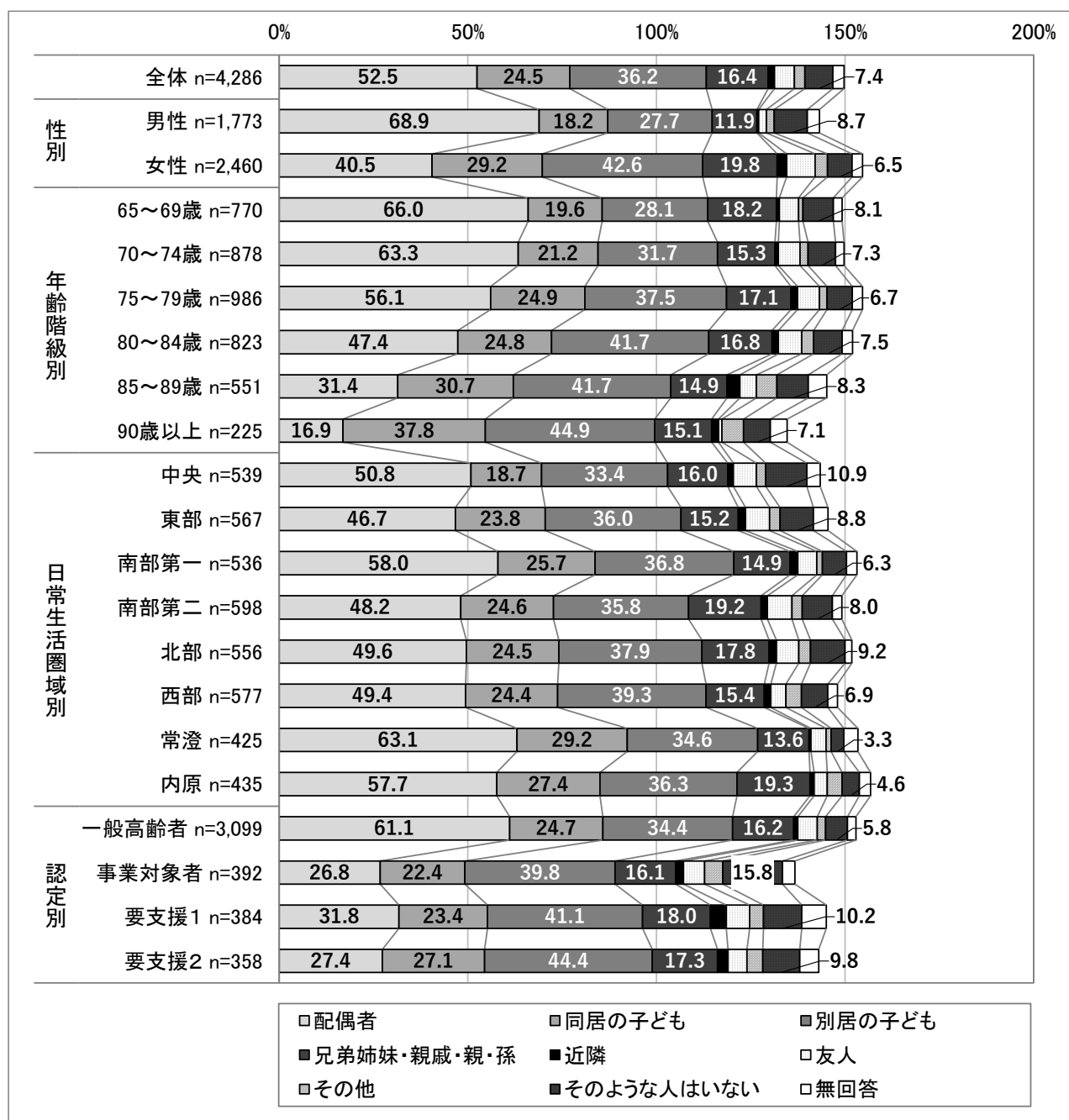
Q3. あなたが病気で数日間寝込んだときに、看病や世話をしてくれる人（いくつでも）

あなたが病気で数日間寝込んだときに、看病や世話をしてくれる人については、全体では「配偶者」が52.5%で最も高く、次いで「別居の子ども」が36.2%、「同居の子ども」が24.5%となっています。

性別でみると、「そのような人はいない」は、男性が8.7%、女性が6.5%で、男性が女性を2.2ポイント上回っています。

年齢階級別でみると、「そのような人はいない」は、85～89歳が8.3%で最も高く、次いで65～69歳が8.1%、80～84歳が7.5%となっています。

日常生活圏域別でみると、「そのような人はいない」は、中央が10.9%で最も高く、次いで北部が9.2%、東部が8.8%となっています。



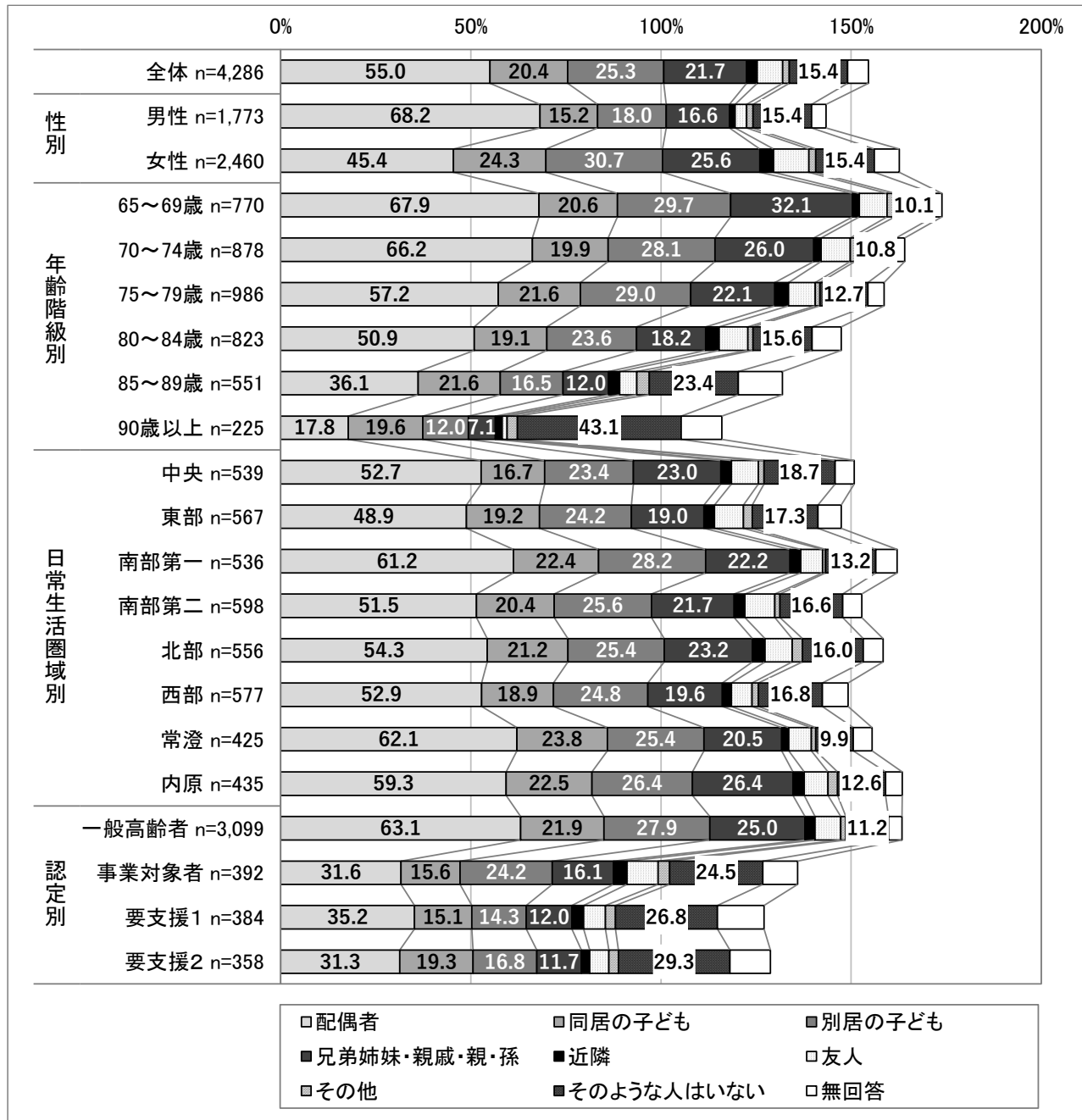
Q 4. 反対に、看病や世話をしてあげる人（いくつでも）

あなたが看病や世話をしてあげる人については、全体では「配偶者」が 55.0%で最も高く、次いで「別居の子ども」が 25.3%、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」が 21.7%となっています。

性別でみると、「そのような人はいない」は、差異はみられません。

年齢階級別でみると、「そのような人はいない」は、90歳以上が 43.1%で最も高く、次いで 85～89歳が 23.4%、80～84歳が 15.6%となっています。

日常生活圏域別でみると、「そのような人はいない」は、中央が 18.7%で最も高く、次いで東部が 17.3%、西部が 16.8%となっています。



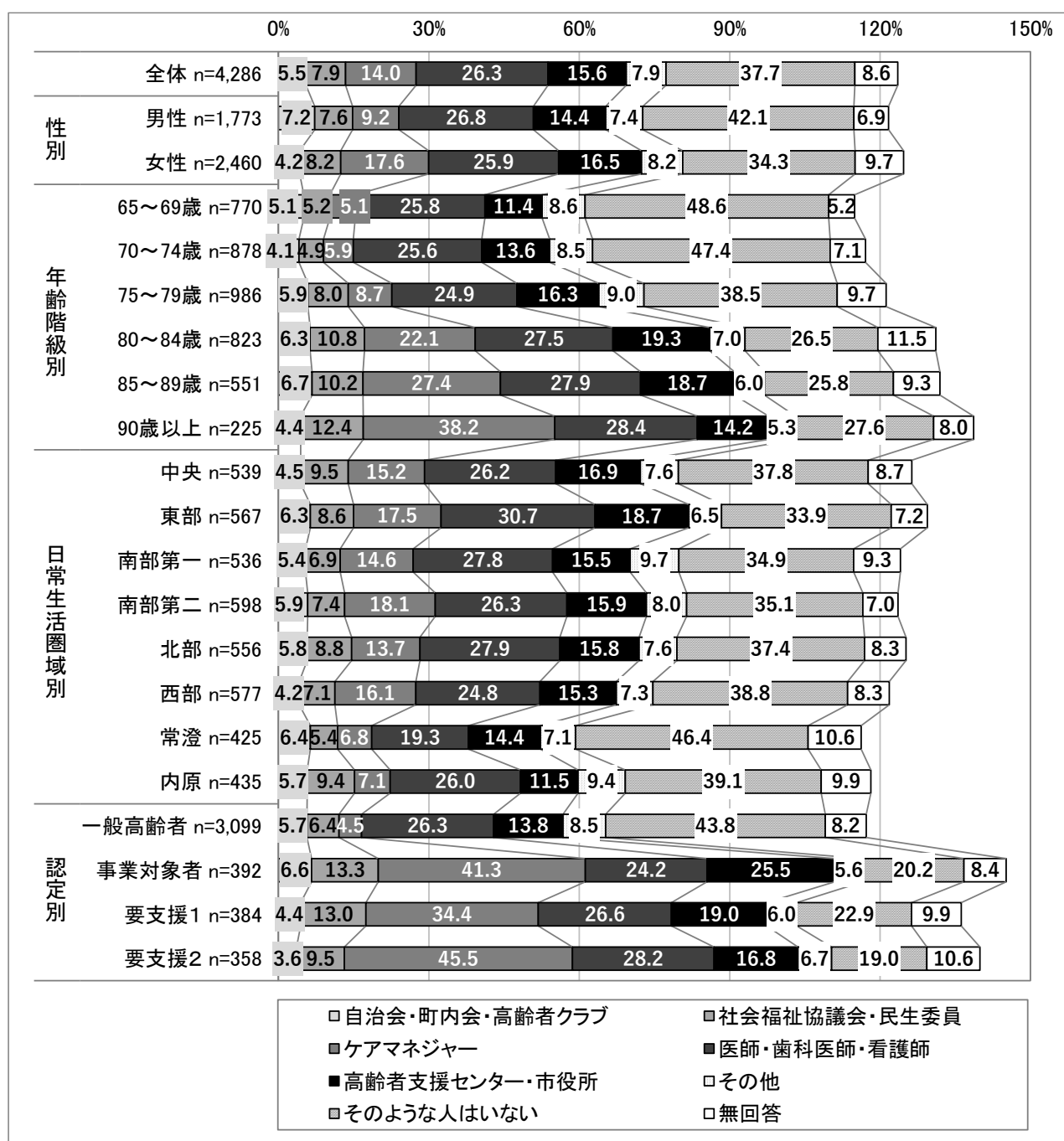
Q5. 家族や友人・知人以外で、何かあったときに相談する相手を教えてください（いくつでも）

家族や友人・知人以外で、何かあったときに相談する相手については、全体では「そのような人はいない」が37.7%で最も高く、次いで「医師・歯科医師・看護師」が26.3%、「高齢者支援センター・市役所」が15.6%となっています。

性別でみると、「そのような人はいない」は、男性が42.1%、女性が34.3%で、男性が女性を7.8ポイント上回っています。

年齢階級別でみると、「そのような人はいない」は、65～69歳が48.6%で最も高く、次いで70～74歳が47.4%、75～79歳が38.5%となっています。

日常生活圏域別でみると、「そのような人はいない」は、常澄が46.4%で最も高く、次いで内原が39.1%、西部が38.8%となっています。



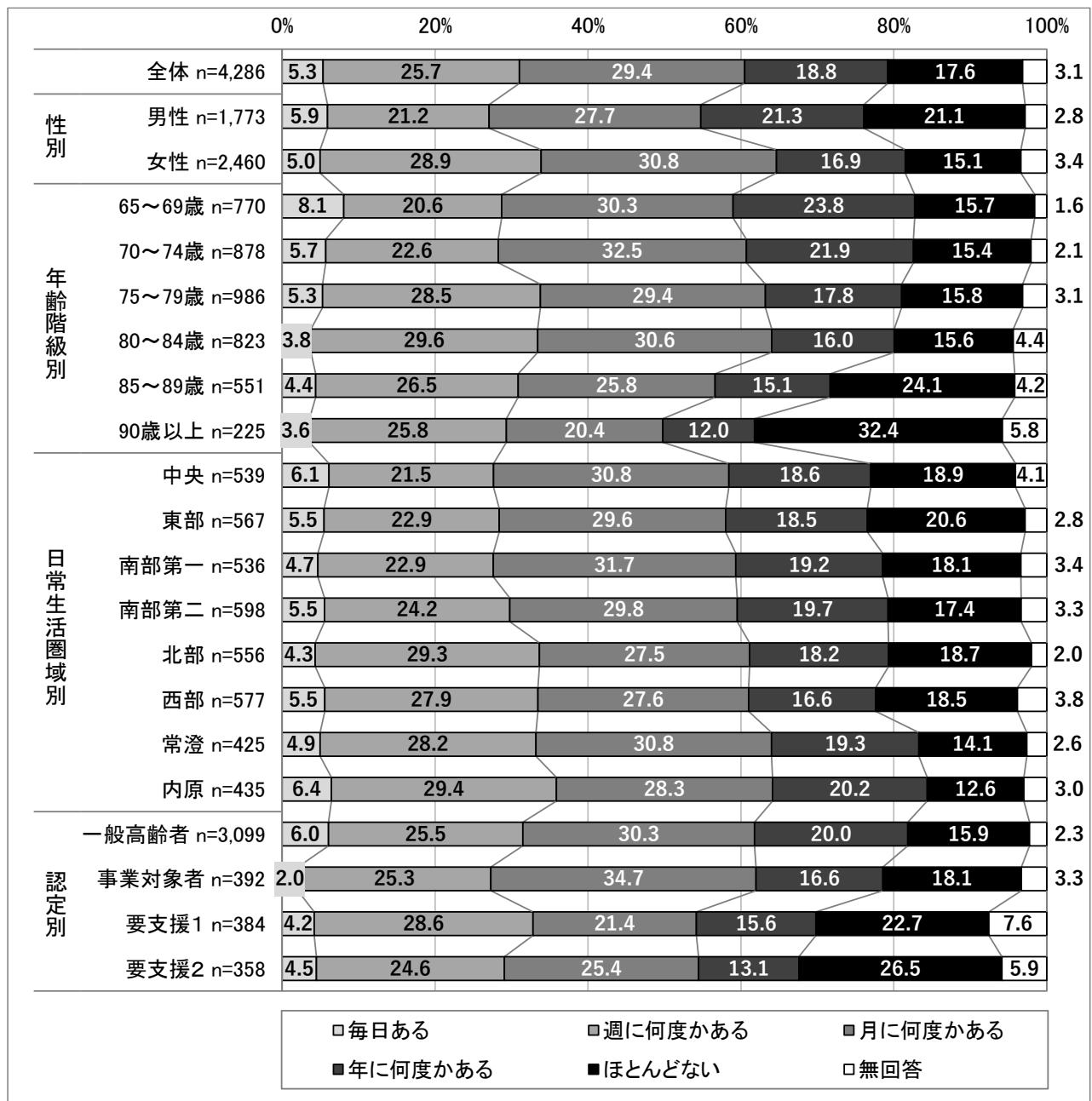
Q 6. 友人・知人と会う頻度はどれくらいですか（1つのみ）

友人・知人と会う頻度については、全体では「月に何度かある」が 29.4%で最も高く、次いで「週に何度かある」が 25.7%、「年に何度かある」が 18.8%となっています。

性別でみると、「毎日ある」「週に何度かある」を合わせた『よく会っている』は、男性が 27.1%、女性が 33.9%で、女性が男性を 6.8 ポイント上回っています

年齢階級別でみると、『よく会っている』は、75～79 歳が 33.8%で最も高く、次いで 80～84 歳が 33.4%、85～89 歳が 30.9%となっています。

日常生活圏域別でみると、『よく会っている』は、内原が 35.8%で最も高く、次いで北部が 33.6%、西部が 33.4%となっています。



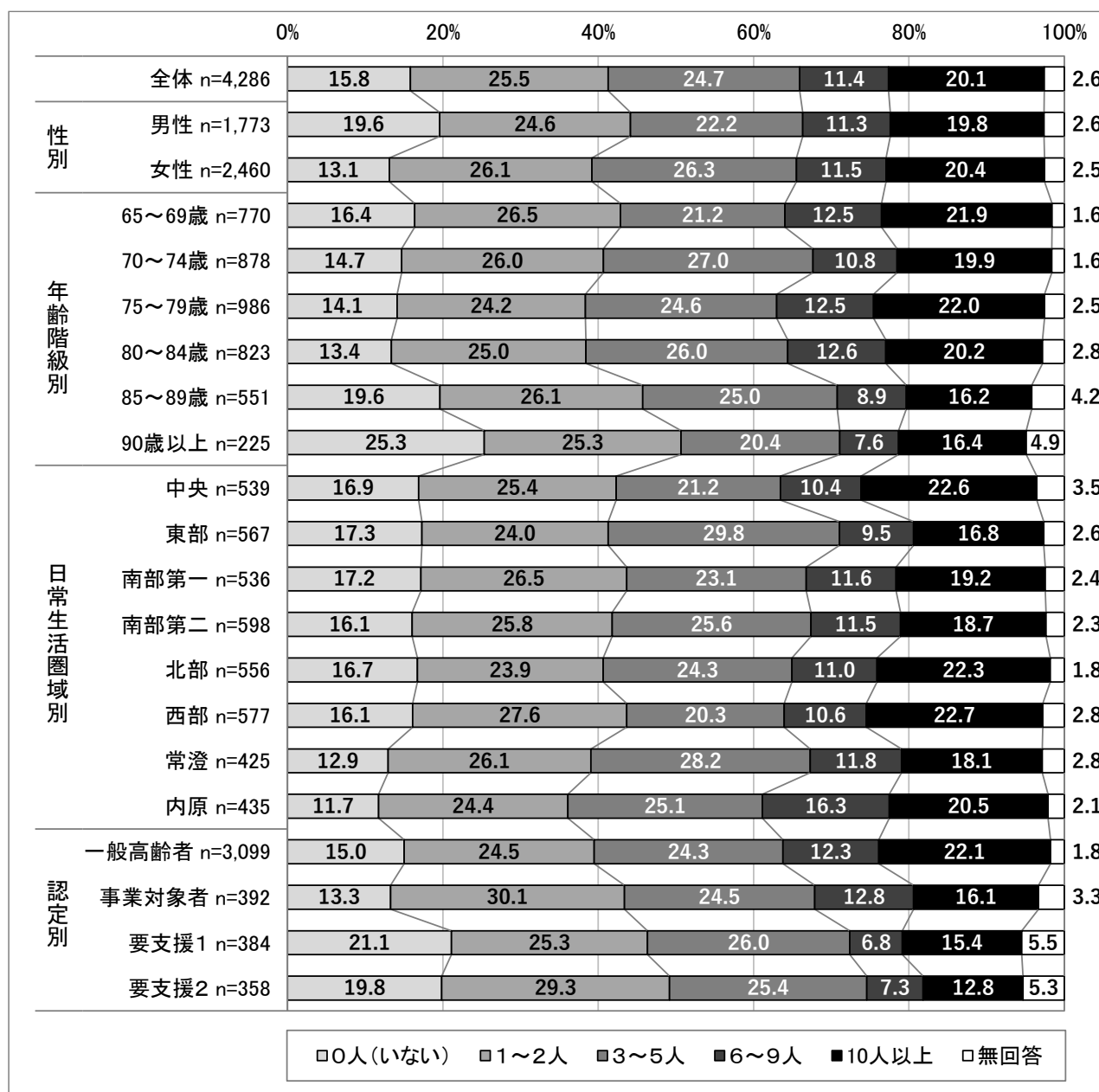
Q7. この1か月間、何人の友人・知人と会いましたか**同じ人には何度会っても1人と数えることとします（1つのみ）**

この1か月間、何人の友人・知人と会ったかについては、全体では「1～2人」が25.5%で最も高く、次いで「3～5人」が24.7%、「10人以上」が20.1%となっています。

性別でみると、「0人（いない）」は、男性が19.6%、女性が13.1%で、男性が女性を6.5ポイント上回っています

年齢階級別でみると、「0人（いない）」は、90歳以上が25.3%で最も高く、次いで85～89歳が19.6%、65～69歳が16.4%となっています。

日常生活圏域別でみると、「0人（いない）」は、東部が17.3%で最も高く、次いで南部第一が17.2%、中央が16.9%となっています。



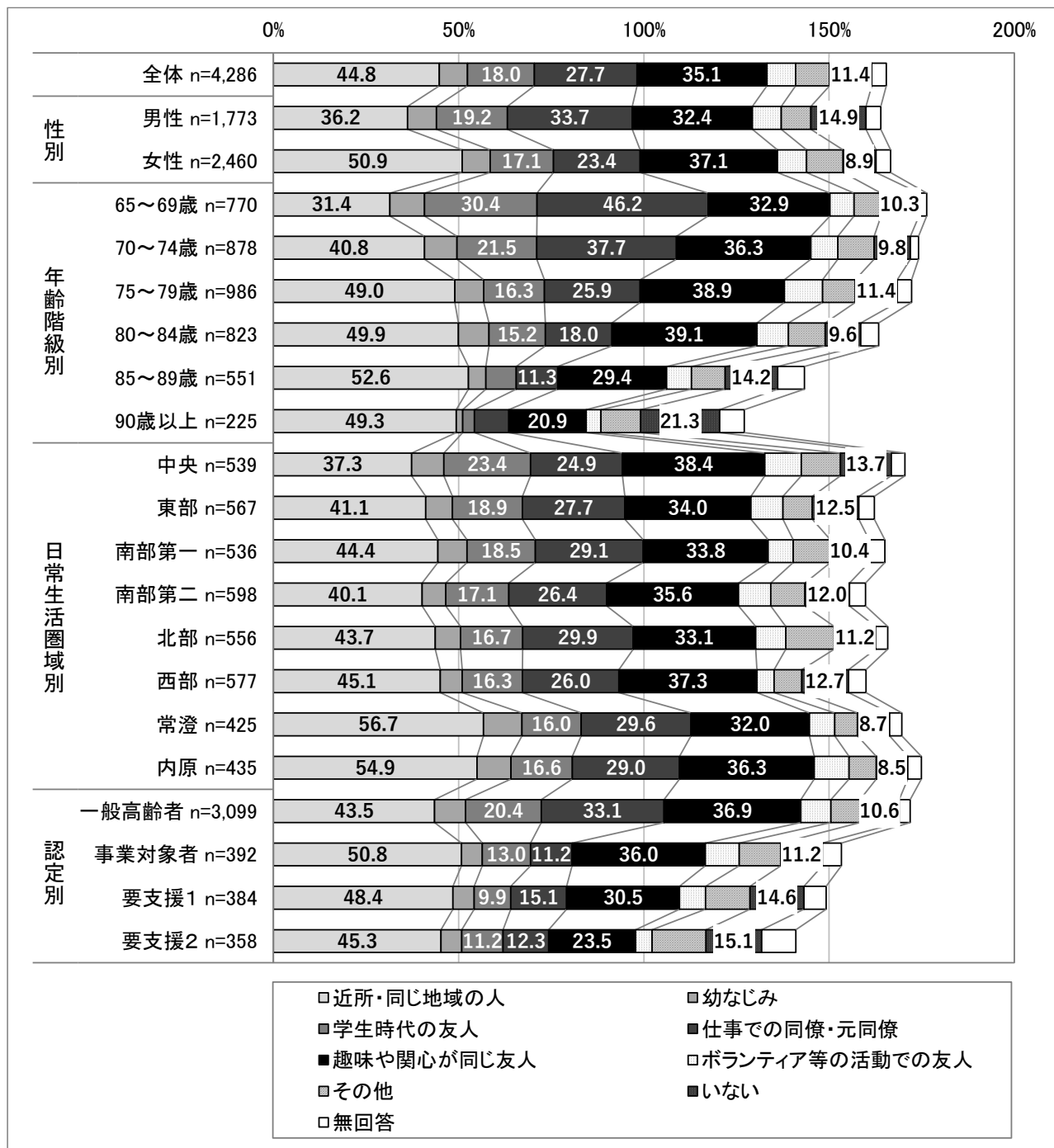
Q 8. よく会う友人・知人はどんな関係の人ですか（いくつでも）

よく会う友人・知人の関係性については、全体では「近所・同じ地域の人」が 44.8%で最も高く、次いで「趣味や関心が同じ友人」が 35.1%、「仕事での同僚・元同僚」が 27.7%となっています。

性別でみると、「いない」は、男性が 14.9%、女性が 8.9%で、男性が女性を 6.0 ポイント上回っています

年齢階級別でみると、「いない」は、90 歳以上が 21.3%で最も高く、次いで 85～89 歳が 14.2%、75～79 歳が 11.4%となっています。

日常生活圏域別でみると、「いない」は、中央が 13.7%で最も高く、次いで西部が 12.7%、東部が 12.5%となっています。



8. 健康について

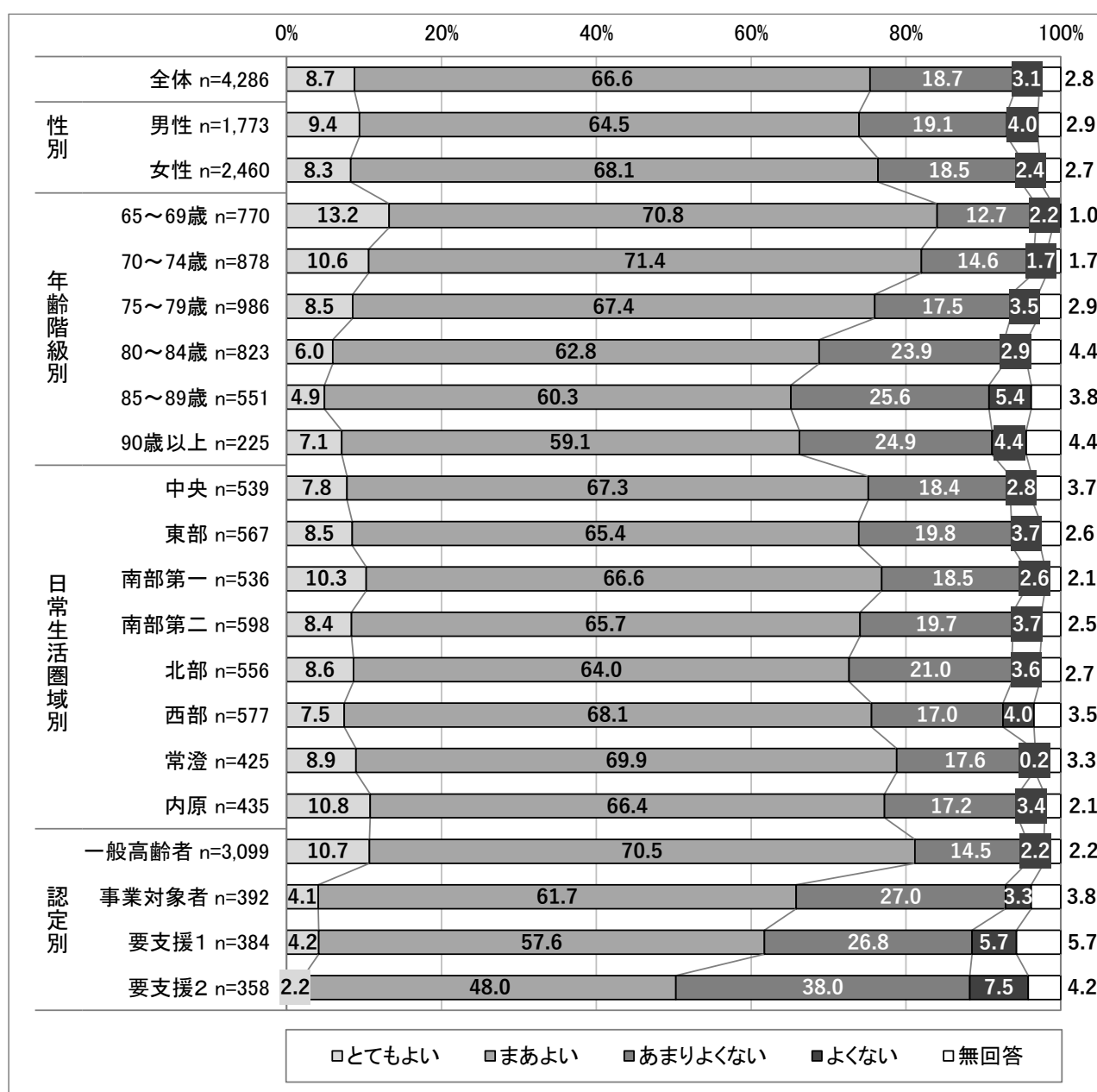
Q 1. 現在のあなたの健康状態はいかがですか（1つのみ）

現在の健康状態については、全体では「まあよい」が 66.6%で最も高く、次いで「あまりよくない」が 18.7%、「とてもよい」が 8.7%、「よくない」が 3.1%となっています。

性別でみると、「あまりよくない」「よくない」を合わせた『よくない』は、男性が 23.1%、女性が 20.9%で、男性が女性を 2.2 ポイント上回っています

年齢階級別でみると、『よくない』は、85～89 歳が 31.0%で最も高く、次いで 90 歳以上が 29.3%、80～84 歳が 26.8%となっています。

日常生活圏域別でみると、『よくない』は、北部が 24.6%で最も高く、次いで東部が 23.5%、南部第二が 23.4%となっています。

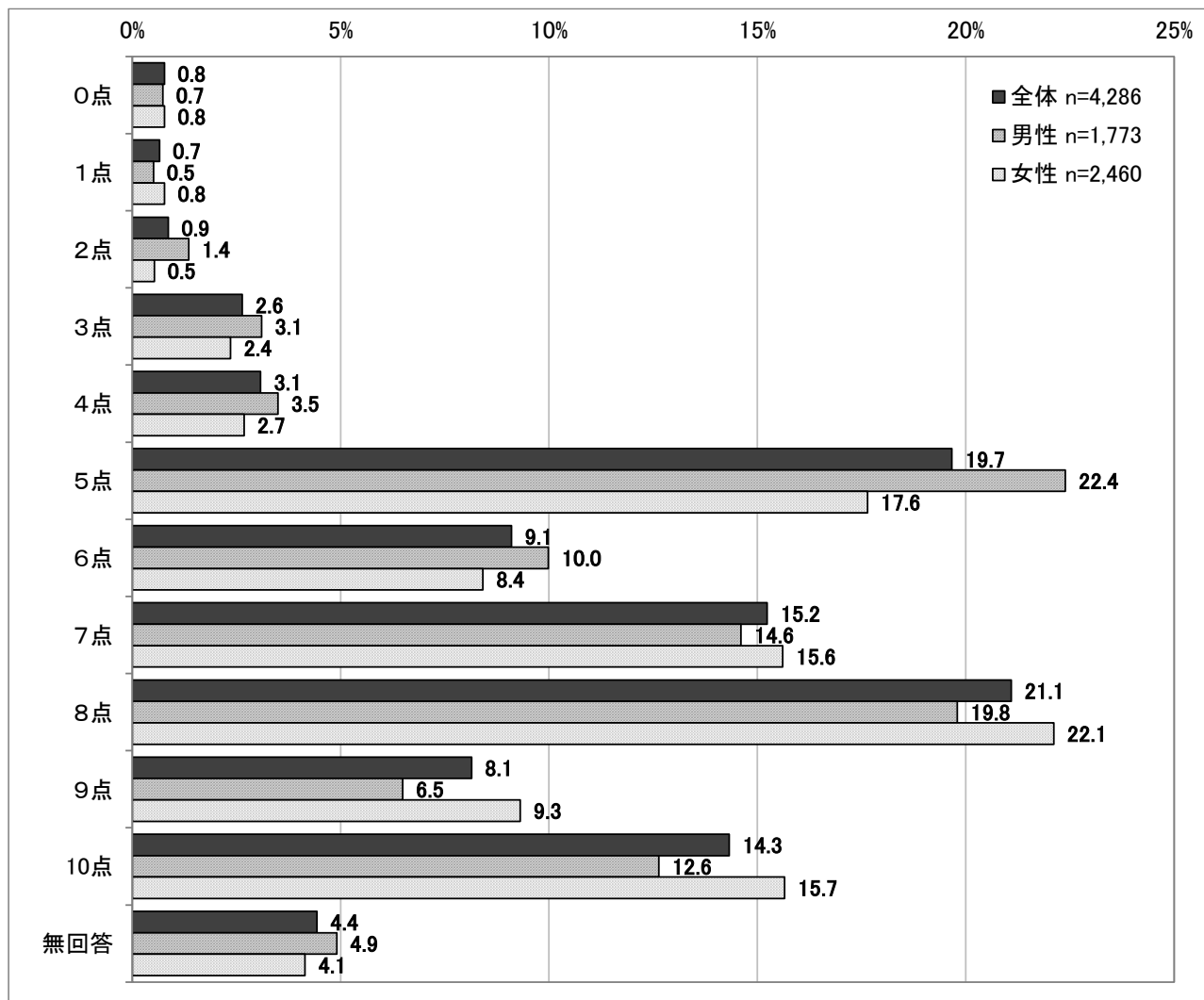


Q 2. あなたは、現在どの程度幸せですか**(「とても不幸」を 0 点、「とても幸せ」を 10 点として、ご記入ください)**

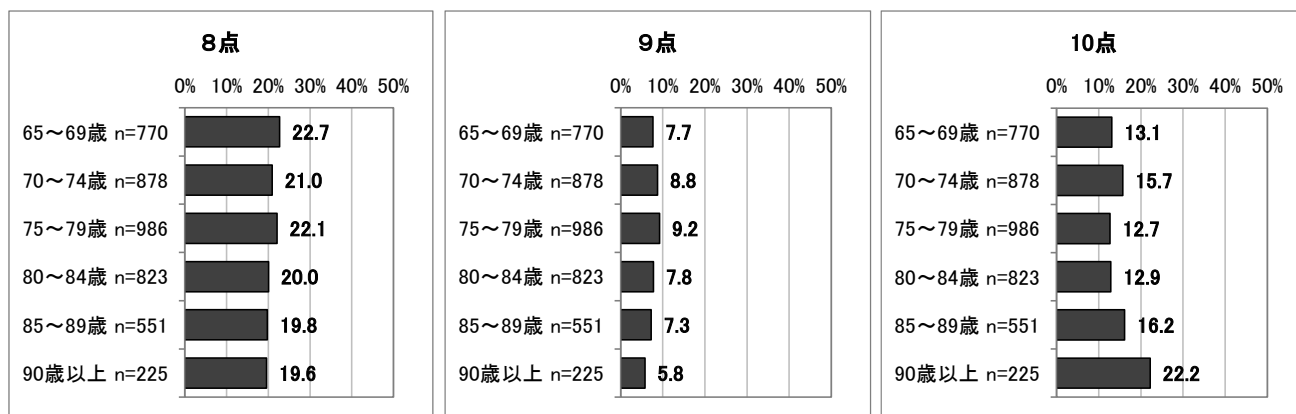
現在の幸福感については、全体では「8 点」が 21.1%で最も高く、次いで「5 点」が 19.7%、「7 点」が 15.2%、「10 点」が 14.3%、「6 点」が 9.1%となっています。「5 点」～「10 点」の合計値は 87.5%となっています。

男性でみると、「5 点」が 22.4%で最も高く、次いで「8 点」が 19.8%、「7 点」が 14.6%、「10 点」が 12.6%となっています。

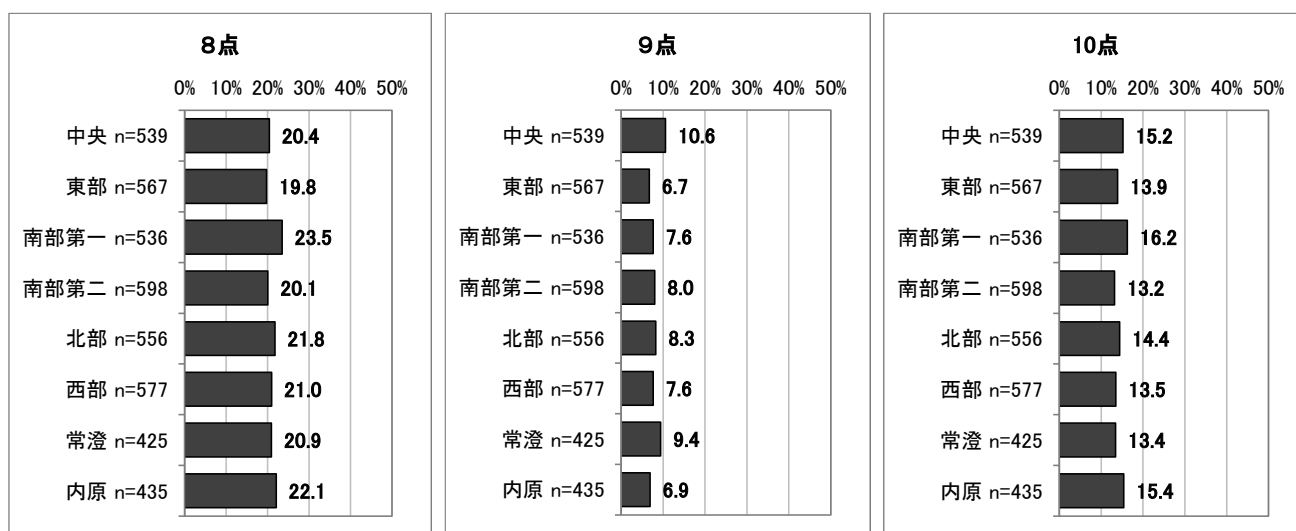
女性でみると、「8 点」が 22.1%で最も高く、次いで「5 点」が 17.6%、「10 点」が 15.7%、「7 点」が 15.6%となっています。



年齢階級別でみると、幸福感が高いと判断できる「8点」～「10点」の合計値は、90歳以上が47.6%で最も高く、次いで70～74歳が45.5%、75～79歳が44.0%となっています。



日常生活圏域別でみると、幸福感が高いと判断できる「8点」～「10点」の合計値は、南部第一が47.3%で最も高く、次いで中央が46.2%、北部が44.5%となっています。



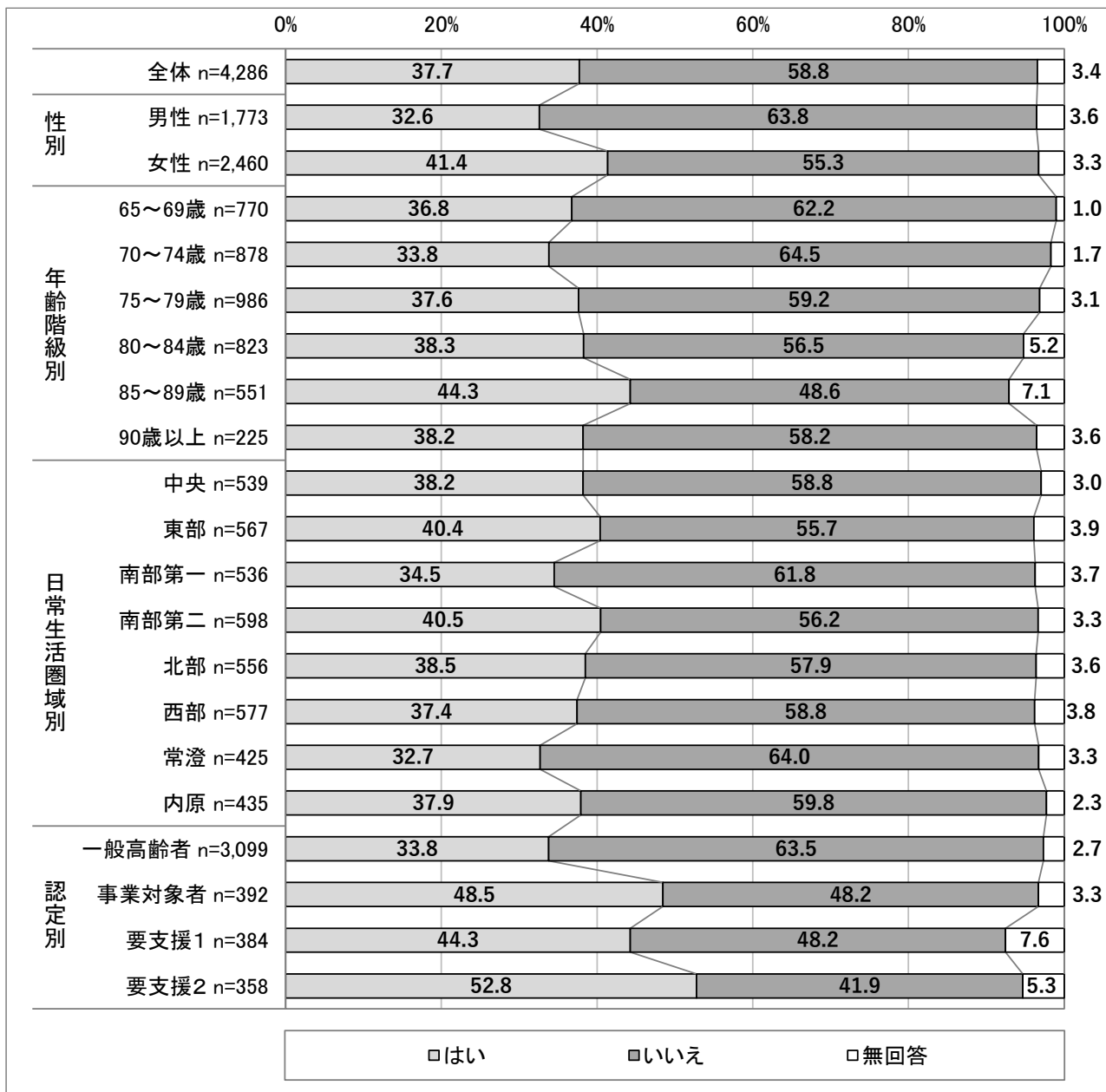
Q3. この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがありましたか (1つのみ)

この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがあったかについては、全体では「はい」が37.7%、「いいえ」が58.8%となっています。

性別でみると、「はい」は、男性が32.6%、女性が41.4%で、女性が男性を8.8ポイント上回っています

年齢階級別でみると、「はい」は、85～89歳が44.3%で最も高く、次いで80～84歳が38.3%、90歳以上が38.2%となっています。

日常生活圏域別でみると、「はい」は、南部第二が40.5%で最も高く、次いで東部が40.4%、北部が38.5%となっています。



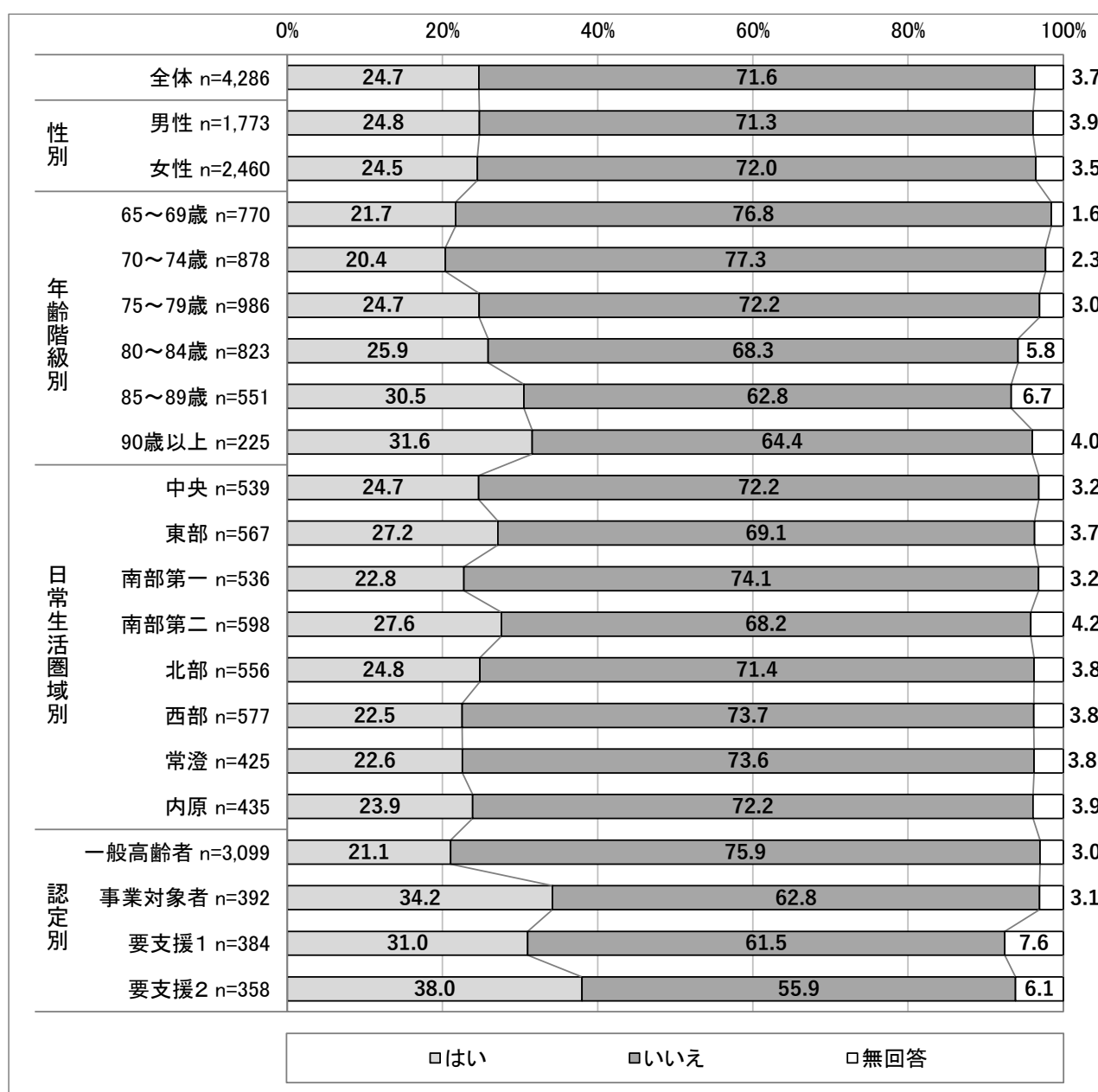
Q4. この1か月間、どうしても物事に対して興味がわかない、あるいは心から楽しめない感じがよくありましたか（1つのみ）

この1か月間、物事に対して興味がわかない、楽しめない感じがあったかについては、全体では「はい」が24.7%、「いいえ」が71.6%となっています。

性別でみると、「はい」は、男性が24.8%、女性が24.5%で、男性が女性を0.3ポイント上回っています

年齢階級別でみると、「はい」は、90歳以上が31.6%で最も高く、次いで85～89歳が30.5%、80～84歳が25.9%となっています。

日常生活圏域別でみると、「はい」は、南部第二が27.6%で最も高く、次いで東部が27.2%、北部が24.8%となっています。



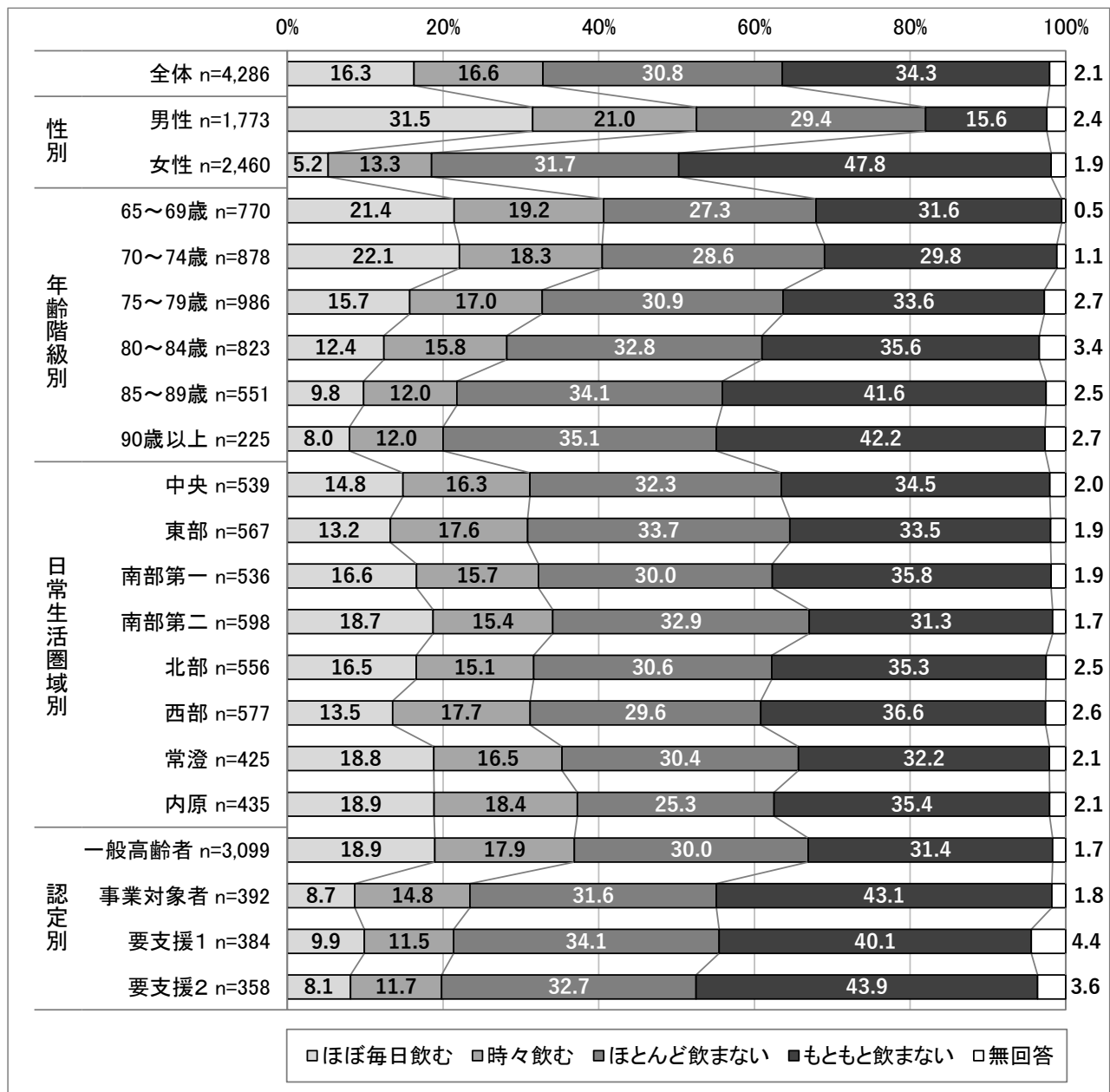
Q 5. お酒は飲みますか（1つのみ）

飲酒状況については、全体では「もともと飲まない」が 34.3%で最も高く、次いで「ほとんど飲まない」が 30.8%、「時々飲む」が 16.6%、「ほぼ毎日飲む」が 16.3%となっています。

性別でみると、「ほぼ毎日飲む」「時々飲む」を合わせた『飲む』は、男性が 52.5%、女性が 18.5%で、男性が女性を 34.0 ポイント上回っています

年齢階級別でみると、『飲む』は、65～69 歳が 40.6%で最も高く、次いで 70～74 歳が 40.4%、75～79 歳が 32.7%となっています。

日常生活圏域別でみると、『飲む』は、内原が 37.3%で最も高く、次いで常澄が 35.3%、南部第二が 34.1%となっています。



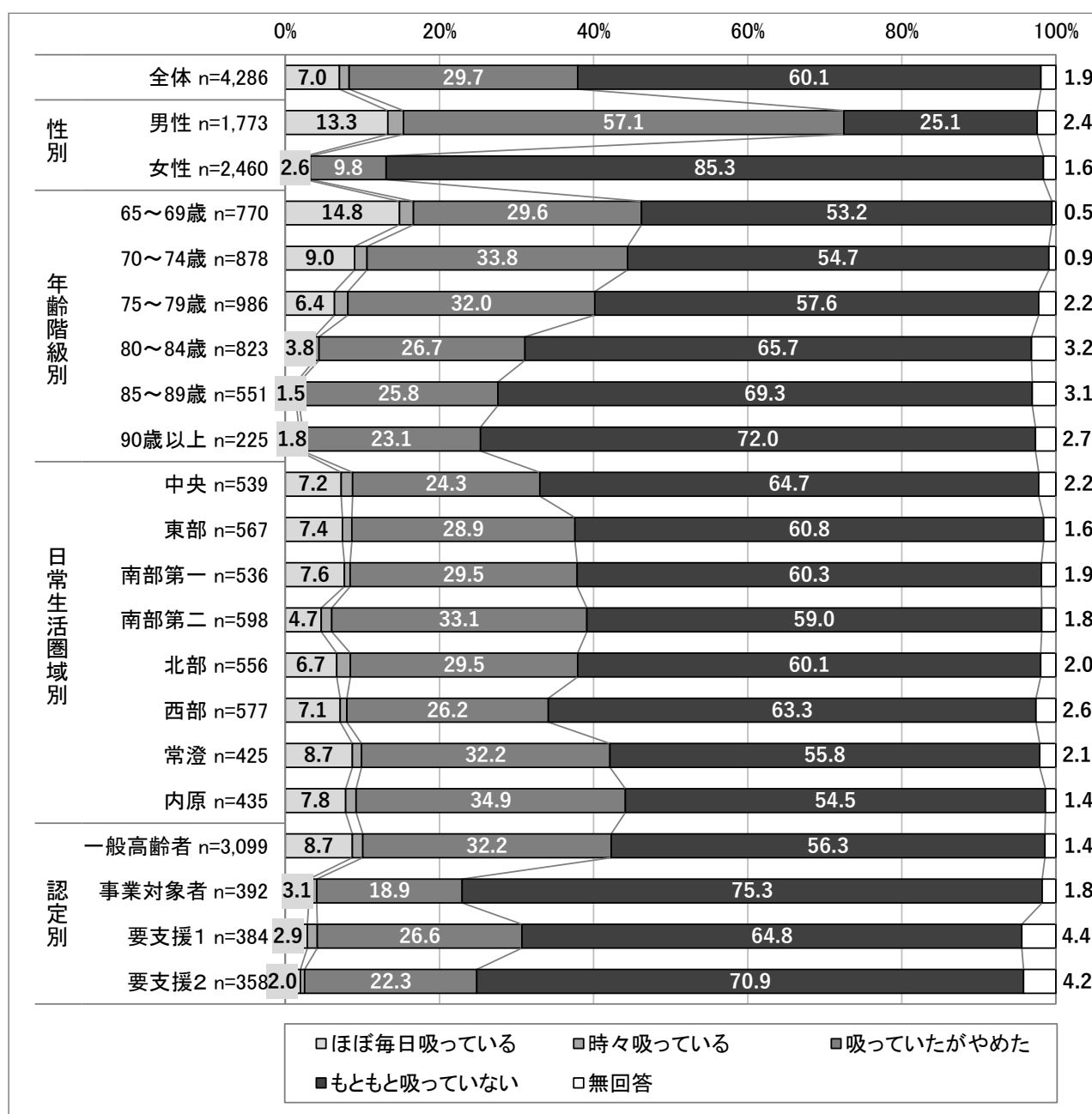
Q 6. タバコは吸っていますか（1つのみ）

喫煙状況については、全体では「もともと吸っていない」が 60.1%で最も高く、次いで「吸っていたがやめた」が 29.7%、「ほぼ毎日吸っている」が 7.0%となっています。

性別でみると、「ほぼ毎日吸っている」は、男性が 13.3%、女性が 2.6%で、男性が女性を 10.7 ポイント上回っています

年齢階級別でみると、「ほぼ毎日吸っている」は、65～69 歳が 14.8%で最も高く、次いで 70～74 歳が 9.0%、75～79 歳が 6.4%となっています。

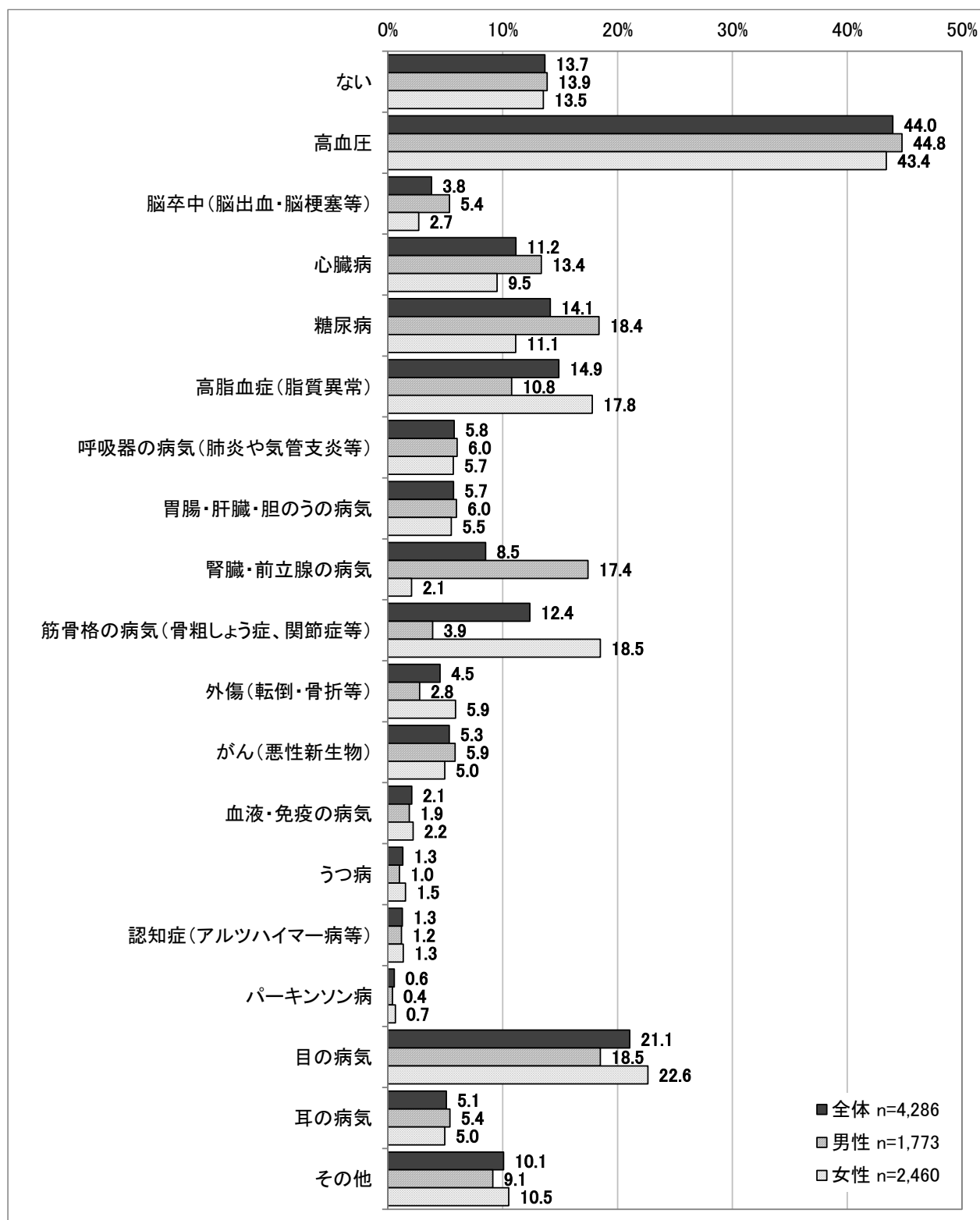
日常生活圏域別でみると、「ほぼ毎日吸っている」は、常澄が 8.7%で最も高く、次いで内原が 7.8%、南部第一が 7.6%となっています。



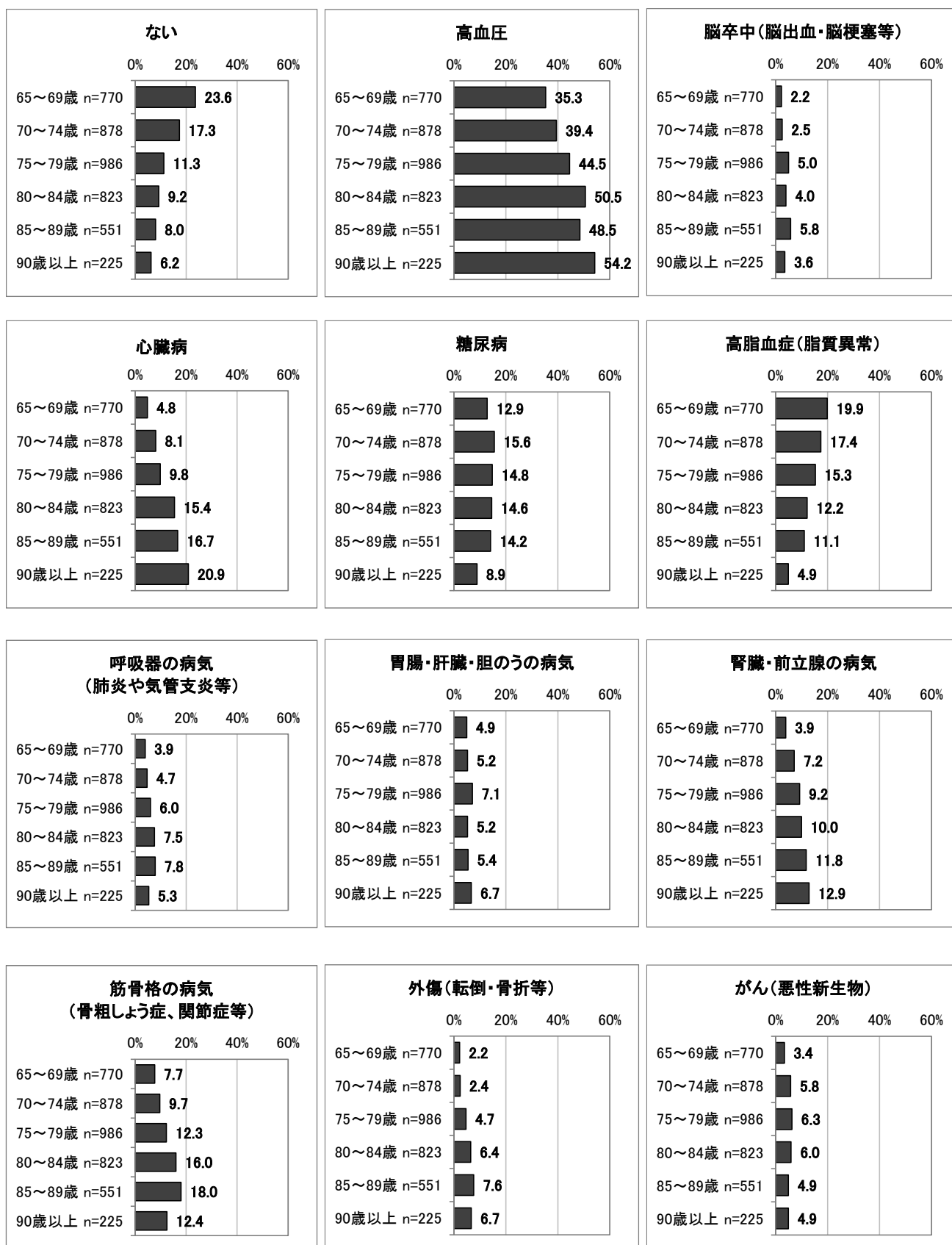
Q7. 現在治療中、または後遺症のある病気はありますか（いくつでも）

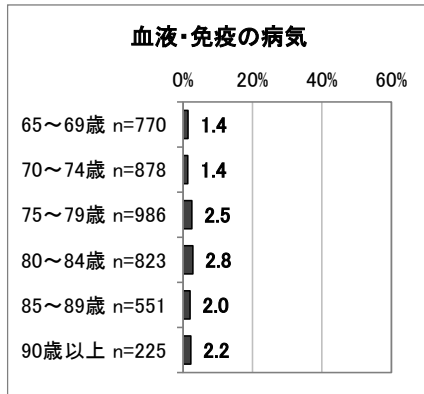
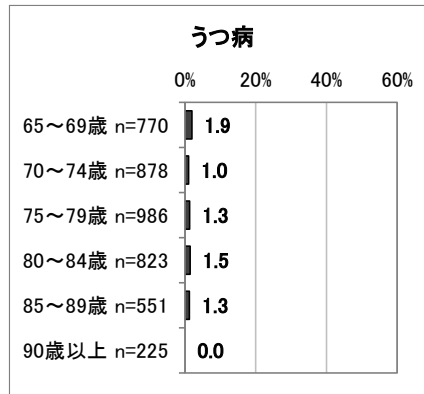
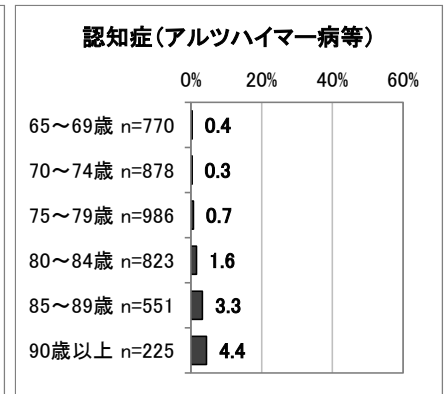
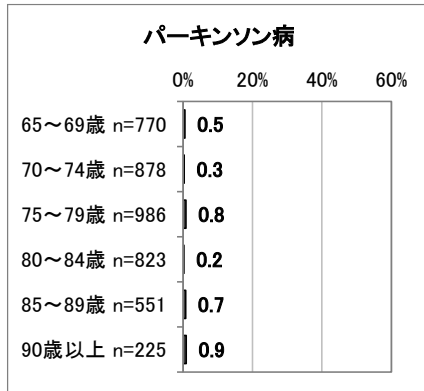
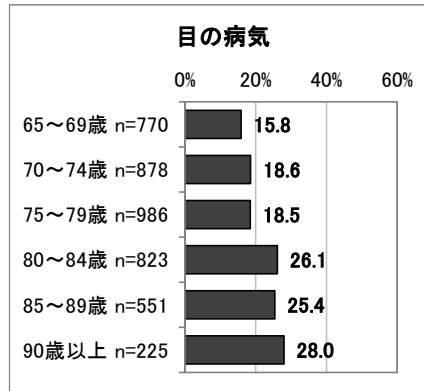
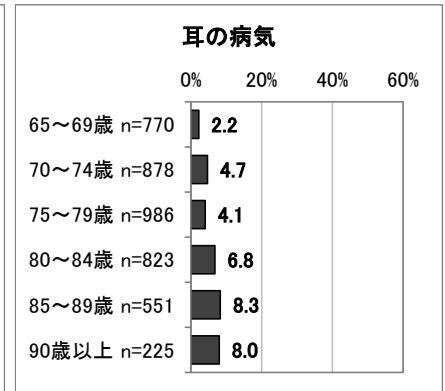
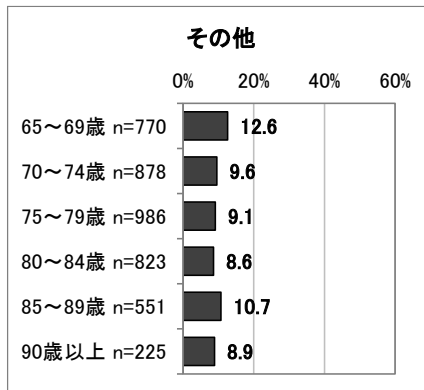
現在治療中、または後遺症のある病気があるかについては、全体では「高血圧」が44.0%で最も高く、次いで「目の病気」が21.1%、「高脂血症（脂質異常）」が14.9%となっています。

性別でみると、男性では、「高血圧」が44.8%で最も高く、次いで「目の病気」が18.5%、「糖尿病」が18.4%となっています。女性では、「高血圧」が43.4%で最も高く、次いで「目の病気」が22.6%、「筋骨格の病気（骨粗しょう症、関節症等）」が18.5%となっています。

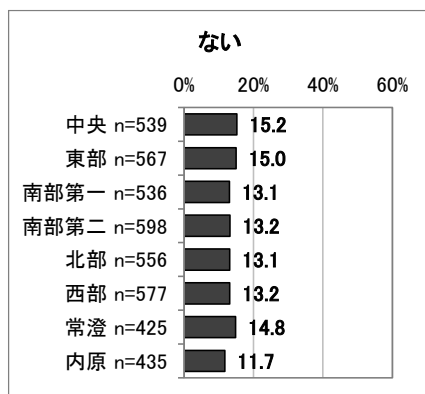
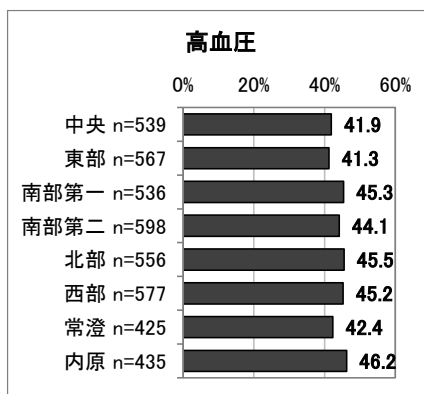
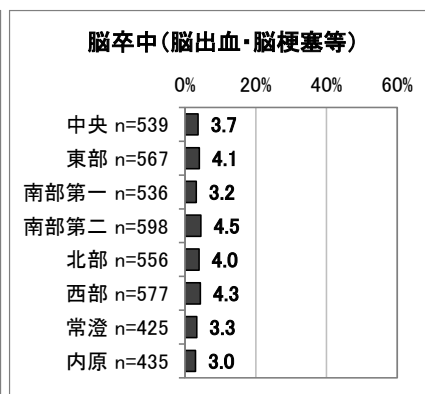
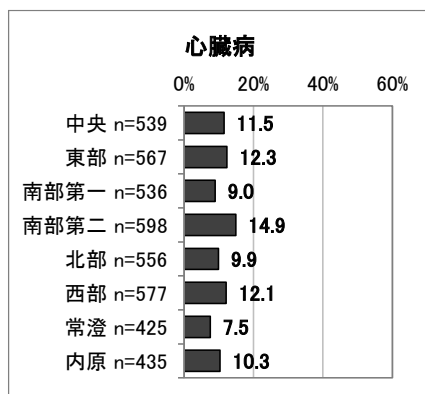
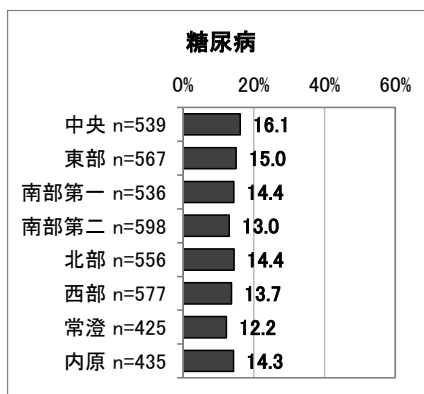
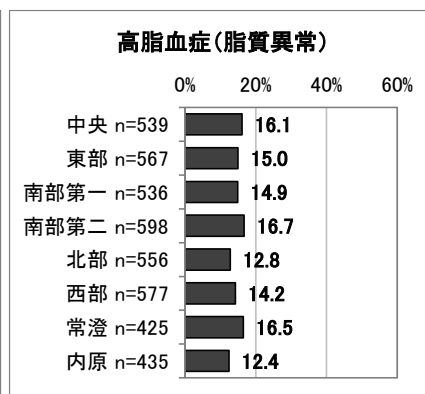
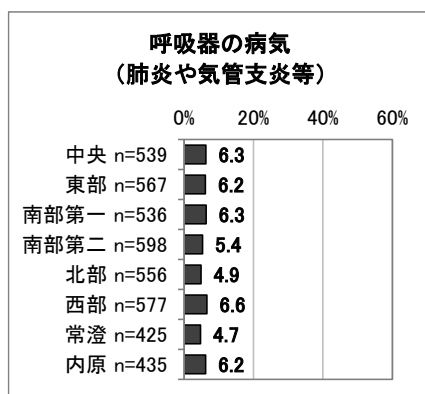
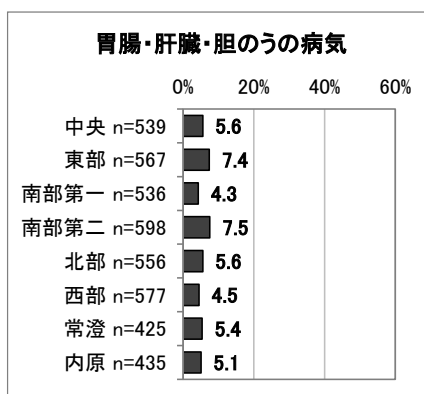
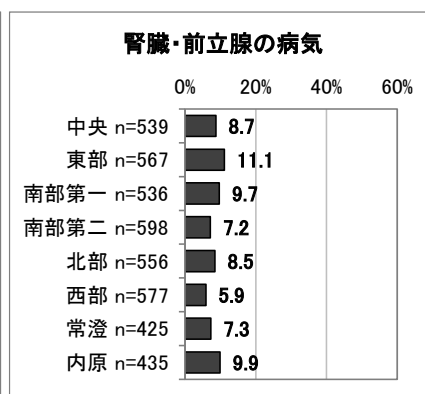
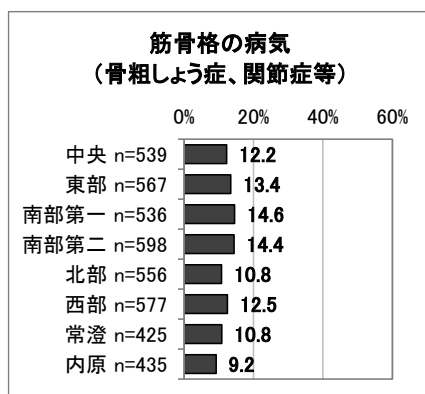
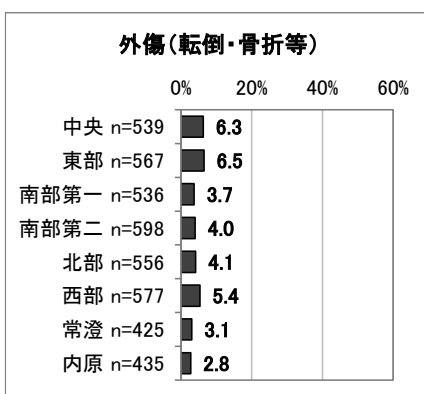
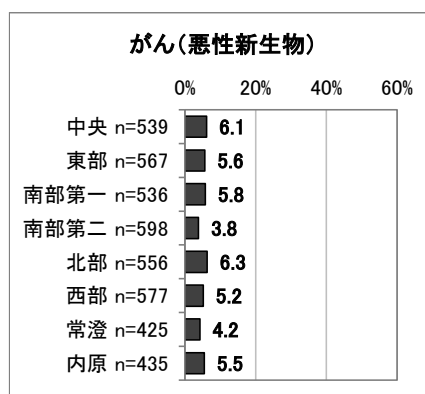


現在治療中、または後遺症のある病気があるかの上位3項目を年齢階級別でみると、「高血圧」は、90歳以上が54.2%で最も高く、次いで80～84歳が50.5%、85～89歳が48.5%となっています。「目の病気」では、90歳以上が28.0%で最も高く、次いで80～84歳が26.1%、85～89歳が25.4%となっています。「高脂血症（脂質異常）」では、65～69歳が19.9%で最も高く、次いで70～74歳が17.4%、75～79歳が15.3%となっています。

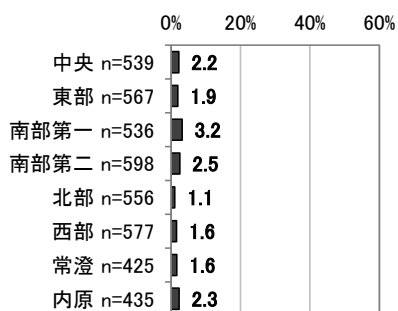




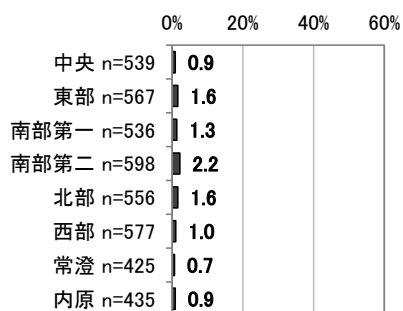
現在治療中、または後遺症のある病気があるかの上位3項目を日常生活圏域別でみると、「高血圧」は、内原が46.2%で最も高く、次いで北部が45.5%、南部第一が45.3%となっています。「目の病気」では、南部第二が25.6%で最も高く、次いで中央が23.9%、西部が21.7%となっています。「高脂血症（脂質異常）」では、南部第二が16.7%で最も高く、次いで常澄が16.5%、中央が16.1%となっています。



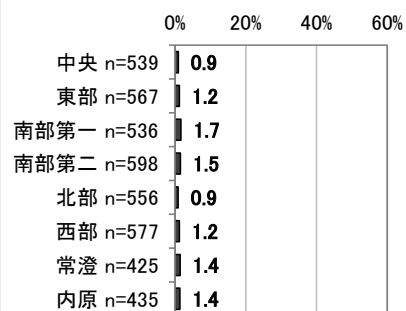
血液・免疫の病気



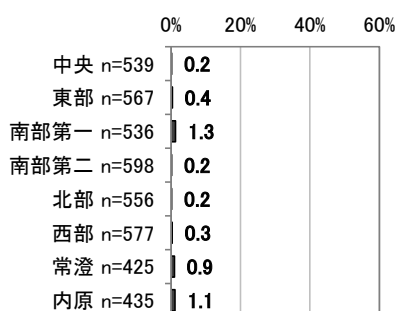
うつ病



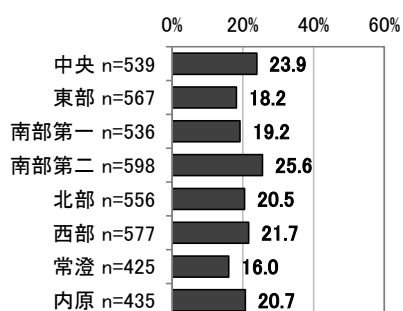
認知症(アルツハイマー病等)



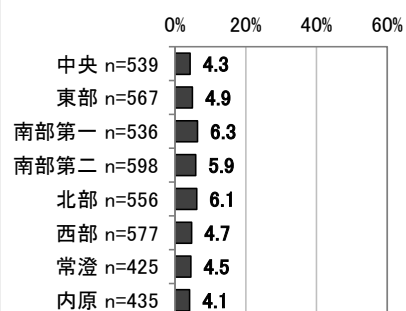
パーキンソン病



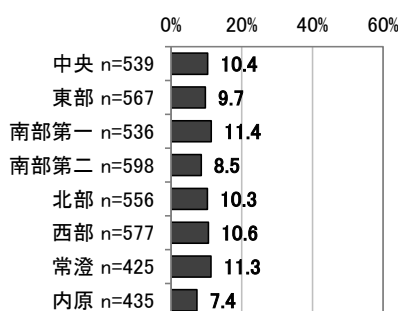
目の病気



耳の病気



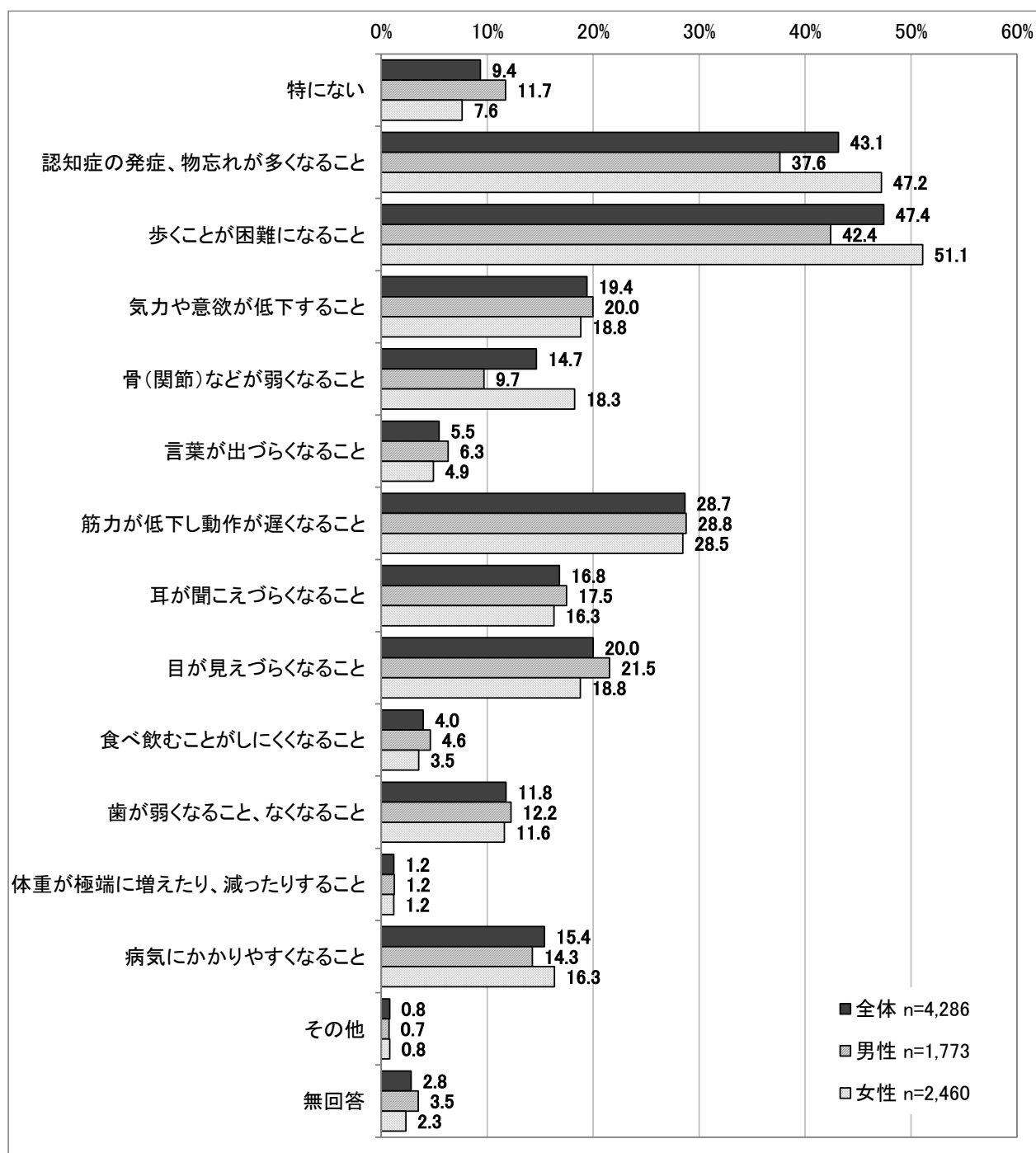
その他



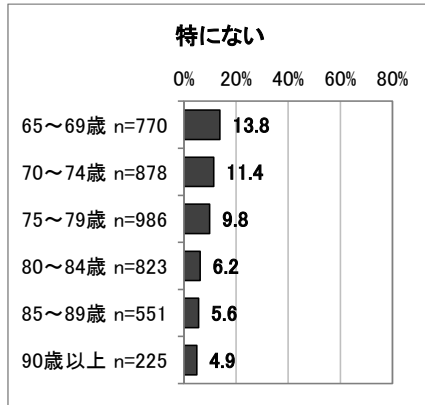
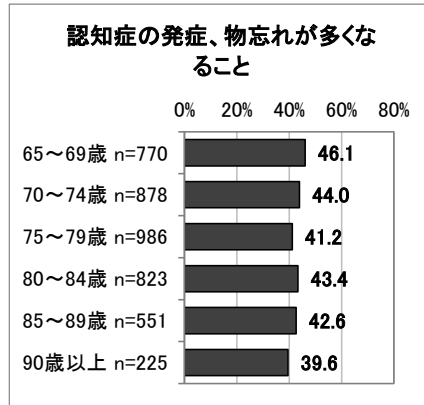
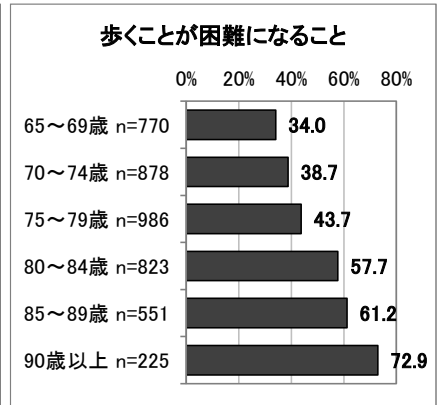
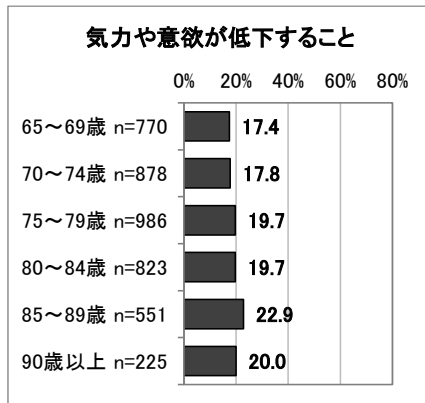
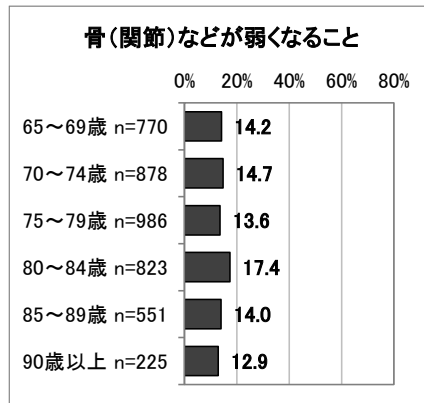
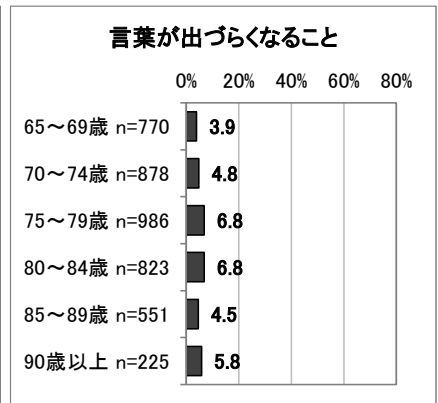
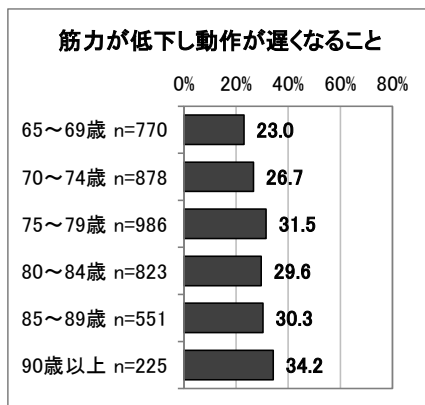
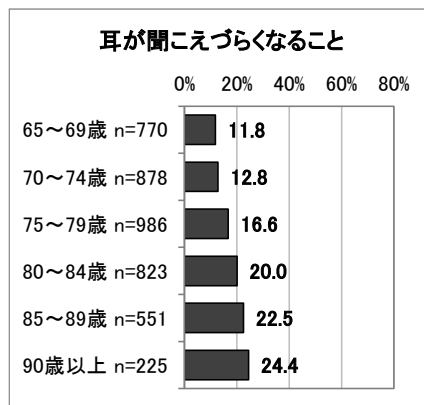
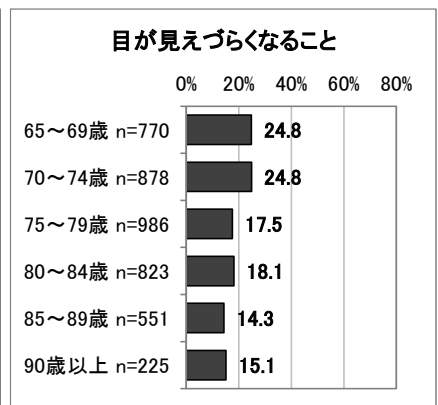
Q8. 今後、加齢に伴う衰えや健康面で不安に思うことはありますか（3つまで）

加齢に伴う衰えや健康面で不安に思うことについては、全体では「歩くことが困難になること」が47.4%で最も高く、次いで「認知症の発症、物忘れが多くなること」が43.1%、「筋力が低下し動作が遅くなること」が28.7%となっています。

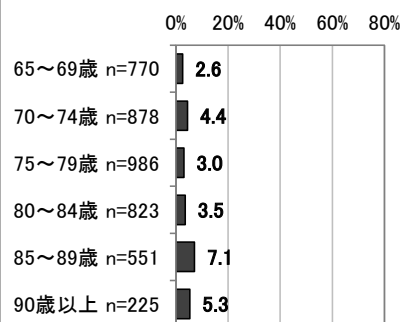
性別でみると、男性では、「歩くことが困難になること」が42.4%で最も高く、次いで「認知症の発症、物忘れが多くなること」が37.6%、「筋力が低下し動作が遅くなること」が28.8%となっています。女性では、「歩くことが困難になること」が51.1%で最も高く、次いで「認知症の発症、物忘れが多くなること」が47.2%、「筋力が低下し動作が遅くなること」が28.5%となっています。



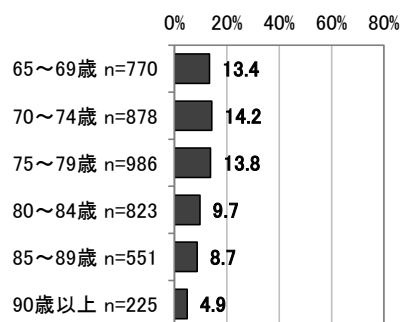
加齢に伴う衰えや健康面で不安に思うことの上位3項目を年齢階級別でみると、「歩くことが困難になること」は、90歳以上が72.9%で最も高く、次いで85～89歳が61.2%、80～84歳が57.7%となっています。「認知症の発症、物忘れが多くなること」では、65～69歳が46.1%で最も高く、次いで70～74歳が44.0%、80～84歳が43.4%となっています。「筋力が低下し動作が遅くなること」では、90歳以上が34.2%で最も高く、次いで75～79歳が31.5%、85～89歳が30.3%となっています。



食べ飲むことがしにくくなること



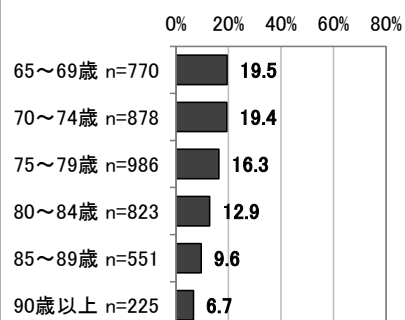
歯が弱くなること、なくなること



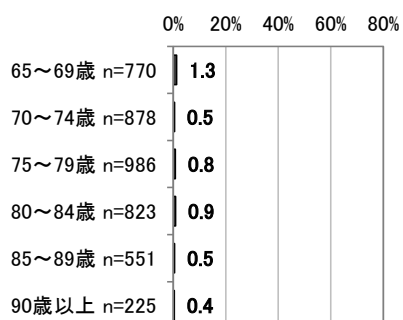
体重が極端に増えたり、減ったりすること



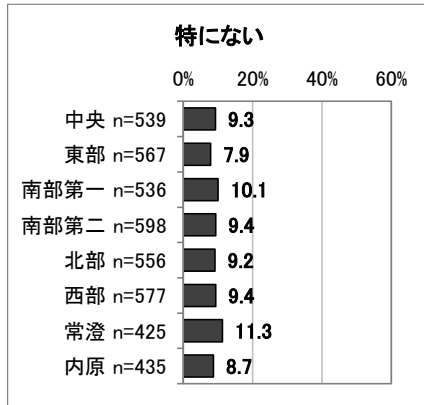
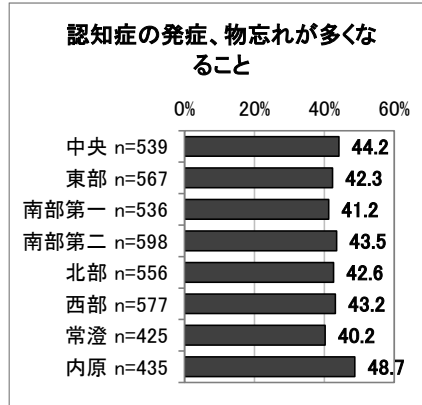
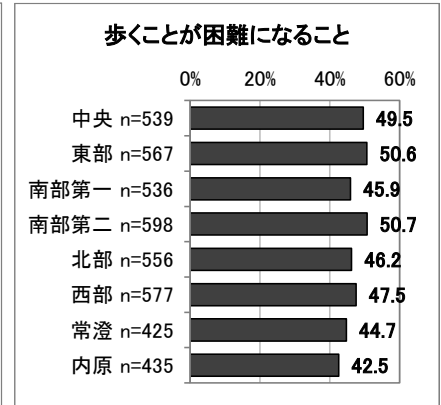
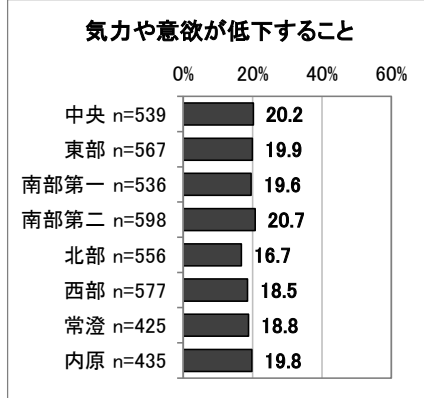
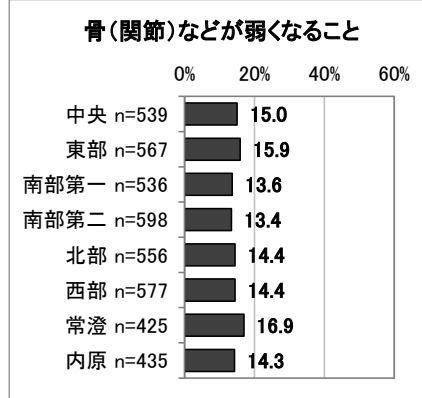
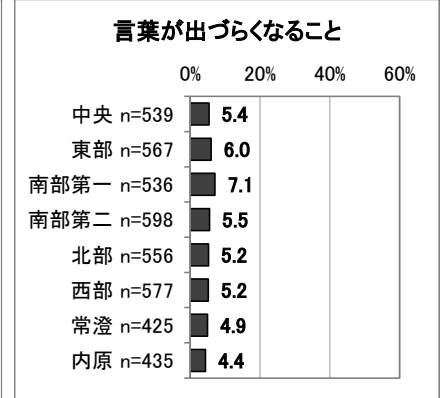
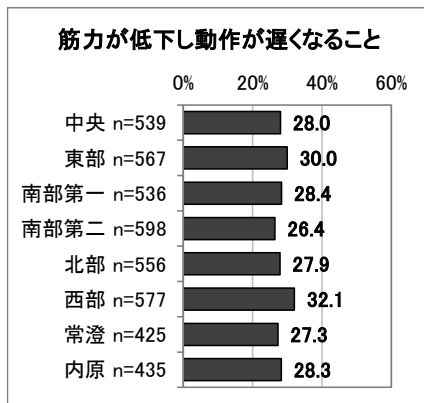
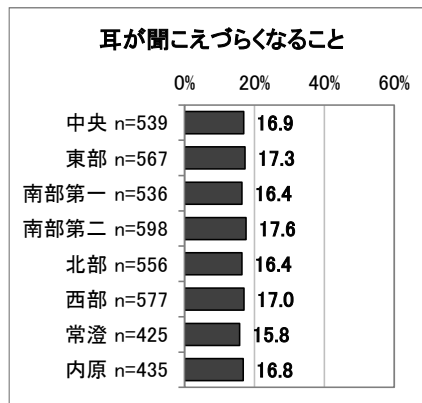
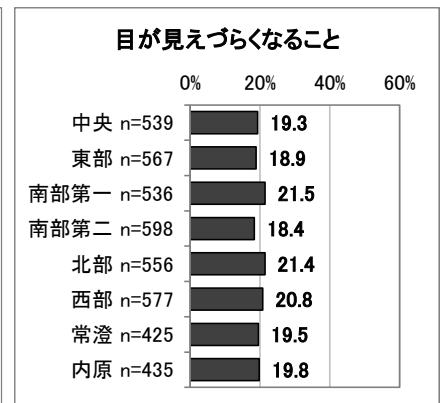
病気にかかりやすくなること



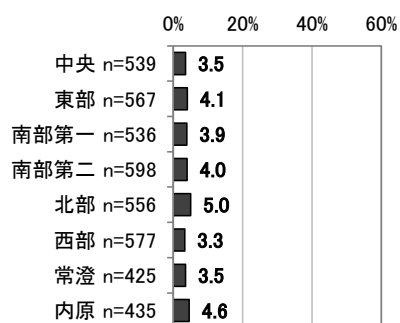
その他



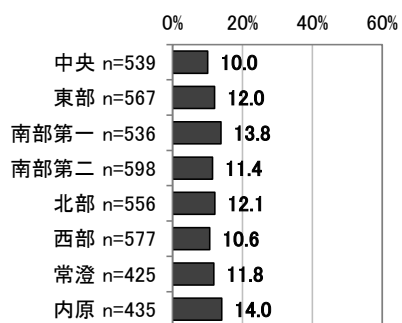
加齢に伴う衰えや健康面で不安に思うことの上位3項目を日常生活圏域別でみると、「歩くことが困難になること」は、南部第二が50.7%で最も高く、次いで東部が50.6%、中央が49.5%となっています。「認知症の発症、物忘れが多くなること」では、内原が48.7%で最も高く、次いで中央が44.2%、南部第二が43.5%となっています。「筋力が低下し動作が遅くなること」では、西部が32.1%で最も高く、次いで東部が30.0%、南部第一が28.4%となっています。



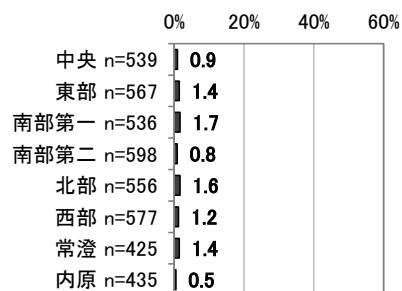
食べ飲むことがしにくくなること



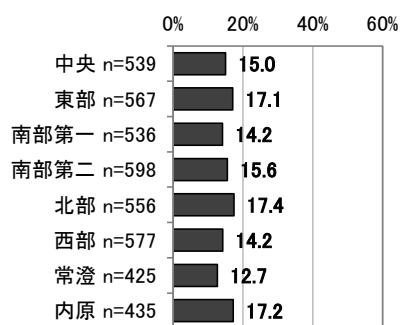
歯が弱くなること、なくなること



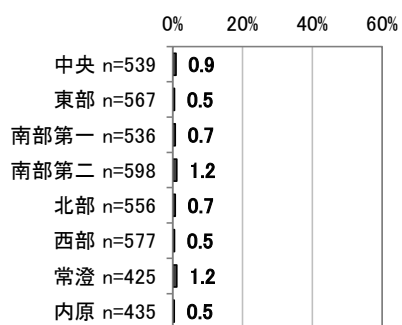
体重が極端に増えたり、減ったりすること



病気にかかりやすくなること



その他



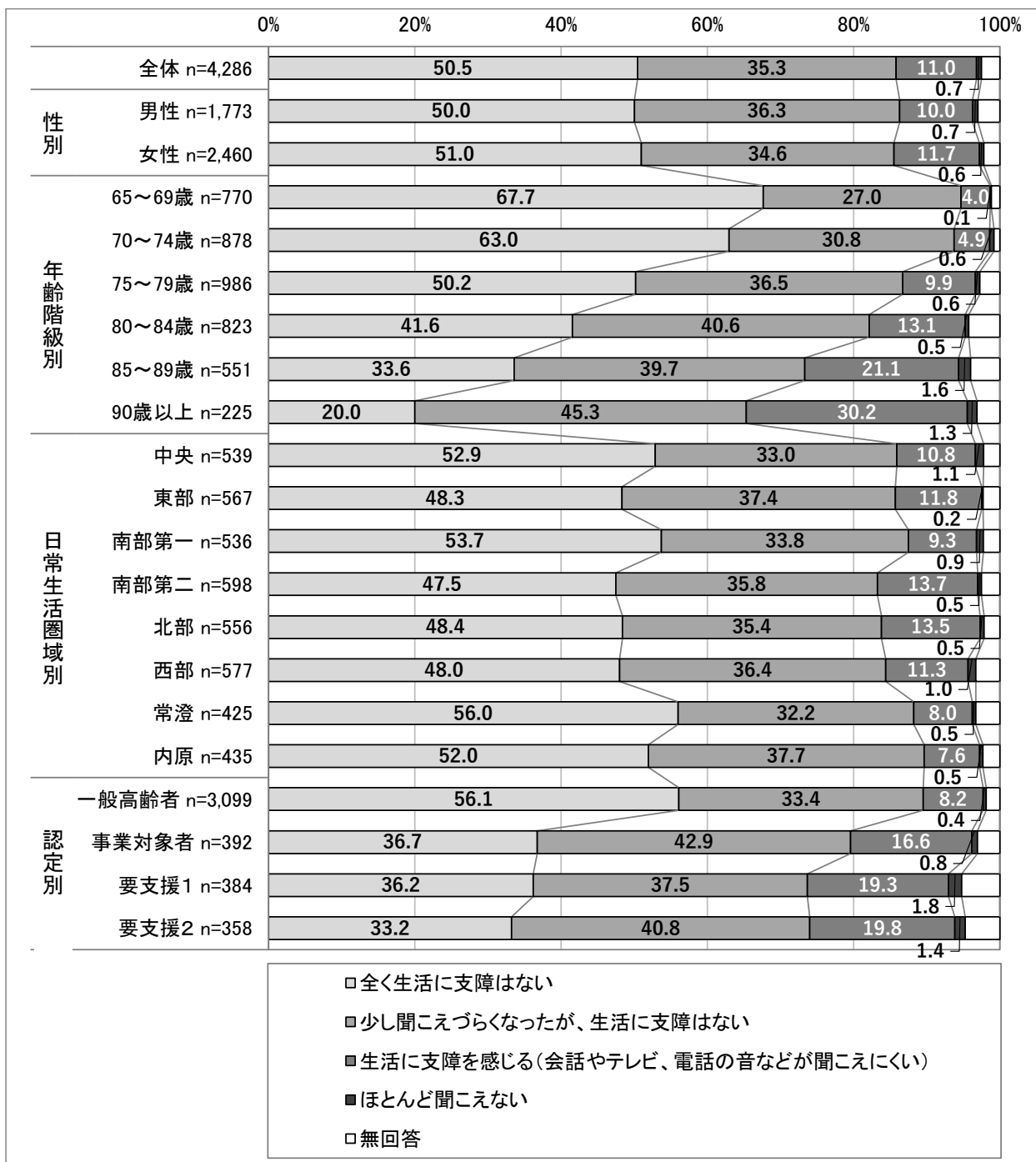
Q9. 現在、あなたの耳の聞こえの状態はいかがですか（1つのみ）

耳の聞こえの状態については、全体では「全く生活に支障はない」が50.5%で最も高く、次いで「少し聞こえづらくなったが、生活に支障はない」が35.3%、「生活に支障を感じる（会話やテレビ、電話の音などが聞こえにくい）」が11.0%となっています。

性別でみると、「少し聞こえづらくなったが、生活に支障はない」「生活に支障を感じる（会話やテレビ、電話の音などが聞こえにくい）」「ほとんど聞こえない」を合わせた『聞こえにくさがある』は、男性が47.0%、女性が46.9%で、男性が女性を0.1ポイント上回っています。

年齢階級別でみると、『聞こえにくさがある』は、90歳以上が76.8%で最も高く、次いで85～89歳が62.4%、80～84歳が54.2%となっています。

日常生活圏域別でみると、『聞こえにくさがある』は、南部第二が50.0%で最も高く、次いで東部、北部がともに49.4%、西部が48.7%となっています。



【Q9で「少し聞こえづらくなったが、生活に支障はない」「生活に支障を感じる」「ほとんど聞こえない」の方のみ】

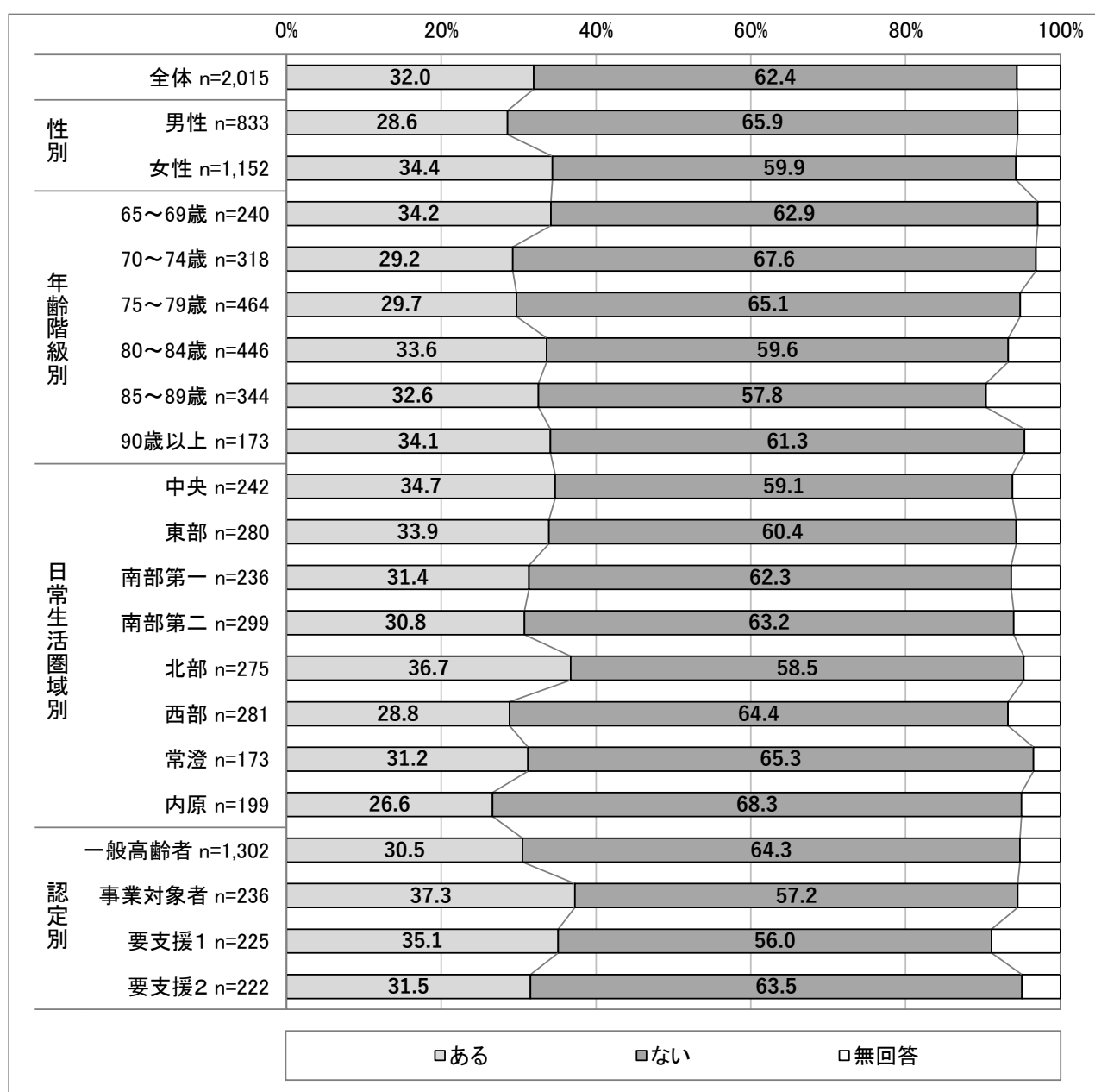
Q9-①. 聞こえにくさで医療機関を受診したことはありますか（1つのみ）

聞こえにくさで医療機関を受診したことがあるかについては、全体では「ある」が32.0%、「ない」が62.4%となっています。

性別でみると、「ない」は、男性が65.9%、女性が59.9%で、男性が女性を6.0ポイント上回っています

年齢階級別でみると、「ない」は、70～74歳が67.6%で最も高く、次いで75～79歳が65.1%、65～69歳が62.9%となっています。

日常生活圏域別でみると、「ない」は、内原が68.3%で最も高く、次いで常澄が65.3%、西部が64.4%となっています。



【Q9で「少し聞こえづらくなったが、生活に支障はない」「生活に支障を感じる」「ほとんど聞こえない」の方のみ】

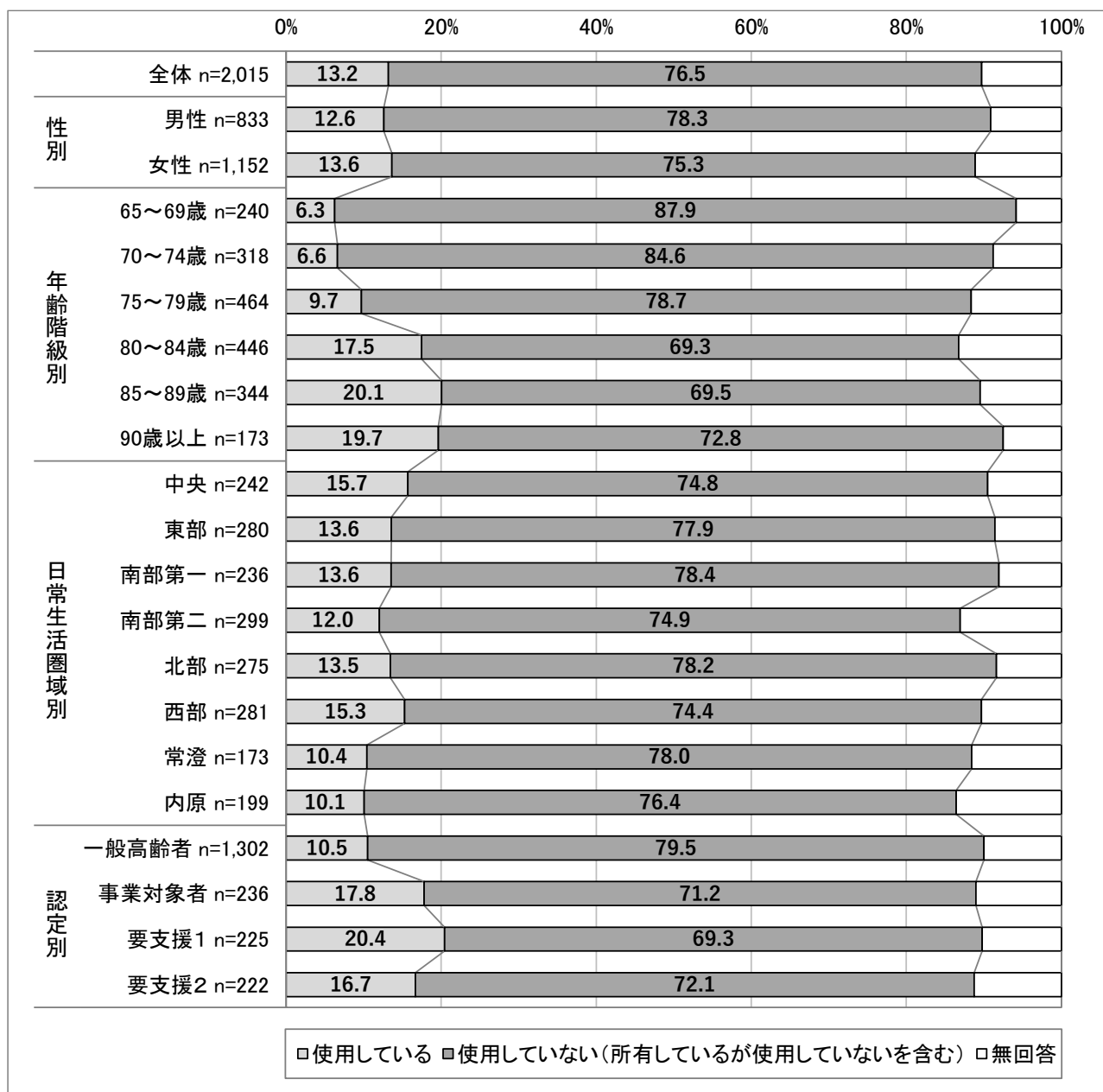
Q9-②. 現在、補聴器を使用していますか（1つのみ）

補聴器の使用状況については、全体では「使用している」が13.2%、「使用していない」が76.5%となっています。

性別でみると、「使用している」は、男性が12.6%、女性が13.6%で、女性が男性を1.0ポイント上回っています

年齢階級別でみると、「使用している」は、85～89歳が20.1%で最も高く、次いで90歳以上が19.7%、80～84歳が17.5%となっています。

日常生活圏域別でみると、「使用している」は、中央が15.7%で最も高く、次いで西部が15.3%、東部、南部第一がともに13.6%となっています。

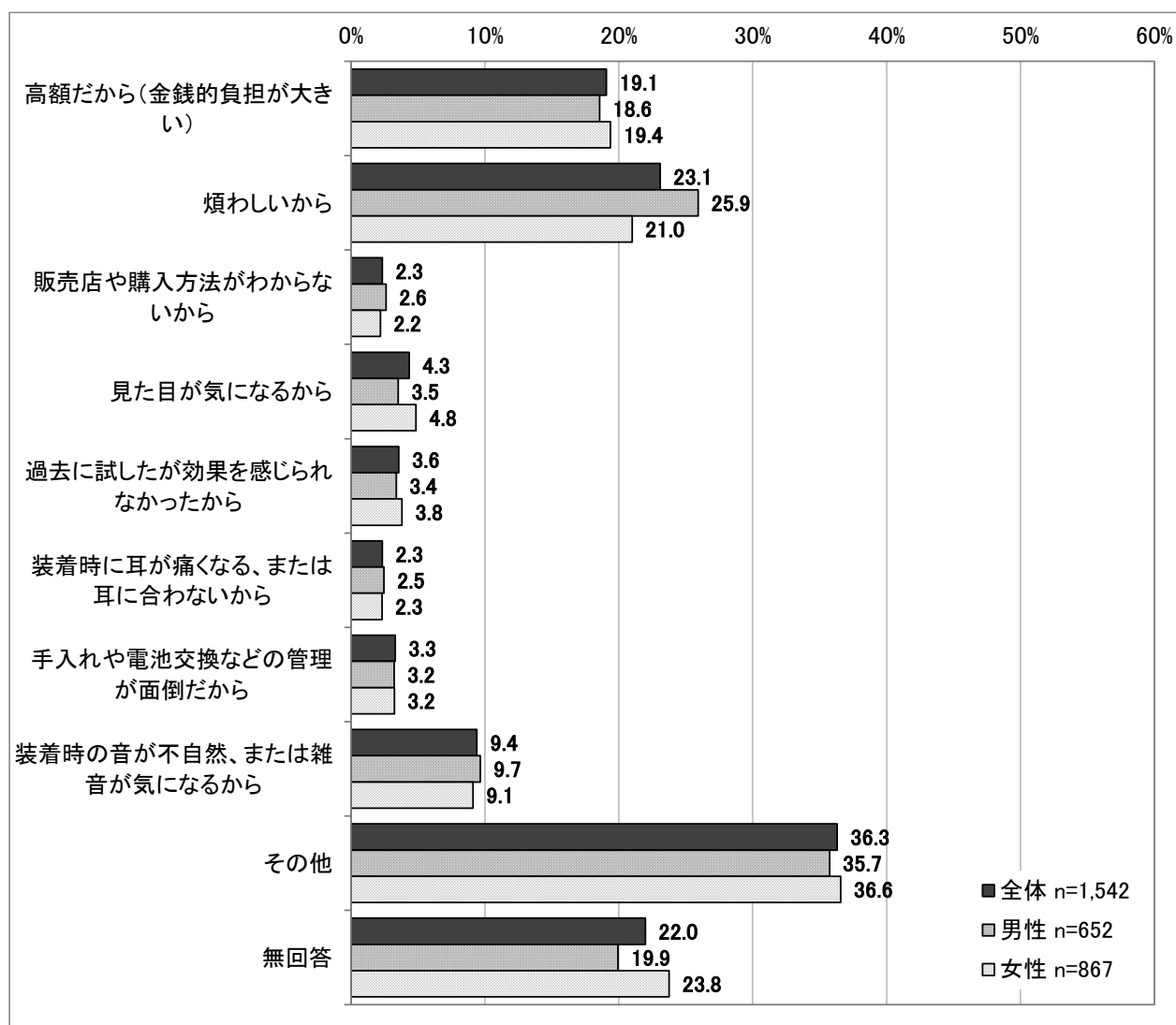


【Q9 ②で「使用していない（所有しているが使用していないを含む）」の方のみ】

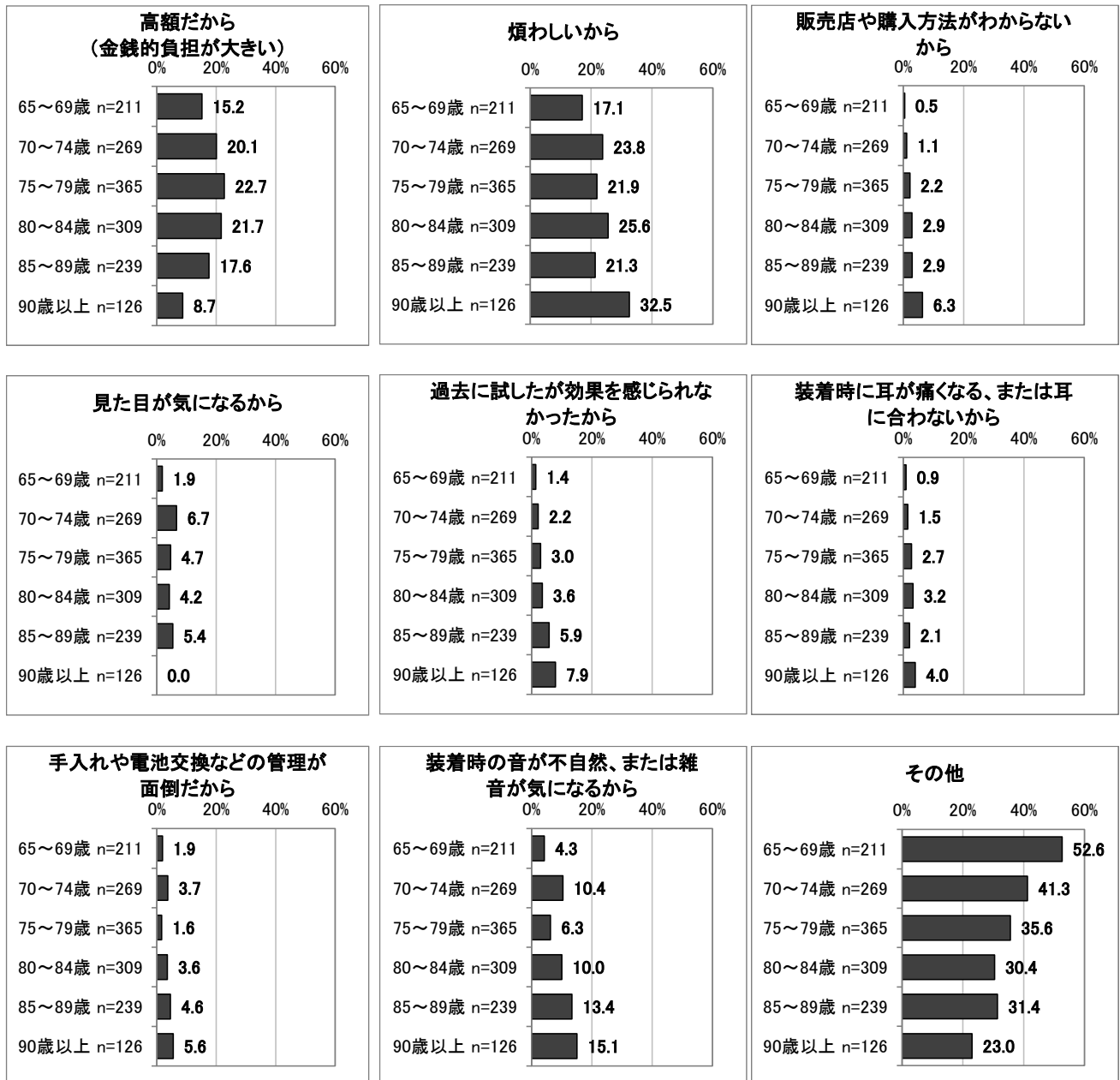
Q9-③. 補聴器を使用していない理由は、次のどれですか（いくつでも）

補聴器を使用していない理由については、「その他」「無回答」を除き、全体では、「煩わしいから」が23.1%で最も高く、次いで「高額だから（金銭的負担が大きい）」が19.1%、「装着時の音が不自然、または雑音が気になるから」が9.4%となっています。

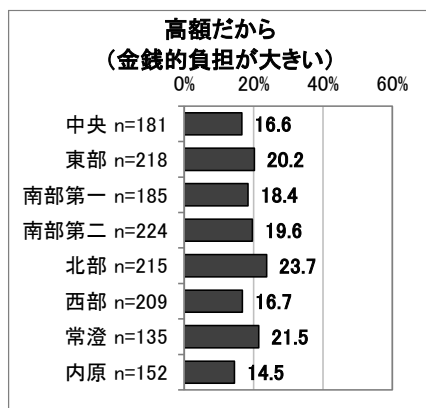
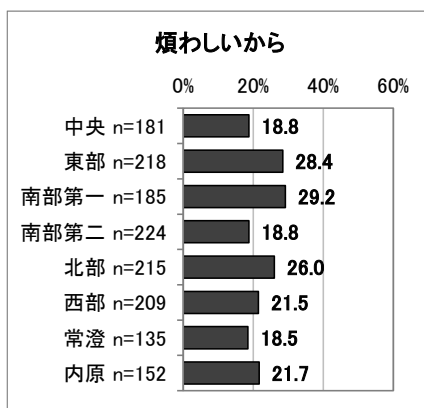
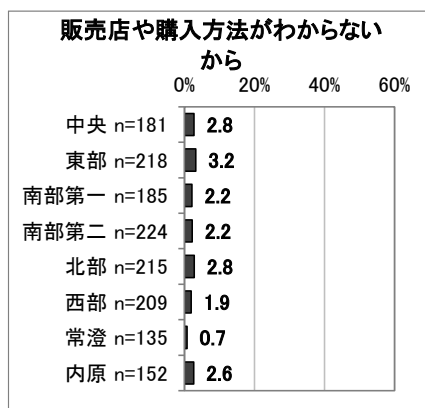
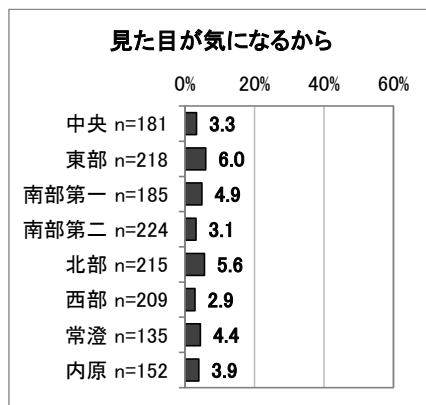
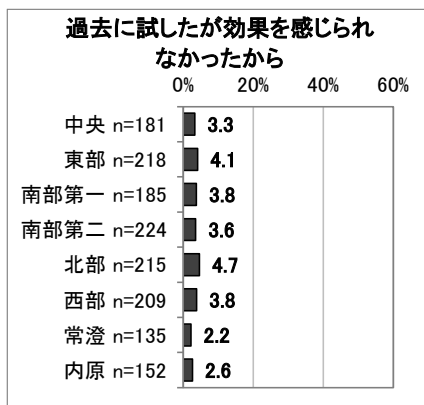
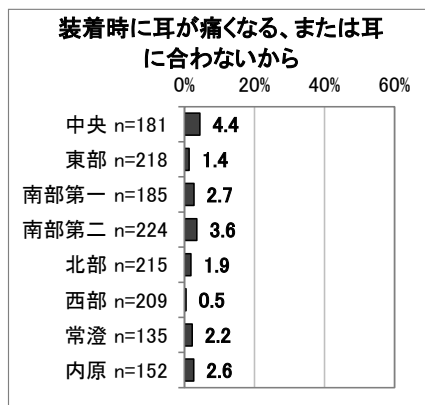
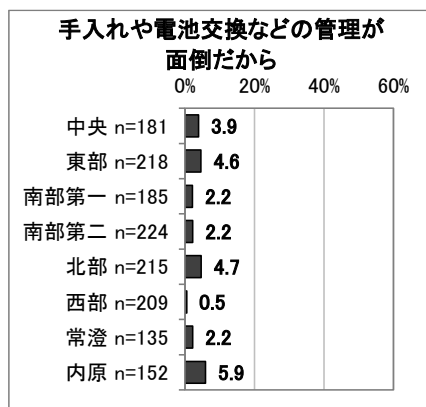
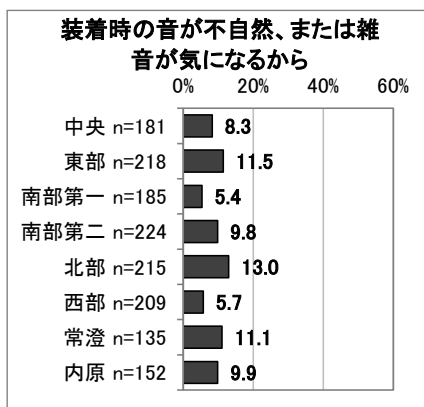
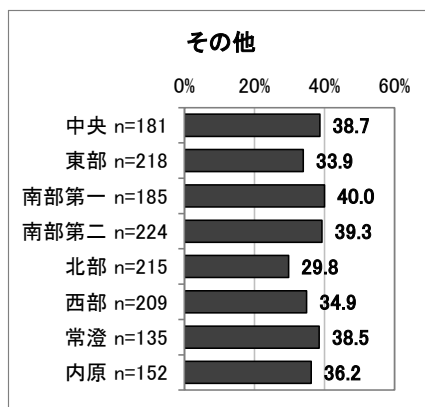
性別でみると、男性では、「煩わしいから」が25.9%で最も高く、次いで「高額だから（金銭的負担が大きい）」が18.6%、「装着時の音が不自然、または雑音が気になるから」が9.7%となっています。女性では、「煩わしいから」が21.0%で最も高く、次いで「高額だから（金銭的負担が大きい）」が19.4%、「装着時の音が不自然、または雑音が気になるから」が9.1%となっています。



補聴器を使用していない理由の上位3項目を「その他」「無回答」を除き、年齢階級別でみると、「煩わしいから」は、90歳以上が32.5%で最も高く、次いで80～84歳が25.6%、70～74歳が23.8%となっています。「高額だから（金銭的負担が大きい）」では、75～79歳が22.7%で最も高く、次いで80～84歳が21.7%、70～74歳が20.1%となっています。「装着時の音が不自然、または雑音が気になるから」では、90歳以上が15.1%で最も高く、次いで85～89歳が13.4%、70～74歳が10.4%となっています。



補聴器を使用していない理由の上位3項目を「その他」「無回答」を除き、日常生活圏域別でみると、「煩わしいから」は、南部第一が29.2%で最も高く、次いで東部が28.4%、北部が26.0%となっています。「高額だから（金銭的負担が大きい）」では、北部が23.7%で最も高く、次いで常澄が21.5%、東部が20.2%となっています。「装着時の音が不自然、または雑音が気になるから」では、北部が13.0%で最も高く、次いで東部が11.5%、常澄が11.1%となっています。



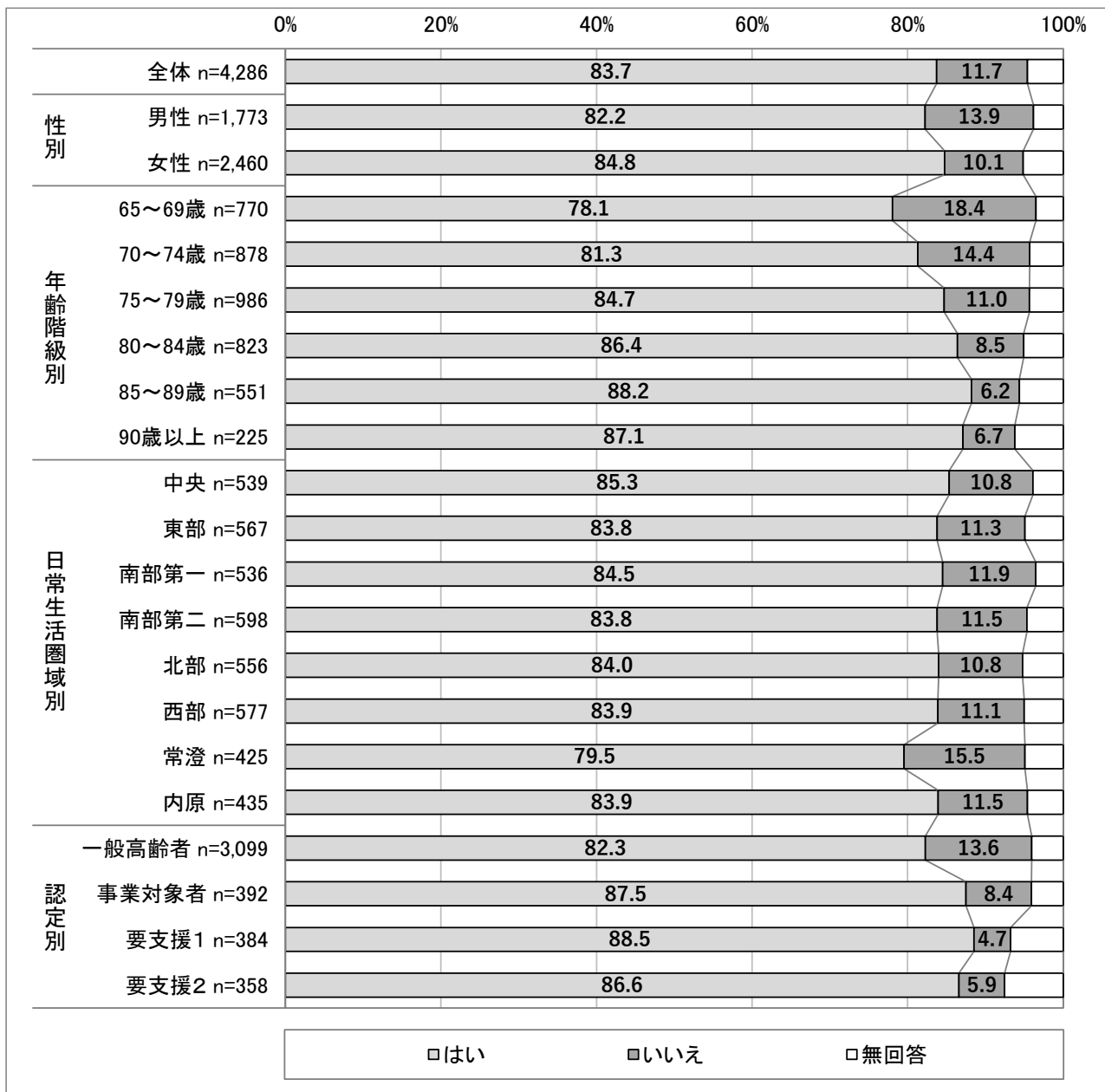
Q10. かかりつけの医師はいますか（1つのみ）

かかりつけの医師がいるかについては、全体では「はい」が83.7%、「いいえ」が11.7%となっています。

性別でみると、「いいえ」は、男性が13.9%、女性が10.1%で、男性が女性を3.8ポイント上回っています。

年齢階級別でみると、「いいえ」は、65～69歳が18.4%で最も高く、次いで70～74歳が14.4%、75～79歳が11.0%となっています。

日常生活圏域別でみると、「いいえ」は、常澄が15.5%で最も高く、次いで南部第一が11.9%、南部第二、内原がともに11.5%となっています。

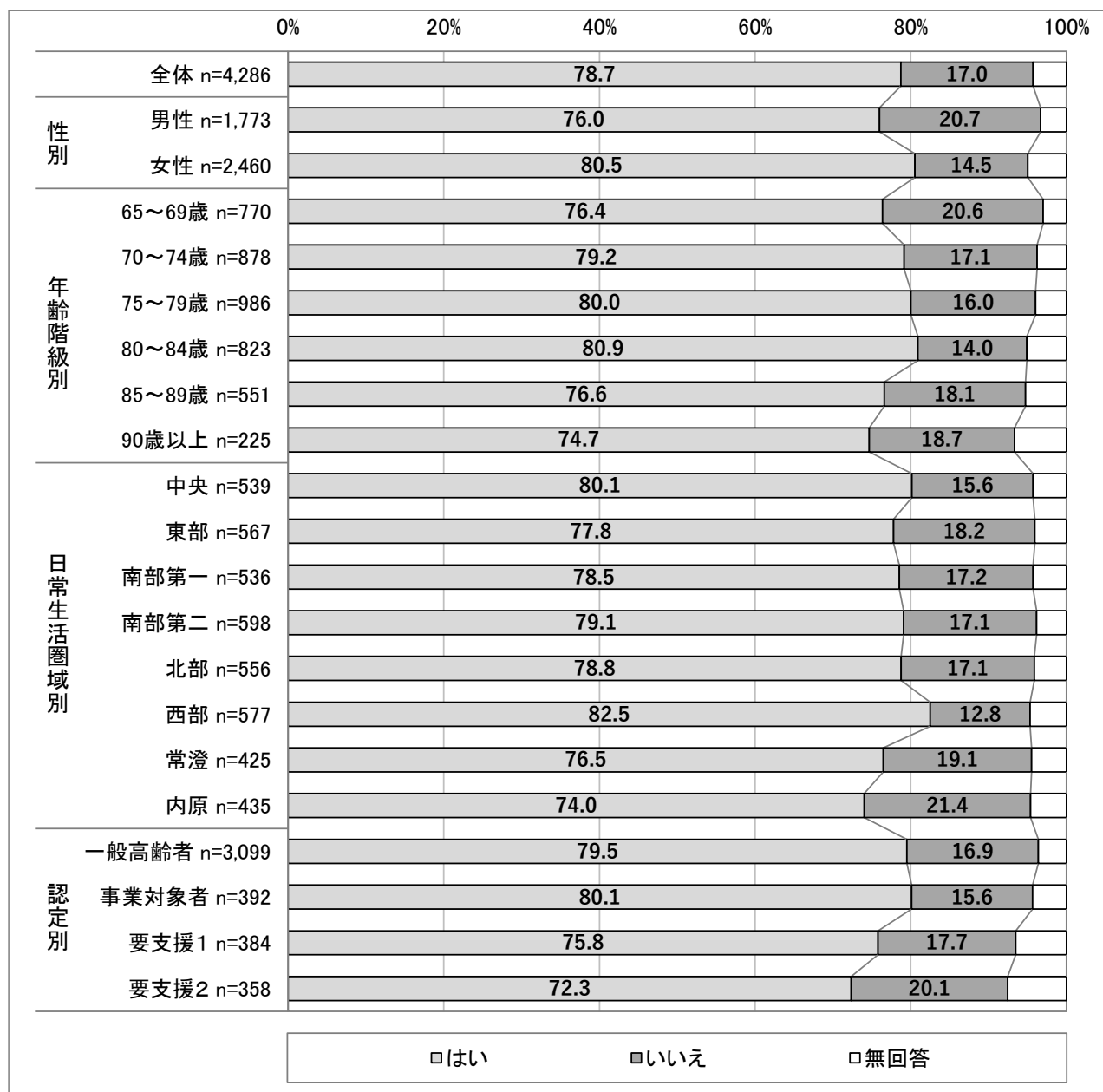


Q11. かかりつけの歯科医はいますか（1つのみ）

かかりつけの歯科医については、全体では「はい」が78.7%、「いいえ」が17.0%となっています。
性別でみると、「いいえ」は、男性が20.7%、女性が14.5%で、男性が女性を6.2ポイント上回っています。

年齢階級別でみると、「いいえ」は、65～69歳が20.6%で最も高く、次いで90歳以上が18.7%、85～89歳が18.1%となっています。

日常生活圏域別でみると、「いいえ」は、内原が21.4%で最も高く、次いで常澄が19.1%、東部が18.2%となっています。

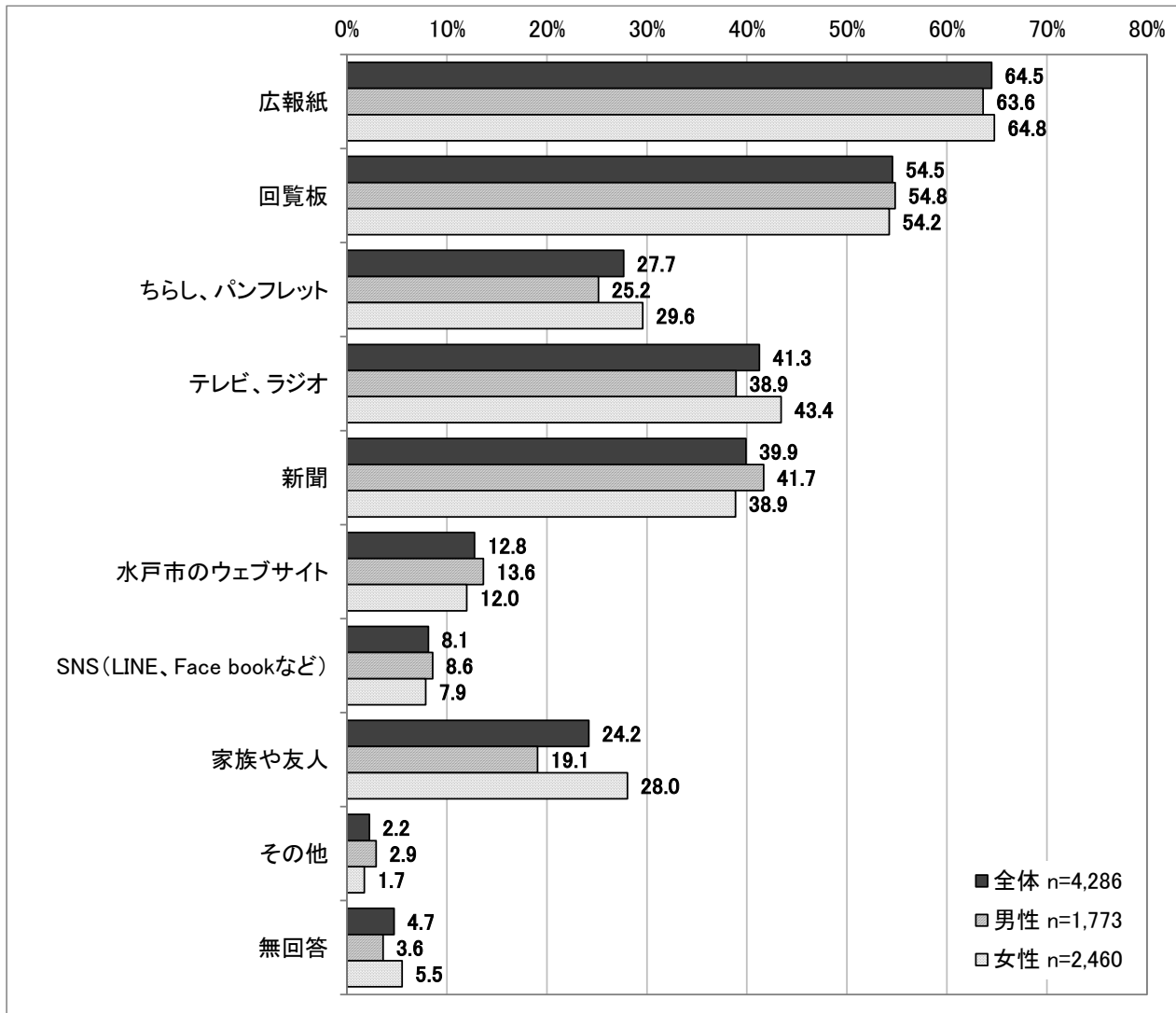


Q12. 普段、行政からの情報（健康、福祉、防災、イベントなど）を、主にどのような方法で得ていますか（いくつでも）

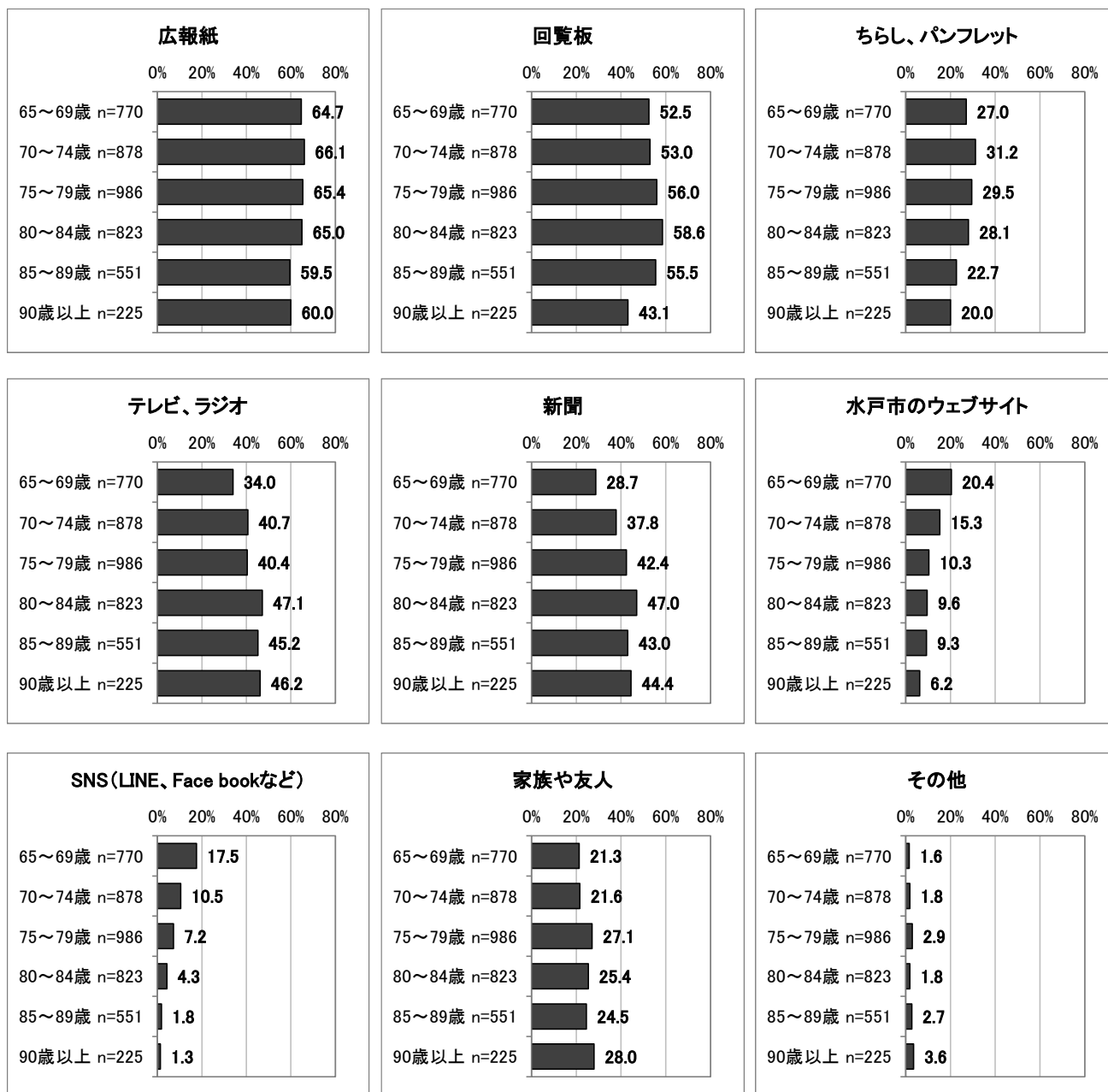
行政からの情報の入手方法については、全体では「広報紙」が64.5%で最も高く、次いで「回覧板」が54.5%、「テレビ、ラジオ」が41.3%となっています。

性別でみると、「水戸市のウェブサイト」と「SNS（LINE、Face book など）」を合わせた『インターネット』は、男性が22.2%、女性が19.9%で、男性が女性を2.3ポイント上回っています。

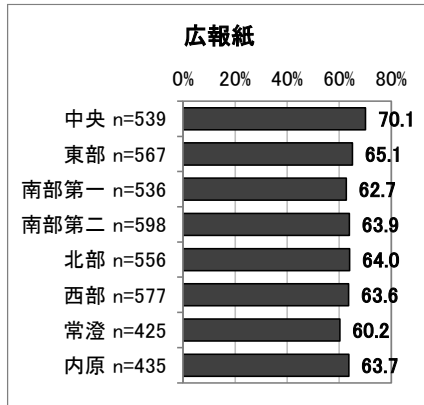
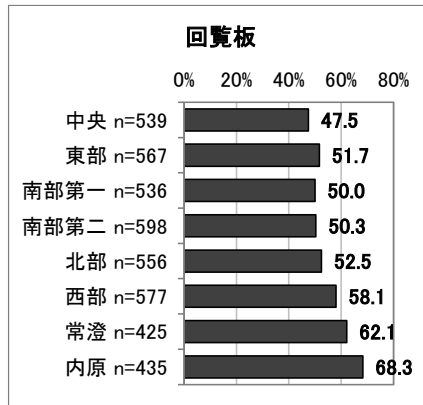
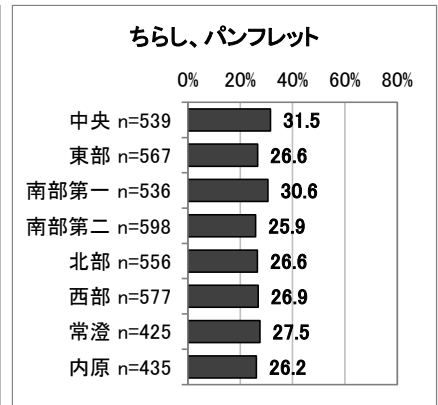
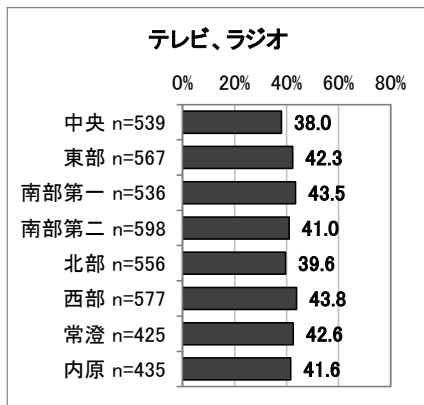
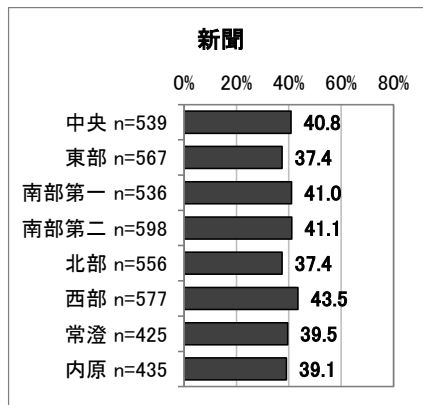
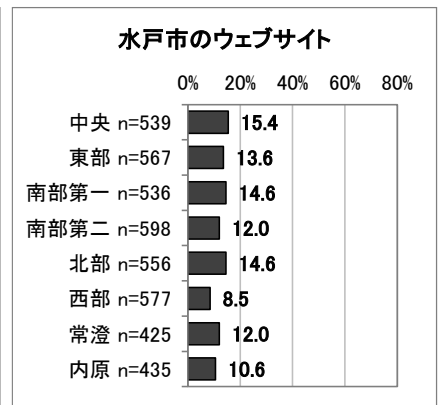
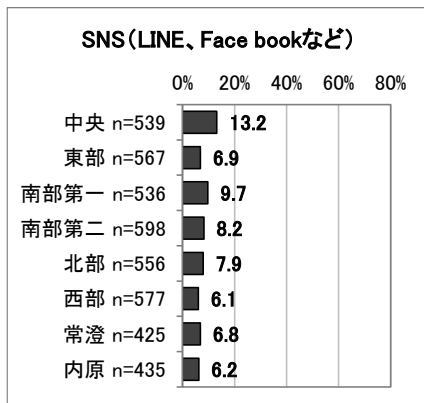
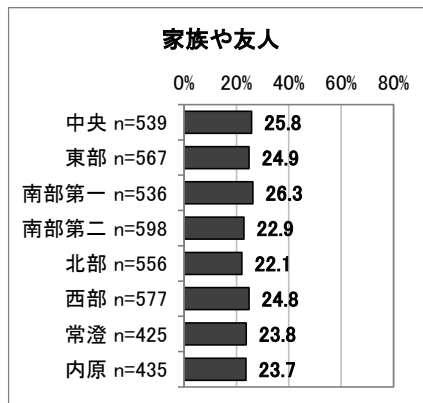
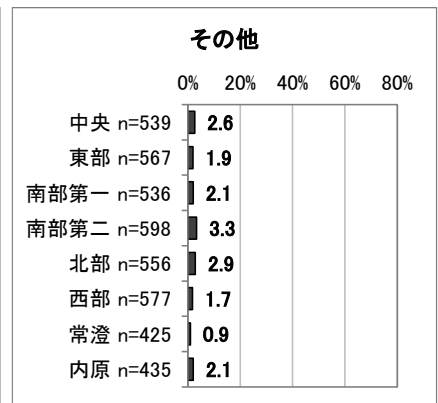
また、「家族や友人」は、男性が19.1%、女性が28.0%で、女性が男性を8.9ポイント上回っています。



行政からの情報の入手方法の上位3項目を年齢階級別でみると、「広報紙」は、70～74歳が66.1%で最も高く、次いで75～79歳が65.4%、80～84歳が65.0%となっています。「回覧板」では、80～84歳が58.6%で最も高く、次いで75～79歳が56.0%、85～89歳が55.5%となっています。「テレビ、ラジオ」では、80～84歳が47.1%で最も高く、次いで90歳以上が46.2%、85～89歳が45.2%となっています。



行政からの情報の入手方法の上位3項目を日常生活圏域別でみると、「広報紙」は、中央が70.1%で最も高く、次いで東部が65.1%、北部が64.0%となっています。「回覧板」では、内原が68.3%で最も高く、次いで常澄が62.1%、西部が58.1%となっています。「テレビ、ラジオ」では、西部が43.8%で最も高く、次いで南部第一が43.5%、常澄が42.6%となっています。



9. 認知症にかかる相談窓口の把握について

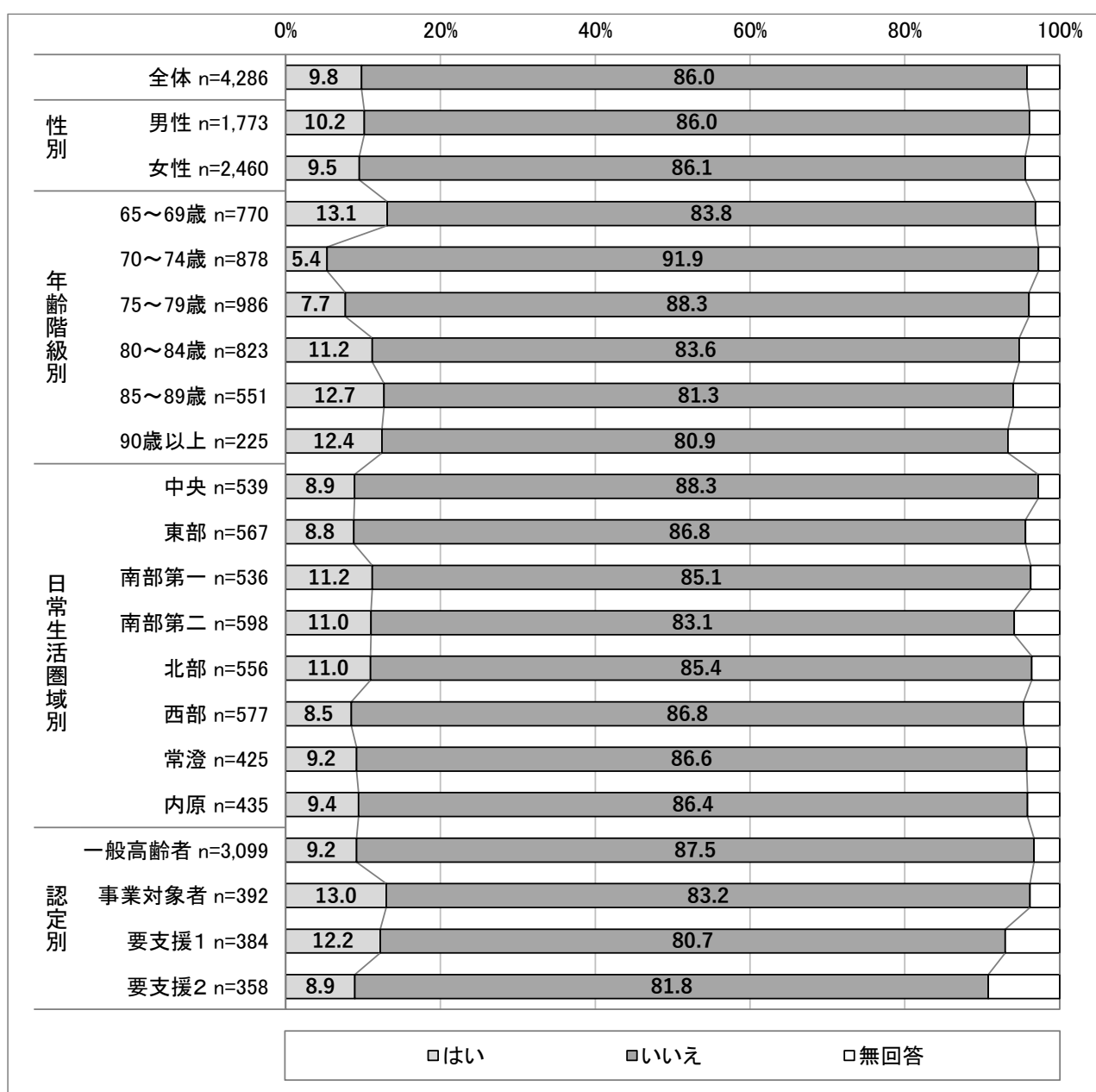
Q 1. 認知症の症状がある又は家族に認知症の症状がある人がいますか（1つのみ）

認知症の症状の有無又は家族に認知症の症状があるかについては、全体では「はい」が 9.8%、「いいえ」が 86.0%となっています。

性別でみると、「はい」は、男性が 10.2%、女性が 9.5%で、男性が女性を 0.7 ポイント上回っています。

年齢階級別でみると、「はい」は、65～69 歳が 13.1%で最も高く、次いで 85～89 歳が 12.7%、90 歳以上が 12.4%となっています。

日常生活圏域別でみると、「はい」は、南部第一が 11.2%で最も高く、次いで南部第二、北部がともに 11.0%、内原が 9.4%となっています。



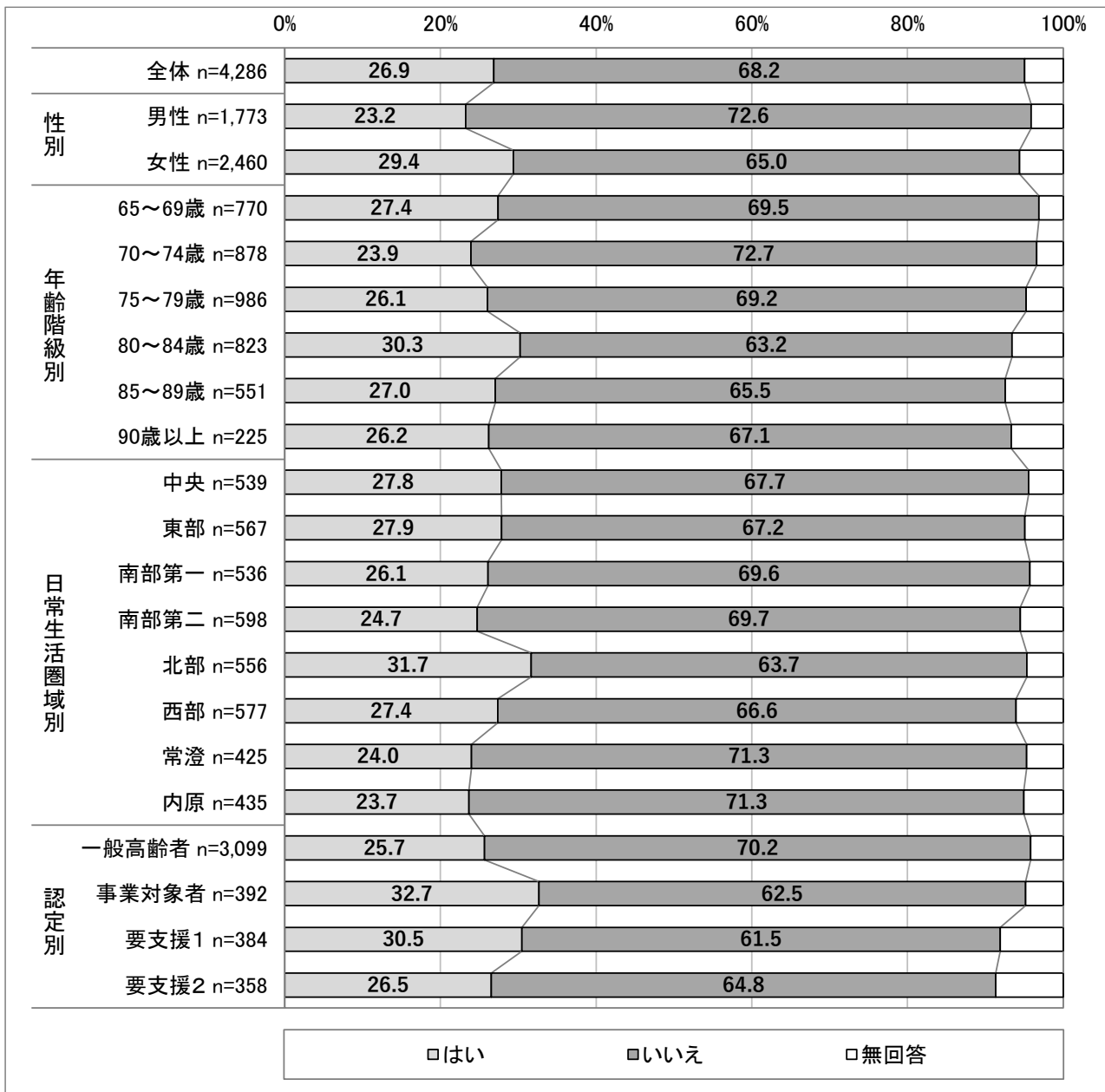
Q 2. 認知症に関する相談窓口を知っていますか（1つのみ）

認知症に関する相談窓口を知っているかについては、全体では「はい」が26.9%、「いいえ」が68.2%となっています。

性別でみると、「はい」は、男性が23.2%、女性が29.4%で、女性が男性を6.2ポイント上回っています。

年齢階級別でみると、「はい」は、80～84歳が30.3%で最も高く、次いで65～69歳が27.4%、85～89歳が27.0%となっています。

日常生活圏域別でみると、「はい」は、北部が31.7%で最も高く、次いで東部が27.9%、中央が27.8%となっています。



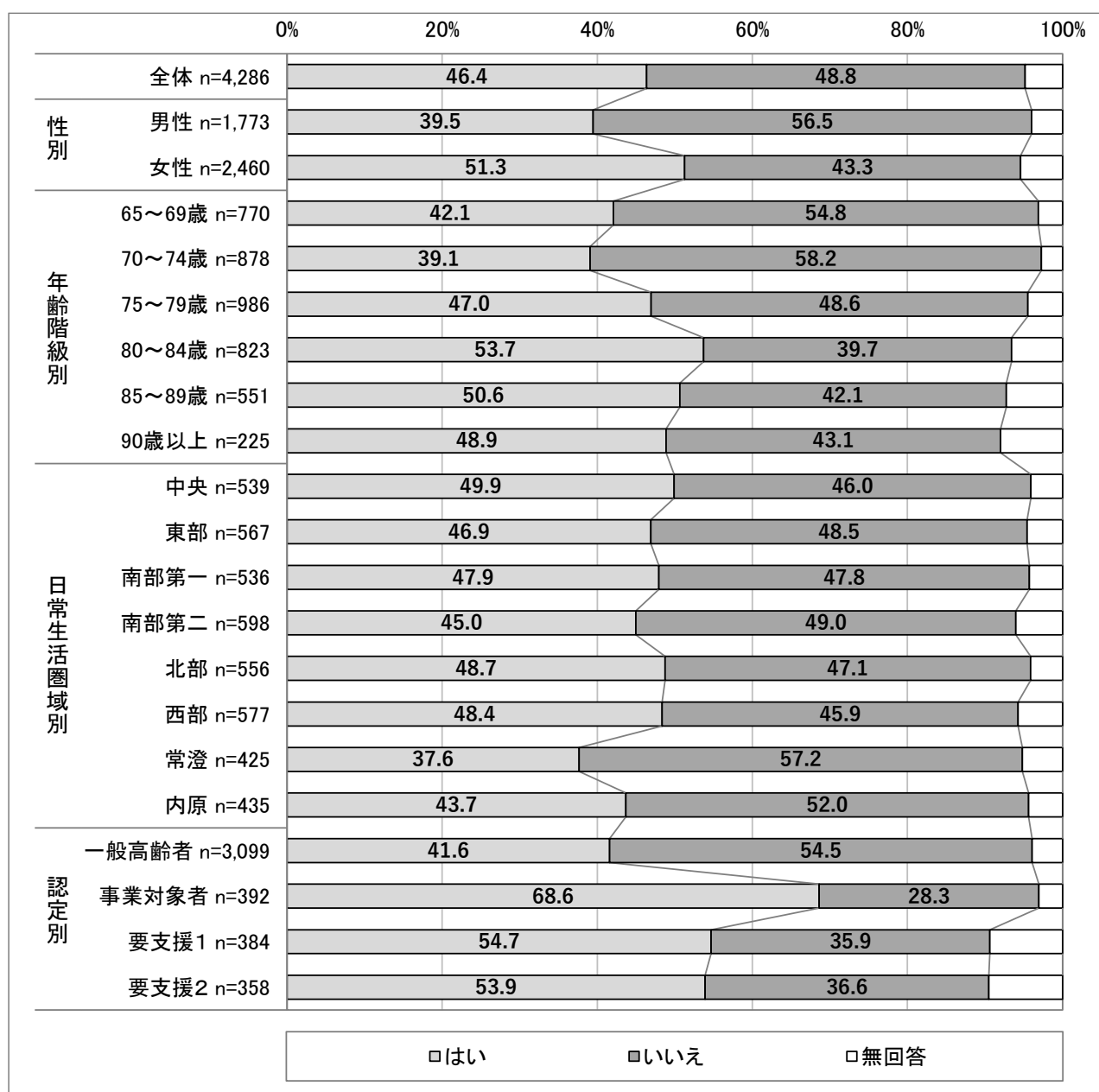
Q3. 困ったときの地域の相談窓口について、高齢者支援センターを知っていますか（1つのみ）

高齢者支援センターを知っているかについては、全体では「はい」が46.4%、「いいえ」が48.8%となっています。

性別でみると、「はい」は、男性が39.5%、女性が51.3%で、女性が男性を11.8ポイント上回っています。

年齢階級別でみると、「はい」は、80～84歳が53.7%で最も高く、次いで85～89歳が50.6%、90歳以上が48.9%となっています。

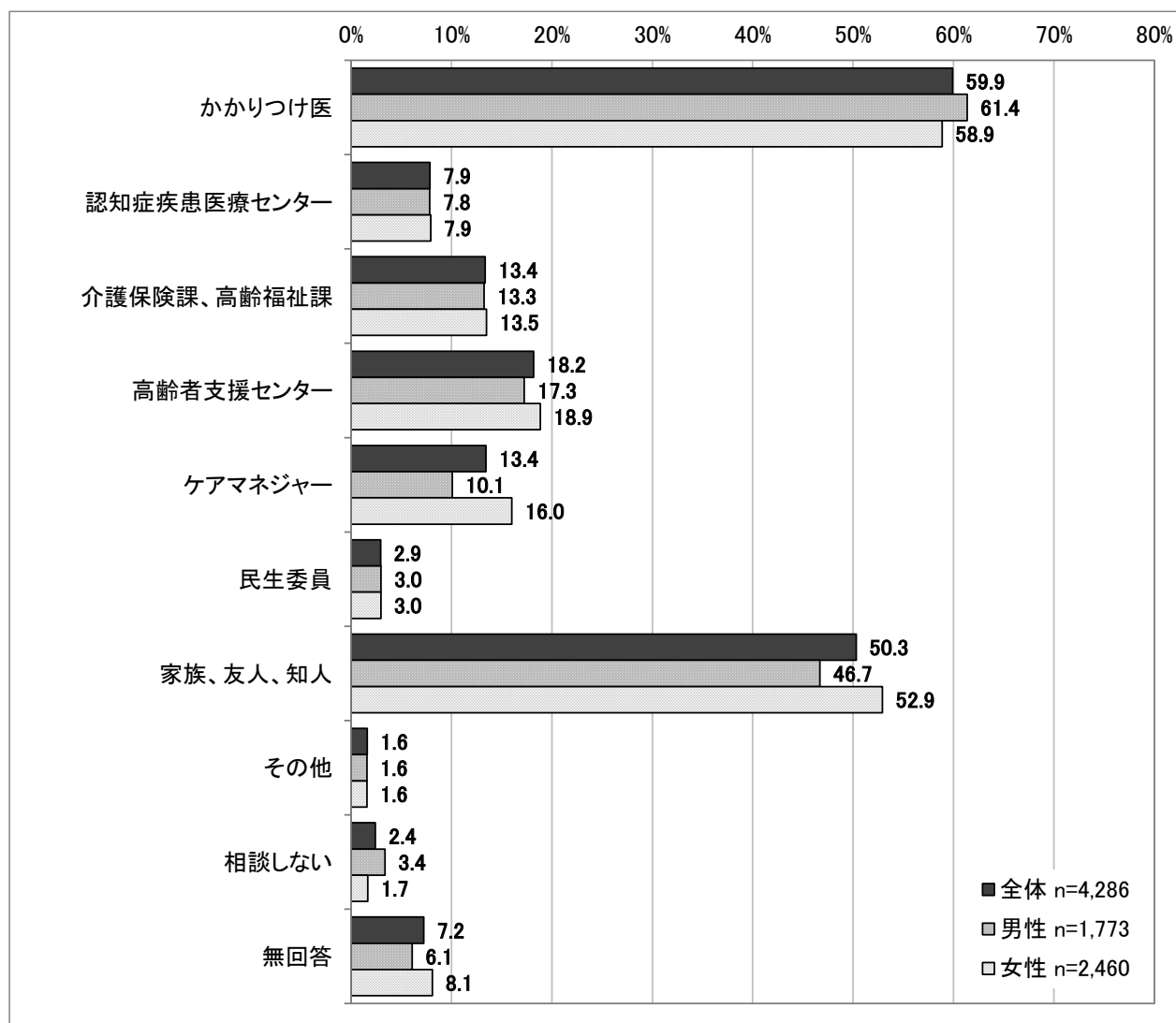
日常生活圏域別でみると、「はい」は、中央が49.9%で最も高く、次いで北部が48.7%、西部が48.4%となっています。



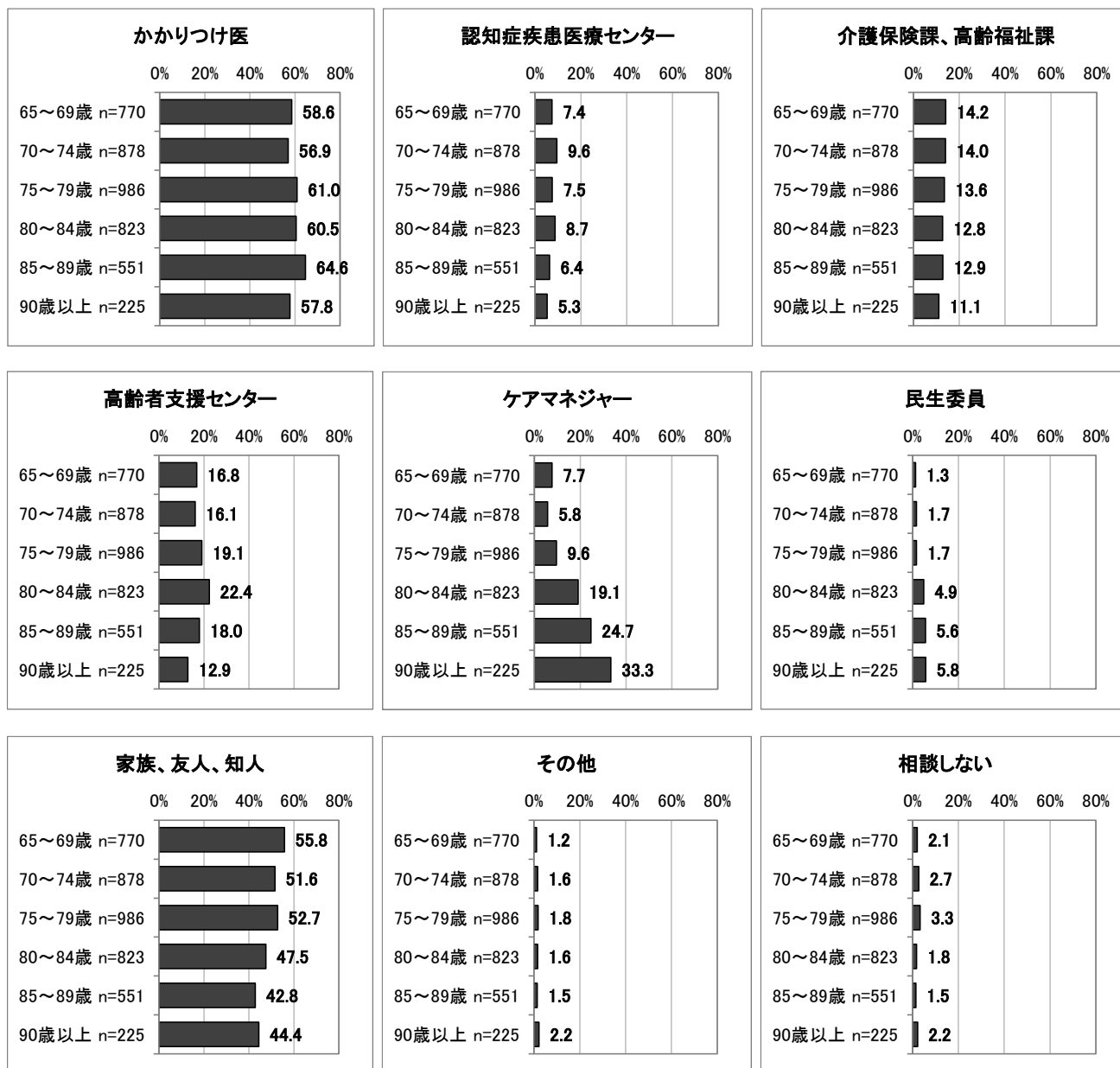
Q 4. 認知症が疑われたとき、どこに（誰に）相談しますか（しましたか）（いくつでも）

認知症が疑われたときの相談先については、全体では「かかりつけ医」が59.9%で最も高く、次いで「家族、友人、知人」が50.3%、「高齢者支援センター」が18.2%となっています。

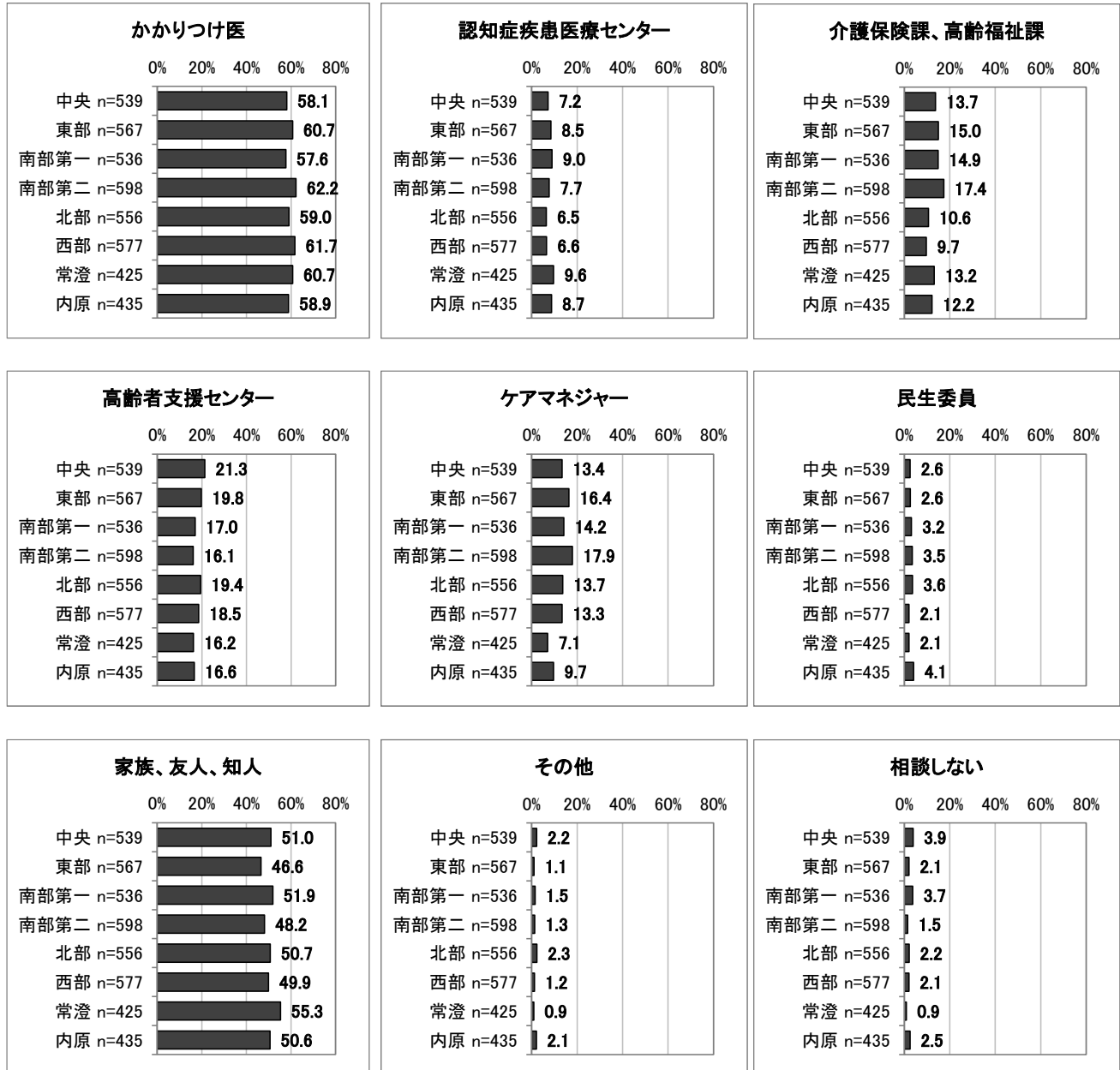
性別でみると、「かかりつけ医」は、男性が61.4%、女性が58.9%で、男性が女性を2.5ポイント上回っています。



認知症が疑われたときの相談先の上位3項目を年齢階級別でみると、「かかりつけ医」は、85～89歳が64.6%で最も高く、次いで75～79歳が61.0%、80～84歳が60.5%となっています。「家族、友人、知人」では、65～69歳が55.8%で最も高く、次いで75～79歳が52.7%、70～74歳が51.6%となっています。「高齢者支援センター」では、80～84歳が22.4%で最も高く、次いで75～79歳が19.1%、85～89歳が18.0%となっています。



認知症が疑われたときの相談先の上位3項目を日常生活圏域別でみると、「かかりつけ医」は、南部第二が62.2%で最も高く、次いで西部が61.7%、東部、常澄がともに60.7%となっています。「家族、友人、知人」では、常澄が55.3%で最も高く、次いで南部第一が51.9%、中央が51.0%となっています。「高齢者支援センター」では、中央が21.3%で最も高く、次いで東部が19.8%、北部が19.4%となっています。



10. 在宅医療について

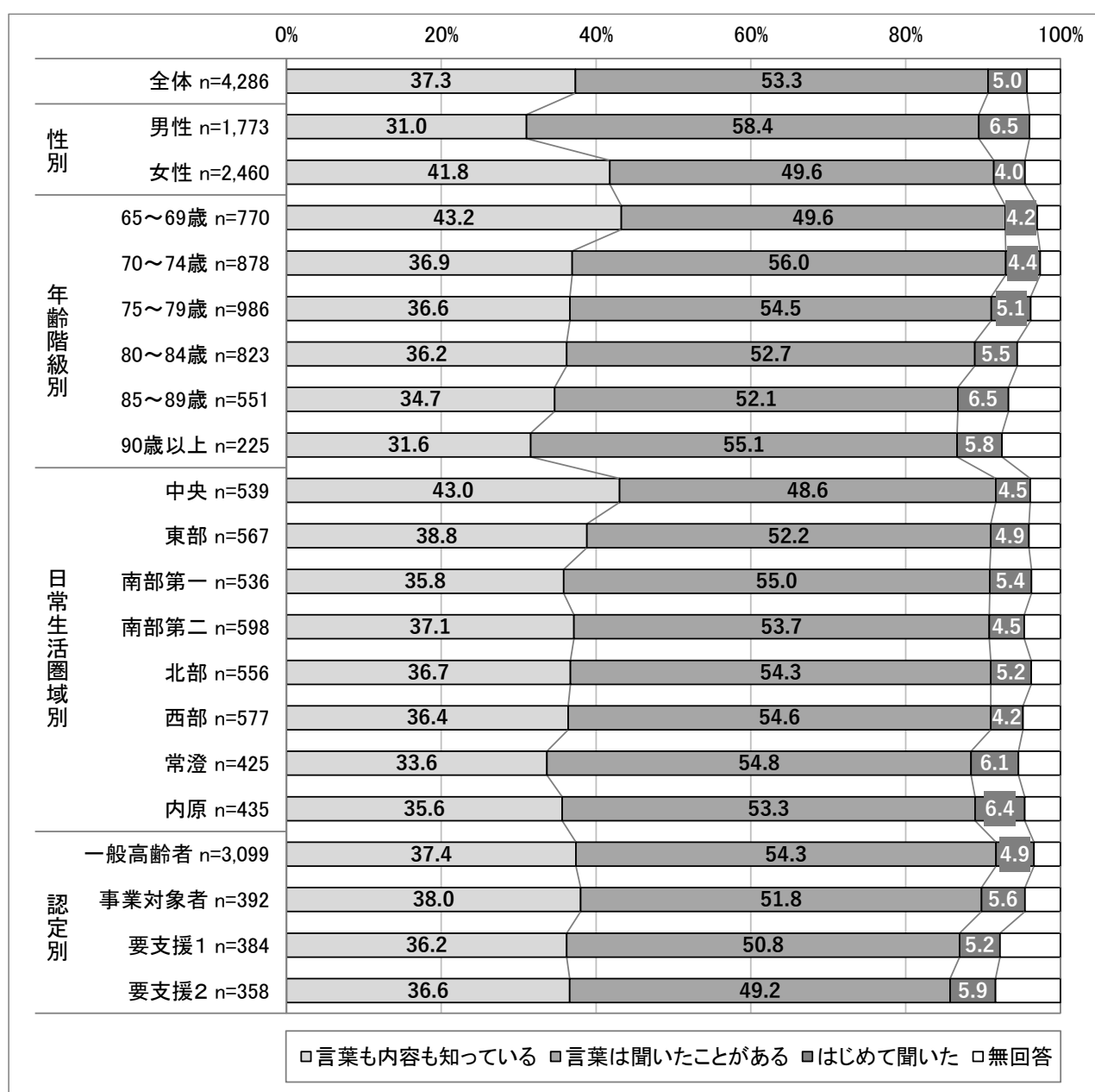
Q1. あなたは在宅医療について知っていましたか（1つのみ）

在宅医療を知っているかについては、全体では「言葉は聞いたことがある」が53.3%で最も高く、次いで「言葉も内容も知っている」が37.3%、「はじめて聞いた」が5.0%となっています。

性別でみると、「言葉は聞いたことがある」と「初めて聞いた」を合わせた『知らない』は、男性が64.9%、女性が53.6%で、男性が女性を11.3ポイント上回っています。

年齢階級別でみると、『知らない』は、90歳以上が60.9%で最も高く、次いで70～74歳が60.4%、75～79歳が59.6%となっています。

日常生活圏域別でみると、『知らない』は、常澄が60.9%で最も高く、次いで南部第一が60.4%、内原が59.7%となっています。



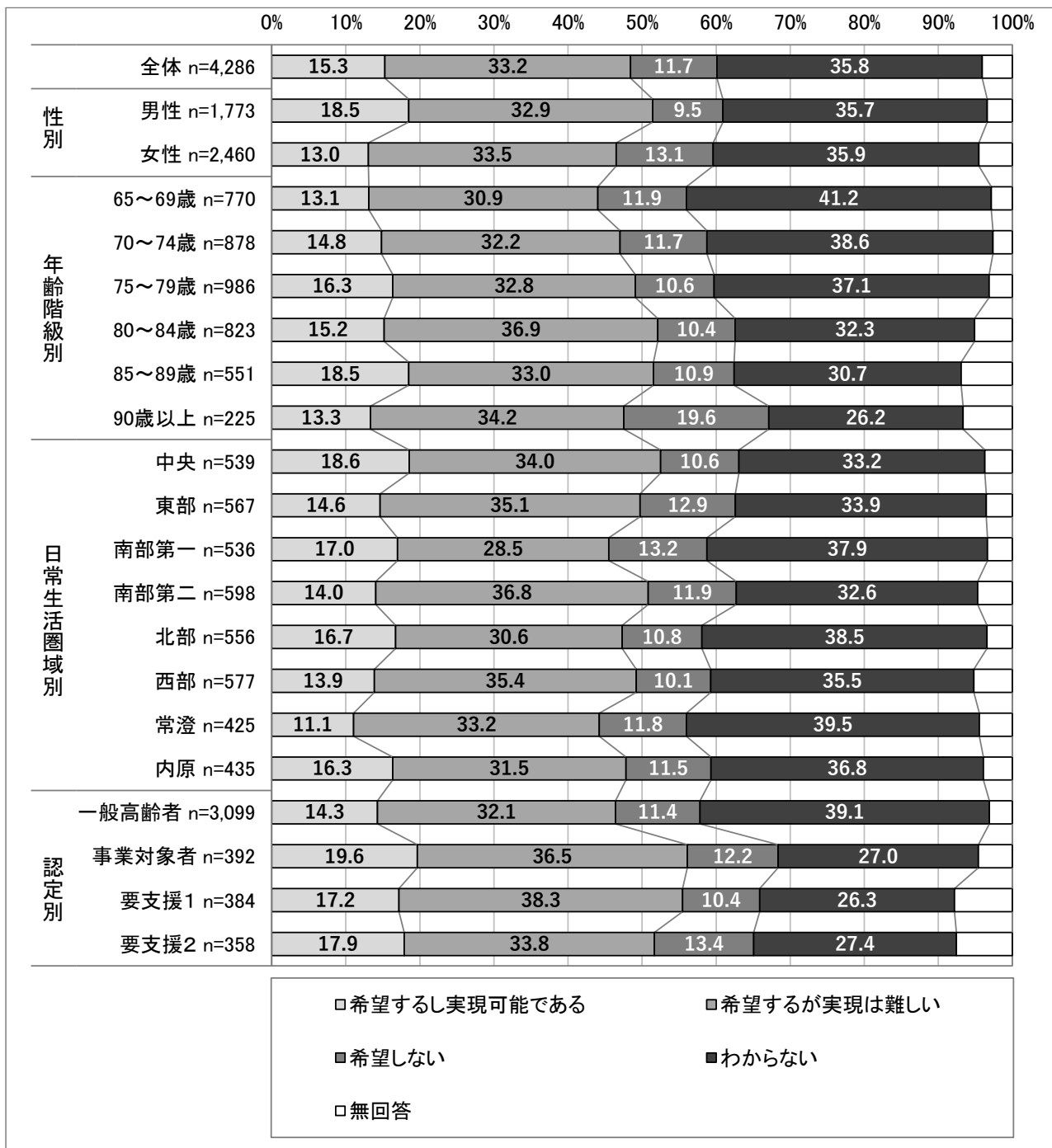
Q 2. 病気などで長期療養が必要になったとき、在宅医療を希望しますか。そして、その実現は可能だと思いますか（1つのみ）

在宅医療の希望とその実現性については、全体では「わからない」が35.8%で最も高く、次いで「希望するが実現は難しい」が33.2%、「希望するし実現可能である」が15.3%、「希望しない」が11.7%となっています。

性別でみると、「希望するし実現可能である」と「希望するが実現は難しい」を合わせた『希望する』は、男性が51.4%、女性が46.5%で、男性が女性を4.9ポイント上回っています。

年齢階級別でみると、『希望する』は、80～84歳が52.1%で最も高く、次いで85～89歳が51.5%、75～79歳が49.1%となっています。

日常生活圏域別でみると、『希望する』は、中央が52.6%で最も高く、次いで南部第二が50.8%、東部が49.7%となっています。



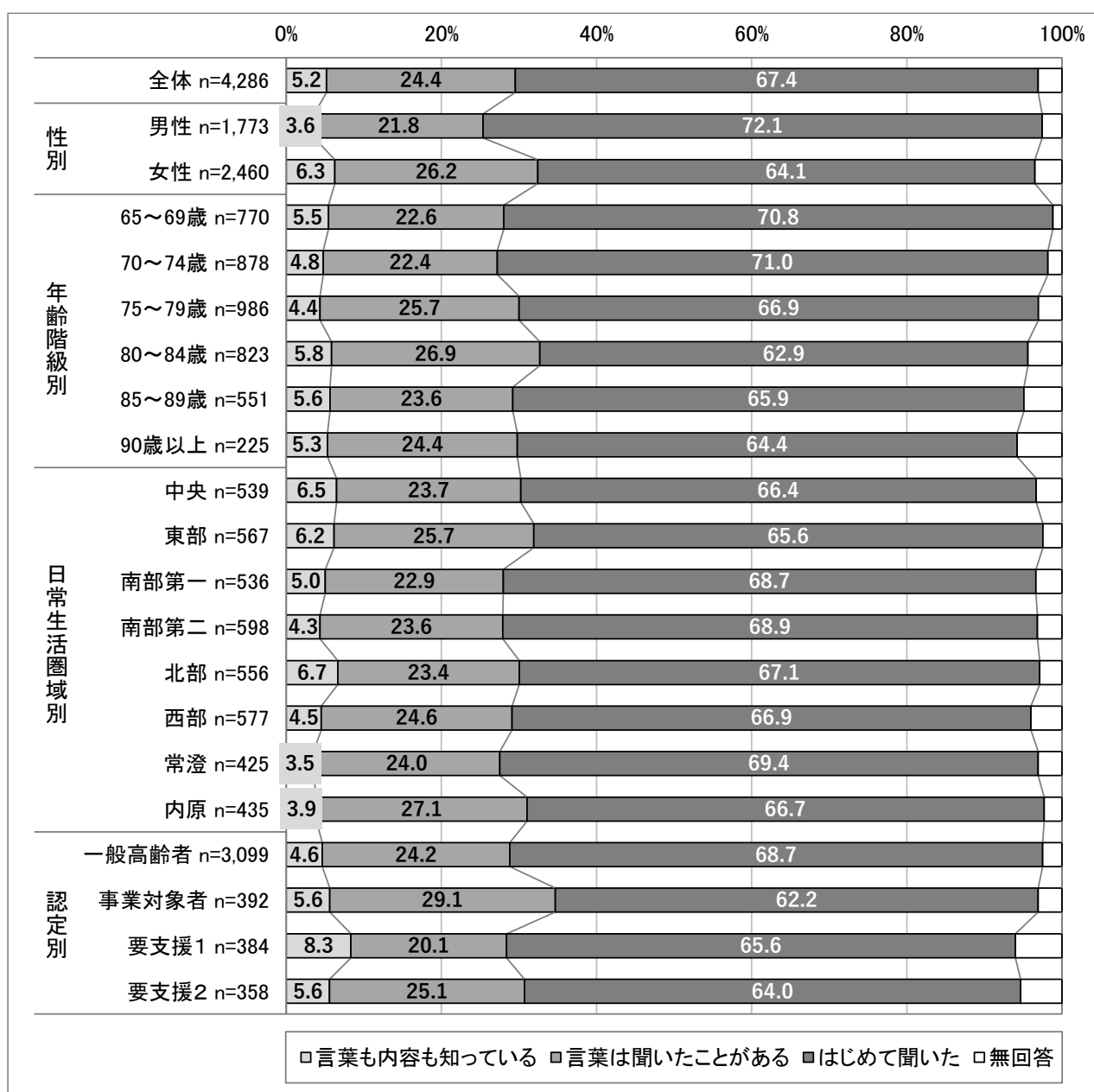
Q3. あなたはアドバンス・ケア・プランニング(ACP)について知っていましたか(1つのみ)

アドバンス・ケア・プランニングを知っているかについては、全体では「はじめて聞いた」が67.4%で最も高く、次いで「言葉は聞いたことがある」が24.4%、「言葉も内容も知っている」が5.2%となっています。

性別でみると、「はじめて聞いた」は、男性が72.1%、女性が64.1%で、男性が女性を8.0ポイント上回っています。

年齢階級別でみると、「はじめて聞いた」は、70～74歳が71.0%で最も高く、次いで65～69歳が70.8%、75～79歳が66.9%となっています。

日常生活圏域別でみると、「はじめて聞いた」は、常澄が69.4%で最も高く、次いで南部第二が68.9%、南部第一が68.7%となっています。



1 1. 成年後見制度について

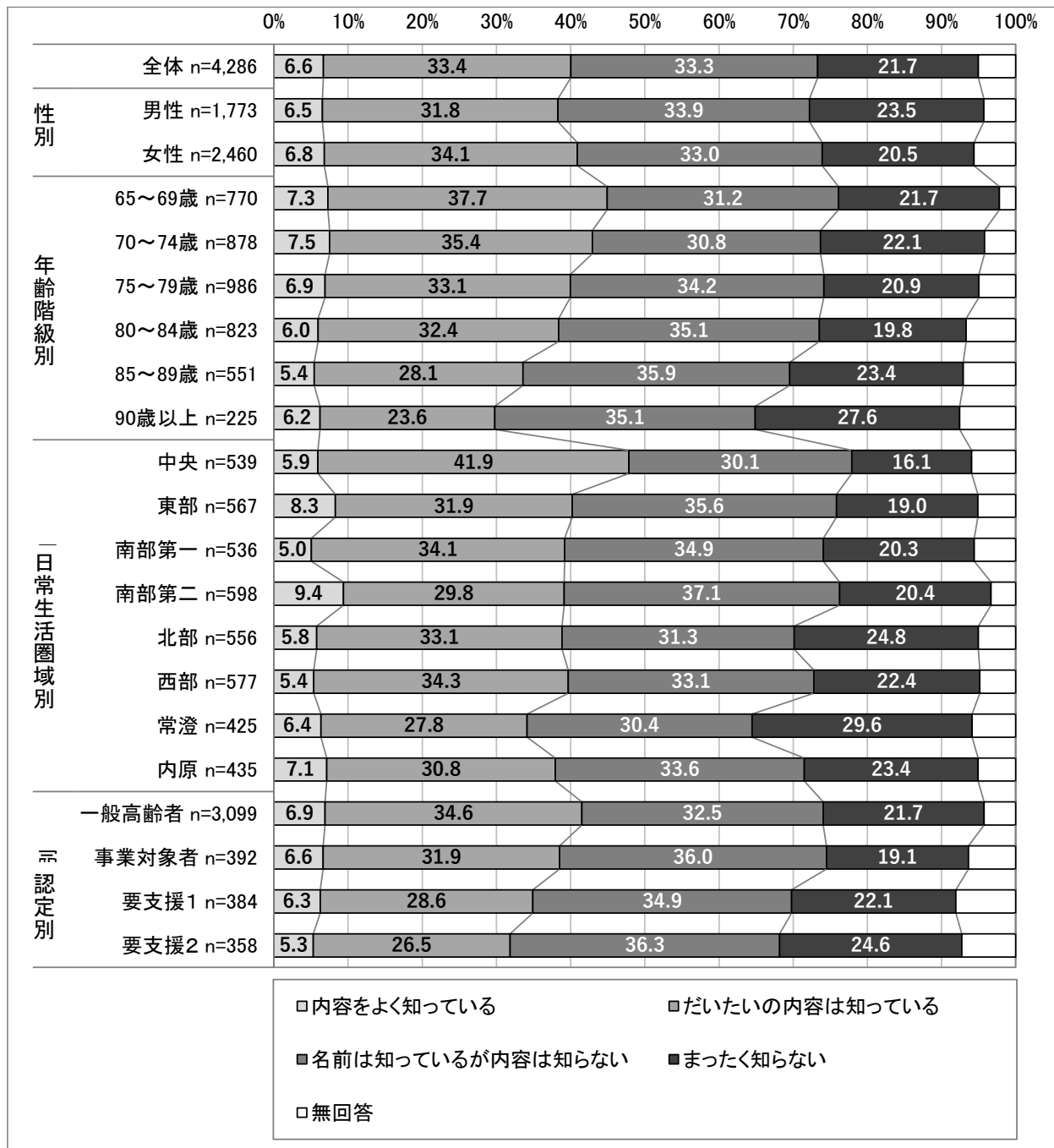
Q 1. 成年後見制度を知っていますか（1つのみ）

成年後見制度を知っているかについては、全体では「だいたいの内容は知っている」が 33.4%で最も高く、次いで「名前は知っているが内容は知らない」が 33.3%、「まったく知らない」が 21.7%、「内容をよく知っている」が 6.6%となっています。

性別でみると、「名前は知っているが内容は知らない」と「まったく知らない」を合わせた『知らない』は、男性が 57.4%、女性が 53.5%で、男性が女性を 3.9 ポイント上回っています。

年齢階級別でみると、『知らない』は、90 歳以上が 62.7%で最も高く、次いで 85～89 歳が 59.3%、75～79 歳が 55.1%となっています。

日常生活圏域別でみると、『知らない』は、常澄が 60.0%で最も高く、次いで南部第二が 57.5%、内原が 57.0%となっています。



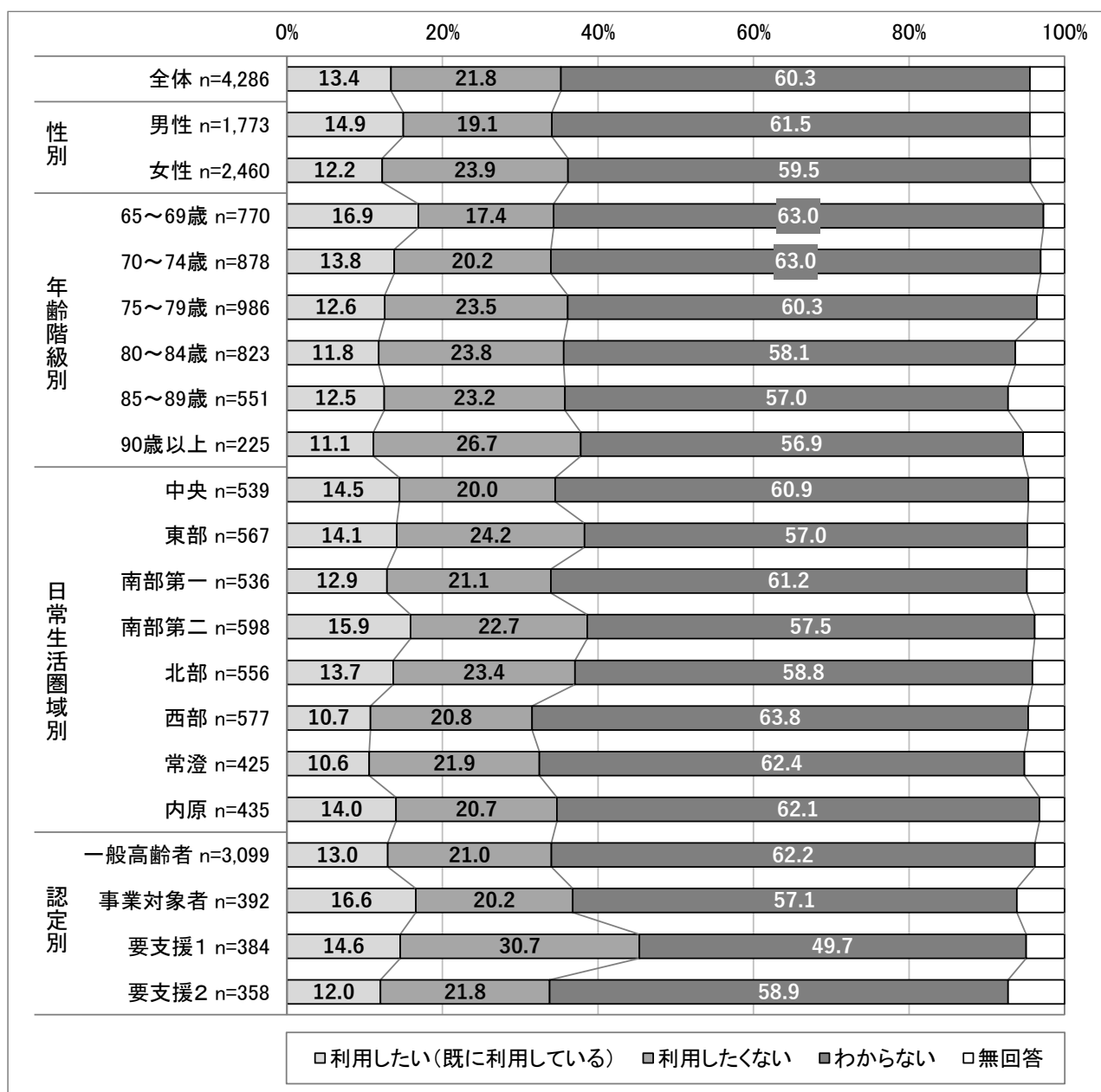
Q 2. あなたが認知症などによって物事を判断する能力が十分でなくなった場合に、成年後見制度を利用したいと思いますか（1つのみ）

成年後見制度の利用については、全体では「わからない」が 60.3%で最も高く、次いで「利用したくない」が 21.8%、「利用したい（既に利用している）」が 13.4%となっています。

性別でみると、「利用したい（既に利用している）」は、男性が 14.9%、女性が 12.2%で、男性が女性を 2.7 ポイント上回っています。

年齢階級別でみると、「利用したい（既に利用している）」は、65～69 歳が 16.9%で最も高く、次いで 70～74 歳が 13.8%、75～79 歳が 12.6%となっています。

日常生活圏域別でみると、「利用したい（既に利用している）」は、南部第二が 15.9%で最も高く、次いで中央が 14.5%、東部が 14.1%となっています。



第Ⅲ部 生活機能判定結果

1. 介護予防のための生活機能判定結果

今回実施した介護予防・日常生活圏域ニーズ調査は、介護予防のための生活機能の評価する項目が設けられており、調査項目の回答結果をもとに、各機能进行评估することができます。さらには、これらの各機能の評価をもとに、事業対象者に該当するか判断できます。

○各機能の評価項目

項目	評価方法	設問番号
生活機能	生活機能判定項目（後述参照）で、うつに関する2項目を除いた20項目中、10項目以上が該当した場合、生活機能の該当者と判定する。	問4 Q4、Q5、Q8、Q13、Q14
運動機能	生活機能判定項目6～10の5項目のうち、3項目以上に該当した場合、運動機能の該当者と判定する。	問2 Q1～Q5
栄養状態	以下の①かつ②に該当した場合、栄養状態の該当者と判定する。 ①生活機能判定項目11に該当 ②生活機能判定項目12でBMIが18.5未満	問3 Q1、Q8
口腔機能	生活機能判定項目13～15の3項目のうち、2項目以上に該当した場合、口腔機能の該当者と判定する。	問3 Q2～Q4
閉じこもり	生活機能判定項目16に該当した場合、閉じこもりの該当者と判定する。	問2 Q6、Q7
認知機能	生活機能判定項目18に該当した場合、認知機能の該当者と判定する。	問4 Q1～Q3
うつ	生活機能判定項目21～22の2項目のうち、いずれかに該当した場合、うつの該当者と判定する。	問8 Q3、Q4
事業対象者	生活機能、運動機能、栄養状態、口腔機能、閉じこもり、認知機能、うつのいずれかに該当している場合、事業対象者と判定する。 ※本報告書では、生活機能、運動機能、栄養状態、口腔機能のいずれかに該当している場合の結果も掲載しています。	

○生活機能判定項目（22 項目）

No.	質問項目	該当する回答
1	バスや電車を使って1人で外出していますか(自家用車でも可)	・できるけどしていない ・できない
2	自分で食品・日用品の買い物をしていますか	・できるけどしていない ・できない
3	自分で預貯金の出し入れをしていますか	・できるけどしていない ・できない
4	友人の家を訪ねていますか	・いいえ
5	家族や友人の相談にのっていますか	・いいえ
6	階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか	・できない
7	椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか	・できない
8	15分位続けて歩いていますか	・できない
9	過去1年間に転んだ経験がありますか	・何度もある ・1度ある
10	転倒に対する不安は大きいですか	・とても不安である ・やや不安である
11	6か月間で2～3kg以上の体重減少がありましたか	・はい
12	身長 cm 体重 kg (BMI=)	・BMI=18.5 未満
13	半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか	・はい
14	お茶や汁物等でむせることがありますか	・はい
15	口の渇きが気になりますか	・はい
16	週に1回以上は外出していますか	・ほとんど外出しない ・週1回
17	昨年と比べて外出の回数が減っていますか	・とても減っている ・減っている
18	物忘れが多いと感じますか	・はい
19	自分で電話番号を調べて、電話をかけることをしていますか	・いいえ
20	今日が何月何日かわからないときがありますか	・はい
21	この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがありましたか	・はい
22	この1か月間、どうしても物事に対して興味がわからない、あるいは心から楽しめない感じがよくありましたか	・はい

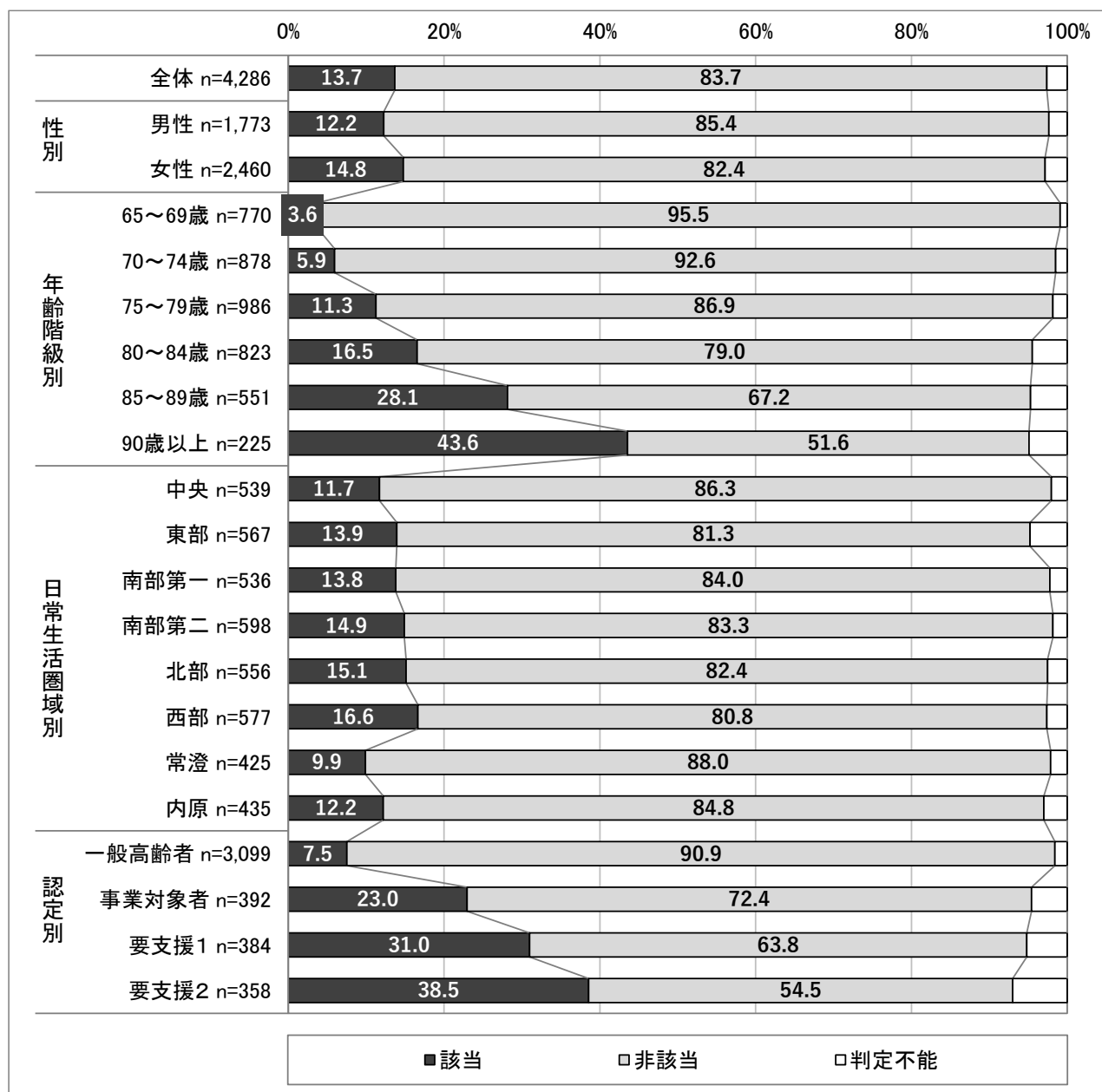
■生活機能

生活機能についての結果をみると、生活機能に低下の傾向がみられると判定された方は、全体で13.7%となっています。

性別でみると、「該当」は、男性が12.2%、女性が14.8%で、女性が男性に比べ2.6ポイント上回っています。

年齢階級別でみると、「該当」は、年齢が上がるとともに増加し、90歳以上では4割を超えています。

日常生活圏域別でみると、「該当」は、西部が16.6%で最も高く、次いで北部が15.1%、南部第二が14.9%となっています。



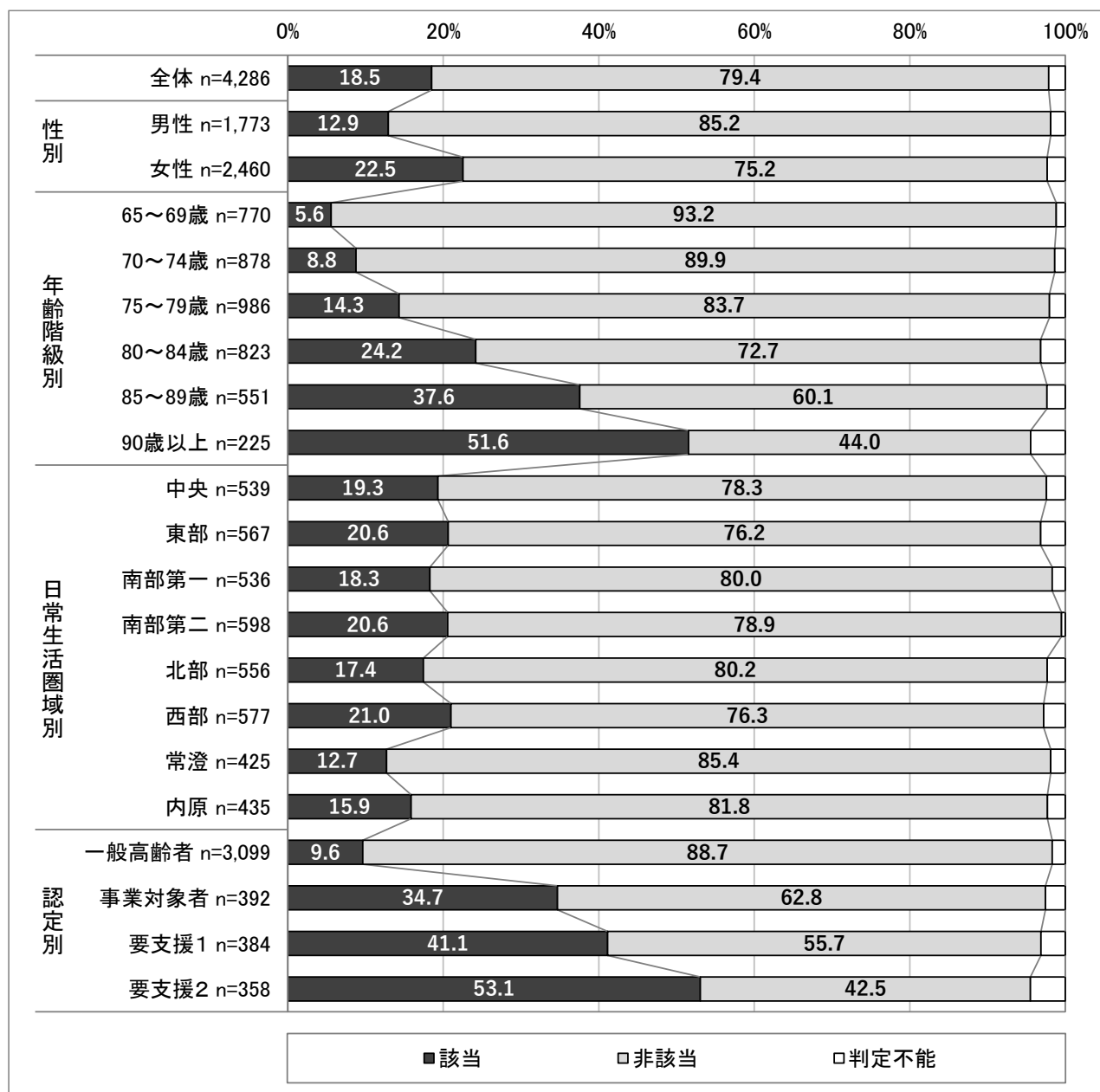
■運動機能

運動機能についての結果をみると、運動機能に低下の傾向がみられると判定された方は、全体で18.5%となっています。

性別でみると、「該当」は、男性が12.9%、女性が22.5%で、女性が男性に比べ9.6ポイント上回っています。

年齢階級別でみると、「該当」は、年齢が上がるとともに増加し、90歳以上では5割を超えています。

日常生活圏域別でみると、「該当」は、西部が21.0%で最も高く、次いで東部、南部第二がともに20.6%、中央が19.3%となっています。



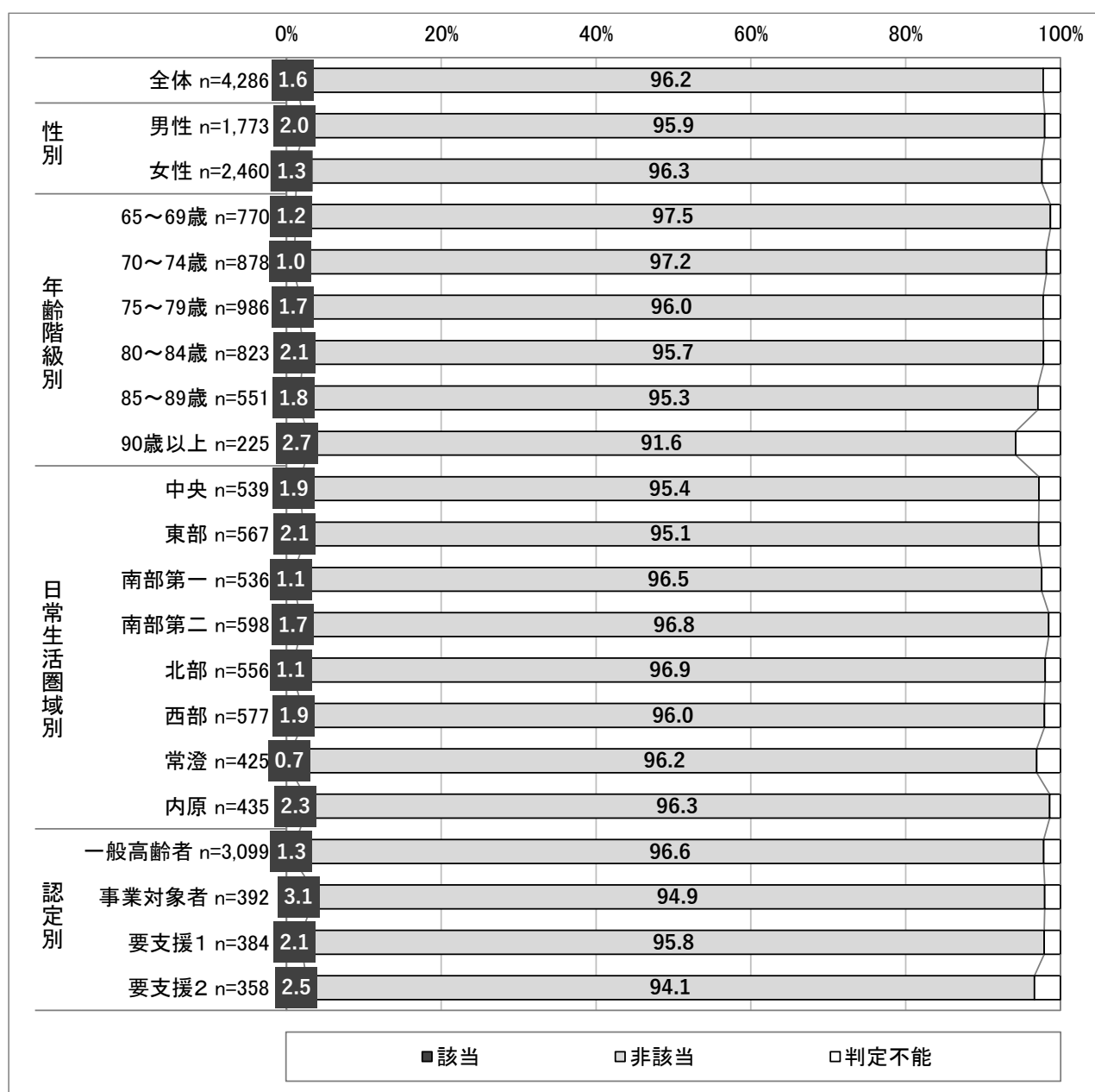
■栄養状態

栄養状態についての結果をみると、栄養状態に低下の傾向がみられると判定された方は、全体で1.6%となっています。

性別でみると、「該当」は、男性が2.0%、女性が1.3%で、男性が女性に比べ0.7ポイント上回っています。

年齢階級別でみると、「該当」は、90歳以上が2.7%で最も高く、次いで80～84歳が2.1%、85～89歳が1.8%となっています。

日常生活圏域別でみると、「該当」は、内原が2.3%で最も高く、次いで東部が2.1%、中央、西部がともに1.9%となっています。



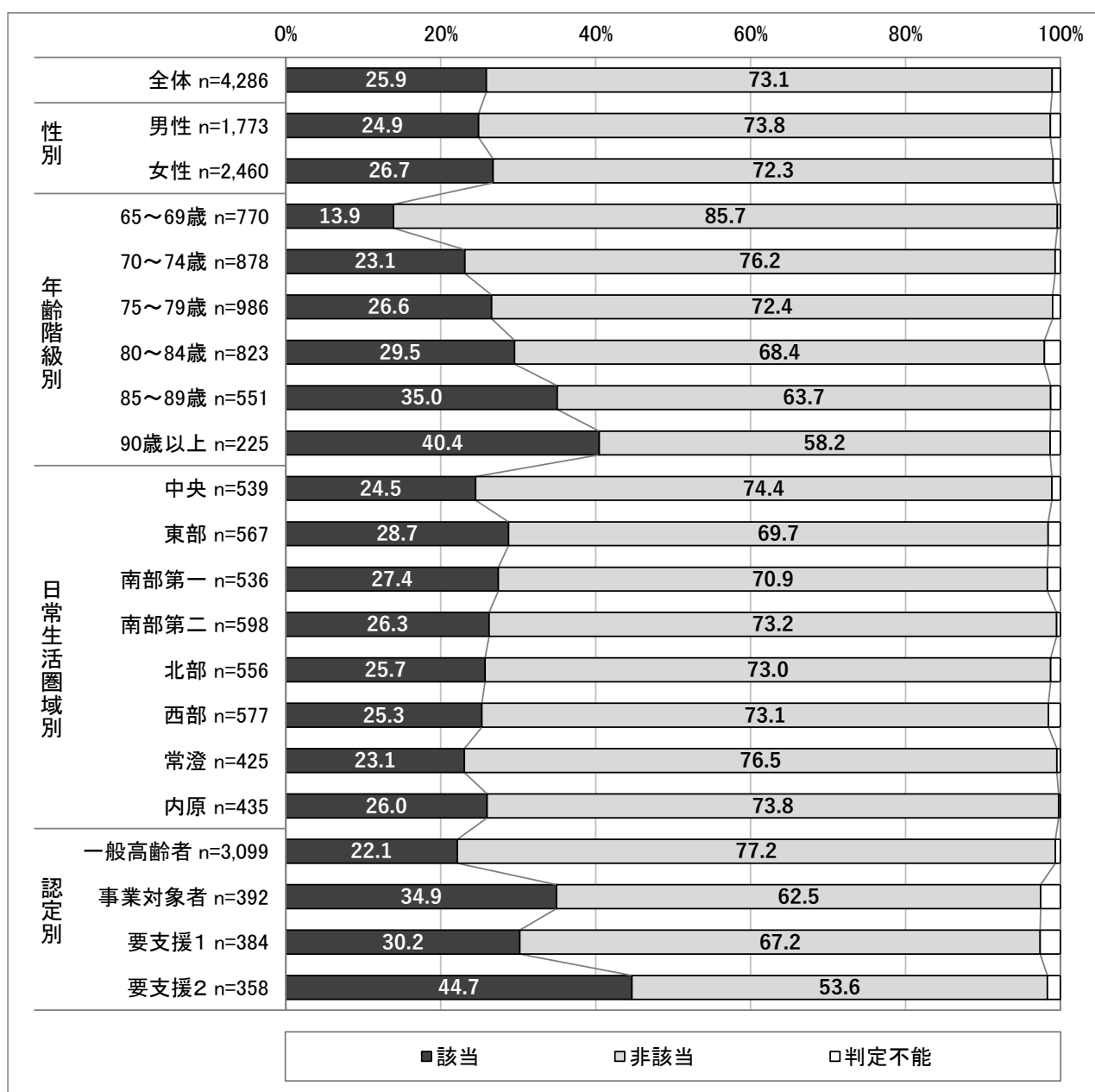
■口腔機能

口腔機能についての結果をみると、口腔機能に低下の傾向がみられると判定された方は、全体で25.9%となっています。

性別でみると、「該当」は、男性が24.9%、女性が26.7%で、女性が男性に比べ1.8ポイント上回っています。

年齢階級別でみると、「該当」は、年齢が上がるとともに増加し、90歳以上では約4割を超えています。

日常生活圏域別でみると、「該当」は、東部が28.7%で最も高く、次いで南部第一が27.4%、南部第二が26.3%となっています。



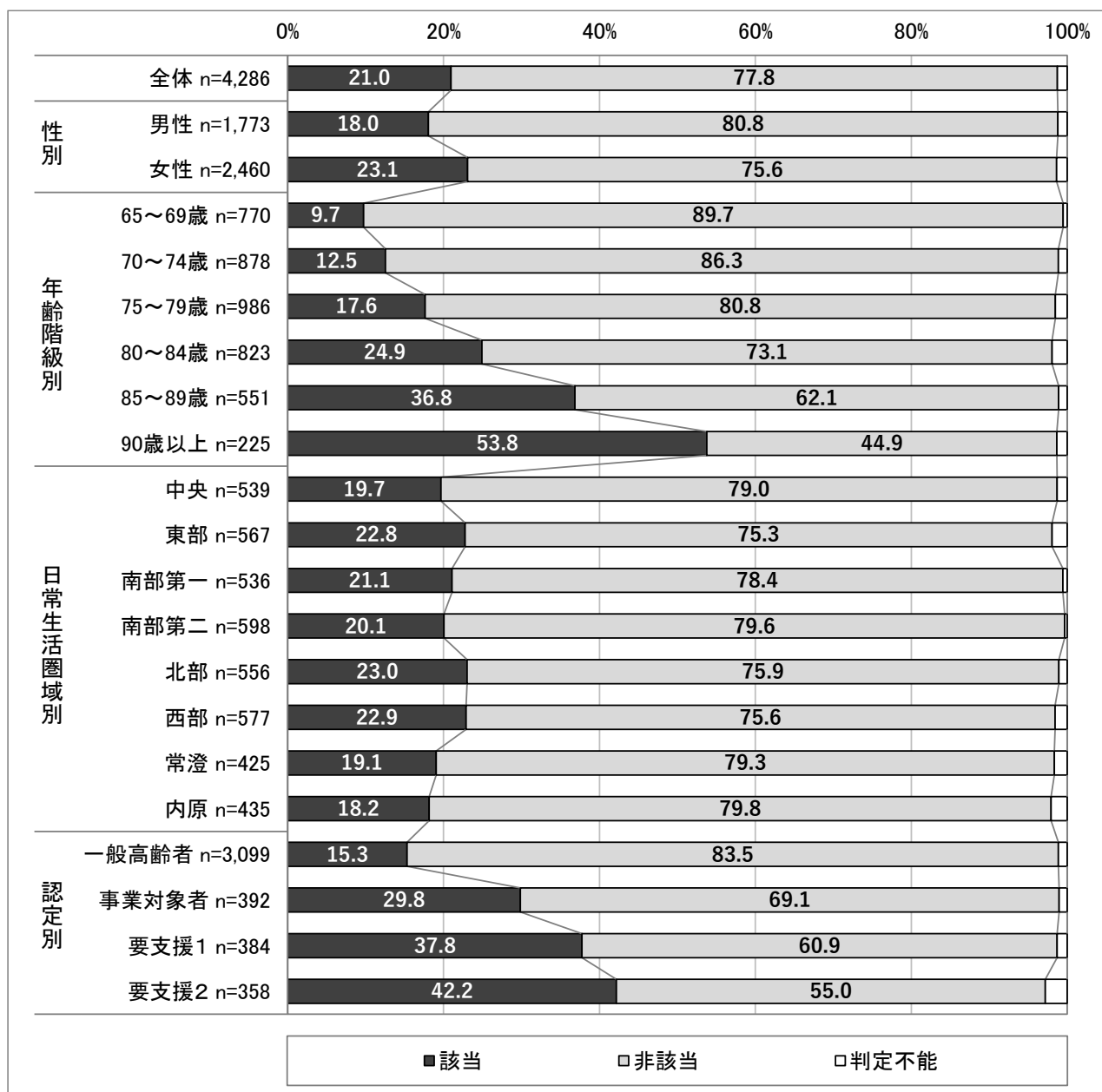
■閉じこもり

閉じこもりについての結果をみると、閉じこもりの傾向がみられると判定された方は、全体で 21.0% となっています。

性別でみると、「該当」は、男性が 18.0%、女性が 23.1% で、女性が男性に比べ 5.1 ポイント上回っています。

年齢階級別でみると、「該当」は、年齢が上がるとともに増加し、90 歳以上では 5 割を超えています。

日常生活圏域別でみると、「該当」は、北部が 23.0% で最も高く、次いで西部が 22.9%、東部が 22.8% となっています。



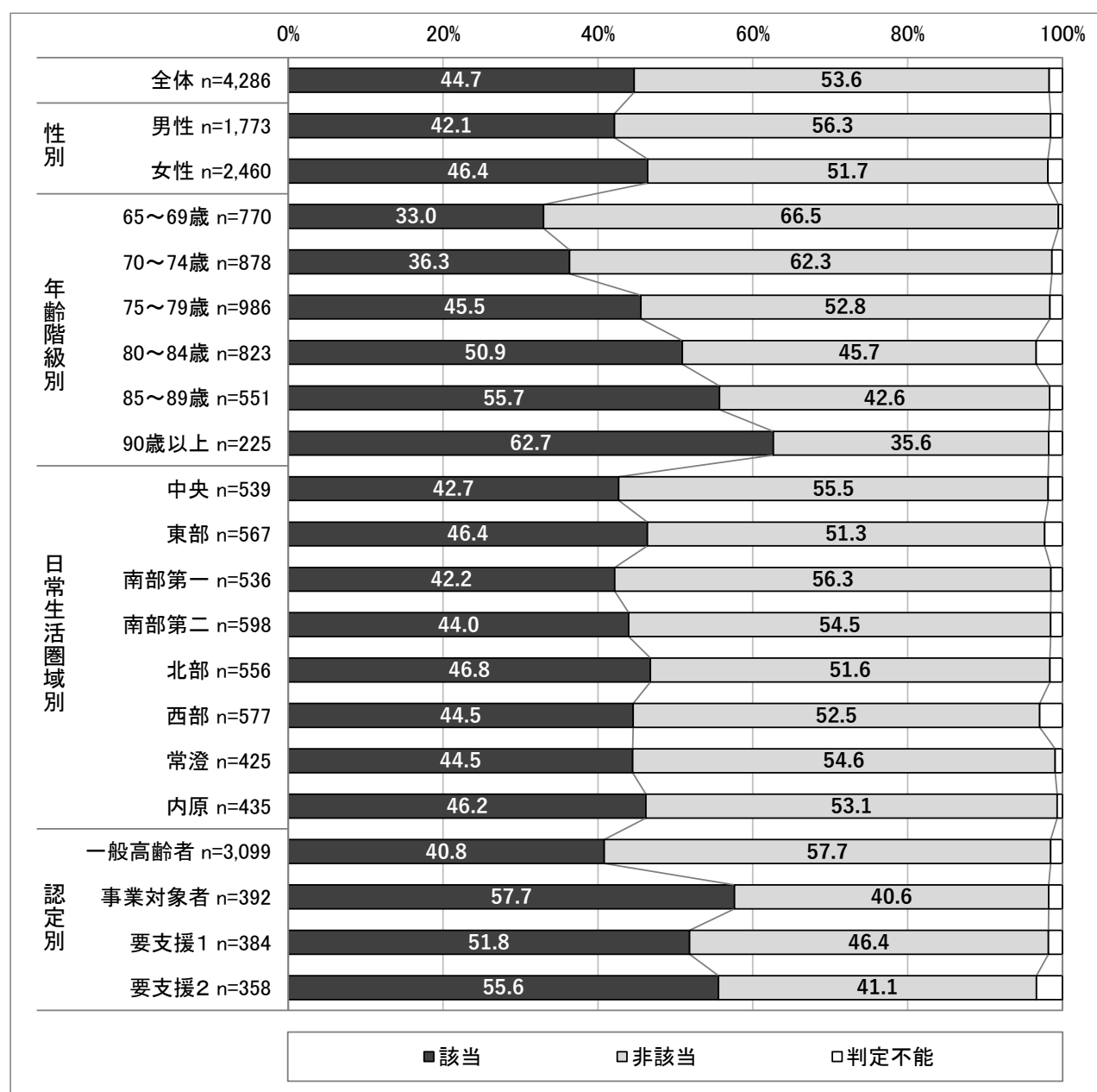
■ 認知機能

認知機能についての結果をみると、認知機能に低下の傾向がみられると判定された方は、全体で44.7%となっています。

性別でみると、「該当」は、男性が42.1%、女性が46.4%で、女性が男性に比べ4.3ポイント上回っています。

年齢階級別でみると、「該当」は、年齢が上がるとともに増加し、90歳以上では約6割を超えています。

日常生活圏域別でみると、「該当」は、北部が46.8%で最も高く、次いで東部が46.4%、内原が46.2%となっています。



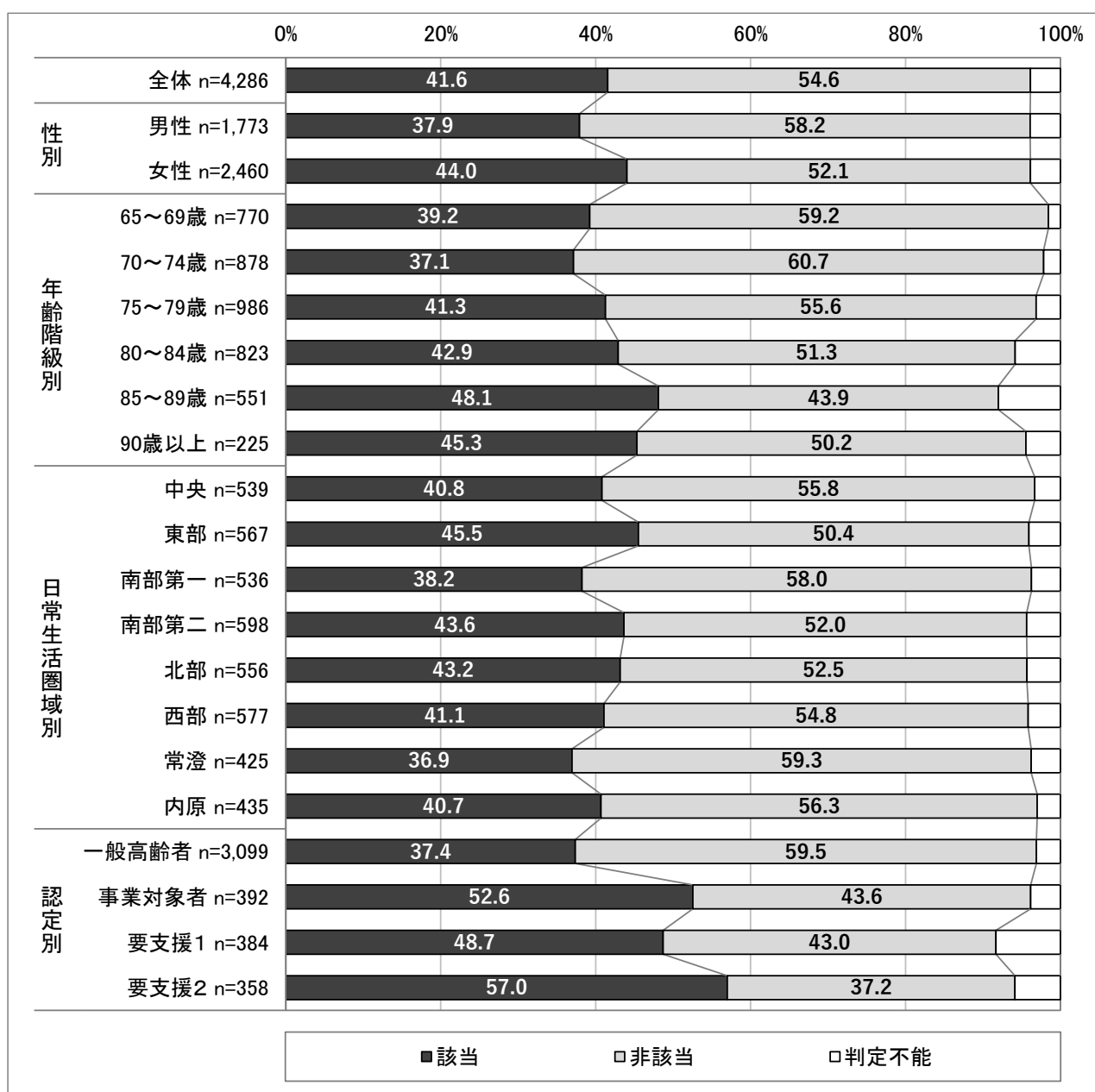
■うつ

うつについての結果をみると、うつの傾向がみられると判定された方は、全体で 41.6%となっています。

性別でみると、「該当」は、男性が 37.9%、女性が 44.0%で、女性が男性に比べ 6.1 ポイント上回っています。

年齢階級別でみると、「該当」は、85～89 歳が 48.1%で最も高く、次いで 90 歳以上が 45.3%、80～84 歳が 42.9%となっています。

日常生活圏域別でみると、「該当」は、東部が 45.5%で最も高く、次いで南部第二が 43.6%、北部が 43.2%となっています。



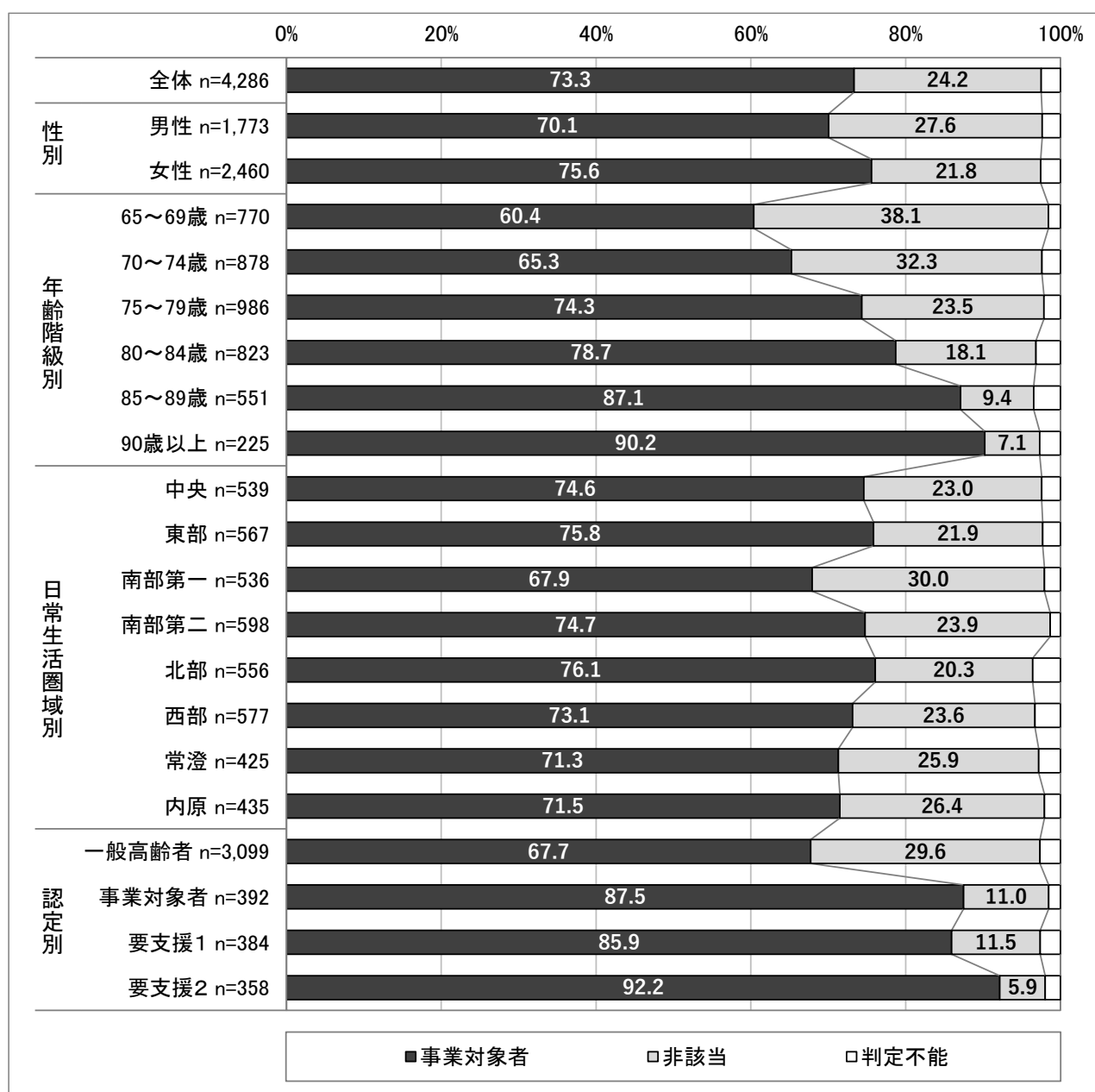
■事業対象者（7項目判定）

生活機能、運動機能、栄養状態、口腔機能、閉じこもり、認知機能、うつのいずれかに該当した方は、全体で73.3%となっています。

性別でみると、「事業対象者」は、男性が70.1%、女性が75.6%で、女性が男性に比べ5.5ポイント上回っています。

年齢階級別でみると、「事業対象者」は、年齢が上がるとともに増加し、80～84歳では約8割、90歳以上では約9割を超えています。

日常生活圏域別でみると、「事業対象者」は、北部が76.1%で最も高く、次いで東部が75.8%、南部第二が74.7%となっています。



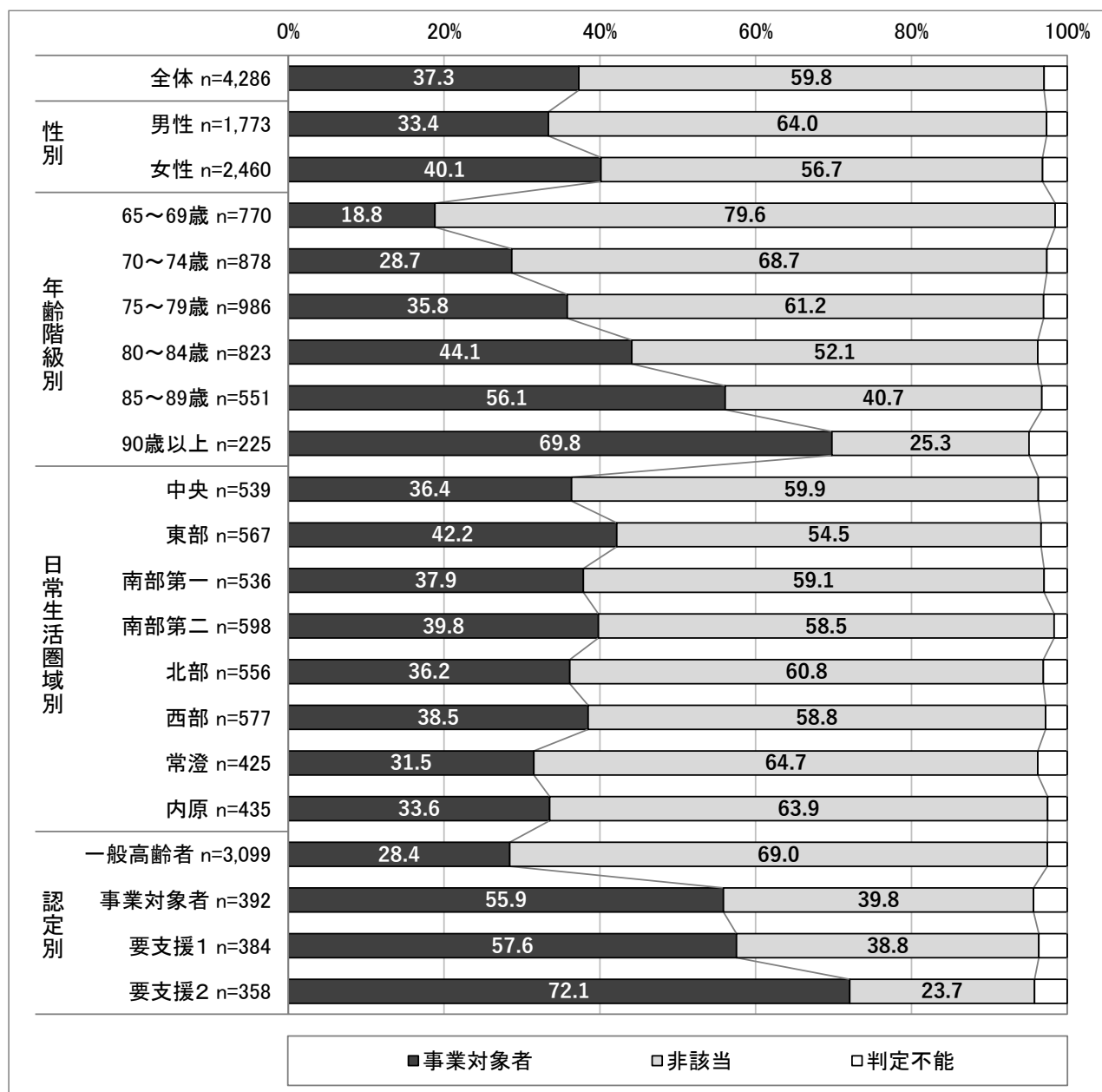
■事業対象者（４項目判定）

生活機能、運動機能、栄養状態、口腔機能のいずれかに該当した方は、全体で 37.3%となっています。

性別でみると、「事業対象者」は、男性が 33.4%、女性が 40.1%で、女性が男性に比べ 6.7 ポイント上回っています。

年齢階級別でみると、「事業対象者」は、年齢が上がるとともに増加し、80～84 歳では４割を超えており、90 歳以上では約 7 割となっています。

日常生活圏域別でみると、「事業対象者」は、東部が 42.2%で最も高く、次いで南部第二が 39.8%、西部が 38.5%となっています。



2. その他の生活機能判定

介護予防のための生活機能評価のほかに、本調査票には、下記の機能を評価するための設問が設けられています。

評価にあたっては、下記の評価方法で実施しています。

○各機能の評価方法

項目	評価方法	設問番号
転倒リスク	問2 Q4の設問において、「何度もある」「1度ある」と回答した場合、転倒リスクの該当者と判定する。	問2 からだを動かすことについて Q4
手段的自立度（IADL）	高齢者の比較的高次の生活機能を評価することができる老研式活動能力指標に準じた設問が5問設けられている。このうち、手段的自立度（IADL）については、問4 Q4～Q8について「できるし、している」「できるけどしていない」と回答した場合を1点とし、5点満点を「高い」、4点を「やや低い」、3点以下を「低い」と評価する。	問4 毎日の生活について Q4～Q8
知的能動性	老研式活動能力指標には、高齢者の知的活動に関する設問が4問設けられている。各設問に「はい」と回答した場合を1点とし、4点満点を「高い」、3点を「やや低い」、2点以下を「低い」と評価する。	問4 毎日の生活について Q9～Q12
社会的役割	老研式活動能力指標には、高齢者の社会活動に関する設問が4問設けられている。各設問に「はい」と回答した場合を1点とし、4点満点を「高い」、3点を「やや低い」、2点以下を「低い」と評価する。	問4 毎日の生活について Q13～Q16
生活機能総合評価	手段的自立度に、知的能動性、社会的役割を加えた老研指標13項目で評価を行う。11点以上を「高い」、9～10点を「やや低い」、8点以下を「低い」と評価する。	手段的自立度 (問4 毎日の生活について Q4～Q8) 知的能動性 (問4 毎日の生活について Q9～Q12) 社会的役割 (問4 毎日の生活について Q13～Q16)

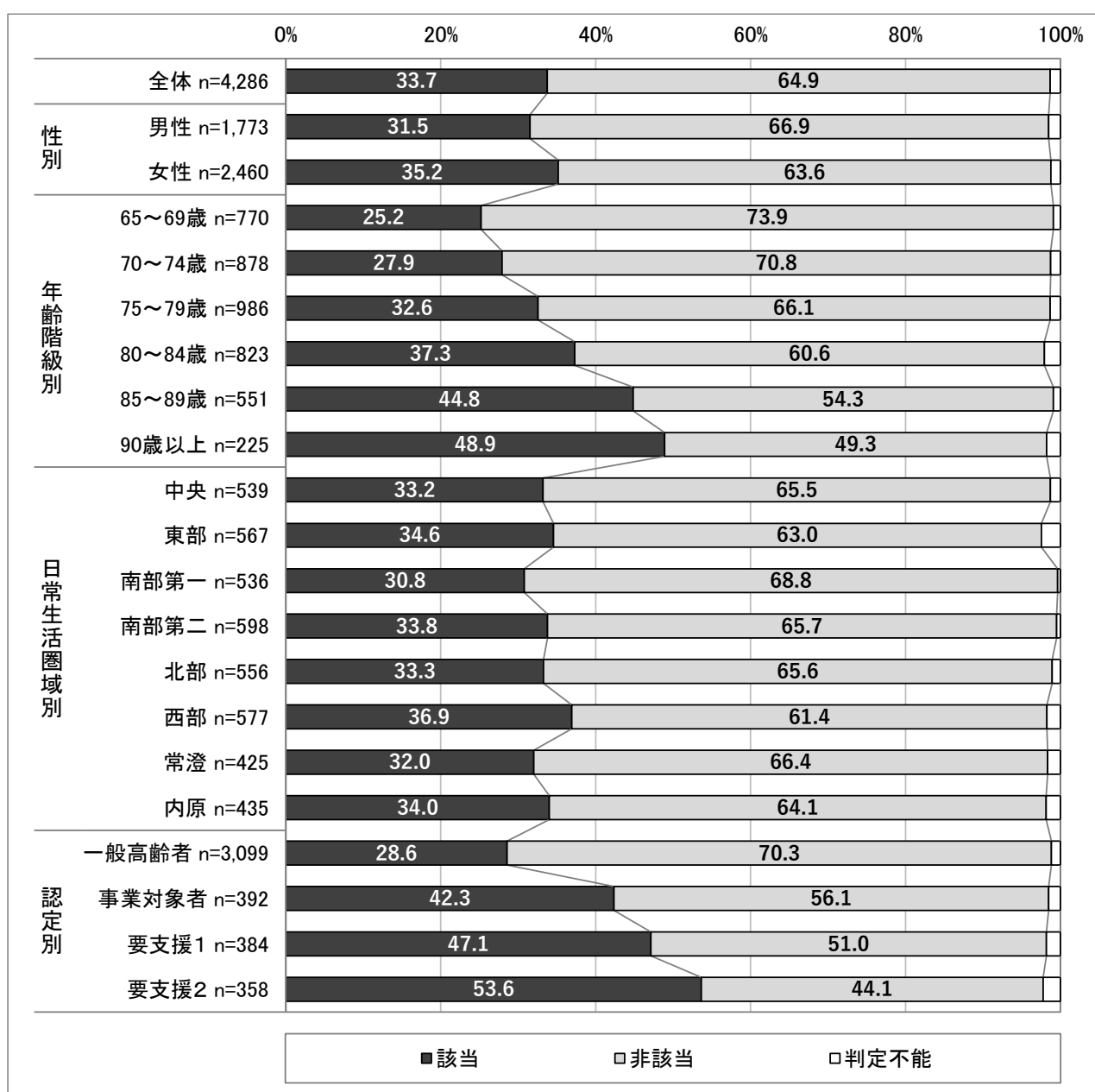
■転倒リスク

転倒リスクについての結果をみると、転倒リスクが高い傾向にあると判定された方は、全体で 33.7% となっています。

性別でみると、「該当」は、男性が 31.5%、女性が 35.2% で、女性が男性に比べ 3.7 ポイント上回っています。

年齢階級別でみると、「該当」は、年齢が上がるとともに増加し、75～79 歳では 3 割、85 歳以上では約 4 割を超えています。

日常生活圏域別でみると、「該当」は、西部が 36.9% で最も高く、次いで東部が 34.6%、内原が 34.0% となっています。



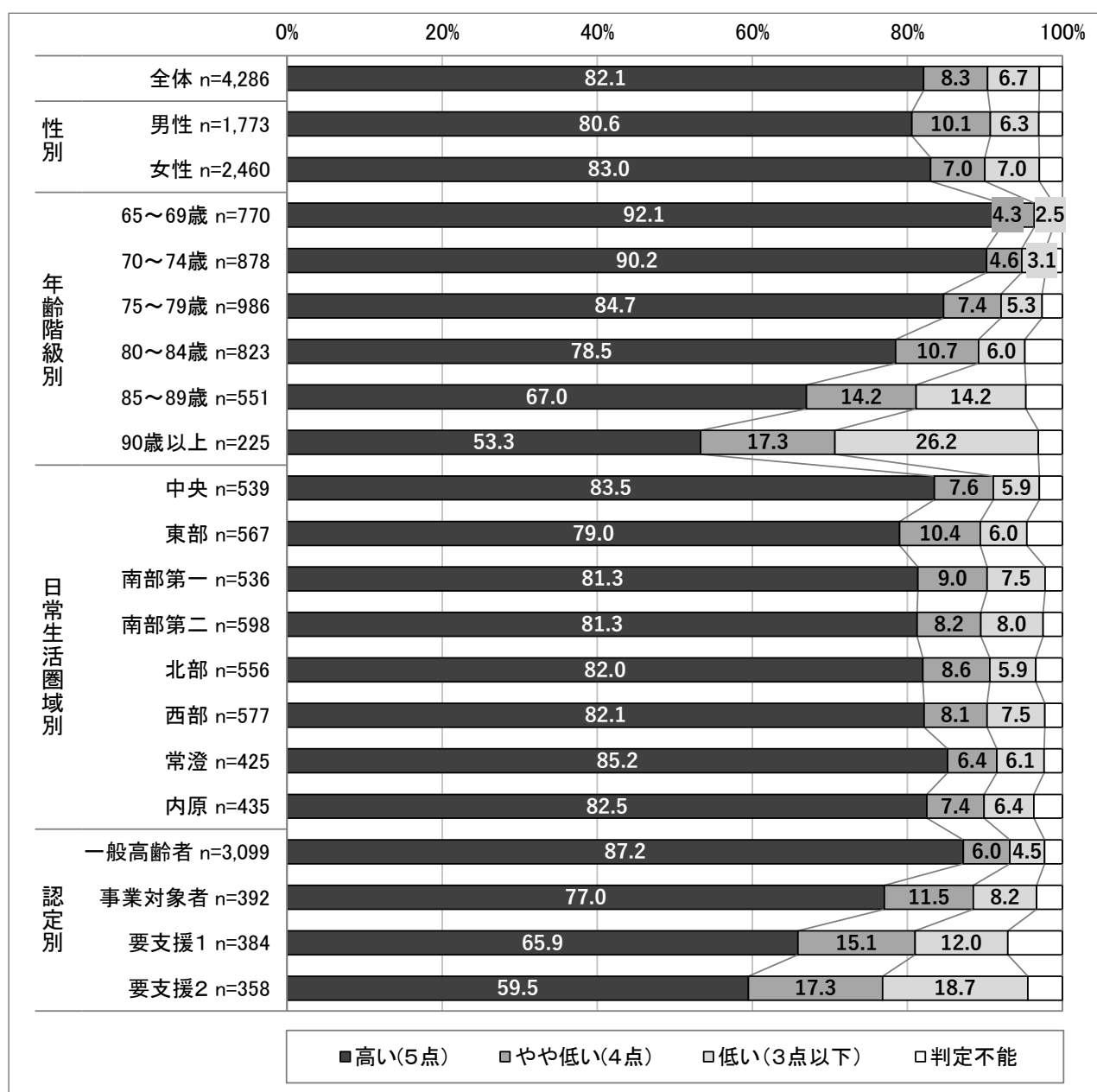
■手段的自立度（IADL）

手段的自立度（IADL）についての結果をみると、手段的自立度が「高い」と判定された方は、全体で82.1%となっています。

性別でみると、「高い」は、男性が80.6%、女性が83.0%で、女性が男性に比べ2.4ポイント上回っています。

年齢階級別でみると、「高い」は、年齢が上がるとともに減少し、85～89歳では約7割となっています。

日常生活圏域別でみると、「高い」は、常澄が85.2%で最も高く、次いで中央が83.5%、内原が82.5%となっています。



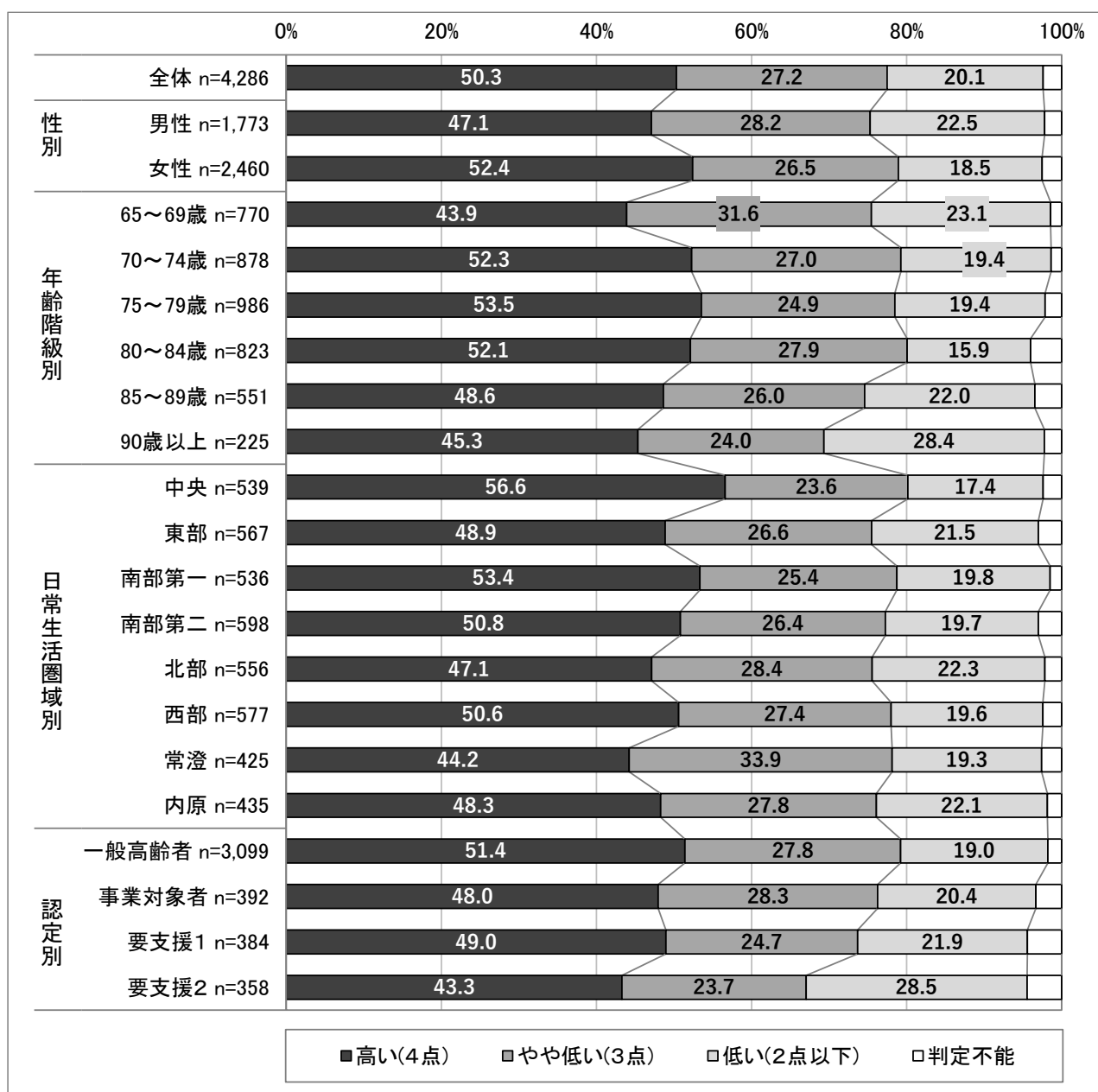
■知的能動性

知的能動性についての結果をみると、知的能動性が「高い」と判定された方は、全体で 50.3% となっています。

性別でみると、「高い」は、男性が 47.1%、女性が 52.4% で、女性が男性に比べ 5.3 ポイント上回っています。

年齢階級別でみると、「高い」は、75～79 歳が 53.5% で最も高く、次いで 70～74 歳が 52.3%、80～84 歳が 52.1% となっています。

日常生活圏域別でみると、「高い」は、中央が 56.6% で最も高く、次いで南部第一が 53.4%、南部第二が 50.8% となっています。



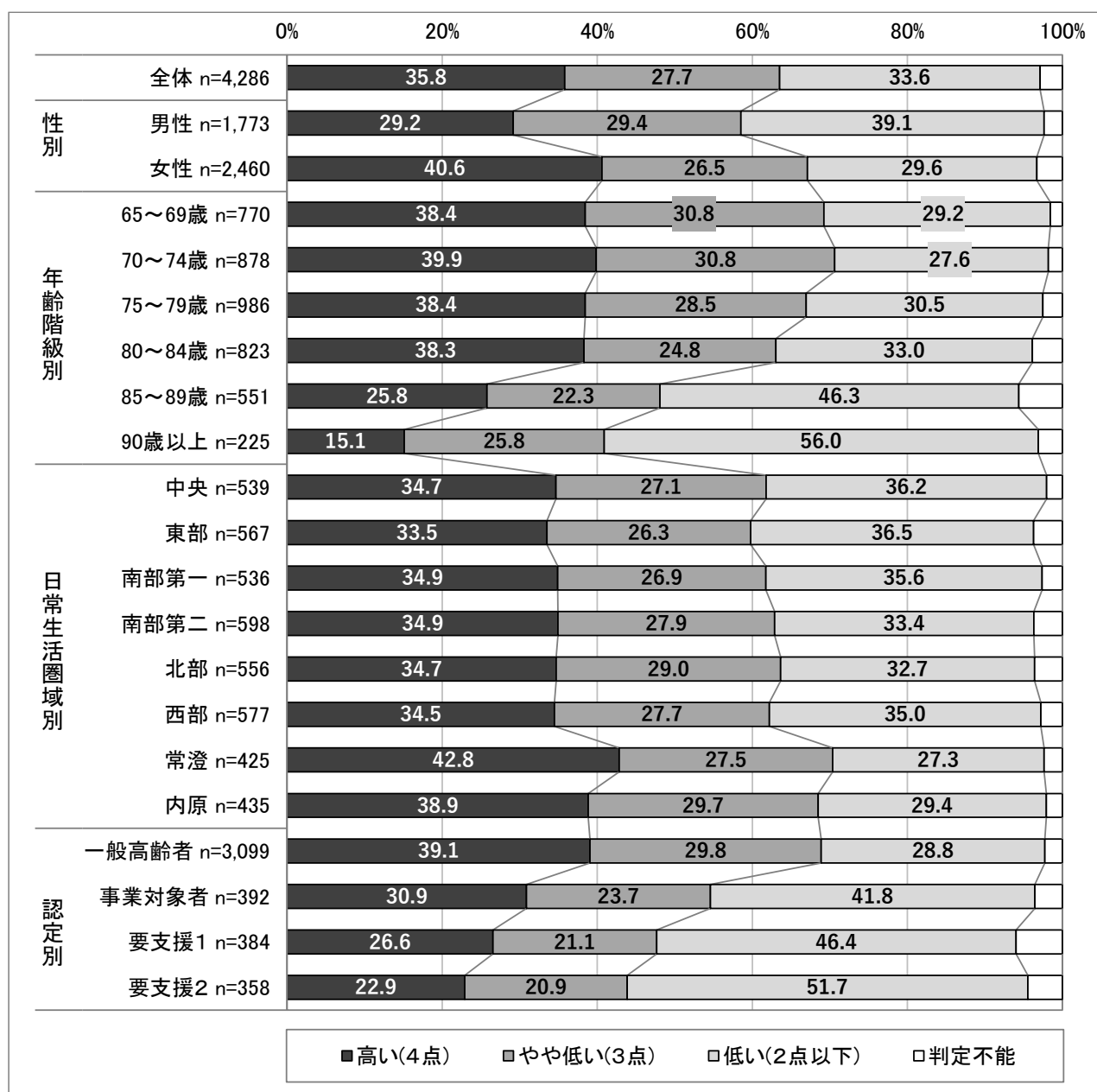
■社会的役割

社会的役割についての結果をみると、社会的役割が「高い」と判定された方は、全体で35.8%となっています。

性別でみると、「高い」は、男性が29.2%、女性が40.6%で、女性が男性に比べ11.4ポイント上回っています。

年齢階級別でみると、「高い」は、65～84歳では3割を超えている一方で、85～89歳では2割半ば、90歳以上では1割半ばとなっています。

日常生活圏域別でみると、「高い」は、常澄が42.8%で最も高く、次いで内原が38.9%、南部第一、南部第二がともに34.9%となっています。



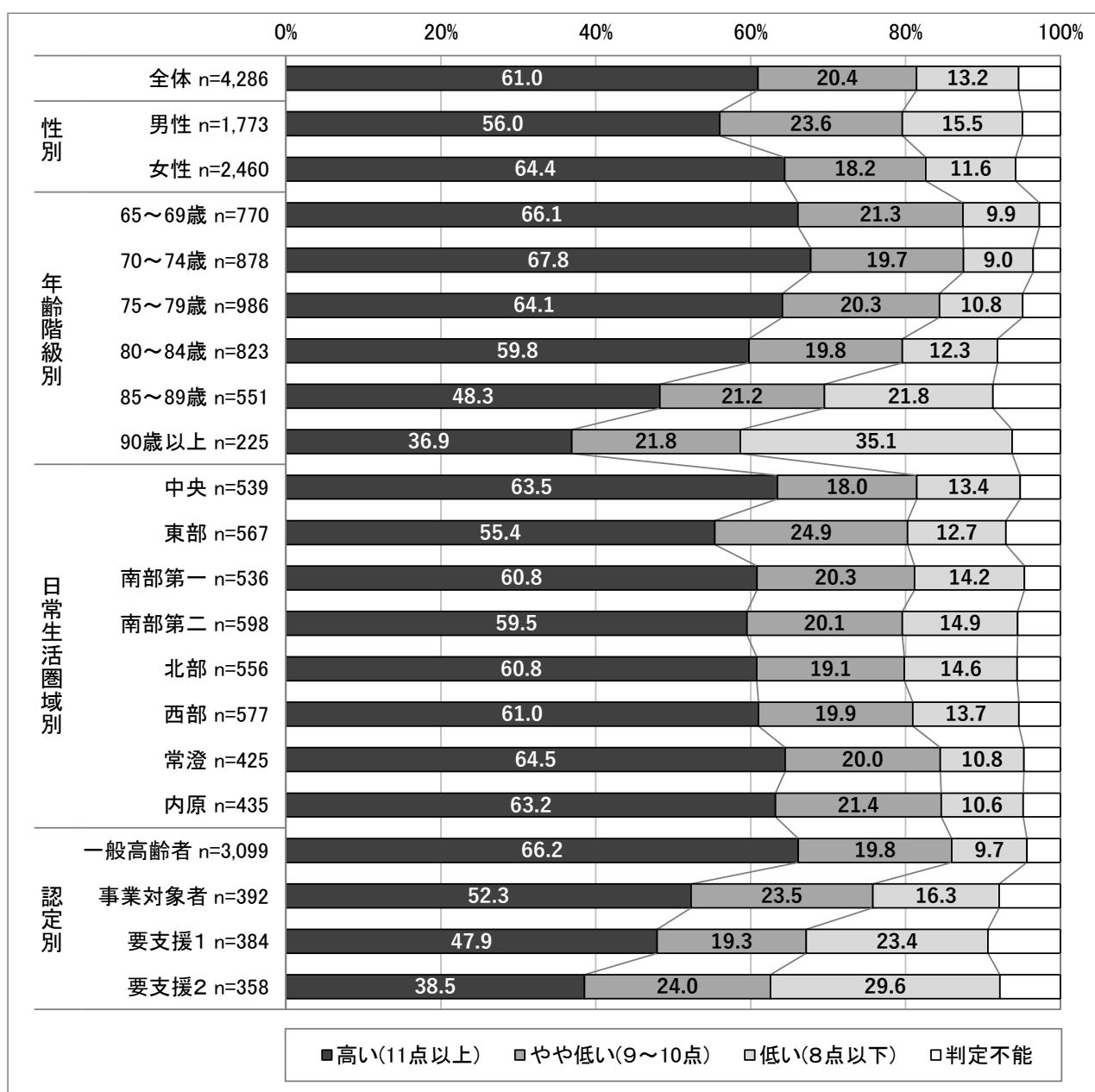
■生活機能総合評価

生活機能総合評価についての結果をみると、生活機能総合評価が「高い」と判定された方は、全体で61.0%となっています。

性別でみると、「高い」は、男性が56.0%、女性が64.4%で、女性が男性に比べ8.4ポイント上回っています。

年齢階級別でみると、「高い」は、65～79歳では6割を超えている一方で、90歳以上では3割半ばとなっています。

日常生活圏域別でみると、「高い」は、常澄が64.5%で最も高く、次いで中央が63.5%、内原が63.2%となっています。



第Ⅳ部 資料編（使用した調査票）

個人情報の取り扱いについて

個人情報の保護および活用目的は以下のとおりですので、ご確認ください。なお、本調査票のご返送をもちまして、下記にご同意いただいたものと見なさせていただきます。

【個人情報の保護および活用目的について】

- 1. この調査は、効果的な介護予防施策の立案と効果評価のために行うものです。本調査で得られた情報につきましては、水戸市第 10 期高齢者福祉計画・介護保険事業計画策定の目的以外には利用いたしません。また、当該情報については、水戸市役所内で適切に管理いたします。
- 2. ただし、水戸市第 10 期高齢者福祉計画・介護保険事業計画策定時に本調査で得られたデータを活用するにあたり、厚生労働省の管理するデータベース内に情報を登録し、必要に応じて集計・分析するなど、個人が識別されない形で利用することがあります。

記入に際してのお願い

- 1. この調査の対象者は、令和 7 年 9 月 30 日現在、水戸市にお住まいの要介護認定を受けていない 65 歳以上の方から、5,500 名を無作為に抽出しています。
- 2. ご回答にあたっては、あて名のご本人についてお答えいただきますが、ご家族の方がご本人の代わりに回答されたり、一緒にご回答いただいても構いません。
- 3. ご回答にあたっては、質問をよくお読みいただき、該当する答えにシ点 (☒) をつけてください。また、数字を記入する欄は右詰め (例

0	6	2
---	---	---

 kg) でご記入ください。
- 4. この調査についてのお問い合わせは下記までお願いいたします。

【問い合わせ先】水戸市 福祉部 福祉課 高齢福祉課
〒310-8610 茨城県水戸市中央1丁目4番1号
電話：029-297-5903 (直通)

介護予防・日常生活圏域ニーズ調査票

はじめに

皆様には、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。
日頃から、水戸市高齢者福祉行政にご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。
水戸市では、地域の高齢者の皆様の課題を的確に把握し、今後の高齢者福祉行政に反映させるため、本調査「介護予防・日常生活圏域ニーズ調査」を実施いたします。
また、令和 9 年度から令和 11 年度までを計画年度とした「水戸市第 10 期高齢者福祉計画・介護保険事業計画」を策定するにあたり、この調査の結果は、介護保険サービスや福祉サービスの種類や量を計画するための基礎資料となります。質問項目が多く、ご面倒をおかけしますが、福祉サービスの充実を図るため、ご理解とご協力をお願いいたします。

令和 7 年 11 月

水戸市長 高橋 靖

調査票記入後は、3 つ折りにして、同封の返信用封筒に入れて、
令和 7 年 12 月 10 日 (水) までに投函 (切手不要) してください。



水戸市 福祉部
高齢福祉課

質問の該当する答えにレ点(●)をつけ、数字記入欄は数字を記入してください。

調査票を記入されたのはどなたですか。(1つのみ)	
☐ あて名のご本人が記入	
☐ ご家族が記入(あて名のご本人からみた続柄 _____)	
☐ その他	

問1 あなたの家族や生活状況について	
Q 1. 家族構成を教えてください(1つのみ)	
☐ 1人暮らし	☐ 夫婦2人暮らし(配偶者65歳以上)
☐ 夫婦2人暮らし(配偶者64歳以下)	☐ 息子・娘との2世帯
☐ その他	
Q 2. あなたは、普段の生活でどなたかの介護・介助が必要ですか(1つのみ)	
☐ 介護・介助は必要ない	
☐ 何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない	
☐ 現在、何らかの介護を受けている (介護認定を受けずに家族などの介護を受けている場合も含む)	
【Q2において「何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」 「現在、何らかの介護を受けている」の方のみ】	
①. 介護・介助が必要になった主な原因はなんですか(いくつでも)	
☐ 脳卒中(脳出血・脳梗塞等)	☐ 心臓病
☐ がん(悪性新生物)	☐ 呼吸器の病気(肺炎腫・肺炎等)
☐ 関節の病気(リウマチ等)	☐ 認知症(アルツハイマー病等)
☐ パーキンソン病	☐ 糖尿病
☐ 腎疾患(透析)	☐ 視覚・聴覚障害
☐ 骨折・転倒	☐ 脊椎損傷
☐ 高齢による衰弱	☐ その他(_____)
☐ 不明	

【Q2において「現在、何らかの介護を受けている」の方のみ】	
②. 主にどなたの介護・介助を受けていますか(いくつでも)	
☐ 配偶者(夫・妻)	☐ 息子 ☐ 娘
☐ 子の配偶者	☐ 孫 ☐ 兄弟・姉妹
☐ 介護サービスのヘルパー	☐ その他(_____)
Q 3. 現在の暮らしの状況を経済的にみてどう感じていますか(1つのみ)	
☐ 大変苦しい	☐ やや苦しい ☐ ふつう
☐ ややゆとりがある	☐ 大変ゆとりがある
Q 4. お住まいは一戸建て、または集合住宅のどちらですか(1つのみ)	
☐ 持家(一戸建て)	☐ 持家(集合住宅)
☐ 公営賃貸住宅	☐ 民間賃貸住宅(一戸建て)
☐ 民間賃貸住宅(集合住宅)	☐ 借家
☐ その他	

問2 からだを動かすことについて	
Q 1. 階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか(1つのみ)	
☐ できるし、している	☐ できるけどしていない ☐ できない
Q 2. 椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか(1つのみ)	
☐ できるし、している	☐ できるけどしていない ☐ できない
Q 3. 15分位続けて歩いていきますか(1つのみ)	
☐ できるし、している	☐ できるけどしていない ☐ できない
Q 4. 過去1年間に転んだ経験がありますか(1つのみ)	
☐ 何度もある	☐ 1度ある ☐ ない
Q 5. 転倒に対する不安は大きいですか(1つのみ)	
☐ とても不安である	☐ やや不安である ☐ あまり不安でない ☐ 不安でない

Q 6. 週に1回以上は外出していますか（1つのみ）		
☐ ほとんど外出しない	☐ 週1回	☐ 週2～4回 ☐ 週5回以上
Q 7. 昨年と比べて外出の回数が減っていますか（1つのみ）		
☐ とても減っている	☐ 減っている	☐ あまり減っていない ☐ 減っていない
Q 8. 外出を控えていますか（1つのみ）		
☐ はい	☐ いいえ	
【Q 8で「はい」（外出を控えている）の方のみ】		
①. 外出を控えている理由は、次のどれですか（いくつでも）		
☐ 病気	☐ 障害（脳卒中の後遺症など）	
☐ 足腰などの痛み	☐ トイレの心配（失禁など）	
☐ 耳の障害（聞こえの問題など）	☐ 目の障害	
☐ 外での楽しみがない	☐ 経済的に出られない	
☐ 交通手段がない	☐ その他（ ）	
Q 9. 外出する際の移動手段は何ですか（いくつでも）		
☐ 徒歩	☐ 自転車	☐ バイク
☐ 自動車（自分で運転）	☐ 自動車（人に乗せてもらう）	☐ 電車
☐ 路線バス	☐ 病院や施設のバス	☐ 車いす
☐ 電動車いす（カート）	☐ 歩行器・シルバーカー	☐ タクシー
☐ その他（ ）		
【Q 9で「自動車（自分で運転）」の方のみ】		
①. 自動車を自分で運転できなくなった場合、どのような移動手段を利用しますか（いくつでも）		
☐ 徒歩	☐ 自転車	
☐ 自動車（人に乗せてもらう）	☐ 電車	
☐ 路線バス	☐ タクシー	
☐ その他（ ）		

Q10. 以下の目的で外出する頻度を教えてください（それぞれに1つのみ）						
※①～③それぞれに回答してください						
※③ その他は、①や②に当てはまらない外出目的の際に選択し、選んだ方のみ具体的な外出目的を記入してください						
	毎日	週4 ～5回	週2 ～3回	週1回 程度	月1回 程度	年に 数回
① 買い物	☐	☐	☐	☐	☐	ない
② 通院	☐	☐	☐	☐	☐	☐
③ その他 ()	☐	☐	☐	☐	☐	☐

問3 食べることにについて	
Q 1. 身長・体重	
身長	体重
<input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/> cm	<input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/> kg
Q 2. 半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか（1つのみ）	
☐ はい	☐ いいえ
Q 3. お茶や汁物等でむせることがありますか（1つのみ）	
☐ はい	☐ いいえ
Q 4. 口の渇きが気になりますか（1つのみ）	
☐ はい	☐ いいえ
Q 5. 歯磨き（人にやってもらった場合も含む）を毎日していますか（1つのみ）	
☐ はい	☐ いいえ
Q 6. 噛み合わせは良いですか（1つのみ）	
☐ はい	☐ いいえ

Q 7. 歯の数と入れ歯の利用状況をお教えください。 (成人の歯の総本数は、親知らずを含めて 32 本です) (1つのみ)	
☐ 自分の歯は 20 本以上、かつ入れ歯を利用	☐ 自分の歯は 20 本以上、入れ歯の利用なし
☐ 自分の歯は 19 本以下、かつ入れ歯を利用	☐ 自分の歯は 19 本以下、入れ歯の利用なし
【Q 7 で「自分の歯は 20 本以上、かつ入れ歯を利用」「自分の歯は 19 本以下、かつ入れ歯を利用」の方のみ】	
①. 毎日入れ歯の手入れをしていますか (1つのみ)	
☐ はい	☐ いいえ
Q 8. 6 か月間で 2 ～ 3 kg 以上の体重減少がありましたか (1つのみ)	
☐ はい	☐ いいえ
Q 9. どなたかと食事をともにする機会がありますか (1つのみ)	
☐ 毎日ある	☐ 週に何度かある
☐ 年に何度かある	☐ ほとんどない

問 4 毎日の生活について	
Q 1. 物忘れが多いと感じますか (1つのみ)	
☐ はい	☐ いいえ
Q 2. 自分で電話番号を調べて、電話をかけることをしていますか (1つのみ)	
☐ はい	☐ いいえ
Q 3. 今日が何月何日かわからないときがありますか (1つのみ)	
☐ はい	☐ いいえ
Q 4. バスや電車を使得って 1 人で外出していますか (自家用車でも可) (1つのみ)	
☐ できるし、している	☐ できるだけしていない
Q 5. 自分で食品・日用品の買い物をしていますか (1つのみ)	
☐ できるし、している	☐ できるだけしていない

Q 6. 自分で食事の用意をしていますか (1つのみ)	
☐ できるし、している	☐ できるだけしていない
Q 7. 自分で請求書の支払いをしていますか (1つのみ)	
☐ できるし、している	☐ できるだけしていない
Q 8. 自分で預貯金の出し入れをしていますか (1つのみ)	
☐ できるし、している	☐ できるだけしていない
Q 9. 年金などの書類 (役所や病院などに出す書類) が書けますか (1つのみ)	
☐ はい	☐ いいえ
Q 10. 新聞を読んでいますか (1つのみ)	
☐ はい	☐ いいえ
Q 11. 本や雑誌を読んでいますか (1つのみ)	
☐ はい	☐ いいえ
Q 12. 健康についての記事や番組に関心がありますか (1つのみ)	
☐ はい	☐ いいえ
Q 13. 友人の家を訪ねていますか (1つのみ)	
☐ はい	☐ いいえ
Q 14. 家族や友人の相談にのっていますか (1つのみ)	
☐ はい	☐ いいえ
Q 15. 病人を見舞うことができますか (1つのみ)	
☐ はい	☐ いいえ
Q 16. 若い人に自分から話しかけることができますか (1つのみ)	
☐ はい	☐ いいえ

Q 2. 地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に参加者として参加してみたいと思いますか（1つのみ）

☐ 是非参加したい

☐ 参加してもよい

☐ 参加したくない

☐ 既に参加している

Q 3. 地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に企画・運営（お世話役）として参加してみたいと思いますか（1つのみ）

☐ 是非参加したい

☐ 参加してもよい

☐ 参加したくない

☐ 既に参加している

問6 就労について

Q 1. 現在のあなたの就労状態はどれですか（いくつでも）

☐ 職に就いたことがない

☐ 引退した

☐ 常勤（フルタイム）

☐ 非常勤（パート・アルバイト等）

☐ 自営業

☐ 求職中

☐ その他（ ）

【Q 1において「引退した」の方のみ】

①. あなたはいくつ引退しましたか

昭和

年

平成

年

令和

年

問7 たすけあいについて

あなたとまわりの人の「たすけあい」についておうかがいします

Q 1. あなたの心配事や愚痴（ぐち）を聞いてくれる人（いくつでも）

☐ 配偶者

☐ 同居の子ども

☐ 別居の子ども

☐ 兄弟姉妹・親戚・親・孫

☐ 近隣

☐ 友人

☐ その他（ ）

☐ そのような人はいない

Q 2. 反対に、あなたが心配事や愚痴（ぐち）を聞いてあげる人（いくつでも）

☐ 配偶者

☐ 同居の子ども

☐ 別居の子ども

☐ 兄弟姉妹・親戚・親・孫

☐ 近隣

☐ 友人

☐ その他（ ）

☐ そのような人はいない

Q 17. 趣味はありますか（1つのみ）

趣味あり

→

()

思いつかない

→

()

Q 18. 生きがいがありますか（1つのみ）

生きがいあり

→

()

思いつかない

→

()

問5 地域での活動について

Q 1. 以下のような会・グループ等にどのくらいの頻度で参加していますか
※①から⑧それぞれに回答してください（それぞれに1つのみ）

	週4回以上	週2回～3回	週1回	月1回～3回	年に数回	参加していない
① ボランティアのグループ	☐	☐	☐	☐	☐	☐
② スポーツ関係のグループやクラブ	☐	☐	☐	☐	☐	☐
③ 趣味関係のグループ	☐	☐	☐	☐	☐	☐
④ 学習・教養サークル	☐	☐	☐	☐	☐	☐
⑤ 介護予防のための通いの場 （元氣アップ・ステップ運動、いきいき健康クラブ、シニアライフ講座、シルバークラブなど）	☐	☐	☐	☐	☐	☐
⑥ 高齢者クラブ	☐	☐	☐	☐	☐	☐
⑦ 町内会・自治会	☐	☐	☐	☐	☐	☐
⑧ 収入のある仕事	☐	☐	☐	☐	☐	☐

157

Q 3. あなたが病気で数日間寝込んだときに、看病や世話をしてくれる人（いくつでも）	
☐ 配偶者	☐ 同居の子ども
☐ 兄弟姉妹・親戚・親・孫	☐ 近隣
☐ その他（ ）	☐ そのような人はいない
Q 4. 反対に、看病や世話をしてあげる人（いくつでも）	
☐ 配偶者	☐ 同居の子ども
☐ 兄弟姉妹・親戚・親・孫	☐ 近隣
☐ その他（ ）	☐ そのような人はいない
Q 5. 家族や友人・知人以外で、何かあったときに相談する相手を教えてください（いくつでも）	
☐ 自治会・町内会・高齢者クラブ	☐ 社会福祉協議会・民生委員
☐ ケアマネジャー	☐ 医師・歯科医師・看護師
☐ 高齢者支援センター・市役所	☐ その他
☐ そのような人はいない	
Q 6. 友人・知人と会う頻度はどれくらいですか（1つのみ）	
☐ 毎日ある	☐ 週に何度かある
☐ 年に何度かある	☐ 月に何度かある
Q 7. この1か月間、何人の友人・知人と会いましたか 同じ人には何度会っても1人と数えることとします（1つのみ）	
☐ 0人（いない）	☐ 1～2人
☐ 6～9人	☐ 10人以上
Q 8. よく会う友人・知人はどんな関係の人ですか（いくつでも）	
☐ 近所・同じ地域の人	☐ 幼なじみ
☐ 学生時代の友人	☐ 仕事での同僚・元同僚
☐ 趣味や関心が同じ友人	☐ ボランティア等の活動での友人
☐ その他	☐ いない

問 8 健康について																							
Q 1. 現在のあなたの健康状態はいかがですか（1つのみ）																							
☐ とてもよい		☐ まあよい		☐ あまりよくない		☐ よくない																	
Q 2. あなたは、現在どの程度幸せですか （「とても不幸」を0点、「とても幸せ」を10点として、ご記入ください）																							
とても不幸		1点		2点		3点		4点		5点		6点		7点		8点		9点		10点		とても幸せ	
☐		☐		☐		☐		☐		☐		☐		☐		☐		☐		☐		☐	
Q 3. この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがありましたか （1つのみ）																							
☐ はい												☐ いいえ											
Q 4. この1か月間、どうしても物事に対して興味がわかない、あるいは心から楽しめない 感じがよくありましたか（1つのみ）																							
☐ はい												☐ いいえ											
Q 5. お酒は飲みますか（1つのみ）																							
☐ ほぼ毎日飲む												☐ 時々飲む											
☐ もともと飲まない												☐ ほとんど飲まない											
Q 6. タバコは吸っていますか（1つのみ）																							
☐ ほぼ毎日吸っている												☐ 時々吸っている											
☐ もともと吸っていない												☐ 吸っていたがやめた											

<p>Q 7. 現在治療中、または後遺症のある病気はありますか（いくつでも）</p> <p>☐ ない</p> <p>☐ 脳卒中（脳出血・脳梗塞等） <small>のうそくちゅう のうしゅつけつ・のうこうそくなど</small></p> <p>☐ 糖尿病 <small>とうりょうびよう</small></p> <p>☐ 呼吸器の病気（肺炎や気管支炎等） <small>じんどう せんにつせん</small></p> <p>☐ 腎臓・前立腺の病気 <small>じんぞう ぜんりつせん</small></p> <p>☐ 外傷（転倒・骨折等） <small>がいしやう てんとう こっせつなど</small></p> <p>☐ 血液・免疫の病気 <small>けつえき めんえき</small></p> <p>☐ 認知症（アルツハイマー病等） <small>にんちしやう</small></p> <p>☐ 目の病気</p> <p>☐ その他（ ）</p>	<p>Q 8. 今後、加齢に伴う衰えや健康面で不安に思うことはありますか（3つまで）</p> <p>☐ 特になし</p> <p>☐ 歩くことが困難になること</p> <p>☐ 骨（関節）などが弱くなること</p> <p>☐ 筋力が低下し動作が遅くなること</p> <p>☐ 目が見えづらくなること</p> <p>☐ 歯が弱くなること、なくなること</p> <p>☐ 病気にかかりやすくなること</p> <p>☐ その他（ ）</p>	<p>Q 9. 現在、あなたの耳の聞こえの状態はいかがですか（1つのみ）</p> <p>☐ 全く生活に支障はない</p> <p>☐ 少し聞こえづらくなったが、生活に支障はない</p> <p>☐ 生活に支障を感じる（会話やテレビ、電話の音などが聞こえにくい）</p> <p>☐ ほとんど聞こえない</p>	<p>【Q9で「少し聞こえづらなくなったが、生活に支障はない」「生活に支障を感じる」「ほとんど聞こえない」の方のみ】</p> <p>①. 聞こえにくさで医療機関を受診したことはありますか（1つのみ）</p> <p>☐ ある ☐ ない</p>
--	---	--	--

<p>【Q9で「少し聞こえづらなくなったが、生活に支障はない」「生活に支障を感じる」「ほとんど聞こえない」の方のみ】</p> <p>②. 現在、補聴器を使用していますか（1つのみ）</p> <p>☐ 使用している</p> <p>☐ 使用していない（所有しているが使用していないを含む）</p>	<p>【Q9 ②で「使用していない（所有しているが使用していないを含む）」の方のみ】</p> <p>③. 補聴器を使用していない理由は、次のどれですか（いくつでも）</p> <p>☐ 高額だから（金銭的負担が大きい）</p> <p>☐ 煩わしいから</p> <p>☐ 販売店や購入方法がわからないから</p> <p>☐ 見た目が気になるから</p> <p>☐ 過去に試したが効果を感ぜられなかったから</p> <p>☐ 装着時に耳が痛くなる、または耳に合わないから</p> <p>☐ 手入れや電池交換などの管理が面倒だから</p> <p>☐ 装着時の音が不自然、または雑音が気になるから</p> <p>☐ その他（ ）</p>	<p>Q10. かかりつけの医師はいますか（1つのみ）</p> <p>☐ はい ☐ いいえ</p>	<p>Q11. かかりつけの歯科医はいますか（1つのみ）</p> <p>☐ はい ☐ いいえ</p>	<p>Q12. 普段、行政からの情報（健康、福祉、防災、イベントなど）を、主にどのような方法で得ていますか（いくつでも）</p> <table border="1"> <tr> <td>☐ 広報紙</td> <td>☐ 回覧板</td> <td>☐ ちらし、パンフレット</td> </tr> <tr> <td>☐ テレビ、ラジオ</td> <td>☐ 新聞</td> <td>☐ 水戸市のウェブサイト</td> </tr> <tr> <td>☐ SNS (LINE、Face book など)</td> <td>☐ 家族や友人</td> <td>☐ その他（ ）</td> </tr> </table>	☐ 広報紙	☐ 回覧板	☐ ちらし、パンフレット	☐ テレビ、ラジオ	☐ 新聞	☐ 水戸市のウェブサイト	☐ SNS (LINE、Face book など)	☐ 家族や友人	☐ その他（ ）
☐ 広報紙	☐ 回覧板	☐ ちらし、パンフレット											
☐ テレビ、ラジオ	☐ 新聞	☐ 水戸市のウェブサイト											
☐ SNS (LINE、Face book など)	☐ 家族や友人	☐ その他（ ）											

問9	認知症にかかる相談窓口の把握について
Q 1.	認知症の症状がある又は家族に認知症の症状がある人がいますか（1つのみ） ☐ はい ☐ いいえ
Q 2.	認知症に関する相談窓口を知っていますか（1つのみ） ☐ はい ☐ いいえ
Q 3.	困ったときの地域の相談窓口について、高齢者支援センターを知っていますか（1つのみ） ☐ はい ☐ いいえ
Q 4.	認知症が疑われたとき、どこに（誰に）相談しますか（しましたか）（いくつでも） ☐ かかりつけ医 ☐ 認知症疾患医療センター ☐ 介護保険課、高齢福祉課 ☐ 高齢者支援センター ☐ ケアマネジャー ☐ 民生委員 ☐ 家族、友人、知人 ☐ その他（ ） ☐ 相談しない

問10	在宅医療について
Q 1.	あなたは在宅医療※について知っていましたか（1つのみ） ☐ 言葉も内容も知っている ☐ 言葉は聞いたことがある ☐ はじめて聞いた
※在宅医療とは、通院が困難な方が、自宅や施設などで療養を希望した場合に、医師の往診や治療、訪問看護などの医療サービスを受けながら療養生活を送ることです。	
Q 2.	病気などで長期療養が必要になったとき、在宅医療を希望しますか。そして、その実現は可能だと思いますか（1つのみ） ☐ 希望するし実現可能である ☐ 希望するが実現は難しい ☐ 希望しない ☐ わからない

Q 3.	あなたはアドバンス・ケア・プランニング（ACP）※について知っていましたか（1つのみ） ☐ 言葉も内容も知っている ☐ 言葉は聞いたことがある ☐ はじめて聞いた
※アドバンス・ケア・プランニング（ACP）とは、将来病気になるったり介護が必要になったりしたときに備え、どのような医療や介護を受けて人生の最期を迎えるかを計画して、ご自身の考え方をご家族等や医療・介護の担当者とあらかじめ話し合い、また、繰り返し話し合うことを言います。（人生会議とも言う）	
問11	成年後見制度※について
Q 1.	成年後見制度を知っていますか（1つのみ） ☐ 内容をよく知っている ☐ だいたいの内容は知っている ☐ 名前は知っているが内容は知らない ☐ まったく知らない
Q 2.	あなたが認知症などによって物事を判断する能力が十分でなくなった場合に、成年後見制度を利用したいと思いますか（1つのみ） ☐ 利用したい（既に利用している） ☐ 利用したくない ☐ わからない
※成年後見制度とは、認知症、知的障害、精神障害などによって物事を判断する能力が十分でない方について、家庭裁判所によって選ばれた成年後見人等が、本人の意思を尊重し、かつ本人の心身の状態や生活状況に配慮しながら、本人に代わって財産の管理や必要な契約を行い、本人の権利を守り生活を支援する制度です。	

以上で調査は終了です。ご協力ありがとうございました。
調査票を3つ折りにして、同封の返信用封筒に入れて、
令和7年12月10日（水）までに投函（切手不要）してください。

水戸市
介護予防・日常生活圏域ニーズ調査
【結果報告書】

令和8年3月

発 行：水戸市

〒310-8610 茨城県水戸市中央1丁目4番1号

電話：029-224-1111（代表）

編 集：水戸市 福祉部 高齢福祉課